
障がい福祉計画等策定ニーズ調査

報 告 書

令和6年3月

上田市

目 次

調査の概要.....	1
調査結果 I. 障がい者.....	5
調査結果 II. 障がい児保護者.....	54
調査結果 III. 健常者.....	101

調査の概要

1. 調査の目的

令和5年度に策定する2つの計画（第7期上田市障がい福祉計画、第3期上田市障がい児福祉計画）の基礎資料及び情報コミュニケーションに関する施策反映のための、市民ニーズや要望等を把握する。

2. 調査の方法

(1) 調査対象者

調査区分	対象者
I. 障がい者	市内にお住いの障がい者手帳所持者、福祉サービス利用者等の中から800人を無作為抽出
II. 障がい児保護者	市内に住所があり、特別児童扶養手当の受給対象のお子さん、障がいに係る手帳のあるお子さんの中から200人を無作為抽出
III. 健常者	市内在住の市民の中から1000人を無作為抽出

(2) 調査時期

令和4年11月1日～11月25日

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

3. 回収状況

調査区分	発送数	回収数	回収率
障がい者	800	411	51.4%
障がい児保護者	200	112	56.0%
健常者	1,000	398	39.8%

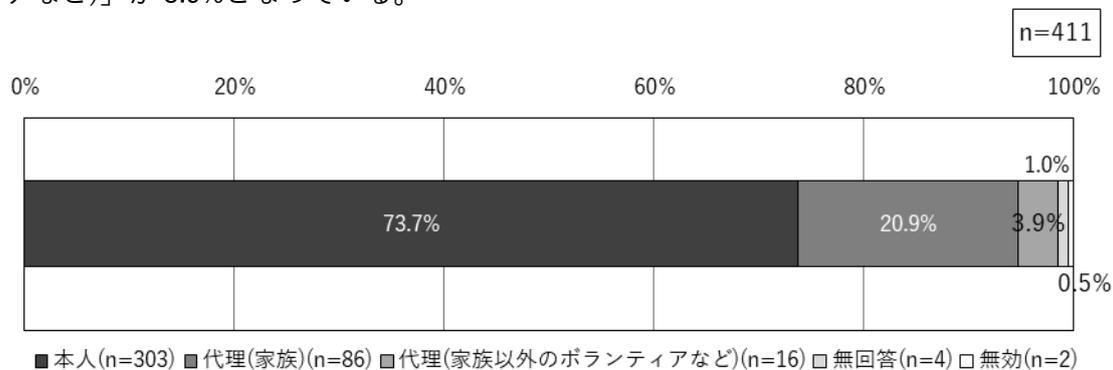
4. この報告書における調査結果の見方

- ・ 選択肢の語句が長い場合、表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- ・ 調査結果の比率は、その質問項目に該当する回答者の総数を母数（ n と表記）として、小数第2位を四捨五入して算出しているため、その合計値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- ・ 回答には、単一回答（○は1つ）と複数回答（○は複数）の2種類があり、複数回答の場合は回答率（%）の合計は100%を超える場合がある。

調査結果 I. 障がい者

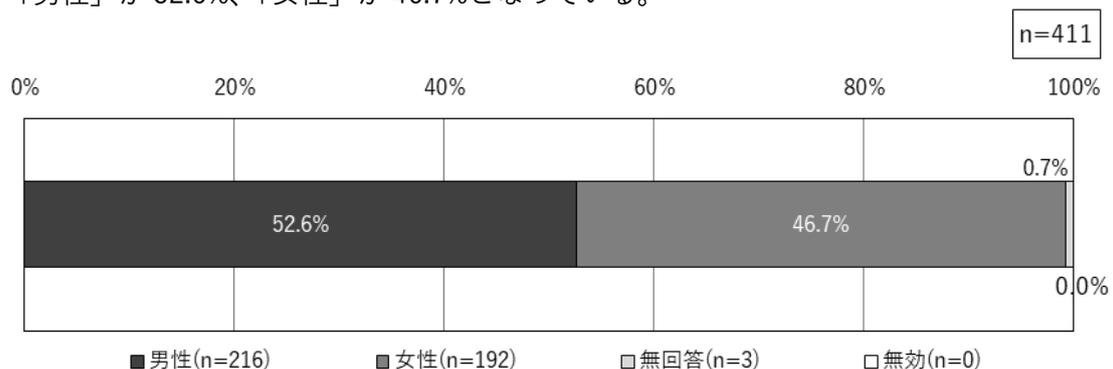
問1 このアンケートが送られた方を、「あなた」と表現します。このアンケートに記入いただいている方はどなたになりますか。

「本人」が 73.7%と最も高く、次いで「代理(家族)」が 20.9%、「代理(家族以外のボランティアなど)」が 3.9%となっている。



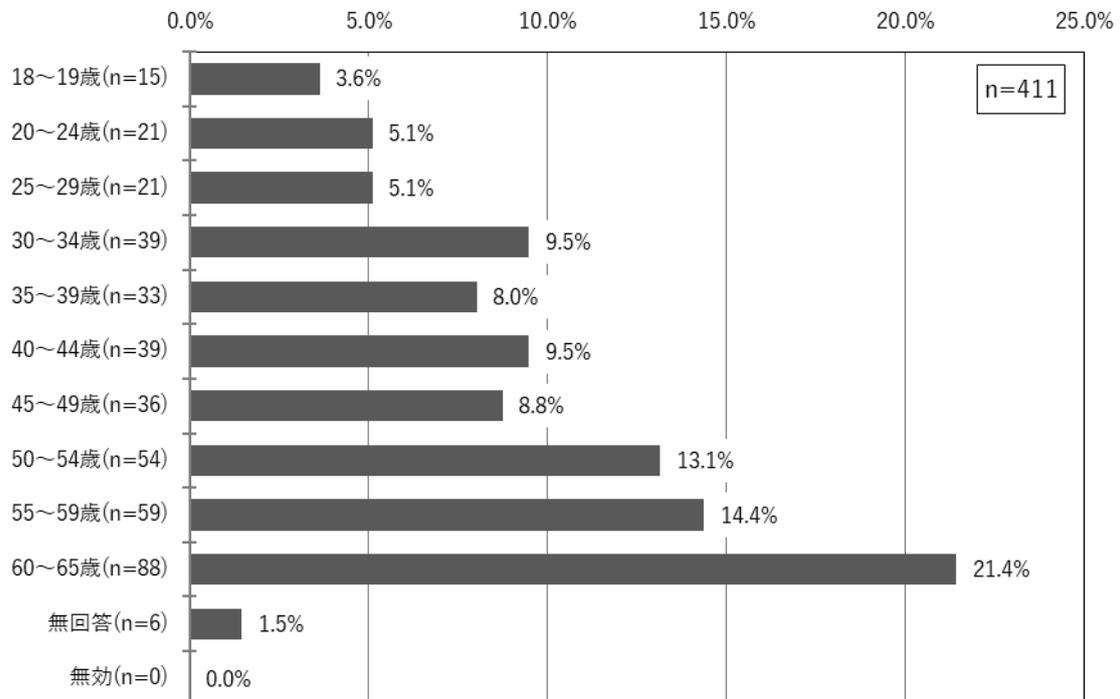
問2 あなたの性別はどちらですか。

「男性」が 52.6%、「女性」が 46.7%となっている。



問3 あなたの年齢はおいくつですか。

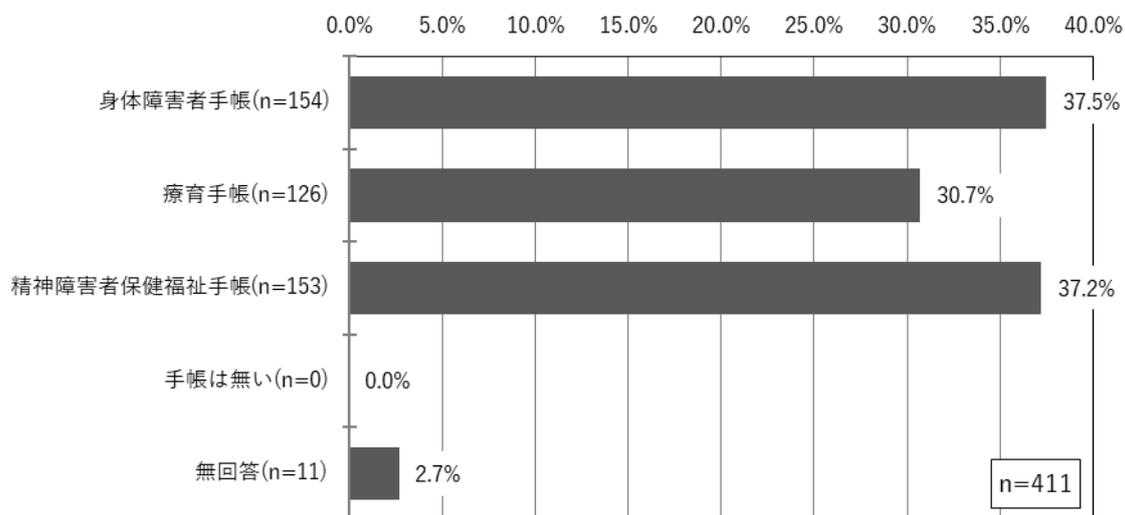
「60～65歳」が21.4%と最も高く、次いで「55～59歳」が14.4%、「50～54歳」が13.1%となっている。



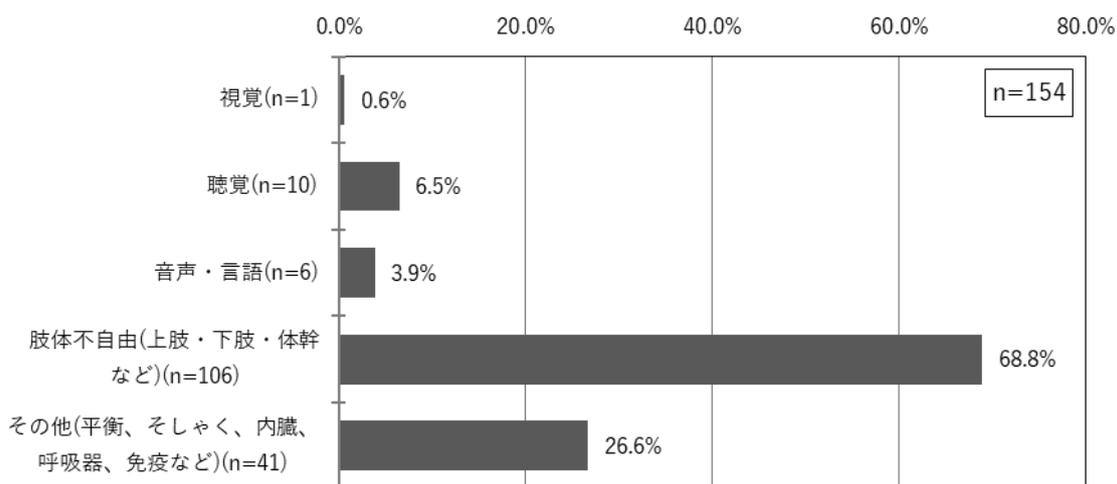
問4 あなたは手帳をお持ちですか。あてはまるものすべてに○をしてください。

「身体障害者手帳」が 37.5%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が 37.2%、「療育手帳」が 30.7%となっている。

身体障害者手帳の種類で見ると、「肢体不自由(上肢・下肢・体幹など)」が 68.8%と最も高く、次いで「その他(平衡、そしゃく、内臓、呼吸器、免疫など)」が 26.6%、「聴覚」が 6.5%となっている。

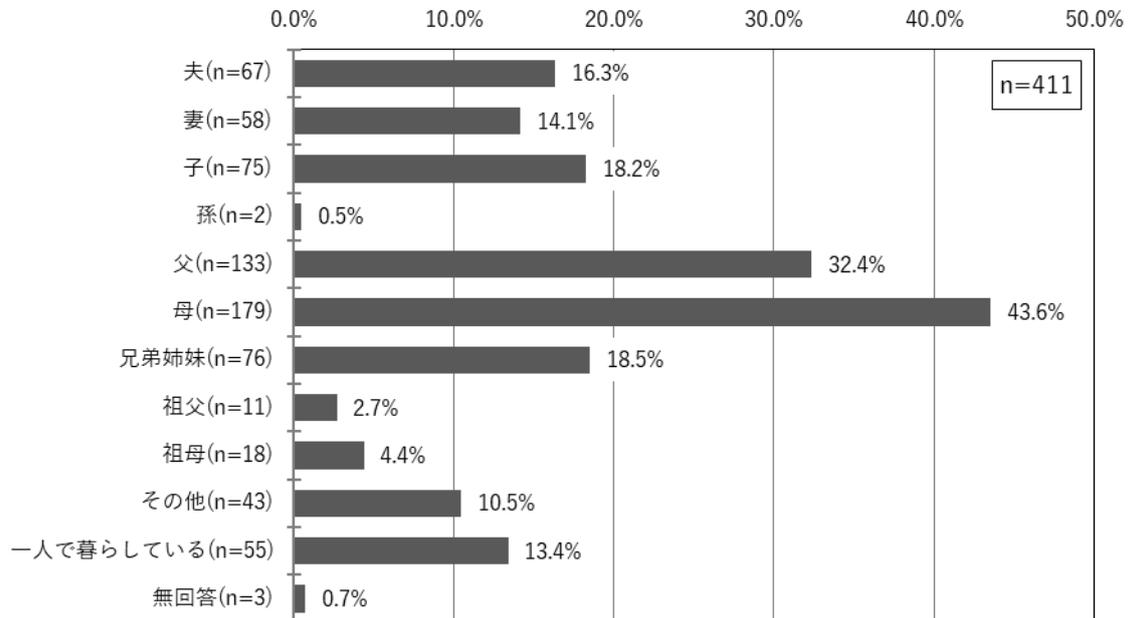


■身体障害者手帳の種類



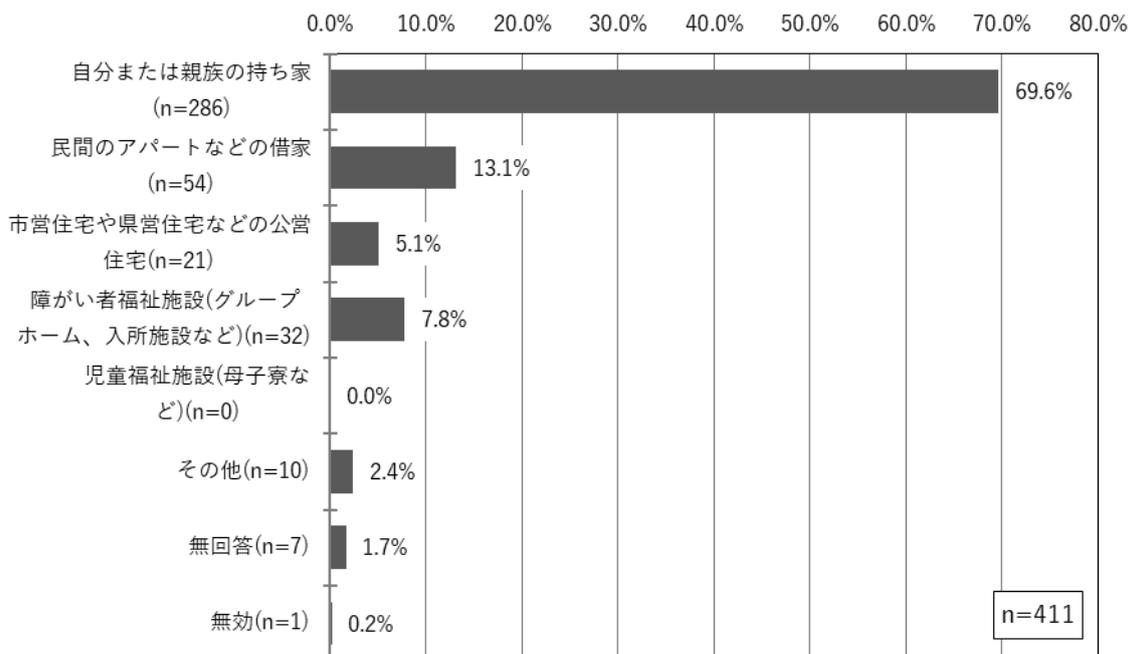
問5 あなたは家族、親族など、どなたと一緒に住んでいますか。当てはまるかたすべてに○をしてください。

「母」が43.6%と最も高く、次いで「父」が32.4%、「兄弟姉妹」が18.5%となっている。



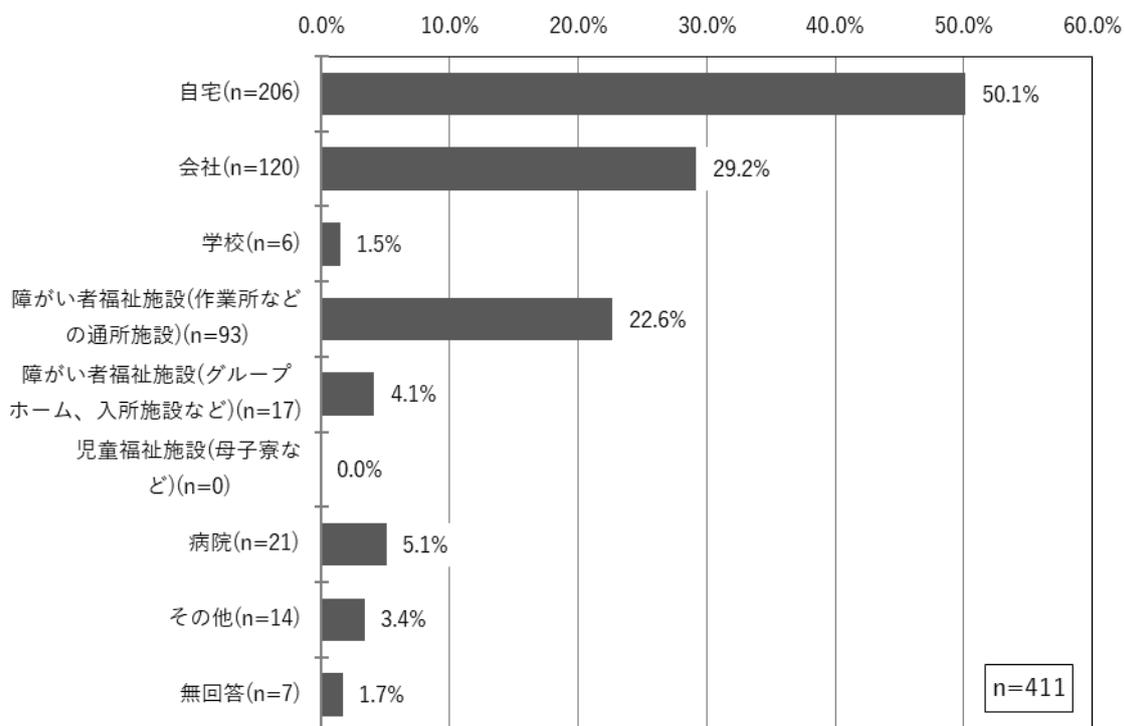
問6 あなたはどこにお住まいですか。当てはまるもの1つに○をしてください。

「自分または親族の持ち家」が69.6%、次いで「民間のアパートなどの借家」が13.1%、「障がい者福祉施設(グループホーム、入所施設など)」が7.8%となっている。



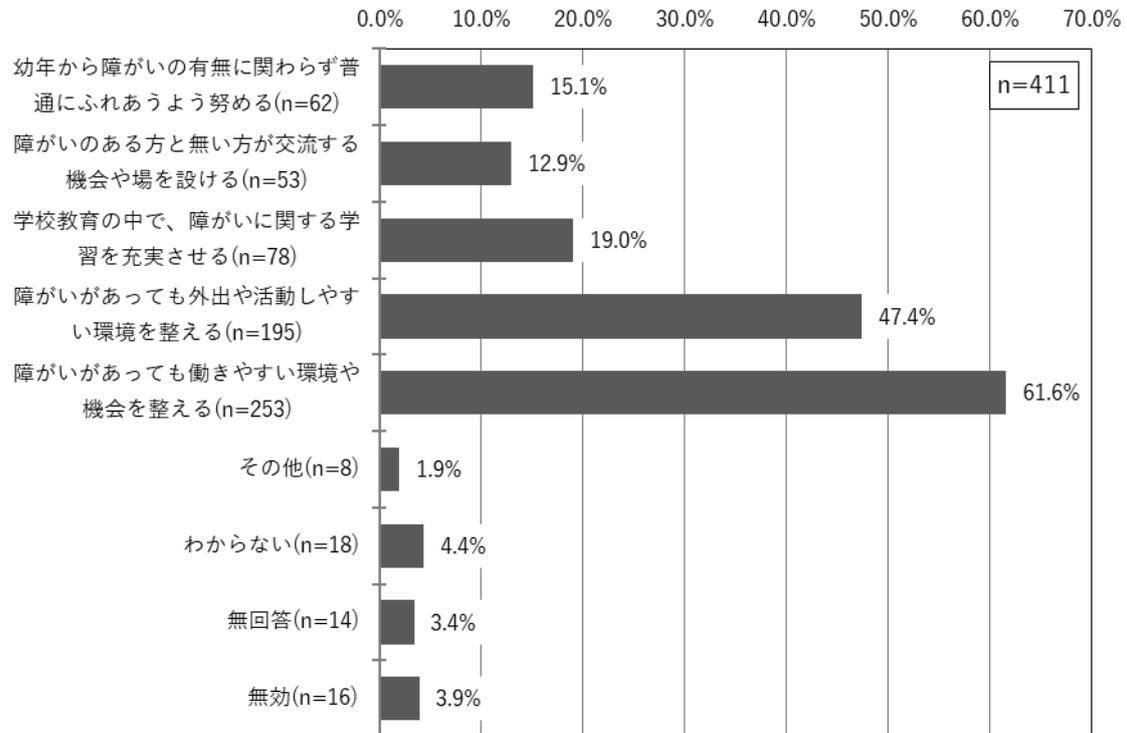
問7 平日の昼間はどちらで過ごされていますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「自宅」が 50.1%と最も高く、次いで「会社」が 29.2%、「障がい者福祉施設(作業所などの通所施設)」が 22.6%となっている。



問8 障がいのある人にとって住みやすいまちをつくるためには、どのような取組に特に力をいれる必要があると思いますか。(○は2つまで)

「障がいがあっても働きやすい環境や機会を整える」が61.6%と最も高く、次いで「障がいがあっても外出や活動しやすい環境を整える」が47.4%、「学校教育の中で、障がいに関する学習を充実させる」が19.0%となっている。



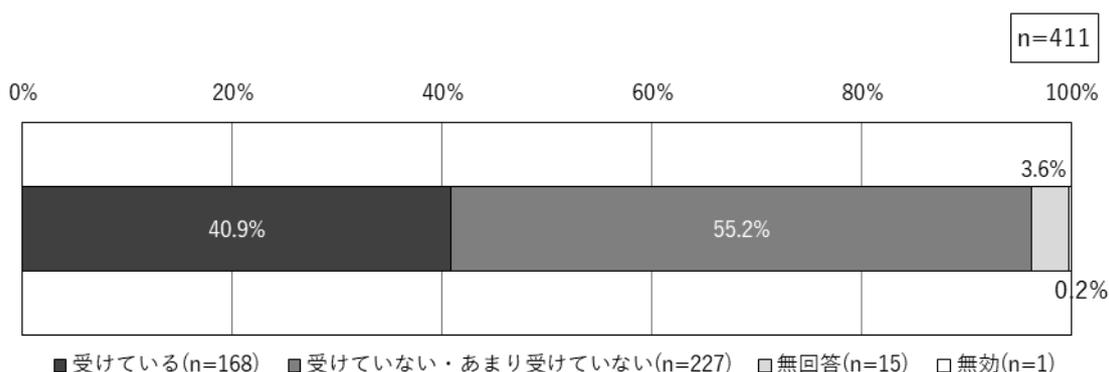
問9 あなたは家族や親族から介助（身の回りの世話、外出時の付き添い、経済的な支援など）を受けていますか。

全体では、「受けていない・あまり受けていない」が 55.2%、「受けている」が 40.9%となっている。

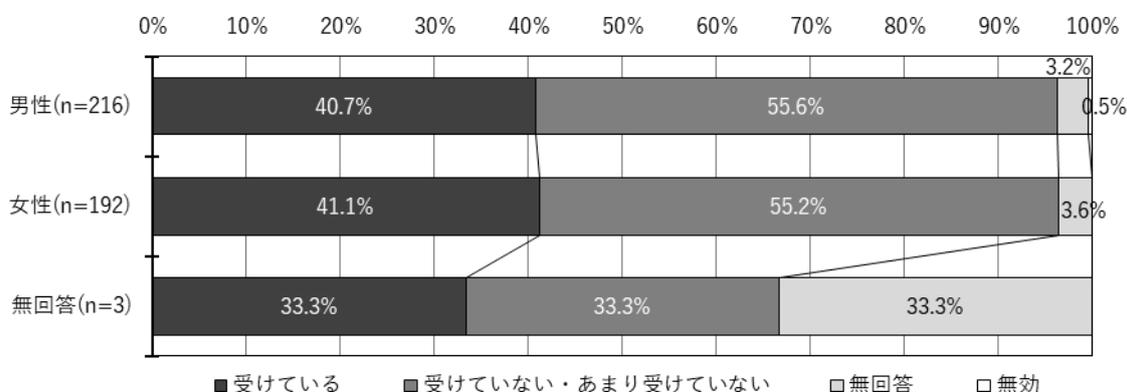
性別にみると、『男性』では「受けていない・あまり受けていない」が 55.6%、「受けている」が 40.7%、『女性』では「受けていない・あまり受けていない」が 55.2%、「受けている」が 41.1%となっている。

年齢別にみると、「受けている」は『20~24 歳』が 76.2%と最も高く、次いで『25~29 歳』が 61.9%、『18~19 歳』が 60.0%となっており、「受けていない・あまり受けていない」は『60~65 歳』が 67.0%と最も高く、次いで『50~54 歳』が 63.0%、『55~59 歳』が 62.7%となっている。

手帳別にみると、「受けている」は『療育手帳』が 48.4%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が 44.4%、『身体障害者手帳』が 36.4%となっており、「受けていない・あまり受けていない」は『身体障害者手帳』が 61.7%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が 53.6%、『療育手帳』が 44.4%となっている。

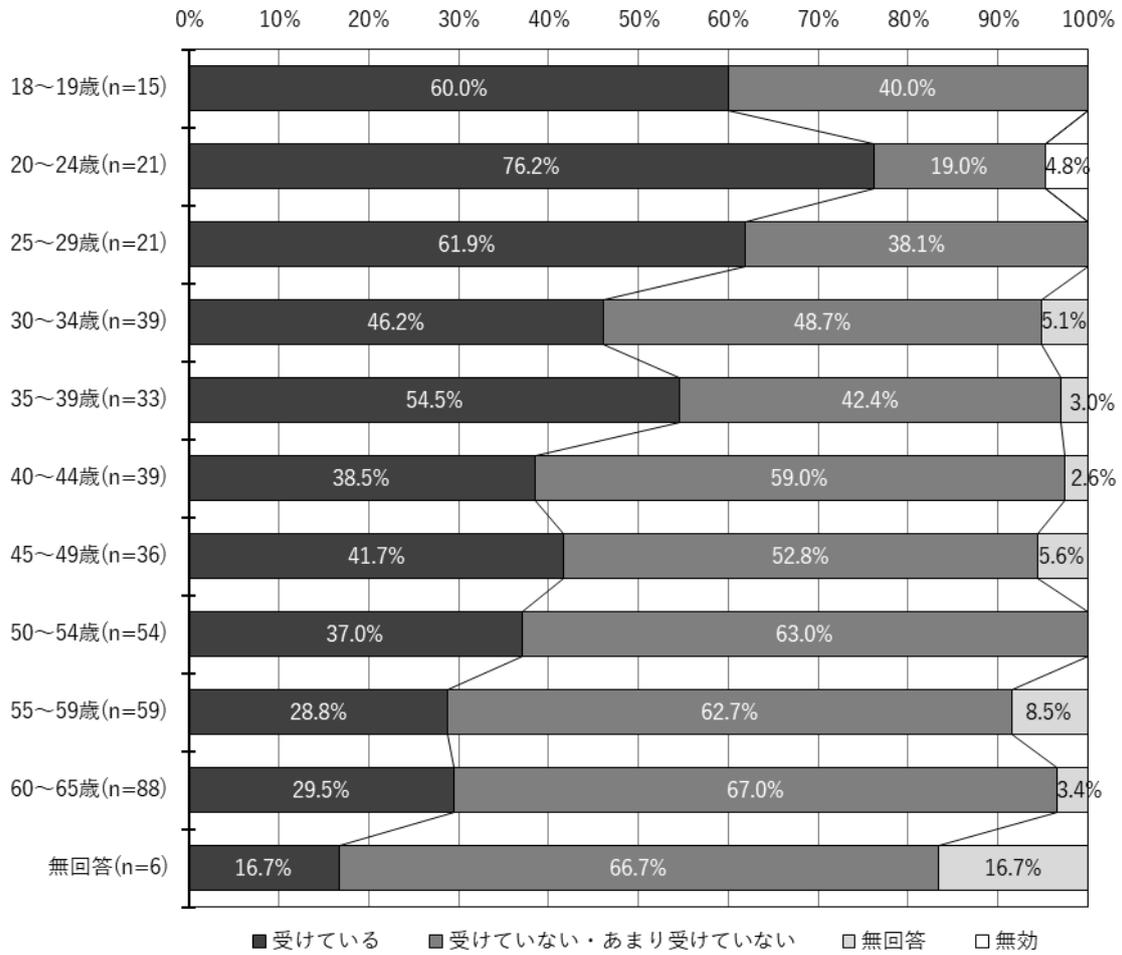


【クロス集計（性別）】



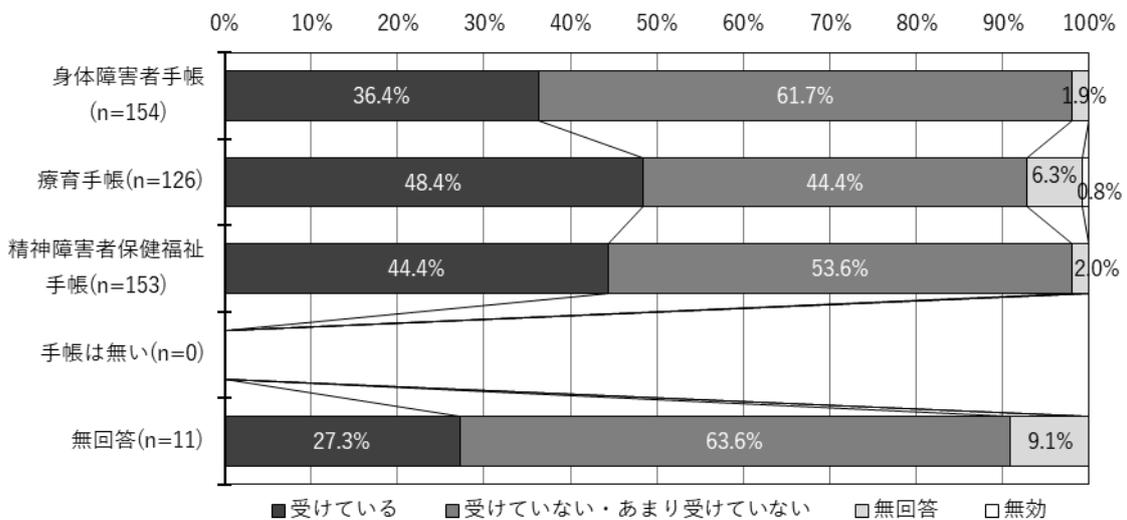
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



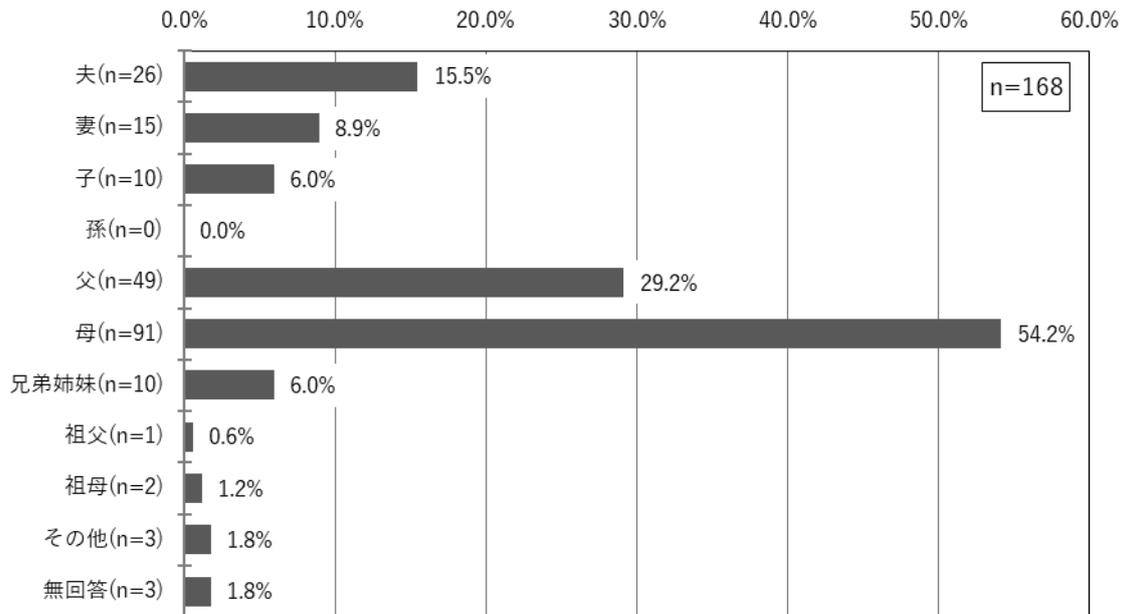
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問10 問9で「①受けている」と答えた方に伺います。

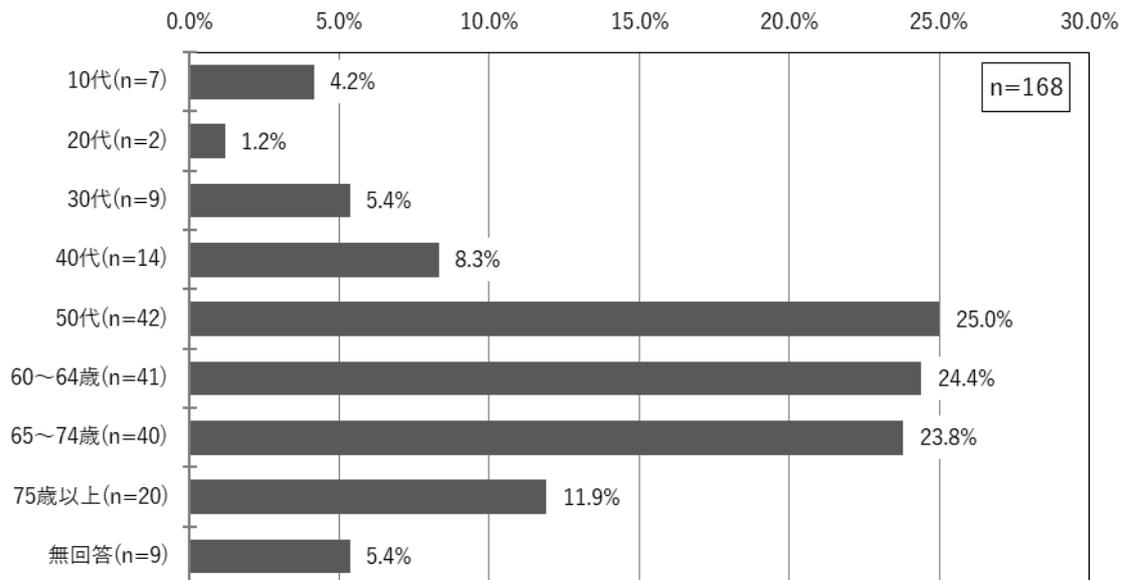
主な介助者（支援者）はどなたですか。またその方は何歳ですか。

「母」が 54.2%と最も高く、次いで「父」が 29.2%、「夫」が 15.5%となっている。また、介助者の年齢については、「50代」が 25.0%と最も高く、次いで「60~64歳」が 24.4%、「65~74歳」が 23.8%となっている。

■介助者別

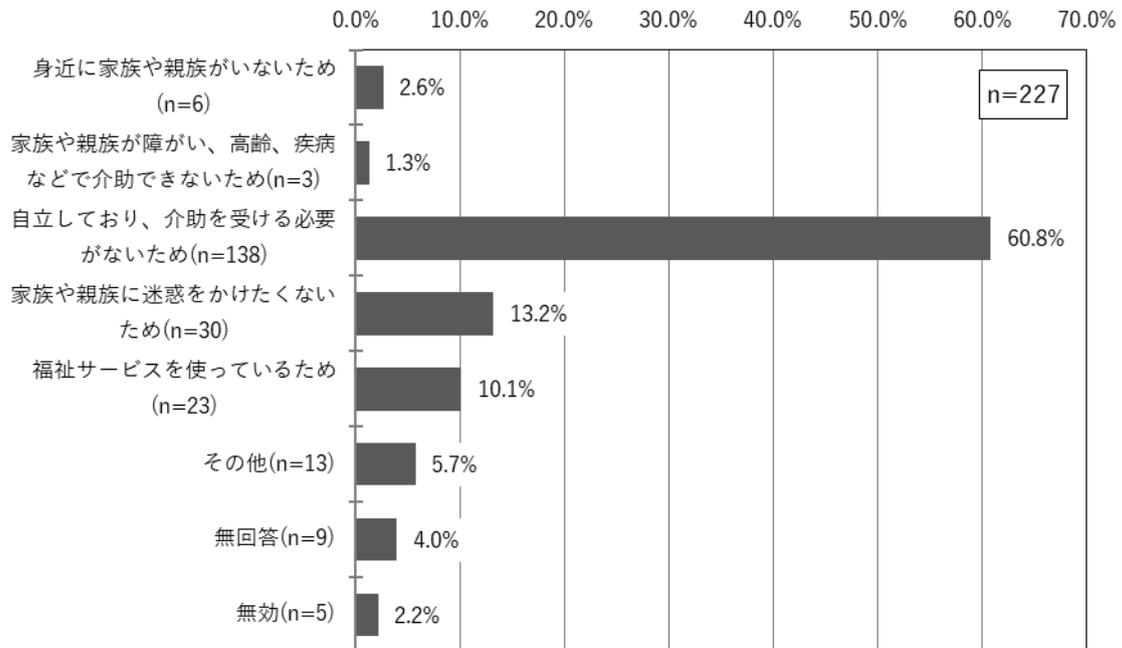


■介助者の年齢別



問 11 問 9 で「②受けていない（あまり受けていない）」と答えた方に伺います。
その理由について、当てはまるもの 1 つに○をしてください。

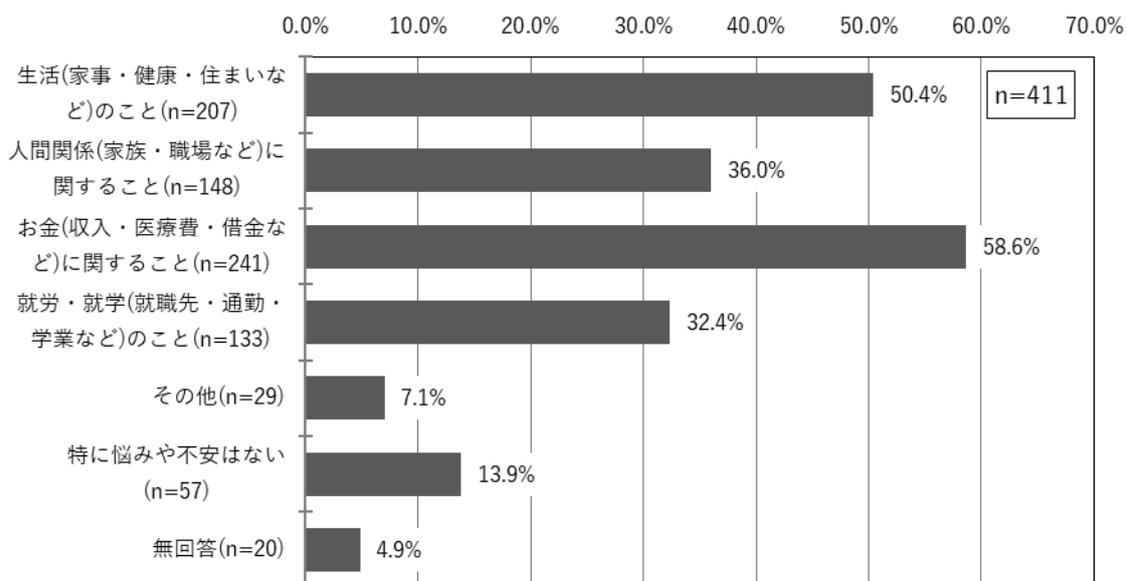
「自立しており、介助を受ける必要がないため」が 60.8%と最も高く、次いで「家族や親族に迷惑をかけたくないため」が 13.2%、「福祉サービスを使っているため」が 10.1%となっている。



問 12 あなたは、生活のなかで、どのような悩みや不安がありますか。

(1) 悩みや不安に思う事 (当てはまるものすべてに○)

「お金(収入・医療費・借金など)に関する事」が 58.6%と最も高く、次いで「生活(家事・健康・住まいなど)のこと」が 50.4%、「人間関係(家族・職場など)に関する事」が 36.0%となっている。



(2) 悩みや不安なことについて、相談する相手はいますか。

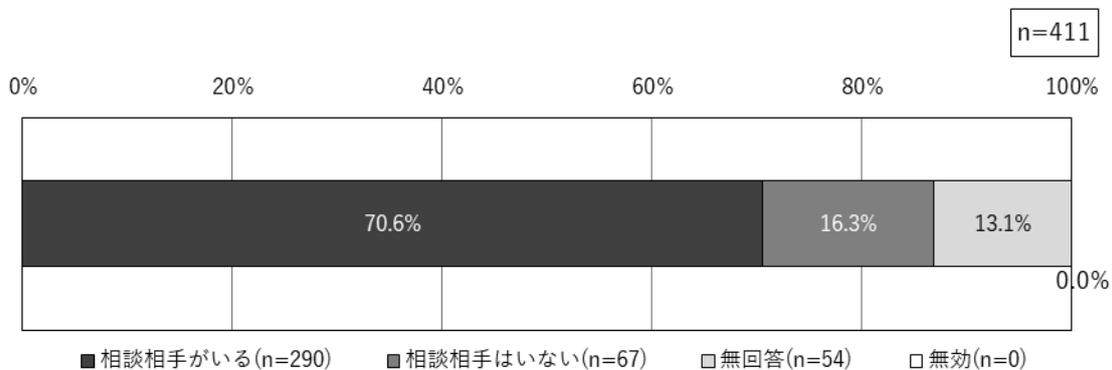
全体では、「相談相手がいる」が70.6%、「相談相手はいない」が16.3%となっている。

性別にみると、『男性』では「相談相手がいる」が67.1%、「相談相手はいない」が17.1%、

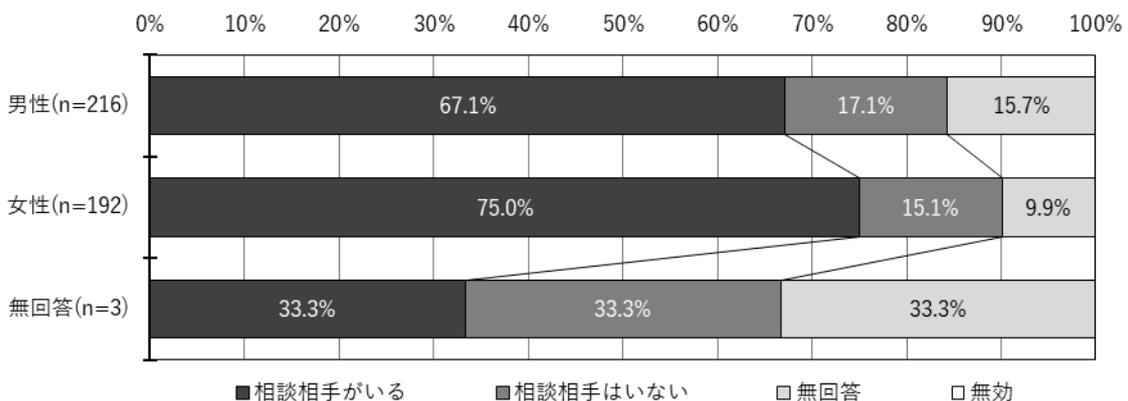
『女性』では「相談相手がいる」が75.0%、「相談相手はいない」が15.1%となっている。

年齢別にみると、「相談相手がいる」は『20~24 歳』が95.2%と最も高く、次いで『25~29 歳』が85.7%、『18~19 歳』が80.0%となっており、「相談相手はいない」は『55~59 歳』が27.1%と最も高く、次いで『45~49 歳』が22.2%、『50~54 歳』18.5%となっている。

手帳別にみると、「相談相手がいる」は『精神障害者保健福祉手帳』が73.2%と最も高く、次いで『療育手帳』が72.2%、『身体障害者手帳』が68.8%となっており、「相談相手はいない」は『精神障害者保健福祉手帳』が21.6%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が16.2%、『療育手帳』が7.9%となっている。

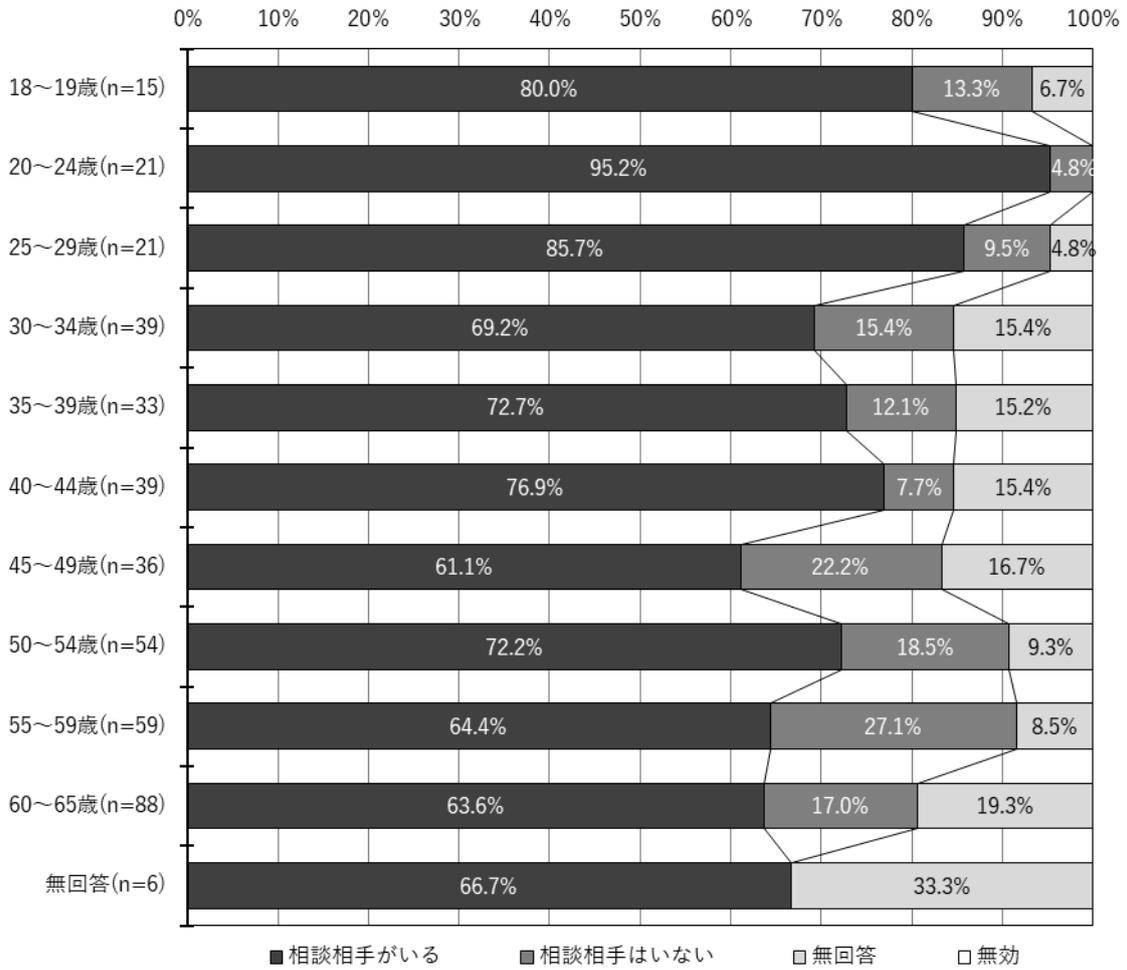


【クロス集計 (性別)】



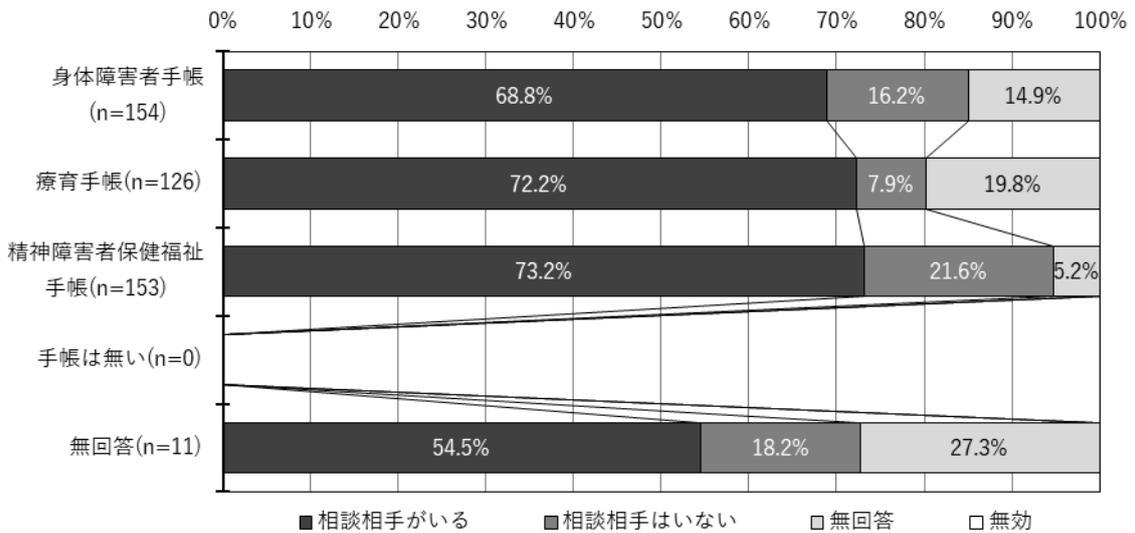
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

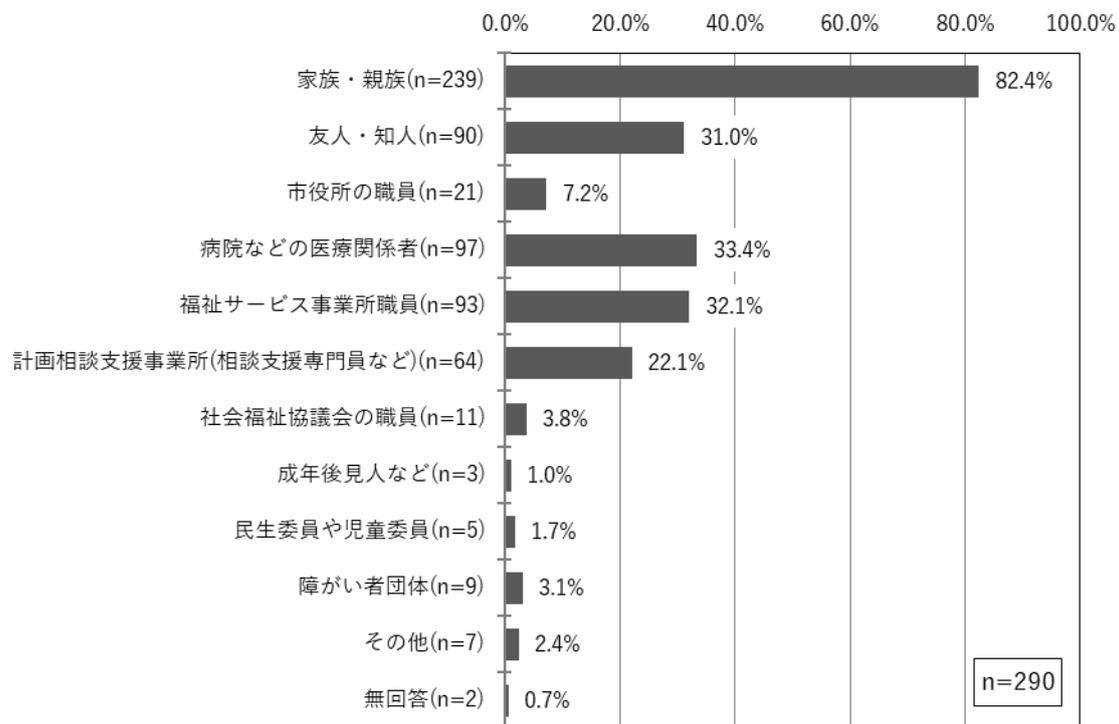
(3) 相談相手がいる場合、それはどなたですか。

また、いない場合はどのような理由が挙げられますか。

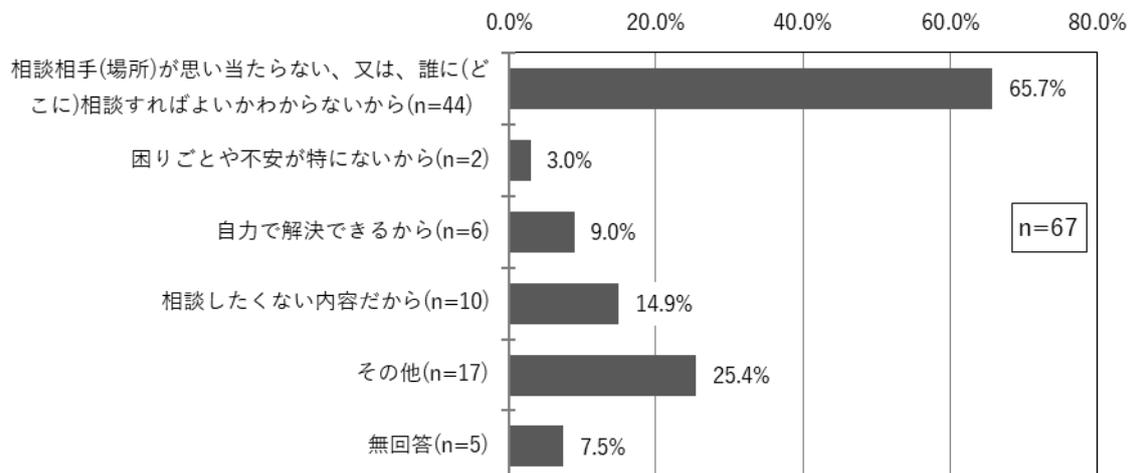
いる場合の相手については、「家族・親族」が 82.4%と最も高く、次いで「病院などの医療関係者」が 33.4%、「福祉サービス事業所職員」が 32.1%となっている。

いない場合の理由については、「相談相手(場所)が思い当たらない、又は、誰に(どこに)相談すればよいかわからないから」が 65.7%と最も高く、次いで「その他」が 25.4%、「相談したくない内容だから」が 14.9%となっている。

■ いる場合の相手

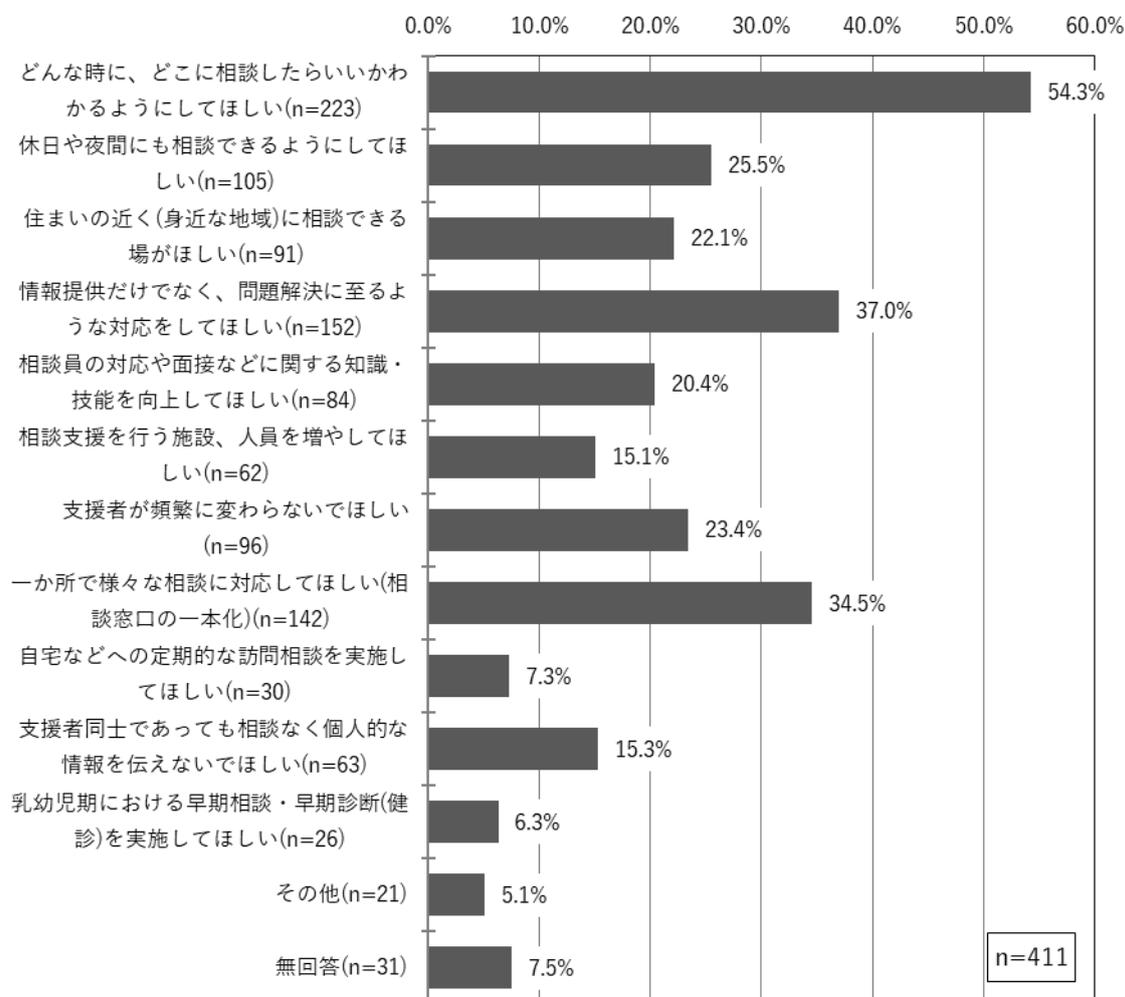


■ いない場合の理由



問 13 あなたは今後、障がい者福祉や生活に関する相談（相談支援体制）について、どのようなことを望みますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「どんな時に、どこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」が 54.3%と最も高く、次いで「情報提供だけでなく、問題解決に至るような対応をしてほしい」が 37.0%、「一か所で様々な相談に対応してほしい(相談窓口の一本化)」が 34.5%となっている。



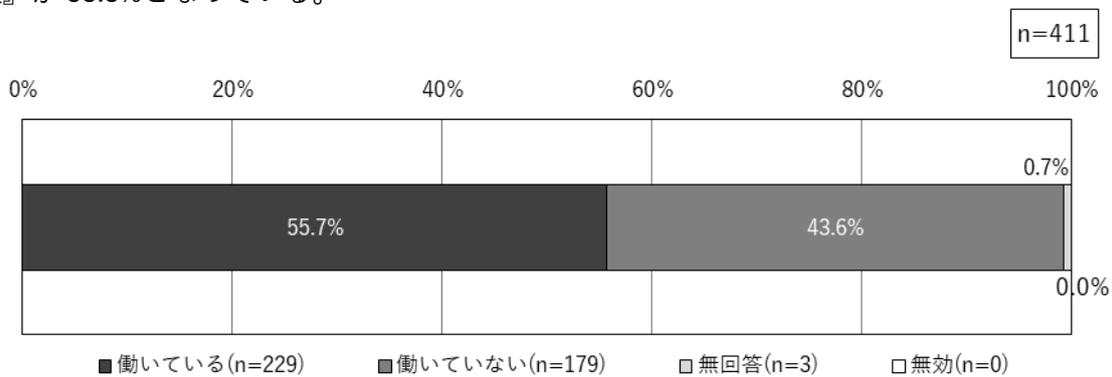
問 14 あなたは現在、働いていますか。

全体では、「働いている」が 55.7%、「働いていない」が 43.6%となっている。

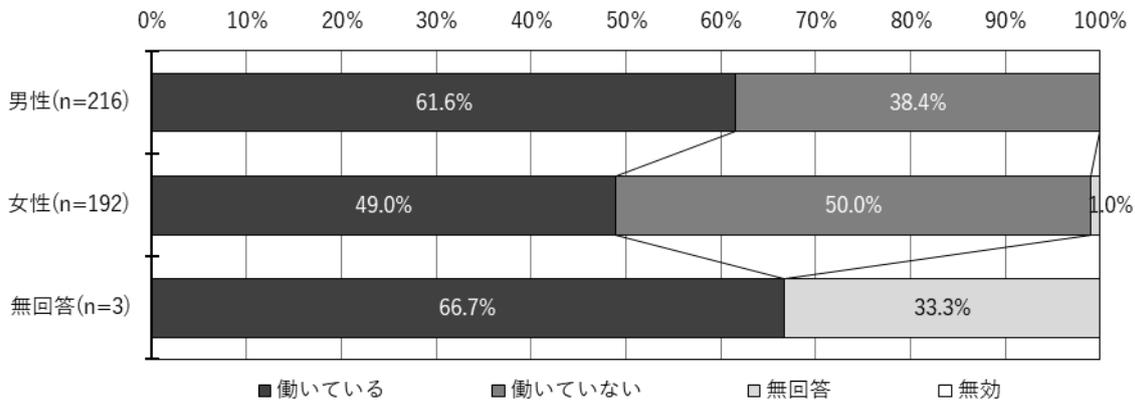
性別にみると、『男性』では「働いている」が 61.6%、「働いていない」が 38.4%、『女性』では「働いている」が 49.0%、「働いていない」が 50.0%となっている。

年齢別にみると、「働いている」は『20~24 歳』が 76.2%と最も高く、次いで『25~29 歳』が 66.7%、『55~59 歳』が 64.4%となっており、「働いていない」は『60~65 歳』が 54.5%と最も高く、次いで『50~54 歳』が 48.1%、『40~44 歳』が 46.2%となっている。

手帳別にみると、「働いている」は『療育手帳』が 65.1%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が 51.0%、『身体障害者手帳』が 50.0%となっており、「働いていない」は『身体障害者手帳』が 50.0%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が 49.0%、『療育手帳』が 33.3%となっている。

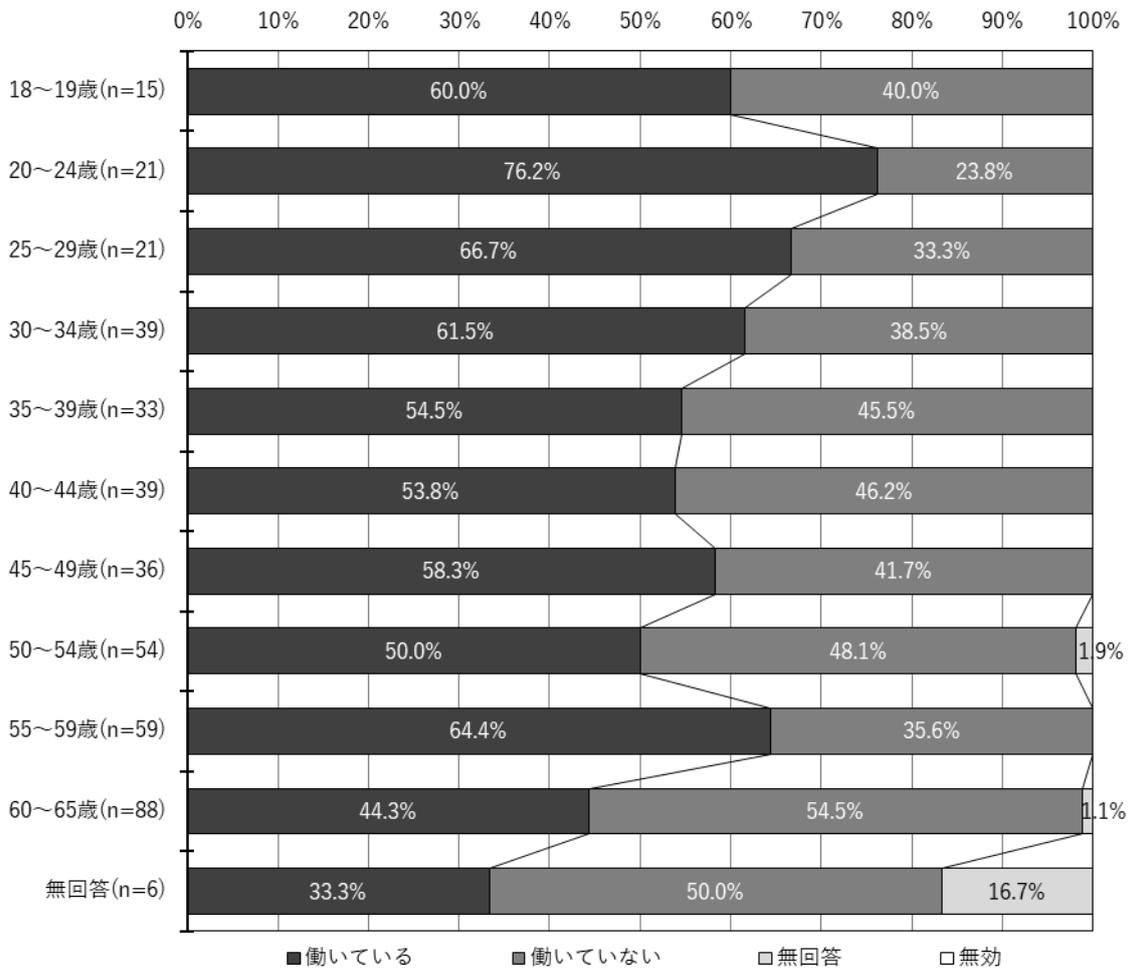


【クロス集計 (性別)】



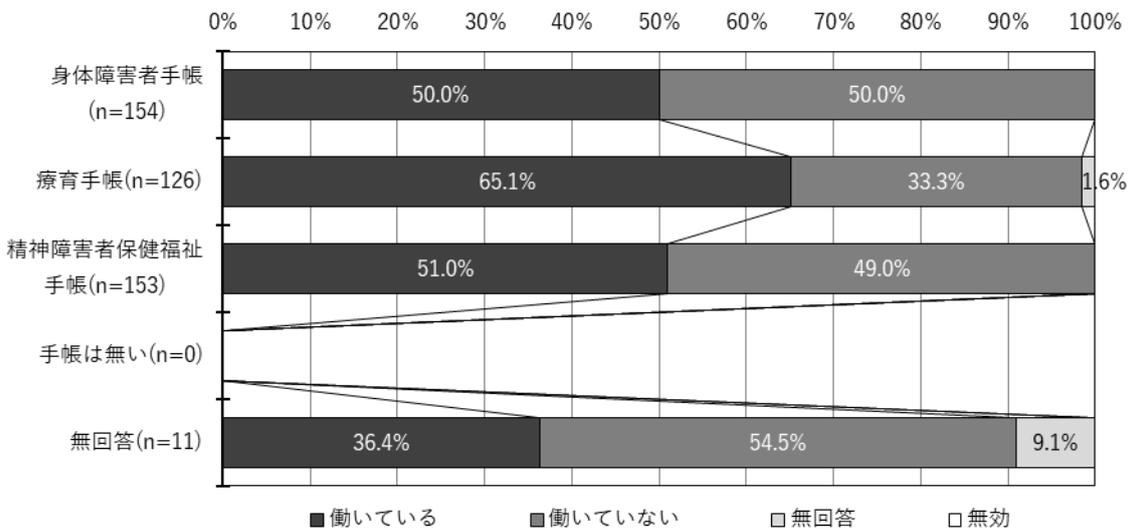
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】

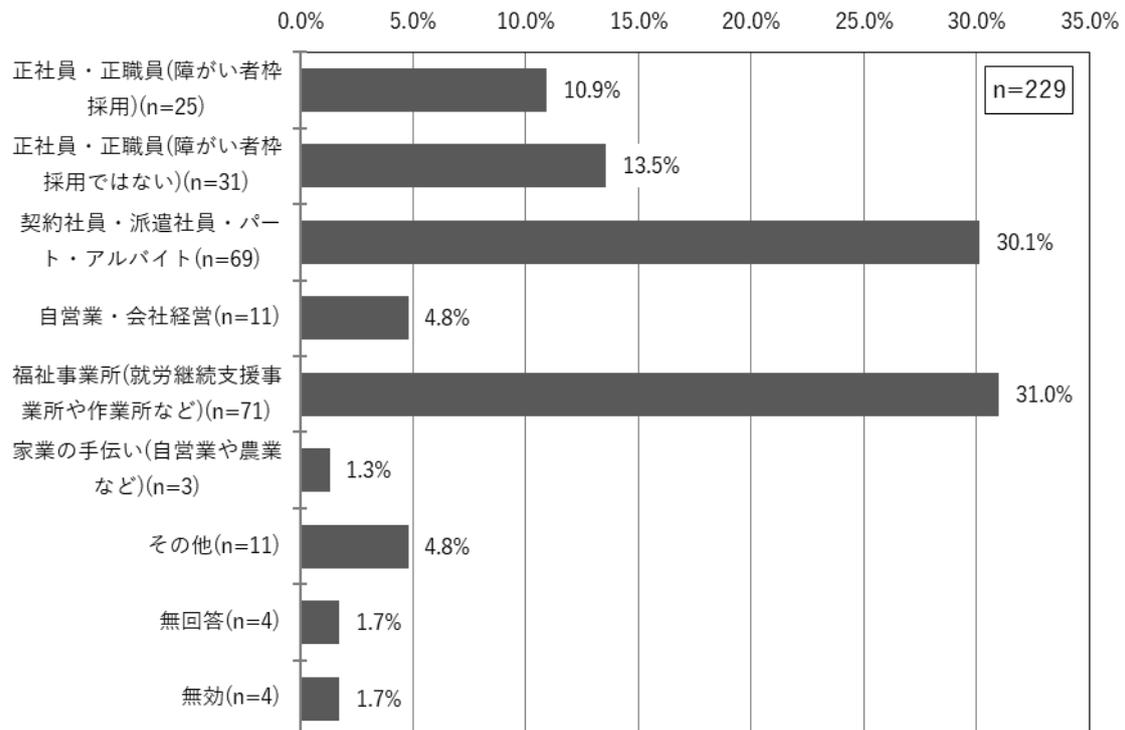


※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 15 問 14 で「①働いている」と答えた方に伺います。

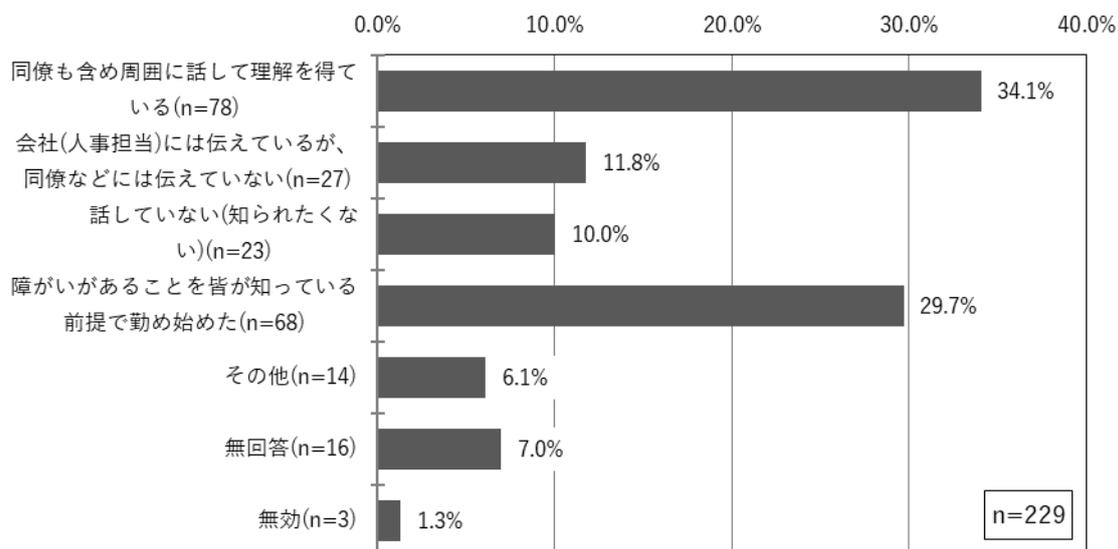
あなたの仕事はどれに当たりますか。当てはまるもの1つに○をしてください。(複数該当する場合は、最も収入の多いものでお答えください)

「福祉事業所(就労継続支援事業所や作業所など)」が 31.0%と最も高く、次いで「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」が 30.1%、「正社員・正職員(障がい者枠採用ではない)」が 13.5%となっている。



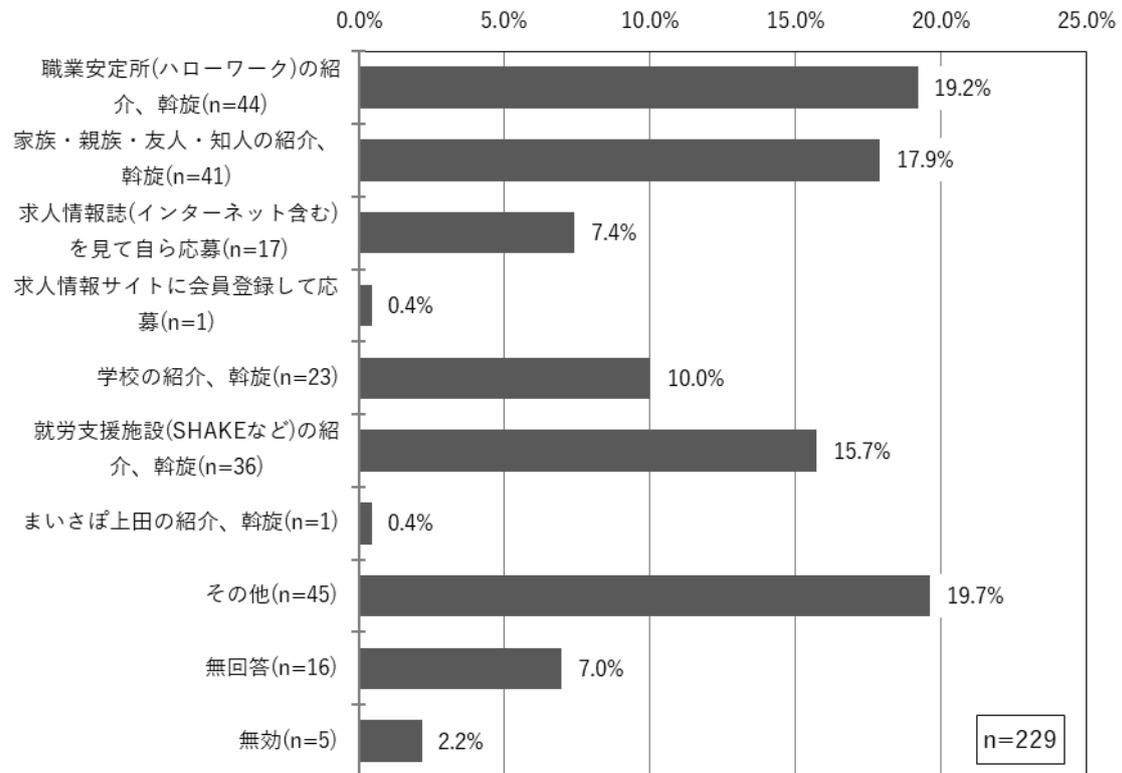
問 16 あなたは勤め先や職場に障がいがあることを話していますか。当てはまるもの1つに○をしてください。

「同僚も含め周囲に話して理解を得ている」が 34.1%と最も高く、次いで「障がいがあることを皆が知っている前提で勤め始めた」が 29.7%、「会社(人事担当)には伝えているが、同僚などには伝えていない」が 11.8%となっている。



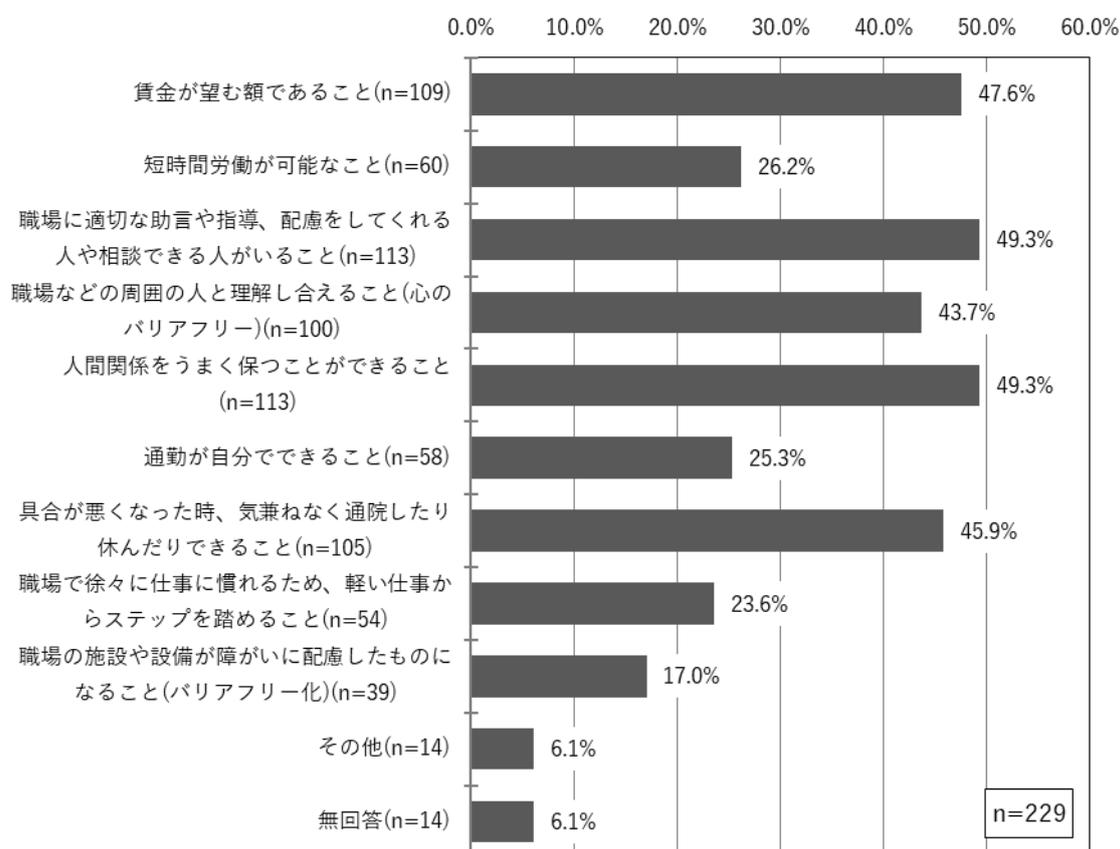
問 17 今の仕事に就いたきっかけは何ですか。当てはまるもの1つに○をしてください。

「その他」が 19.7%と最も高く、次いで「職業安定所(ハローワーク)の紹介、斡旋」が 19.2%、「家族・親族・友人・知人の紹介、斡旋」が 17.9%となっている。



問 18 今後も継続して働くため、どのような支援や環境が必要だと思いますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

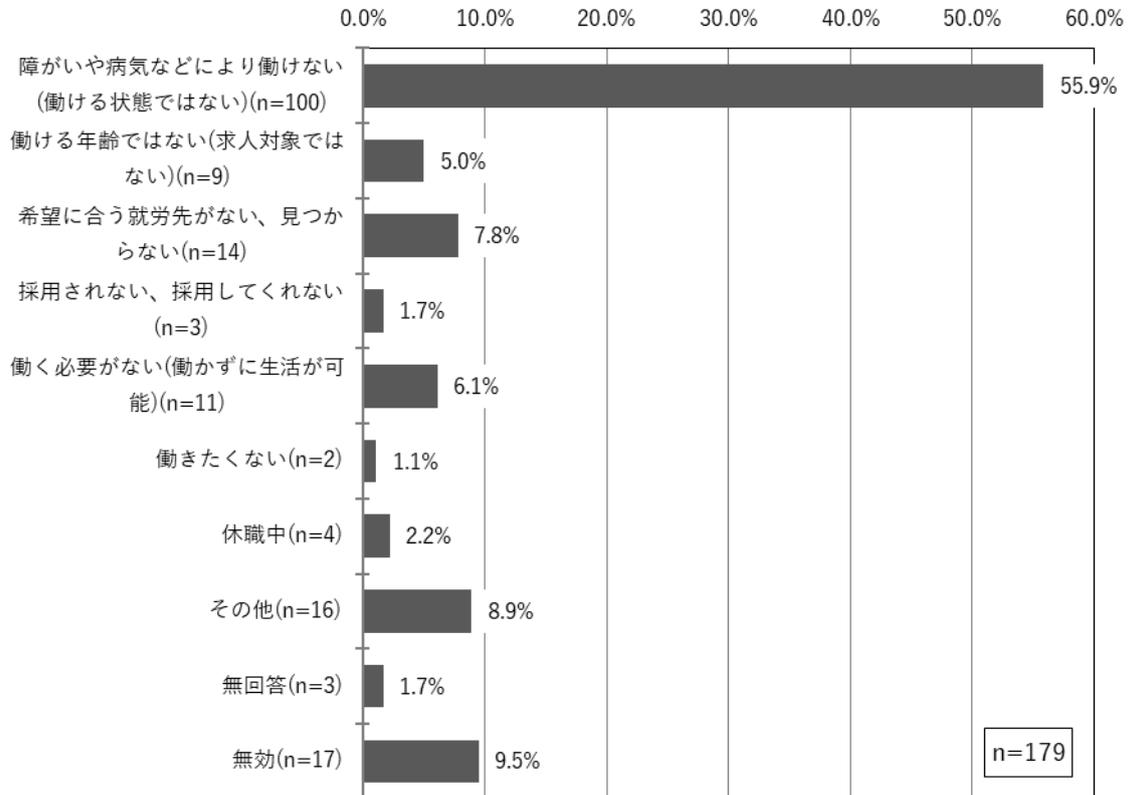
「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人や相談できる人がいること」及び「人間関係をうまく保つことができること」が 49.3%と最も高く、次いで「賃金が望む額であること」が 47.6%、「具合が悪くなった時、気兼ねなく通院したり休んだりできること」が 45.9%となっている。



問 19 問 14 で「②働いていない」と答えた方に伺います。

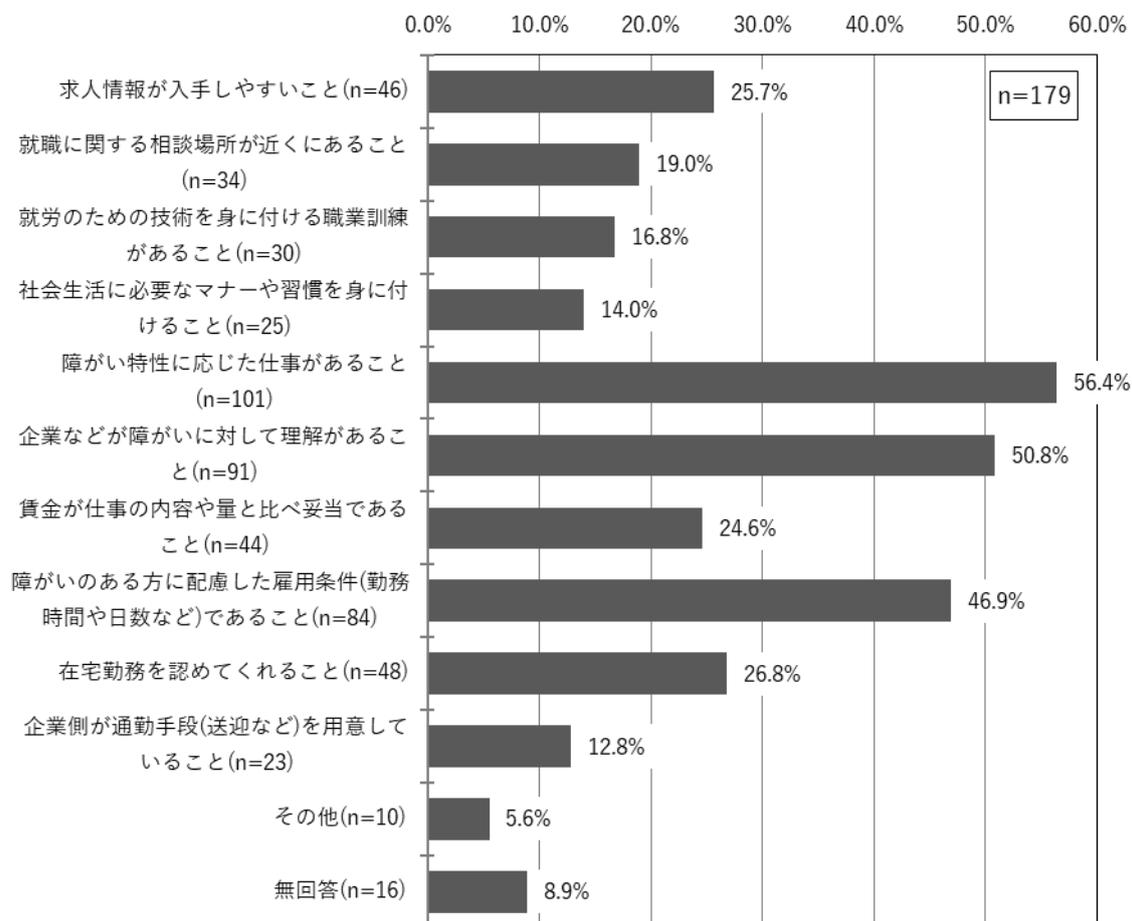
あなたが働いていない理由はなんですか。当てはまるもの1つに○をしてください。

「障がいや病気などにより働けない(働ける状態ではない)」が 55.9%と最も高く、次いで「その他」が 8.9%、「希望に合う就労先がない、見つからない」が 7.8%となっている。



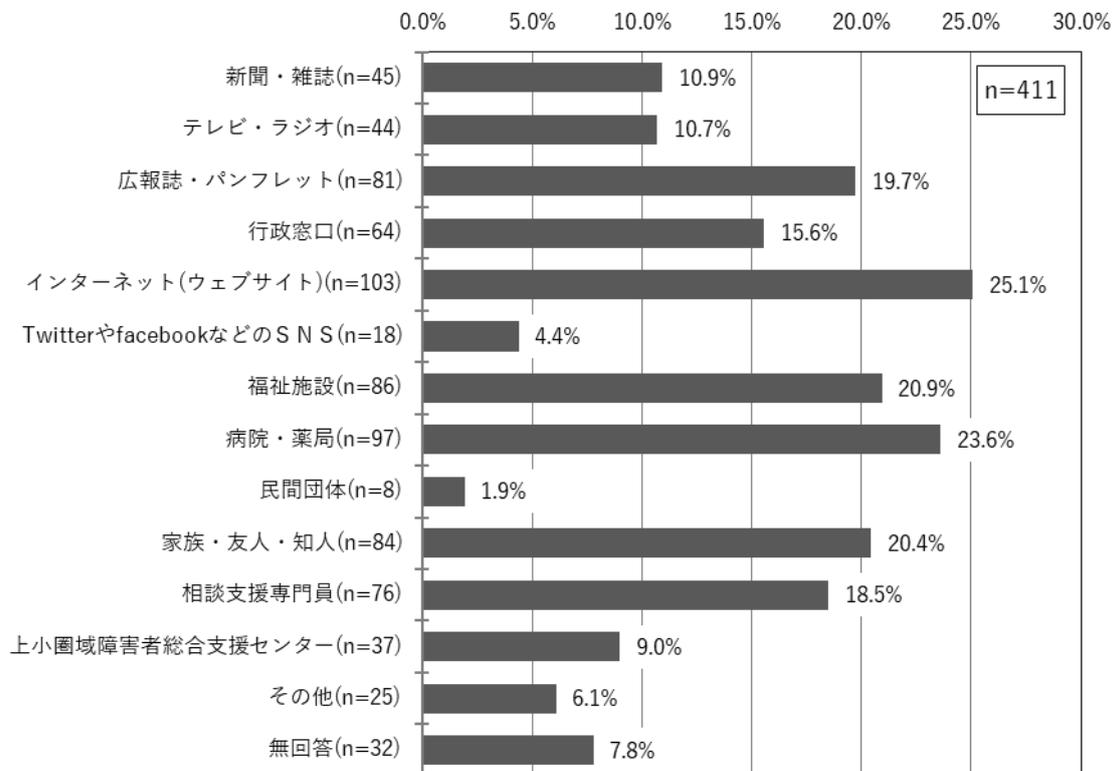
問 20 働き始めるためには、どのような支援や環境が必要だと思いますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「障がい特性に応じた仕事があること」が 56.4%と最も高く、次いで「企業などが障がいに対して理解があること」が 50.8%、「障がいのある方に配慮した雇用条件(勤務時間や日数など)であること」が 46.9%となっている。



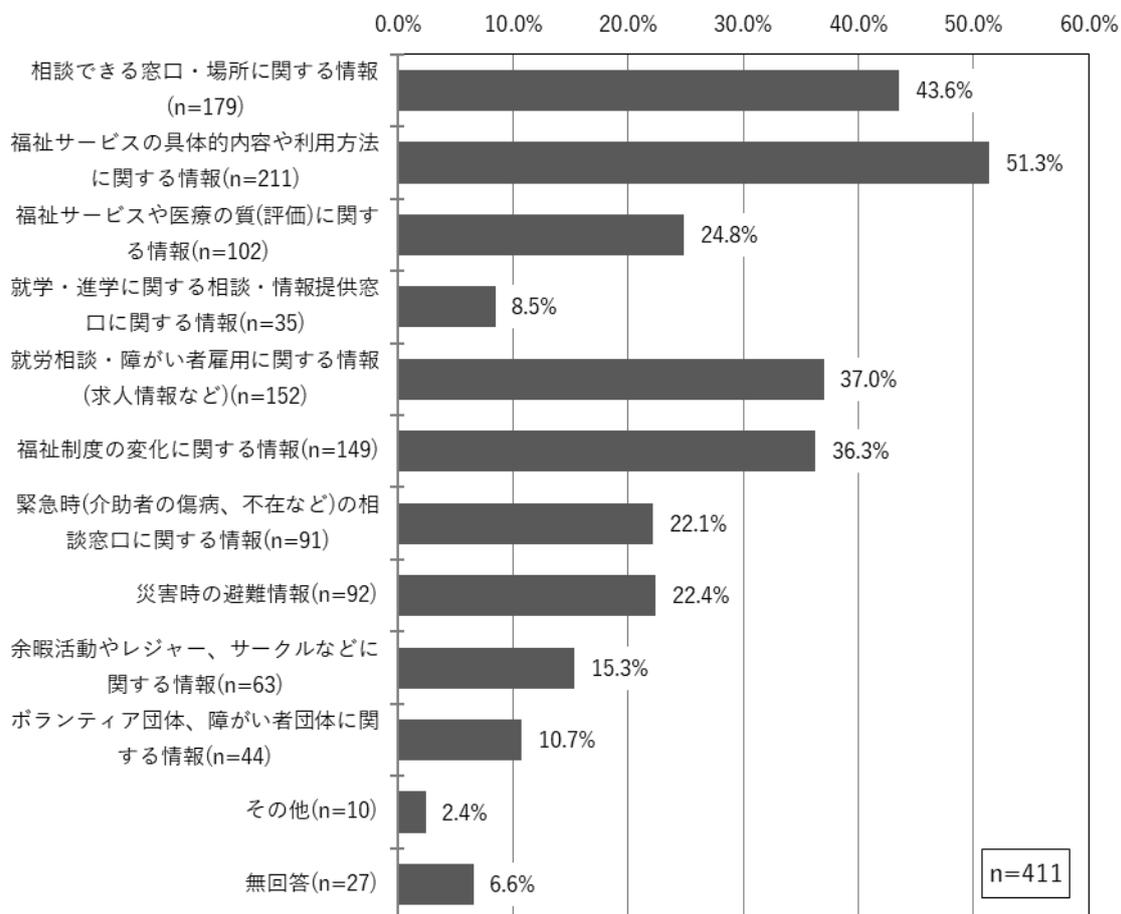
問 21 あなたは、障がい者福祉に関する情報をどこから入手していますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「インターネット(ウェブサイト)」が 25.1%と最も高く、次いで「病院・薬局」が 23.6%、「福祉施設」が 20.9%となっている。



問 22 あなたが今後充実してほしいと思う情報はどれですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「福祉サービスの具体的内容や利用方法に関する情報」が 51.3%と最も高く、次いで「相談できる窓口・場所に関する情報」が 43.6%、「就労相談・障がい者雇用に関する情報(求人情報など)」が 37.0%となっている。



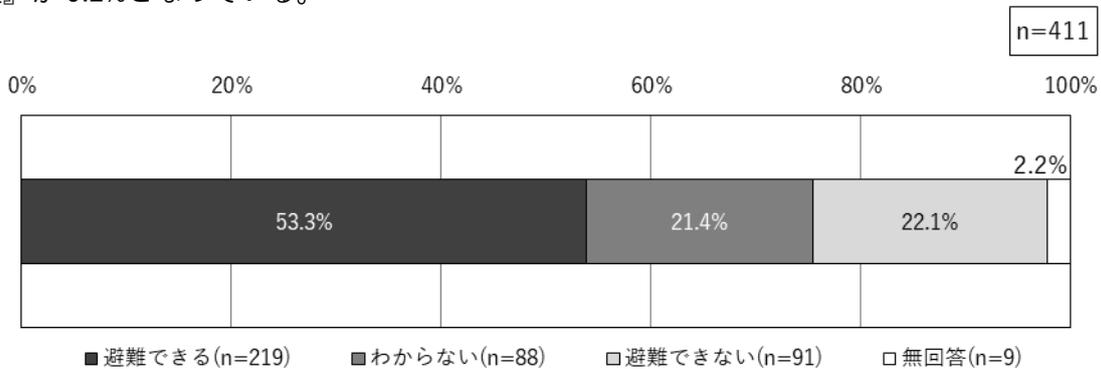
問 23 あなたは、災害時にひとりで（自力で）避難できますか。

全体では、「避難できる」が 53.3%と最も高く、次いで「避難できない」が 22.1%、「わからない」が 21.4%となっている。

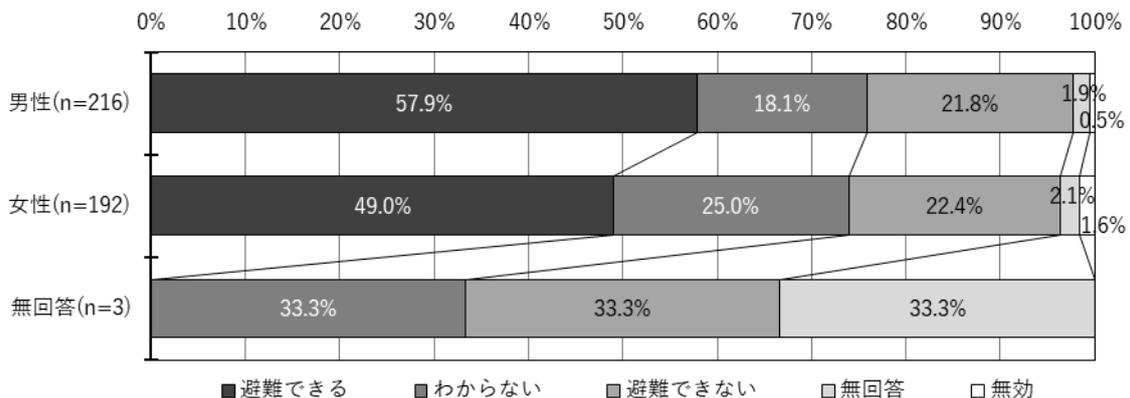
性別にみると、『男性』では「避難できる」が 57.9%と最も高く、次いで「避難できない」が 21.8%、「わからない」が 18.1%となっており、『女性』では「避難できる」が 49.0%と最も高く、次いで「わからない」が 25.0%、「避難できない」が 22.4%となっている。

年齢別にみると、「避難できる」は『40~44 歳』が 59.0%と最も高く、次いで『60~65 歳』が 58.0%、『55~59 歳』が 55.9%となっており、「避難できない」は『18~19 歳』が 33.3%と最も高く、次いで『35~39 歳』が 30.3%、『30~34 歳』が 28.2%となっている。

手帳別にみると、「避難できる」は『精神障害者保健福祉手帳』が 62.7%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が 53.2%、『療育手帳』が 34.9%となっており、「避難できない」は『療育手帳』が 38.1%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が 29.2%、『精神障害者保健福祉手帳』が 9.2%となっている。

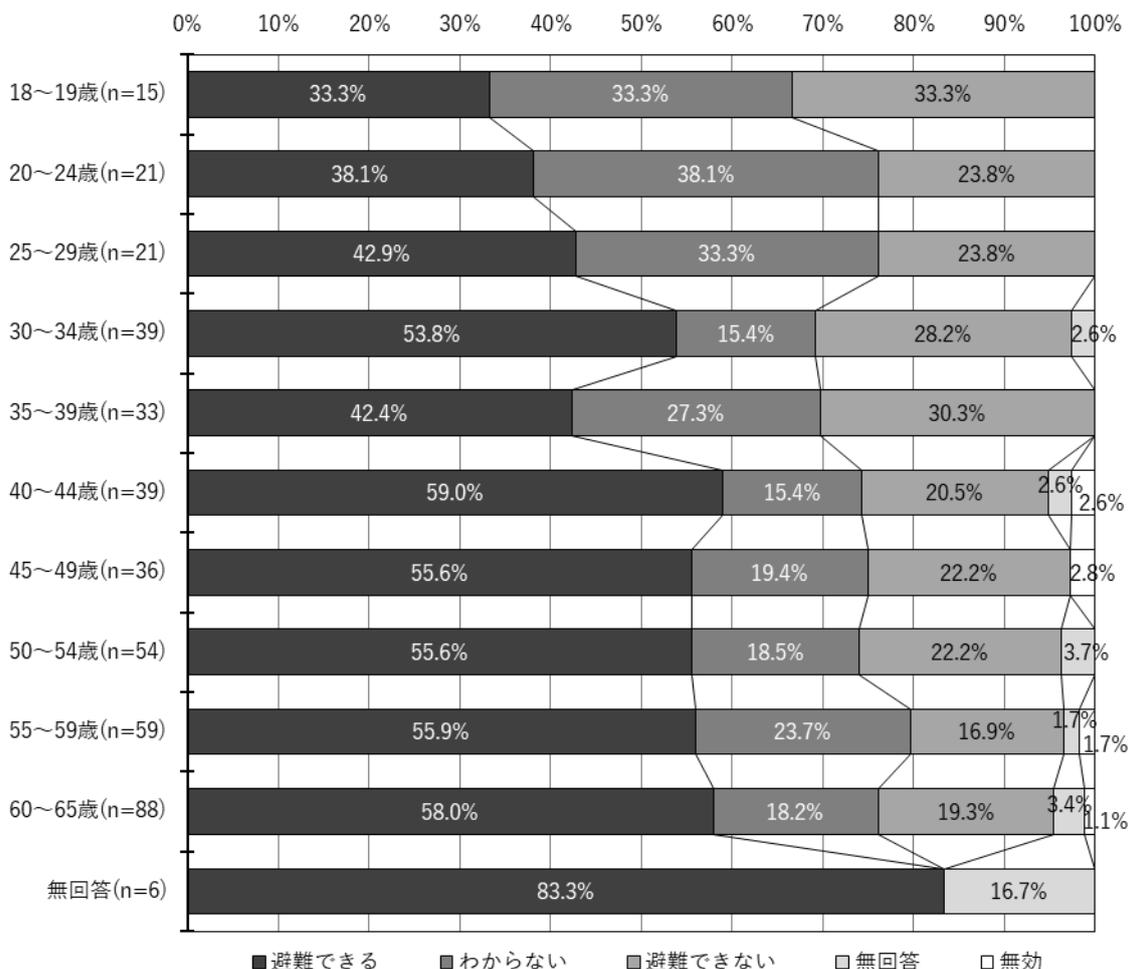


【クロス集計（性別）】



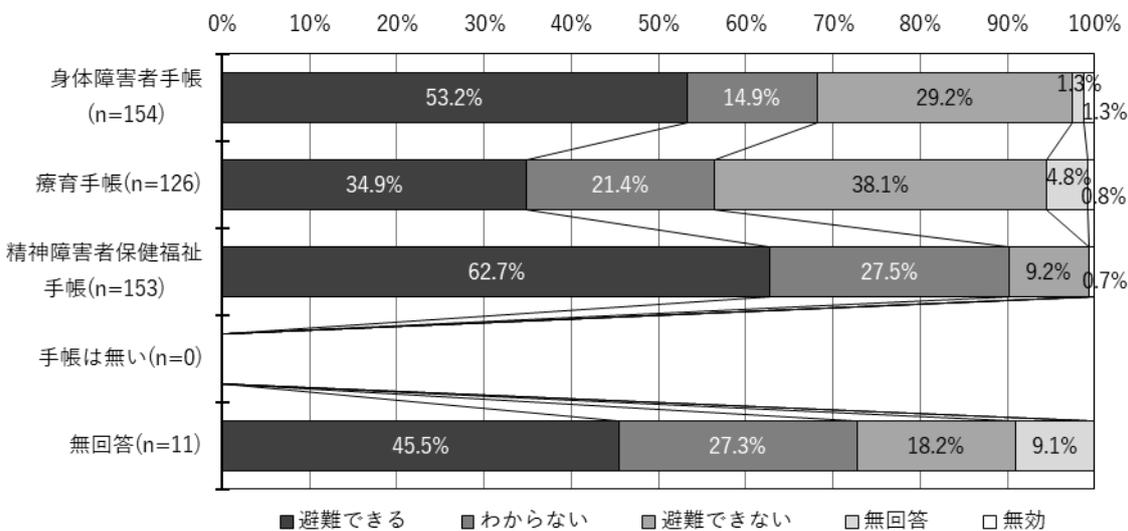
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

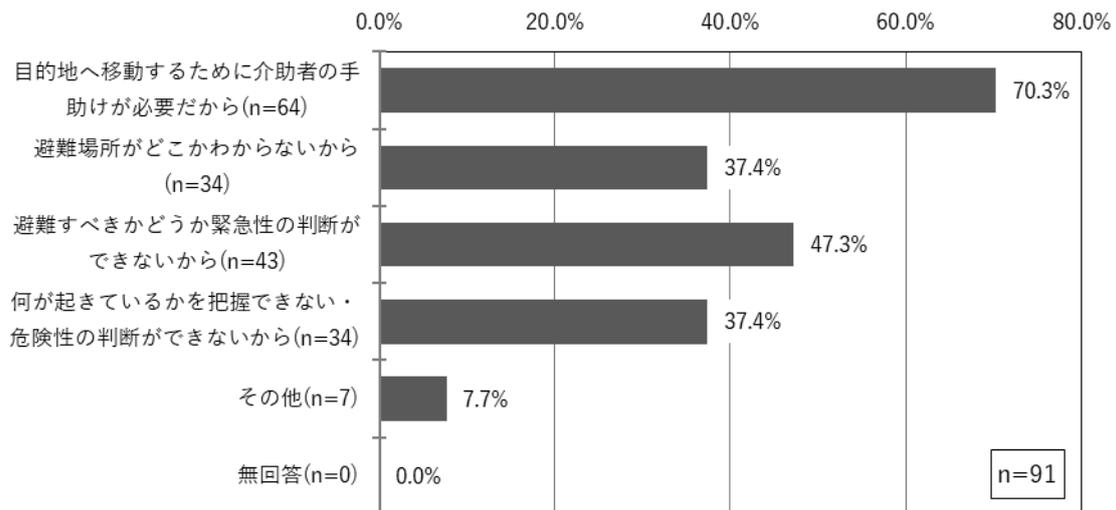
【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

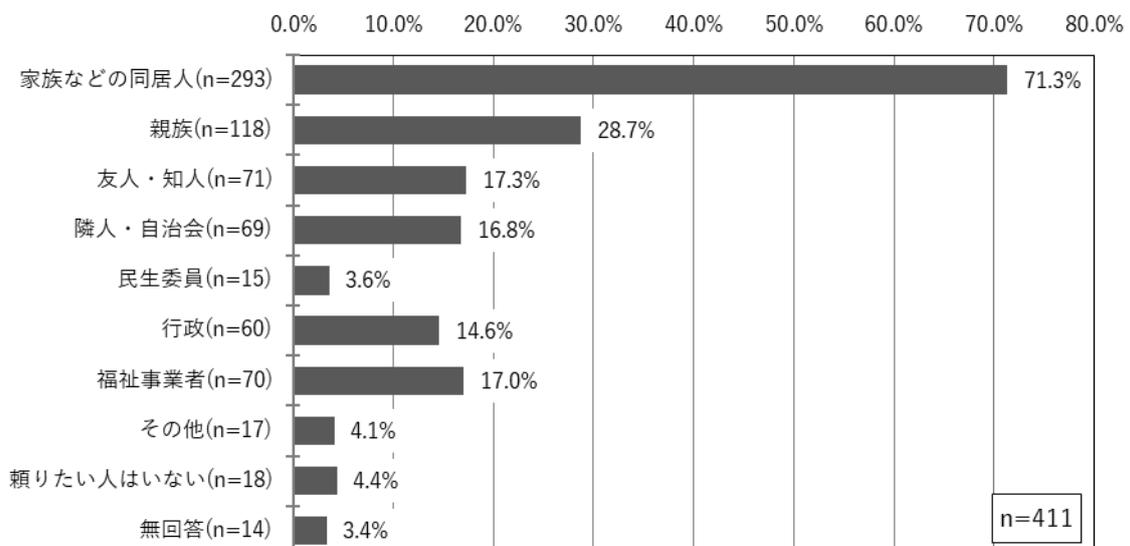
問 24 ひとりで避難できない理由はなんですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「目的地へ移動するために介助者の手助けが必要だから」が 70.3%と最も高く、次いで「避難すべきかどうか緊急性の判断ができないから」が 47.3%、「避難場所がどこかわからないから」及び「何が起きているかを把握できない・危険性の判断ができないから」が 37.4%となっている。



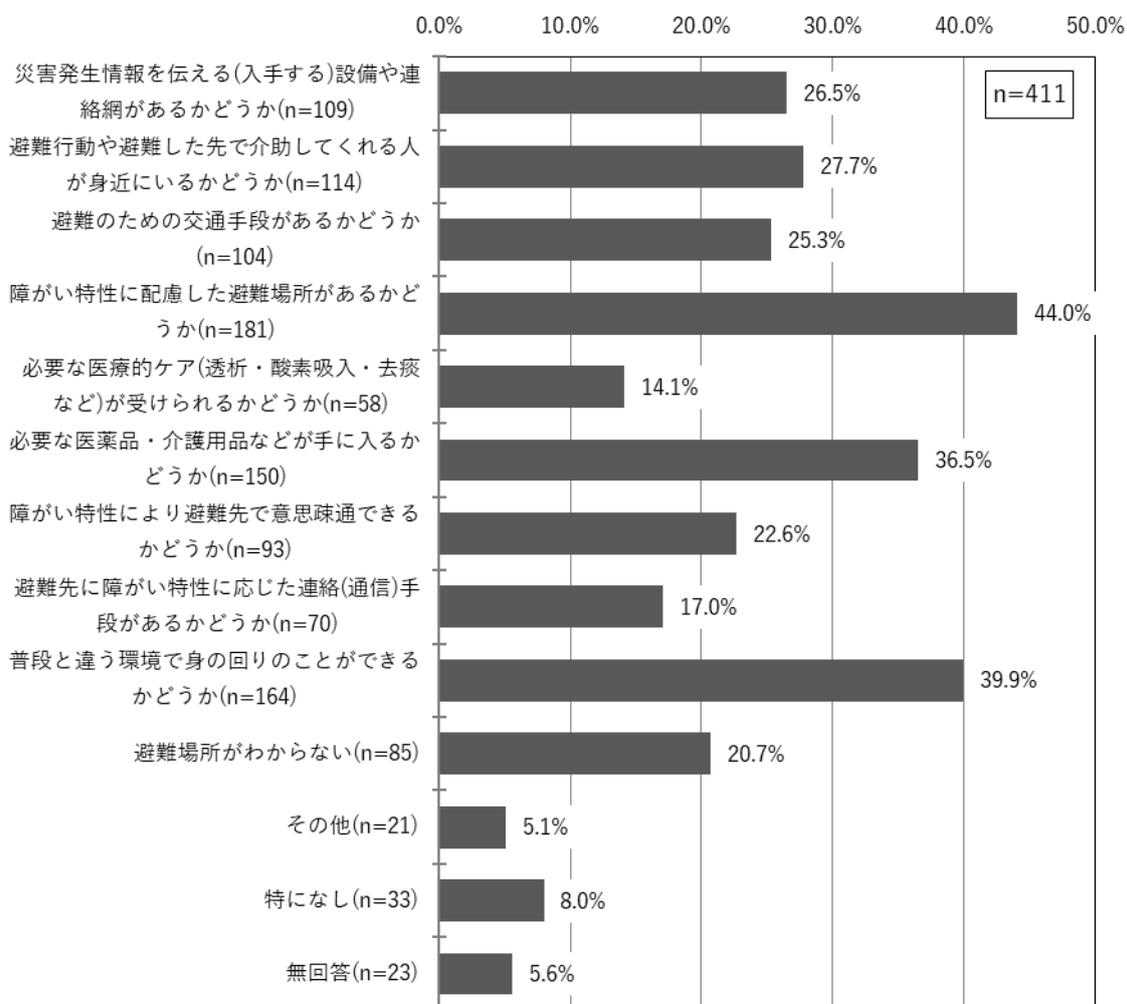
問 25 あなたは、災害時に誰を頼りにしたいと思っていますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「家族などの同居人」が 71.3%と最も高く、次いで「親族」が 28.7%、「友人・知人」が 17.3%となっている。



問 26 災害が発生したとき、あなたはどんなことが不安ですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「障がい特性に配慮した避難場所があるかどうか」が 44.0%と最も高く、次いで「普段と違う環境で身の回りのことができるかどうか」が 39.9%、「必要な医薬品・介護用品などが手に入るかどうか」が 36.5%となっている。



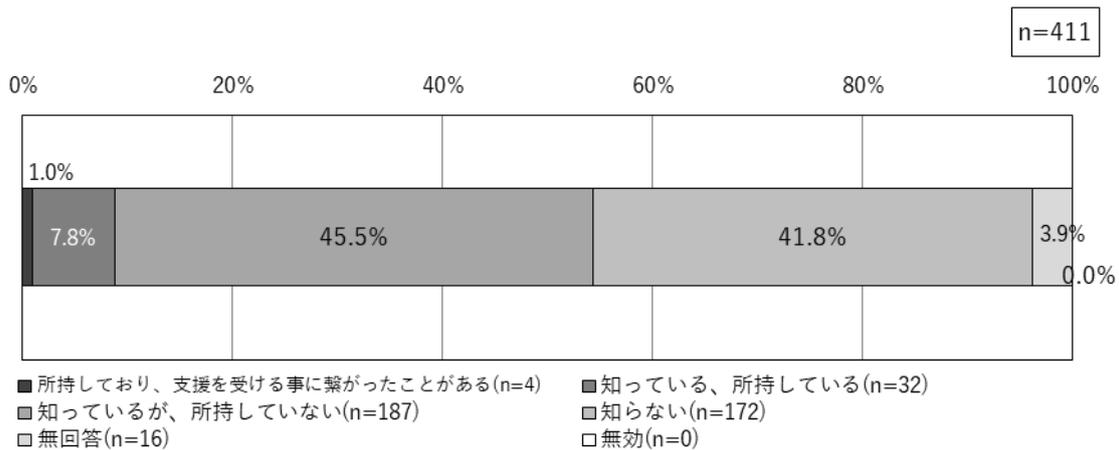
問 27 あなたは、「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」を知っていますか。

全体では、「知っているが、所持していない」が 45.5%と最も高く、次いで「知らない」が 41.8%、「知っている、所持している」が 7.8%となっている。

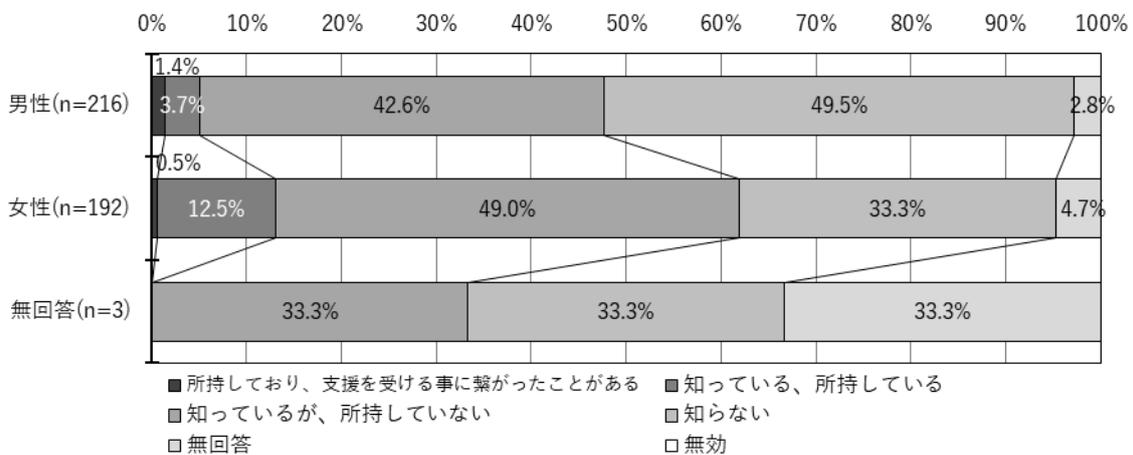
性別にみると、『男性』では「知らない」が 49.5%と最も高く、「所持しており、支援を受ける事に繋がったことがある」が 1.4%と最も低い。『女性』では「知っているが、所持していない」が 49.0%と最も高く、「所持しており、支援を受ける事に繋がったことがある」が 0.5%と最も低くなっている。

年齢別にみると、「所持しており、支援を受ける事に繋がったことがある」は『35~39 歳』の 3.0%、「知っている、所持している」は『35~39 歳』の 15.2%、「知っているが、所持していない」は『20~24 歳』の 57.1%、「知らない」は『25~29 歳』の 52.4%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「所持しており、支援を受ける事に繋がったことがある」は『身体障害者手帳』及び『精神障害者保健福祉手帳』の 1.3%、「知っている、所持している」は『身体障害者手帳』の 8.4%、「知っているが、所持していない」は『精神障害者保健福祉手帳』の 50.3%、「知らない」は『療育手帳』の 51.6%が最も高くなっている。

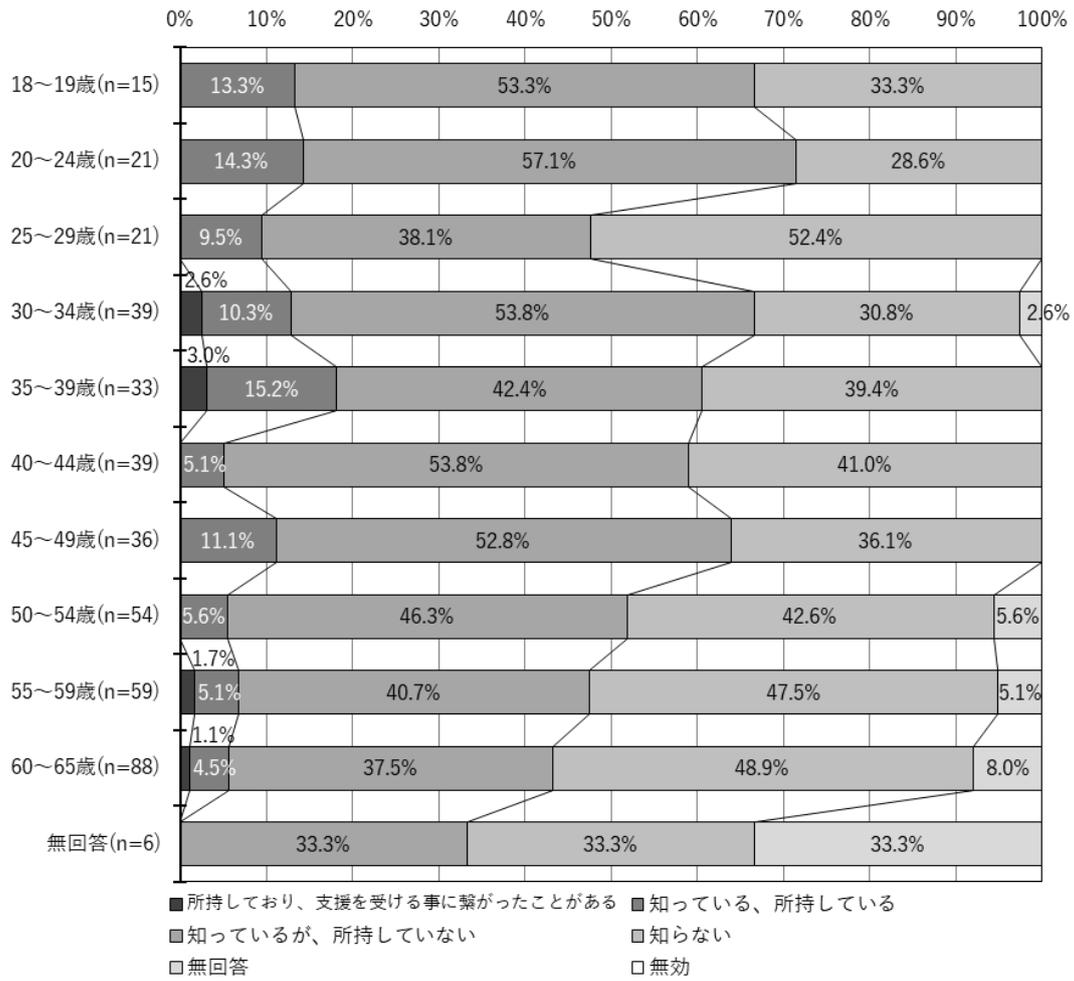


【クロス集計（性別）】



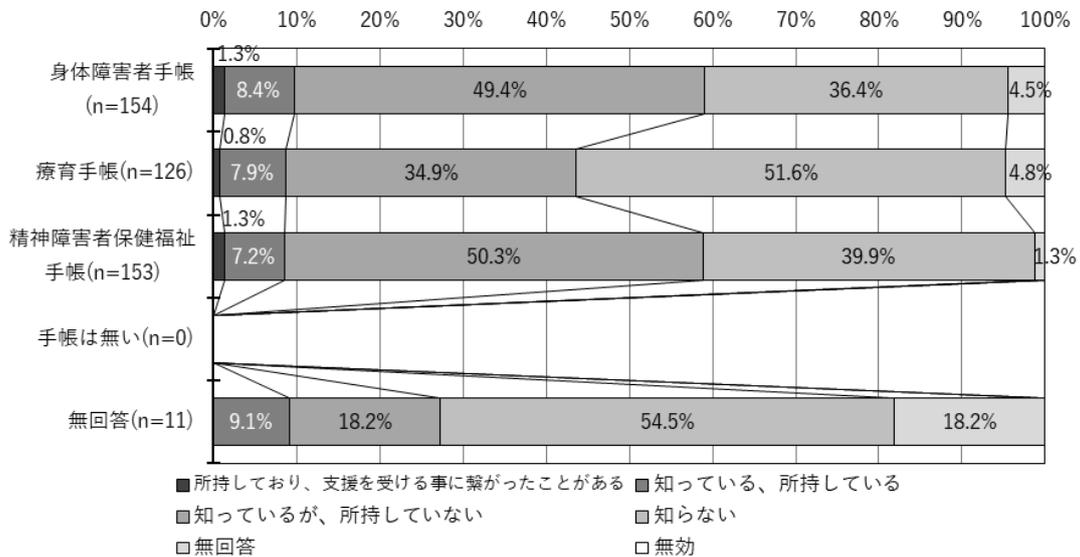
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

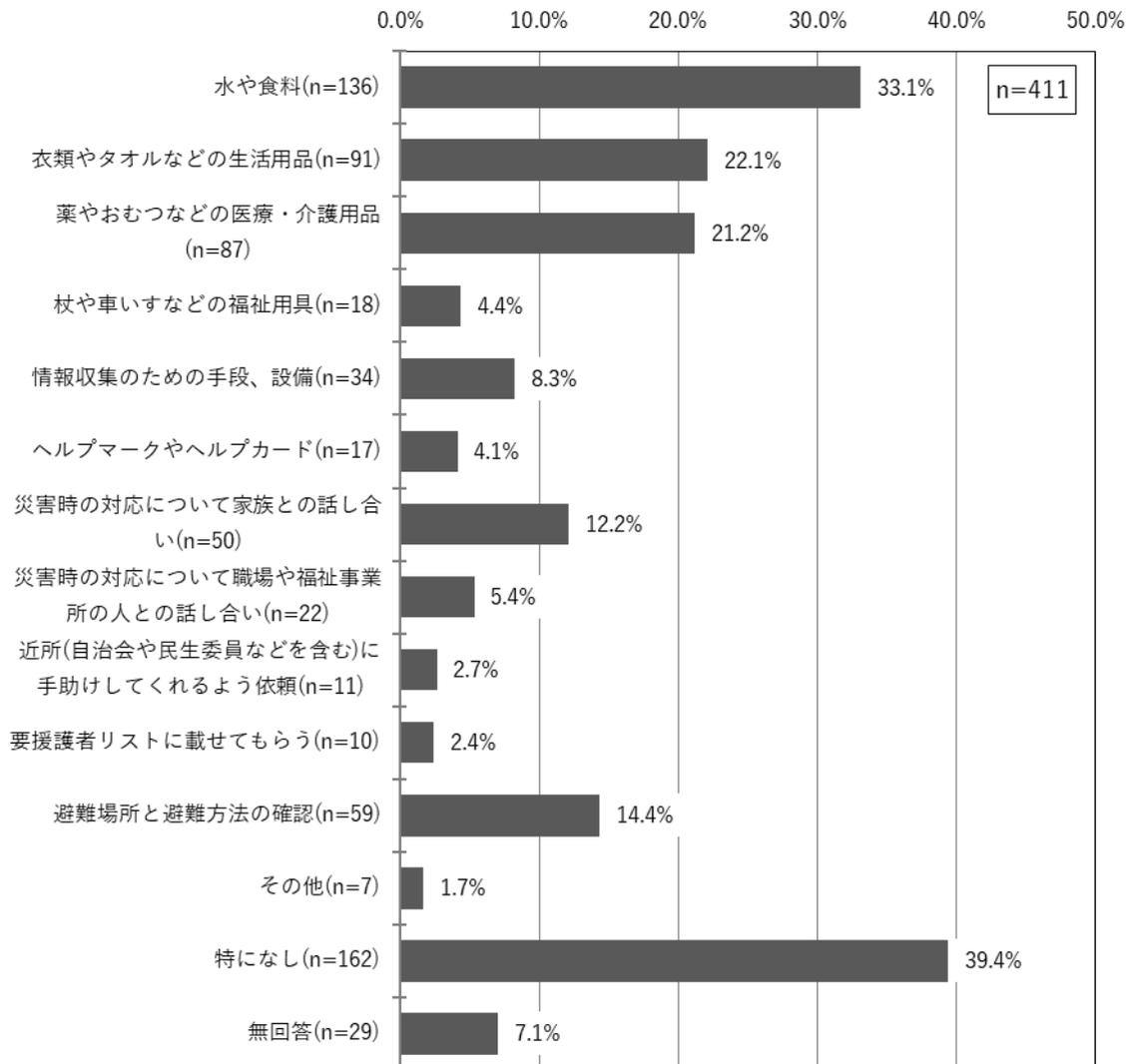
【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

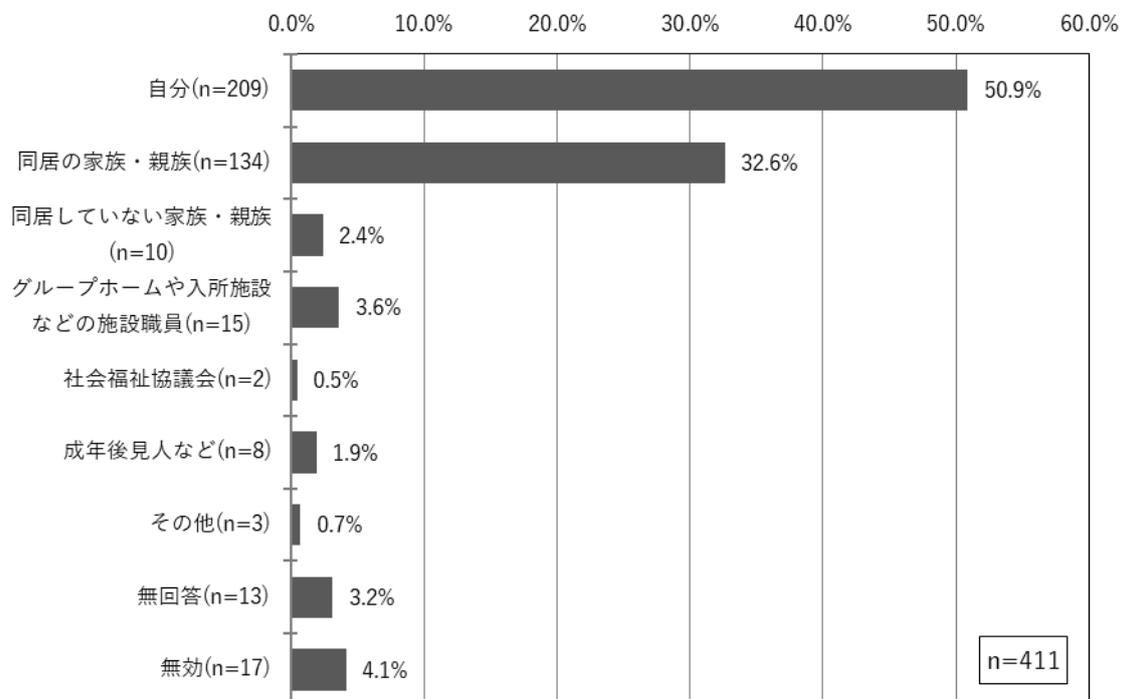
問 28 あなたが災害時に備え、準備していること（もの）は何ですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「特になし」が 39.4%と最も高く、次いで「水や食料」が 33.1%、「衣類やタオルなどの生活用品」が 22.1%となっている。



問 29 あなたのお金の管理は主にどなたがしていますか。当てはまるもの1つに○をしてください。

「自分」が50.9%と最も高く、次いで「同居の家族・親族」が32.6%となっている。



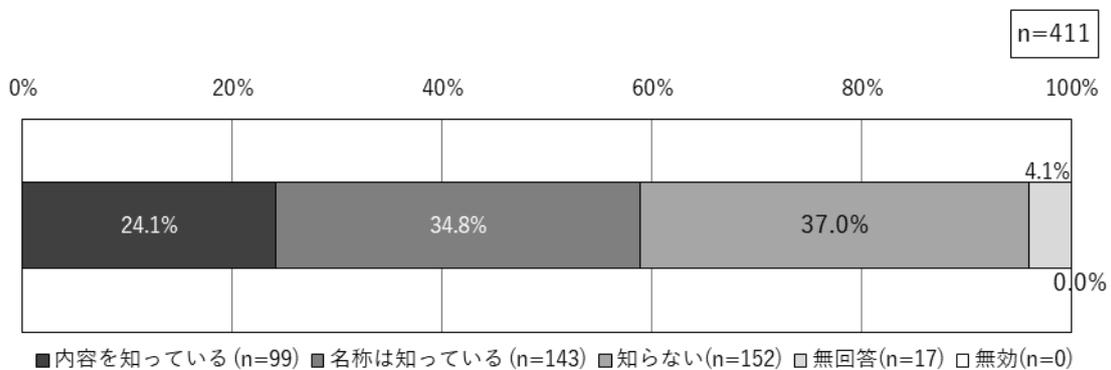
問 30 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。

全体では、「知らない」が 37.0%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 34.8%、「内容を知っている」が 24.1%となっている。

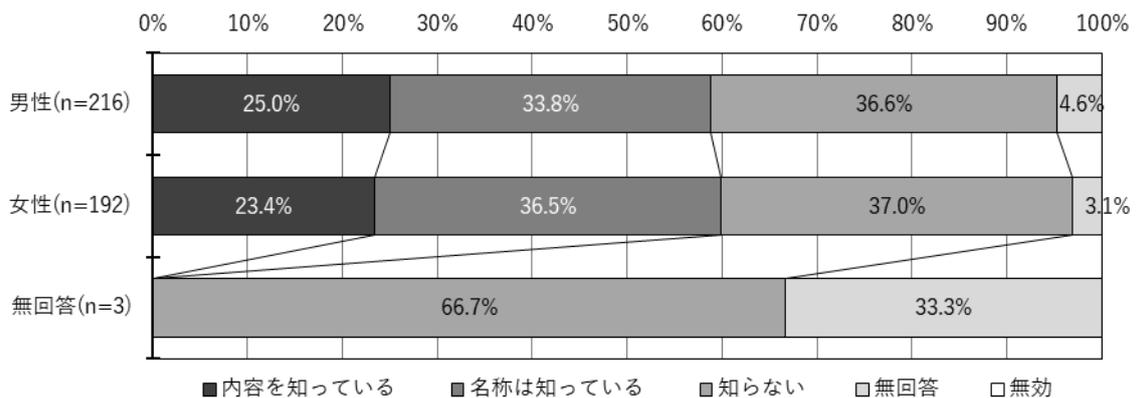
性別にみると、『男性』では「知らない」が 36.6%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 33.8%、「内容を知っている」が 25.0%となっており、『女性』では「知らない」が 37.0%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 36.5%、「内容を知っている」が 23.4%となっている。

年齢別にみると、「内容を知っている」は『45~49 歳』の 30.6%、「名称は知っている」は『35~39 歳』の 42.4%、「知らない」は『18~19 歳』の 80.0%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「内容を知っている」は『身体障害者手帳』の 32.5%、「名称は知っている」は『身体障害者手帳』の 42.9%、「知らない」は『療育手帳』の 53.2%が最も高くなっている。

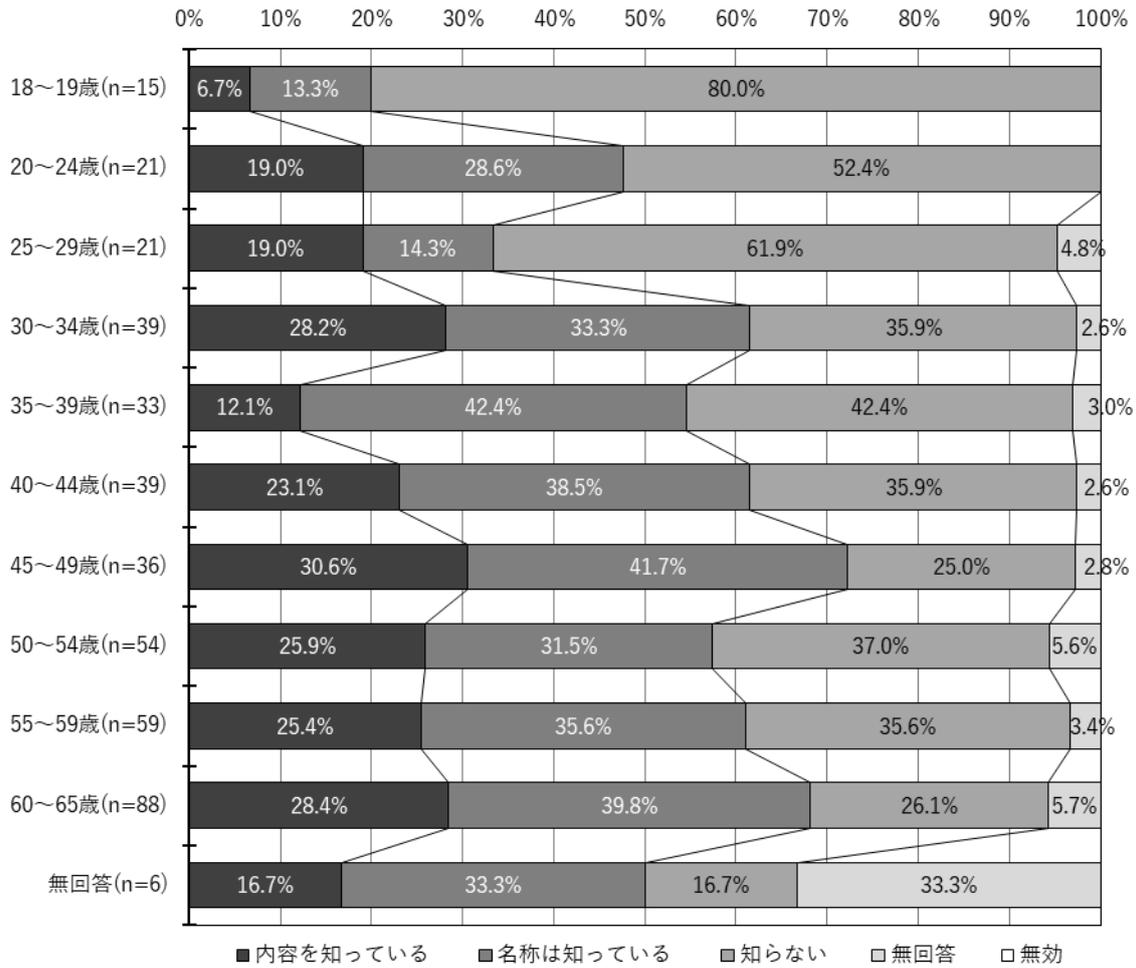


【クロス集計（性別）】



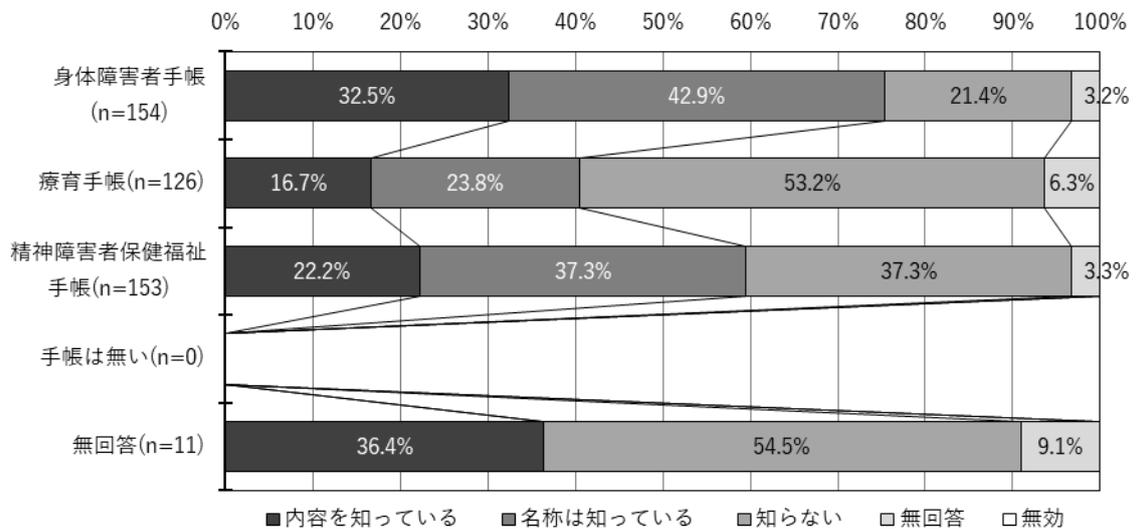
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

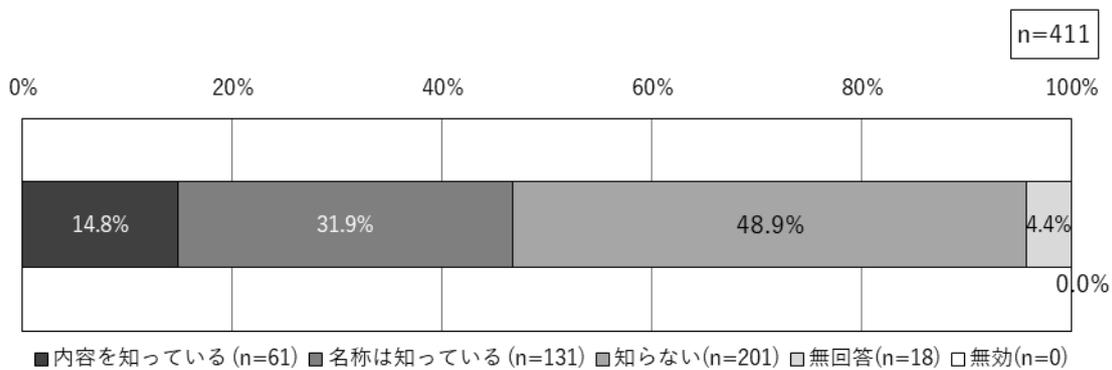
問 31 あなたは、「障害者虐待防止法」（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）を知っていますか。

全体では、「知らない」が 48.9%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 31.9%、「内容を知っている」が 14.8%となっている。

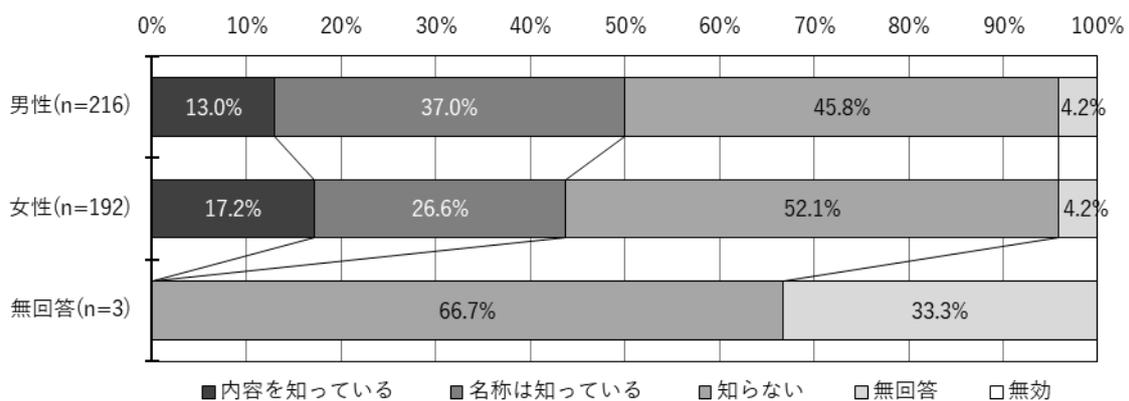
性別にみると、『男性』では「知らない」が 45.8%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 37.0%、「内容を知っている」が 13.0%となっており、『女性』では「知らない」が 52.1%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 26.6%、「内容を知っている」が 17.2%となっている。

年齢別にみると、「内容を知っている」は『45~49 歳』の 25.0%、「名称は知っている」は『35~39 歳』の 54.5%、「知らない」は『18~19 歳』の 66.7%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「内容を知っている」は『身体障害者手帳』の 23.4%、「名称は知っている」は『身体障害者手帳』の 35.1%、「知らない」は『精神障害者保健福祉手帳』の 57.5%が最も高くなっている。

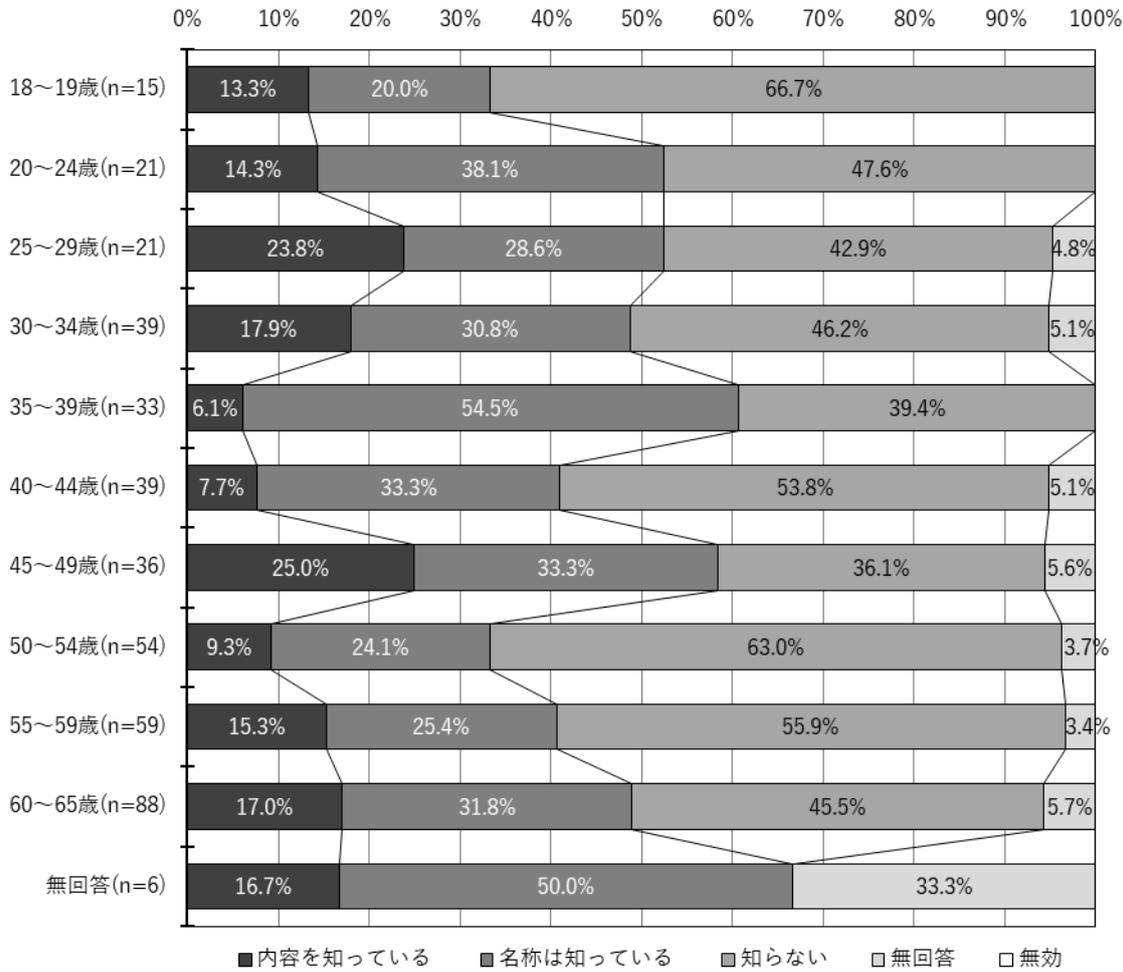


【クロス集計（性別）】



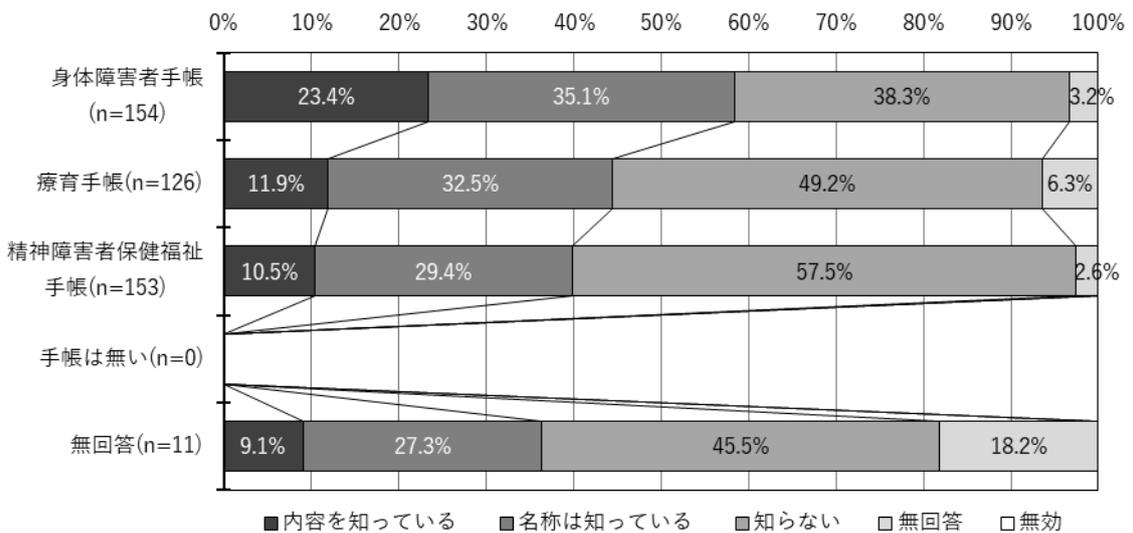
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

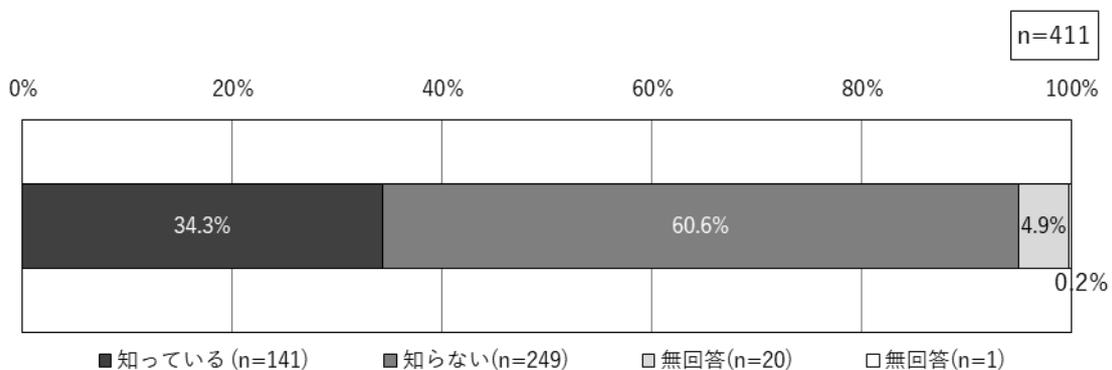
問 32 あなたは、障がいのある方への虐待を発見したとき（自身が虐待を受けた場合を含む）に通報義務があることを知っていますか。

全体では、「知らない」が60.6%、「知っている」が34.3%となっている。

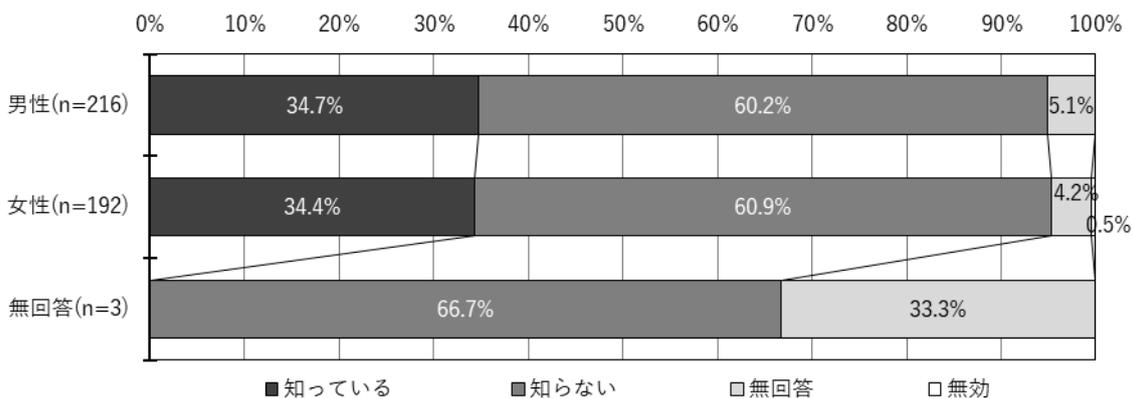
性別にみると、『男性』では「知らない」が60.2%、「知っている」が34.7%、『女性』では「知らない」が60.9%、「知っている」が34.4%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『20~24歳』が42.9%と最も高く、次いで『45~49歳』が41.7%、『60~65歳』が38.6%となっており、「知らない」は『18~19歳』が73.3%と最も高く、次いで『55~59歳』が67.8%、『40~44歳』が66.7%となっている。

手帳別にみると、「知っている」は『身体障害者手帳』が42.9%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が30.7%、『療育手帳』が28.6%となっており、「知らない」は『精神障害者保健福祉手帳』が66.7%と最も高く、次いで『療育手帳』が63.5%、『身体障害者手帳』が53.2%となっている。

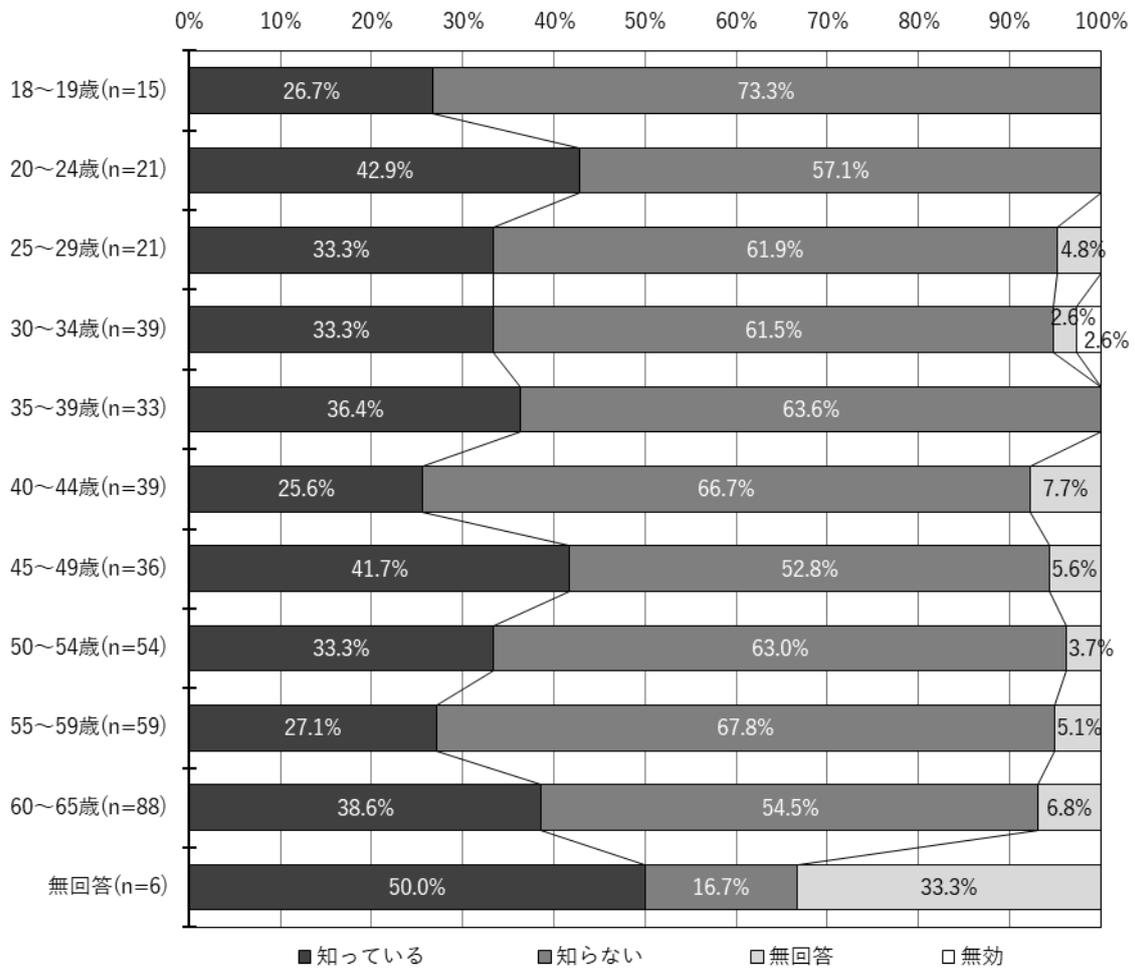


【クロス集計（性別）】



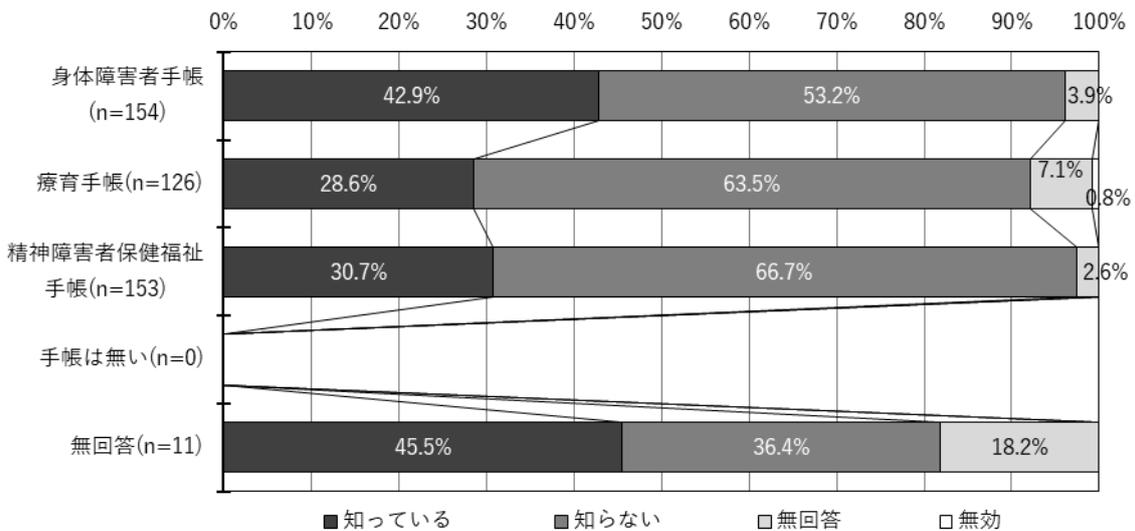
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

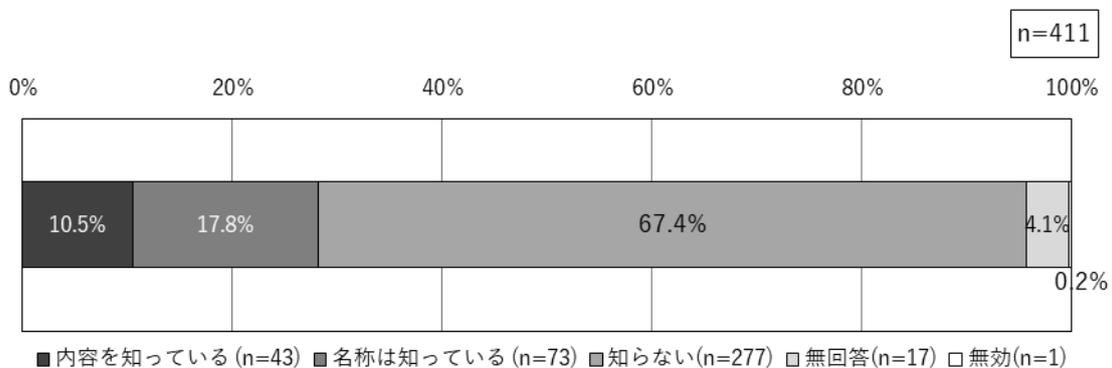
問 33 あなたは、「障害者差別解消法」（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）を知っていますか。

全体では、「知らない」が 67.4%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 17.8%、「内容を知っている」が 10.5%となっている。

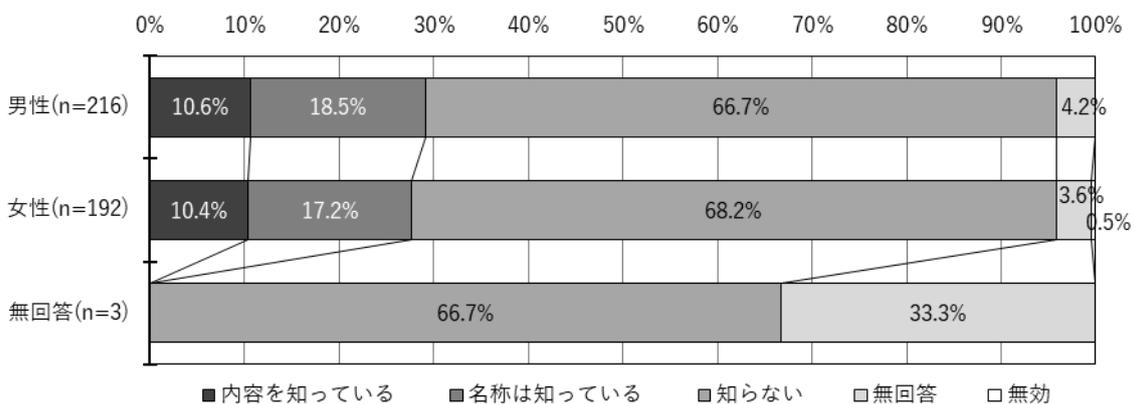
性別にみると、『男性』では「知らない」が 66.7%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 18.5%、「内容を知っている」が 10.6%となっており、『女性』では「知らない」が 68.2%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 17.2%、「内容を知っている」が 10.4%となっている。

年齢別にみると、「内容を知っている」は『45～49 歳』の 19.4%、「名称は知っている」は『35～39 歳』の 30.3%、「知らない」は『40～44 歳』の 82.1%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「内容を知っている」は『身体障害者手帳』の 16.9%、「名称は知っている」は『身体障害者手帳』の 19.5%、「知らない」は『療育手帳』の 71.4%が最も高くなっている。

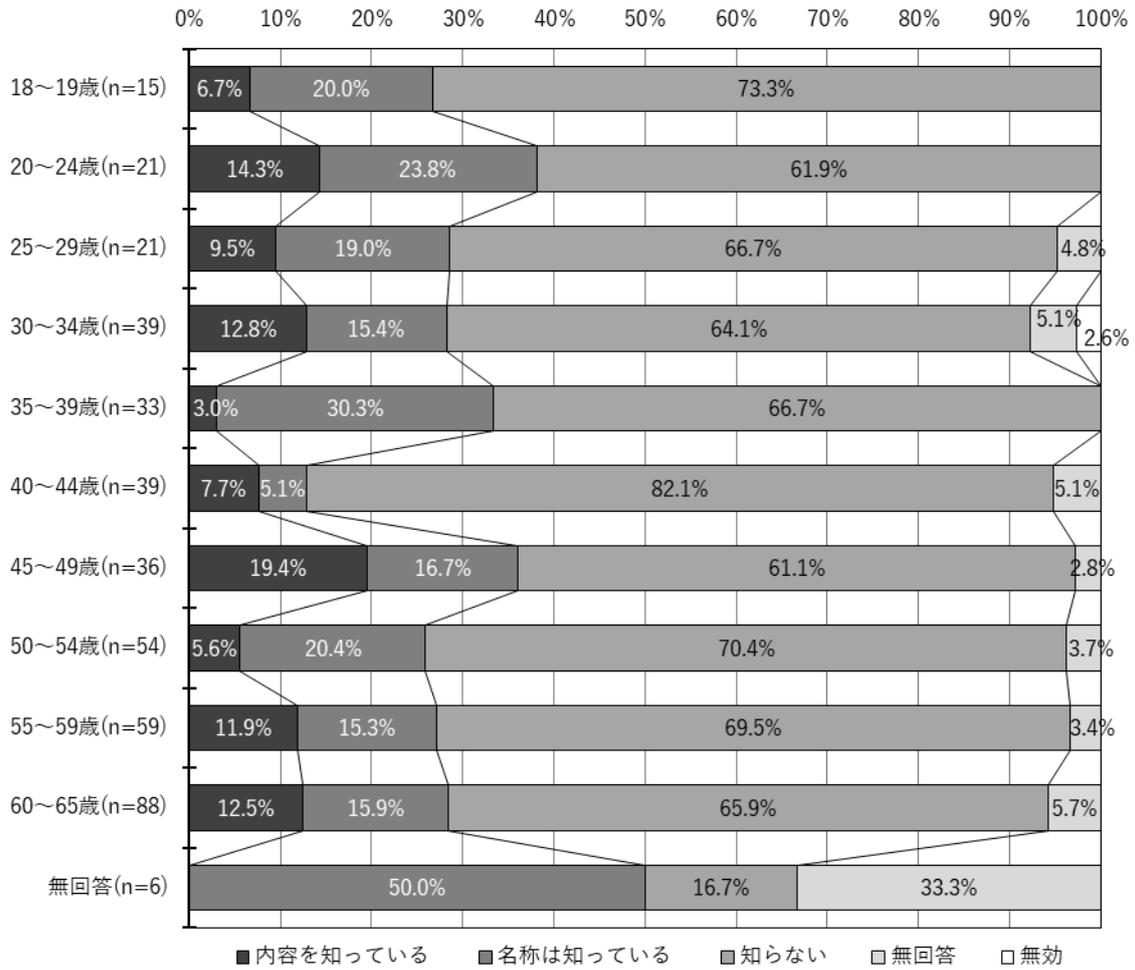


【クロス集計（性別）】



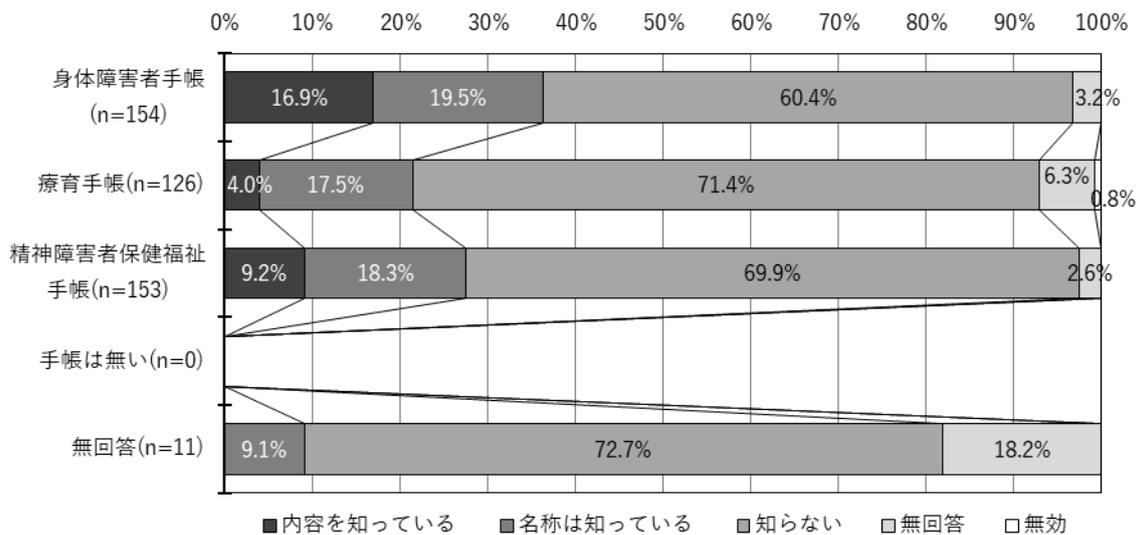
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

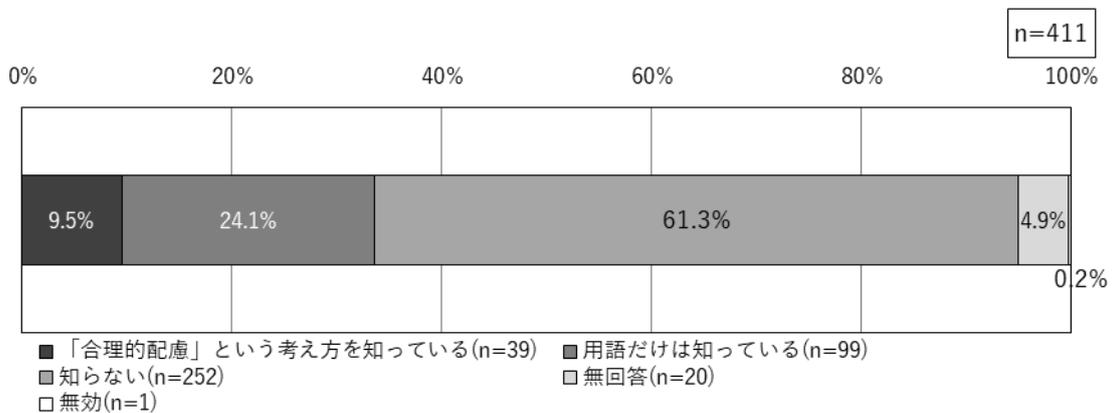
問 34 あなたは、「合理的配慮」について知っていますか。

全体では、「知らない」が 61.3%と最も高く、次いで「用語だけは知っている」が 24.1%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 9.5%となっている。

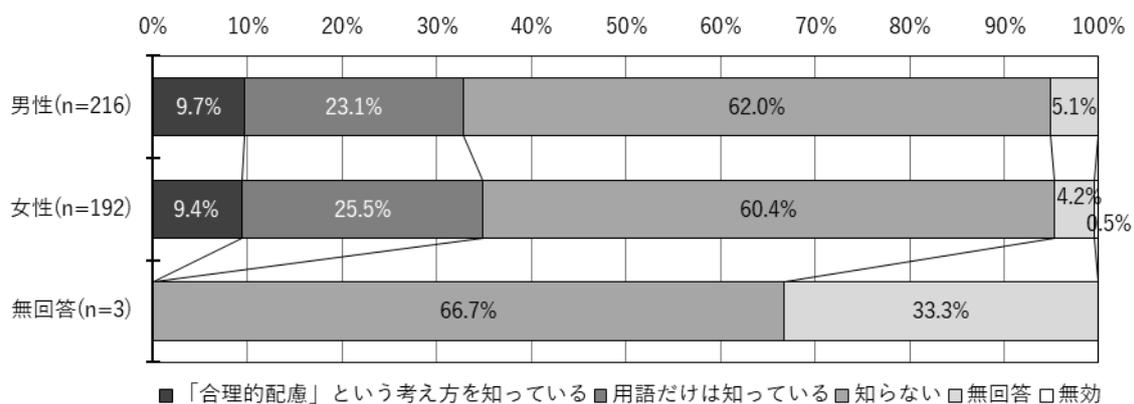
性別にみると、『男性』では「知らない」が 62.0%と最も高く、次いで「用語だけは知っている」が 23.1%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 9.7%となっており、『女性』では「知らない」が 60.4%と最も高く、次いで「用語だけは知っている」が 25.5%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 9.4%となっている。

年齢別にみると、「合理的配慮という考え方を知っている」は『30~34 歳』の 20.5%、「用語だけは知っている」は『20~24 歳』の 38.1%、「知らない」は『35~39 歳』の 72.7%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「合理的配慮という考え方を知っている」は『精神障害者保健福祉手帳』の 13.1%、「用語だけは知っている」は『精神障害者保健福祉手帳』の 26.1%、「知らない」は『療育手帳』の 67.5%が最も高くなっている。

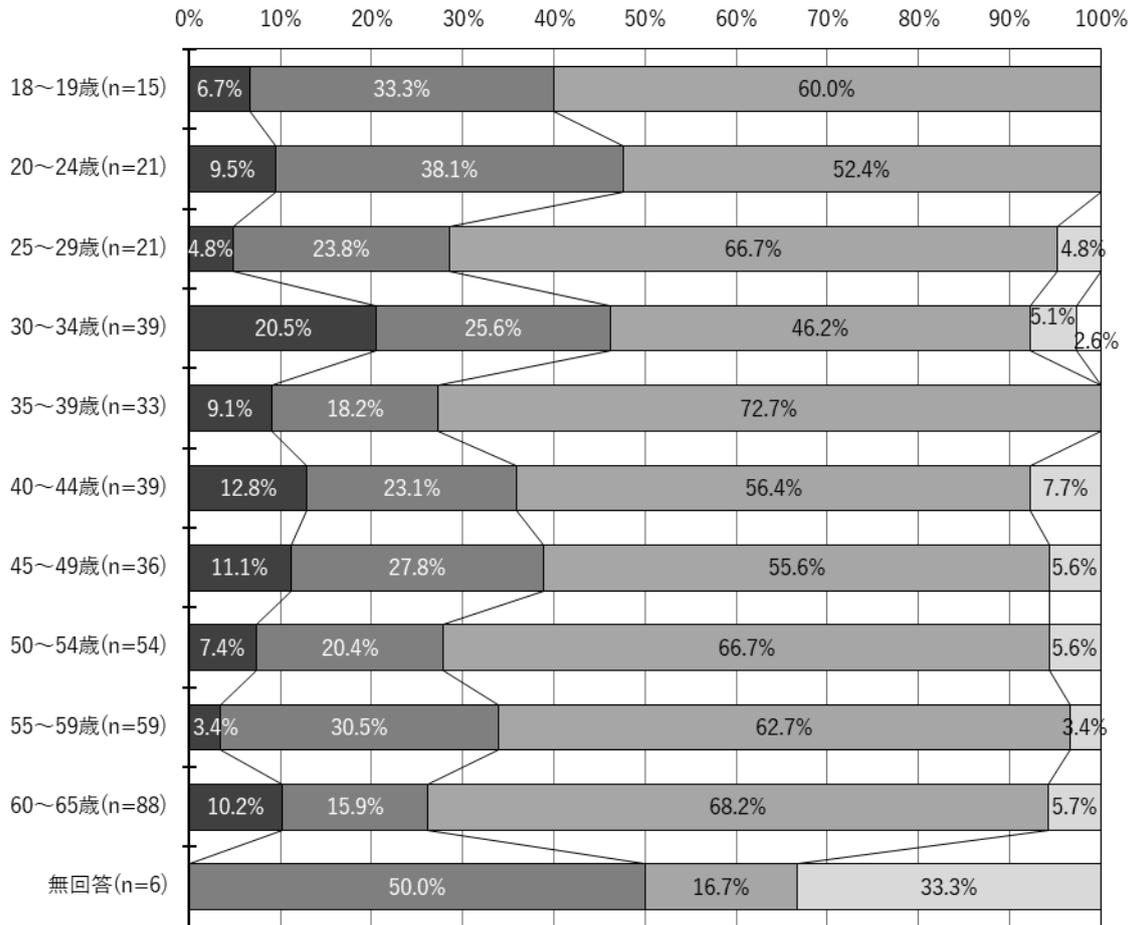


【クロス集計 (性別)】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

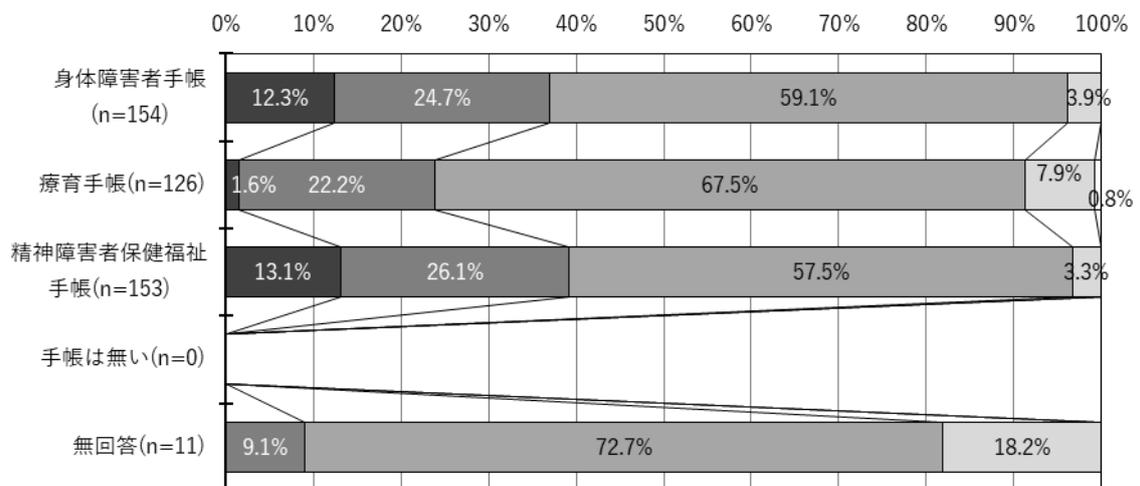
【クロス集計（年齢別）】



■「合理的配慮」という考え方を知っている ■用語だけは知っている ■知らない □無回答 □無効

※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】

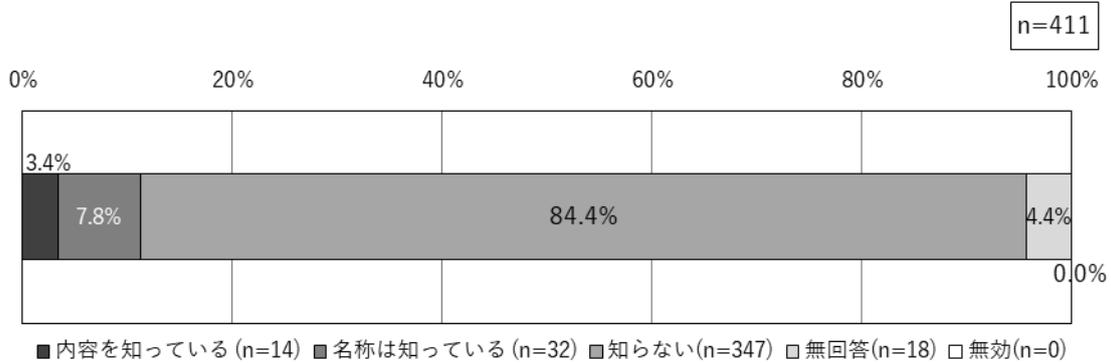


■「合理的配慮」という考え方を知っている ■用語だけは知っている ■知らない □無回答 □無効

※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 35 あなたは、「うえだ手話言語・情報コミュニケーション条例」(上田市手話言語の普及及び視聴覚障害者等の意思疎通手段等の利用促進に関する条例)を知っていますか。

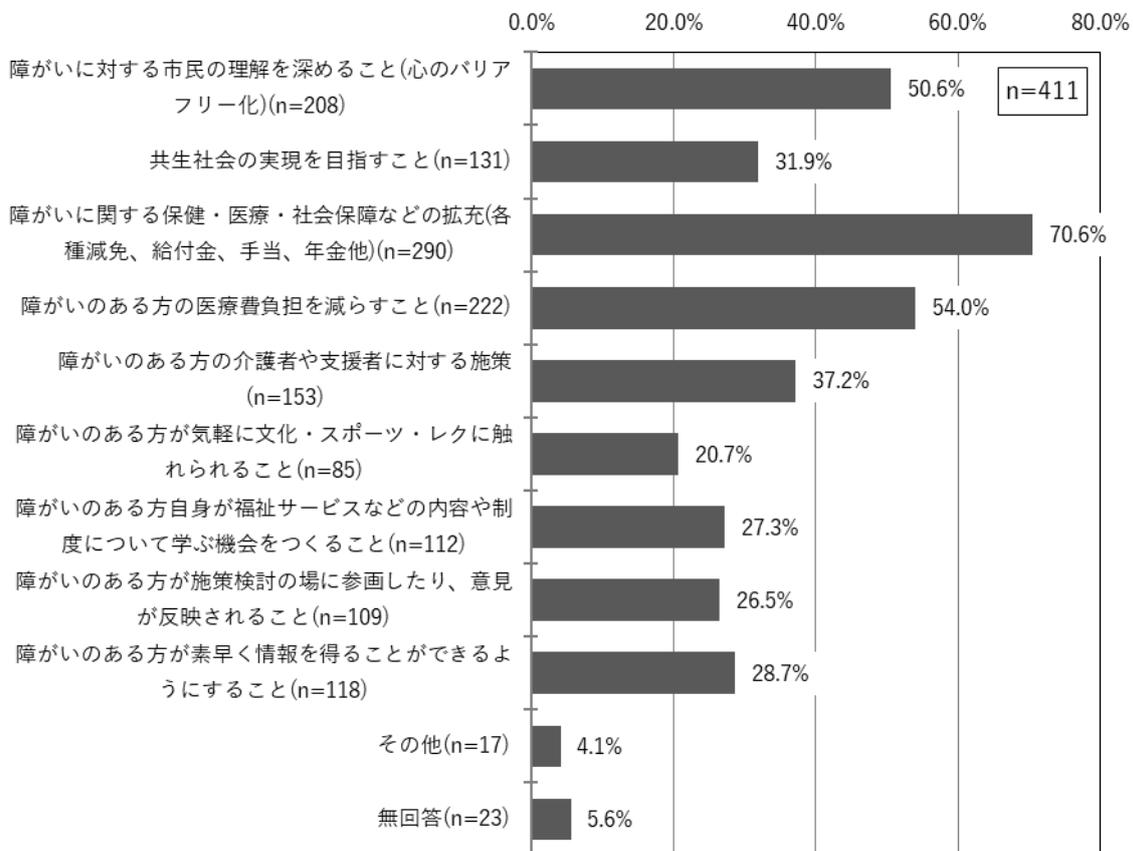
うえだ手話言語・情報コミュニケーション条例については、「知らない」が 84.4%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 7.8%、「内容を知っている」が 3.4%となっている。



問 36 あなたが特に重要だと思う「障がい福祉施策」はどれですか。

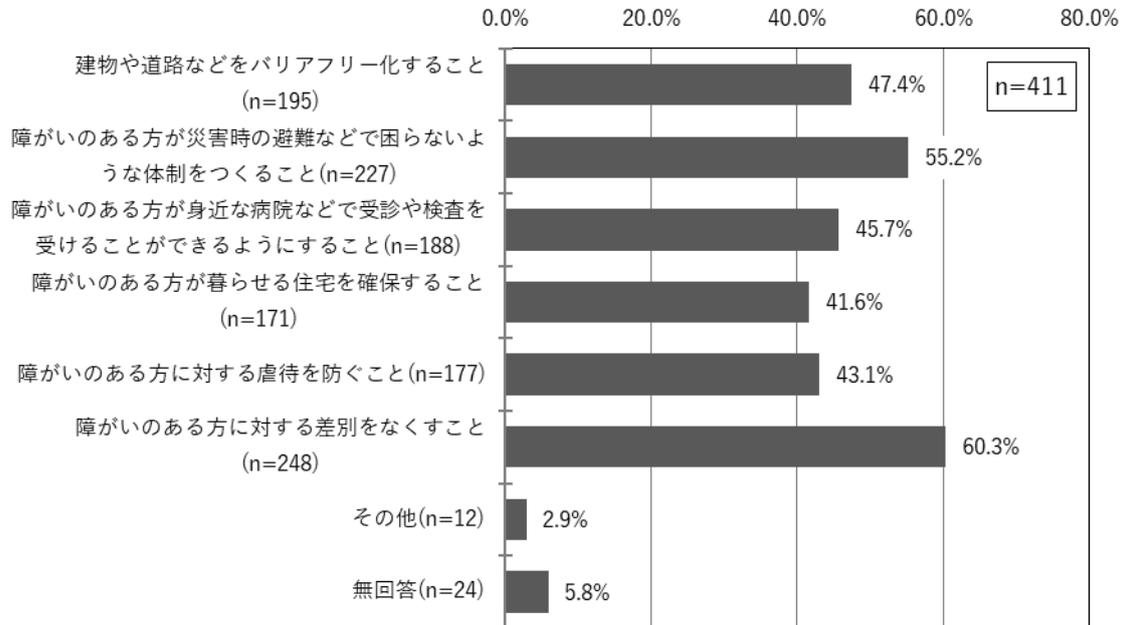
(1) 生活全般 (当てはまるものすべてに○)

「障がいに関する保健・医療・社会保障などの拡充(各種減免、給付金、手当、年金他)」が 70.6%と最も高く、次いで「障がいのある方の医療費負担を減らすこと」が 54.0%、「障がいに対する市民の理解を深めること(心のバリアフリー化)」が 50.6%となっている。



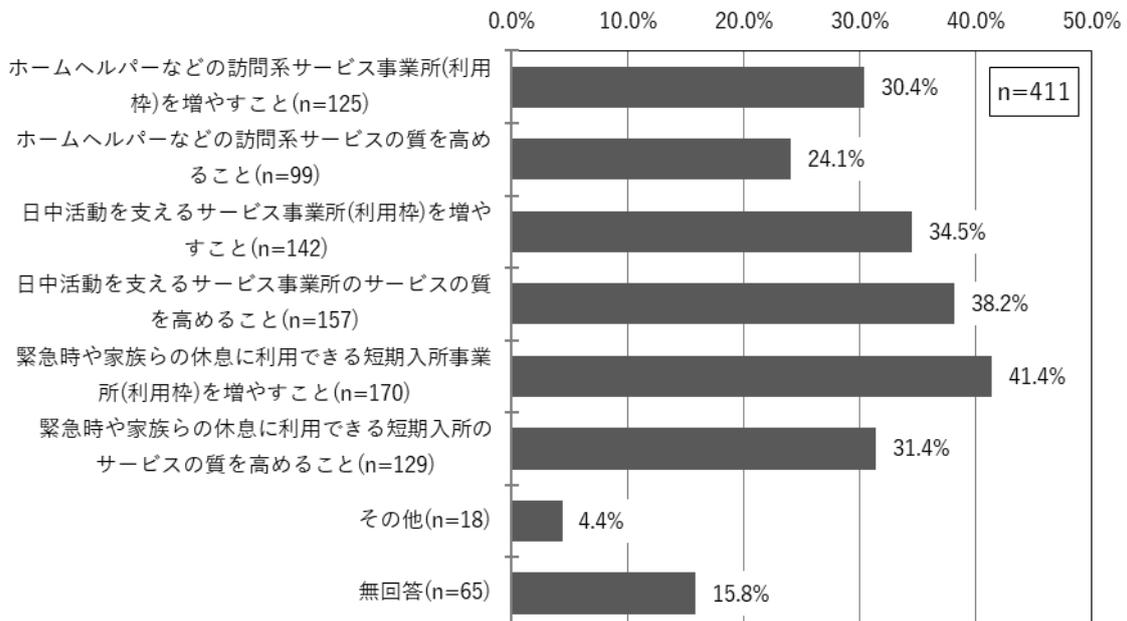
(2) 安心安全の確保 (当てはまるものすべてに○)

「障がいのある方に対する差別をなくすこと」が 60.3%と最も高く、次いで「障がいのある方が災害時の避難などで困らないような体制をつくること」が 55.2%、「建物や道路などをバリアフリー化すること」が 47.4%となっている。



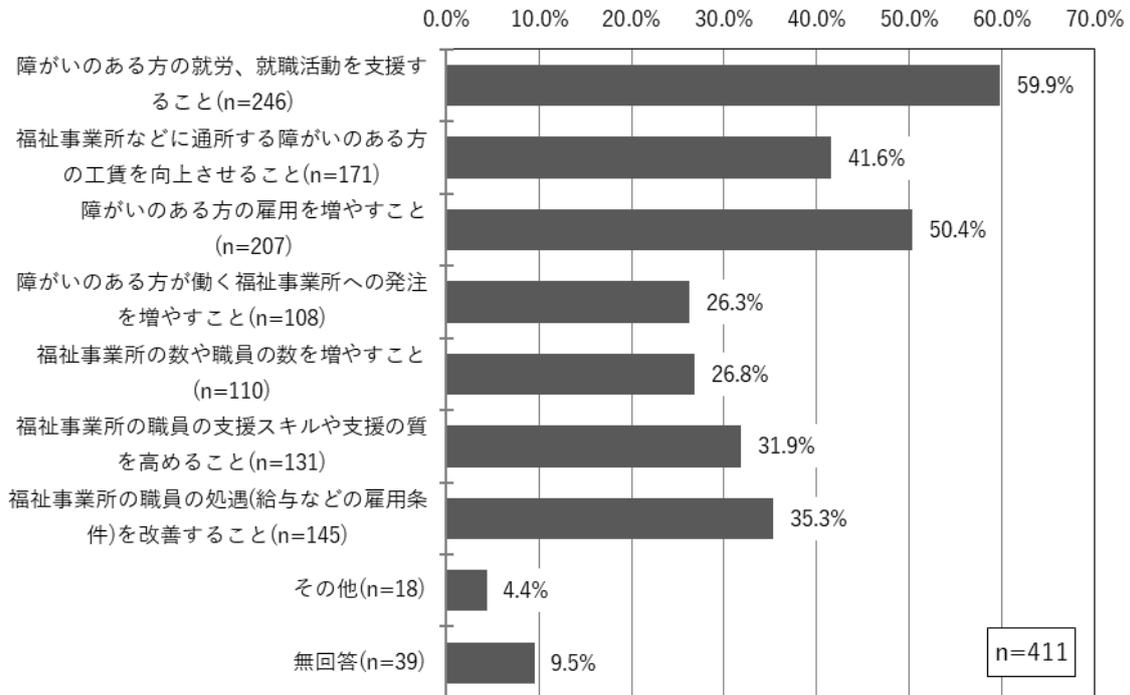
(3) 福祉サービスの充実 (当てはまるものすべてに○)

「緊急時や家族らの休息に利用できる短期入所事業所(利用枠)を増やすこと」が 41.4%と最も高く、次いで「日中活動を支えるサービス事業所のサービスの質を高めること」が 38.2%、「日中活動を支えるサービス事業所(利用枠)を増やすこと」が 34.5%となっている。



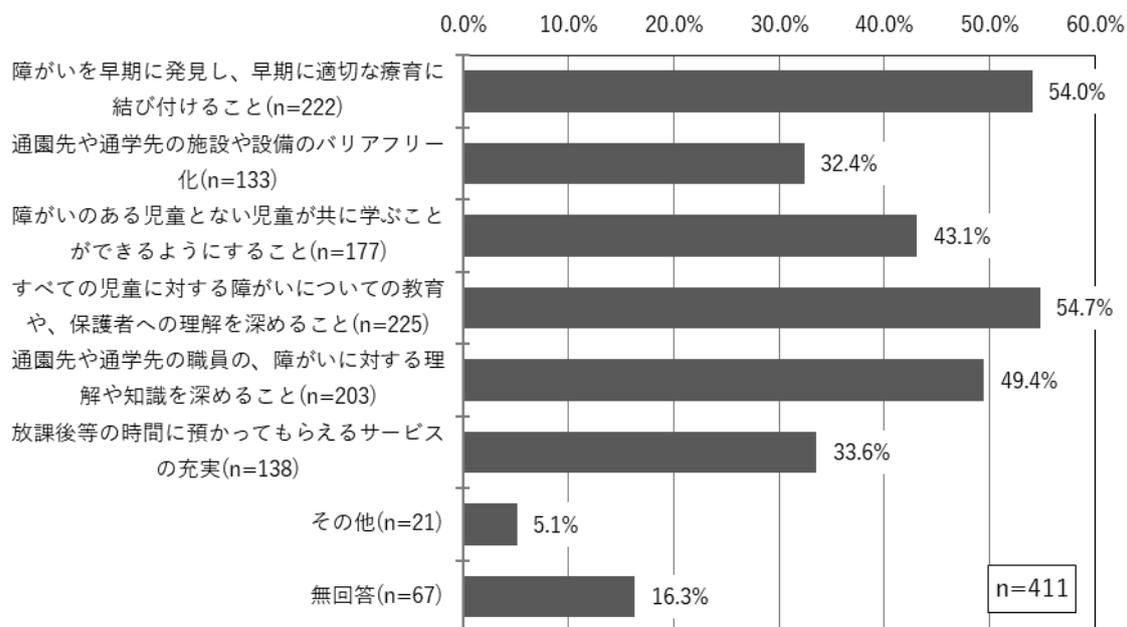
(4) 就労支援体制の充実（当てはまるものすべてに○）

「障がいのある方の就労、就職活動を支援すること」が 59.9%と最も高く、次いで「障がいのある方の雇用を増やすこと」が 50.4%、「福祉事業所などに通所する障がいのある方の工賃を向上させること」が 41.6%となっている。



(5) 児童福祉（当てはまるものすべてに○）

「すべての児童に対する障がいについての教育や、保護者への理解を深めること」が 54.7%と最も高く、次いで「障がいを早期に発見し、早期に適切な療育に結び付けること」が 54.0%、「通園先や通学先の職員の、障がいに対する理解や知識を深めること」が 49.4%となっている。

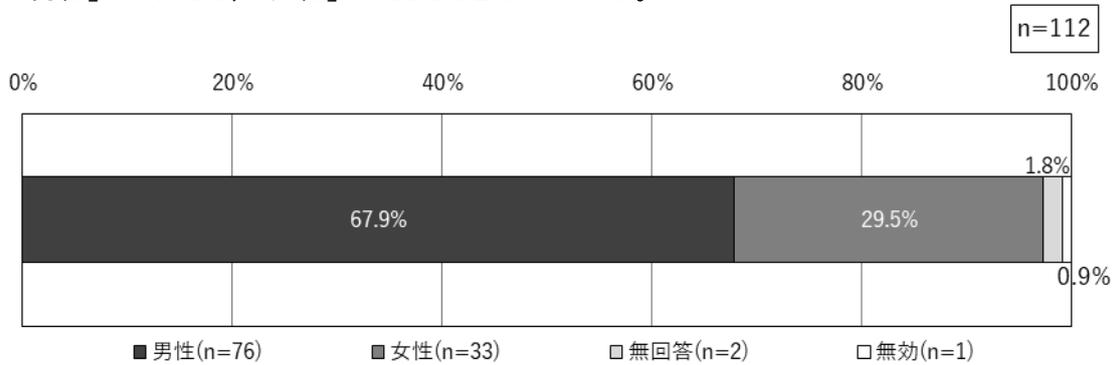


調査結果 II. 障がい児保護者

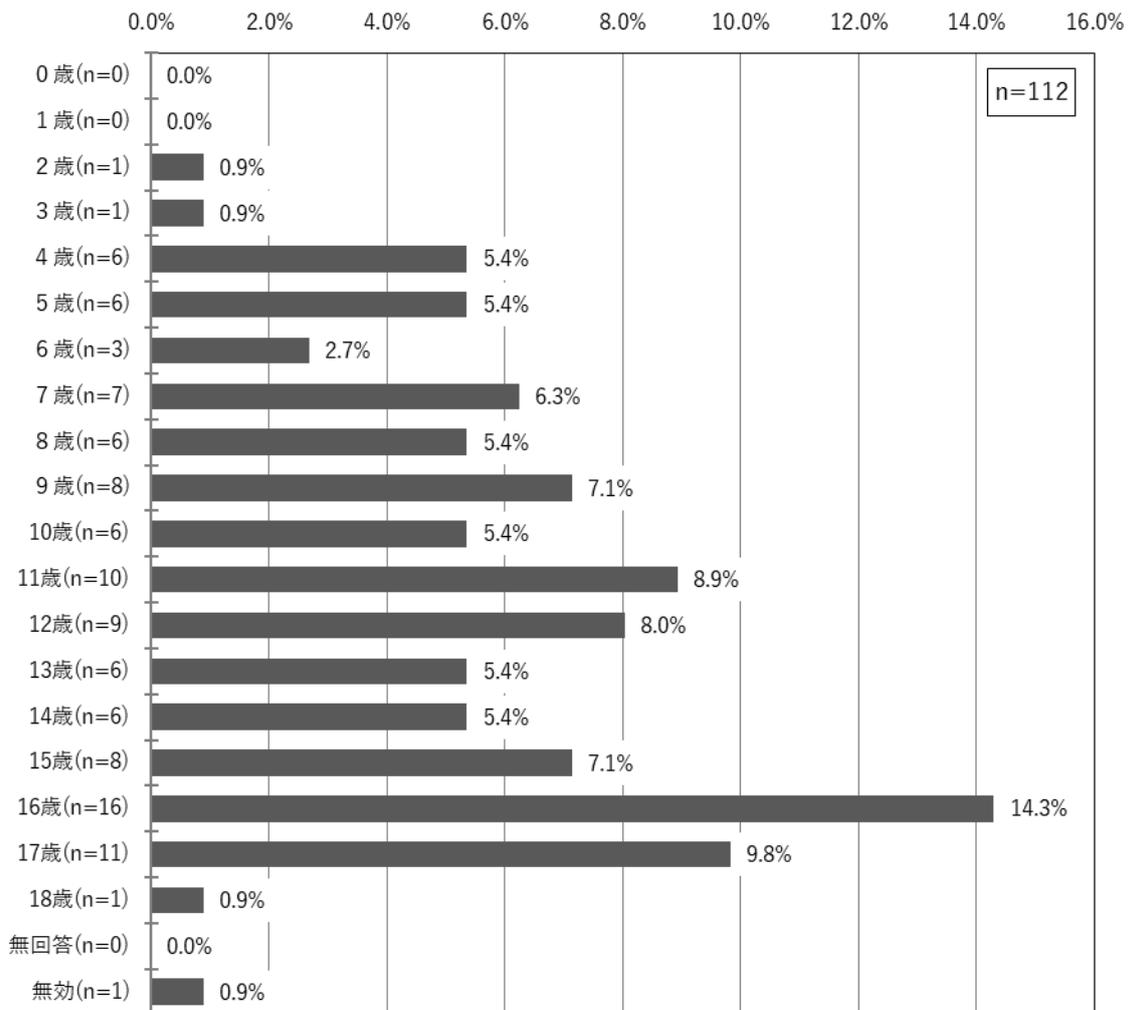
このアンケートでは、アンケートの宛名に名前がある ご本人を「お子さん」、アンケートに回答していただく 保護者さまを「あなた」と呼びます。

問1 お子さんの性別と年齢（2022年9月1日現在）をお答えください。

「男性」が67.9%、「女性」が29.5%となっている。

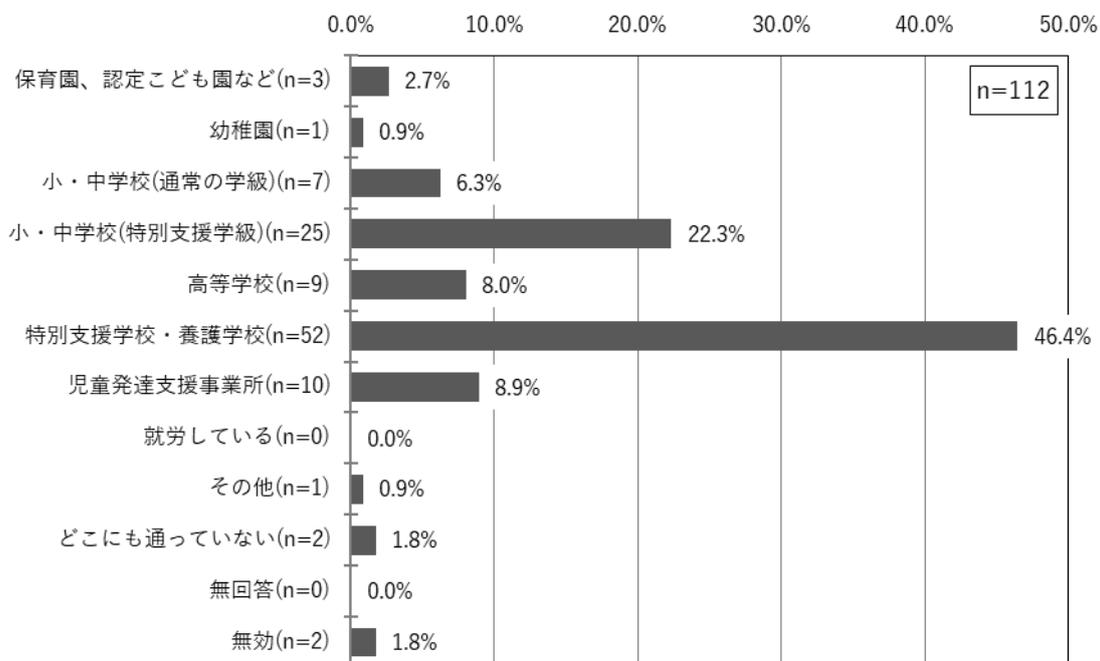


「16歳」が14.3%と最も高く、次いで「17歳」が9.8%、「11歳」が8.9%となっている。



問2 お子さんの平日昼間の所属先、通所先はどこですか。
 複数当てはまる場合は、過ごす時間の多い方を選択してください。

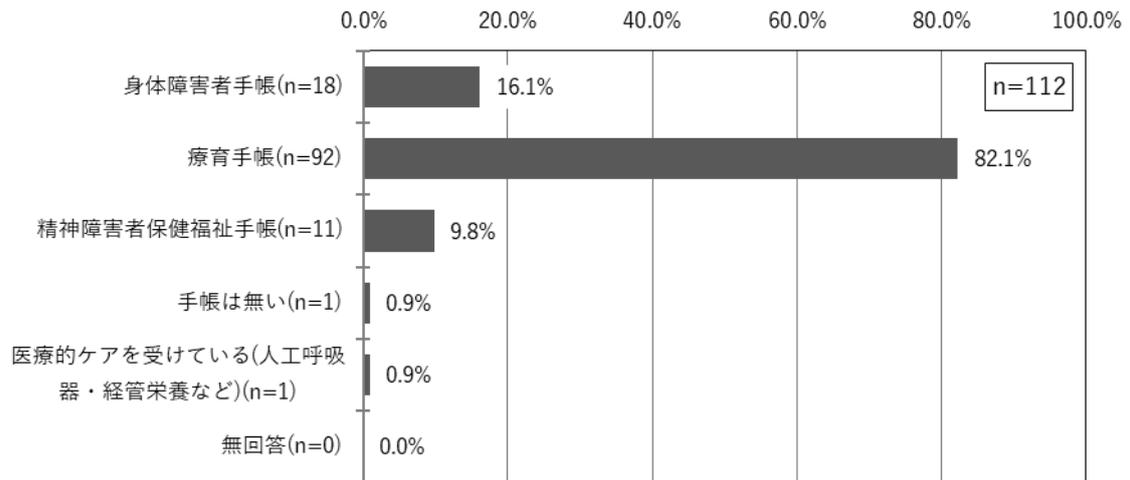
「特別支援学校・養護学校」が 46.4%と最も高く、次いで「小・中学校(特別支援学級)」が 22.3%、「児童発達支援事業所」が 8.9%となっている。



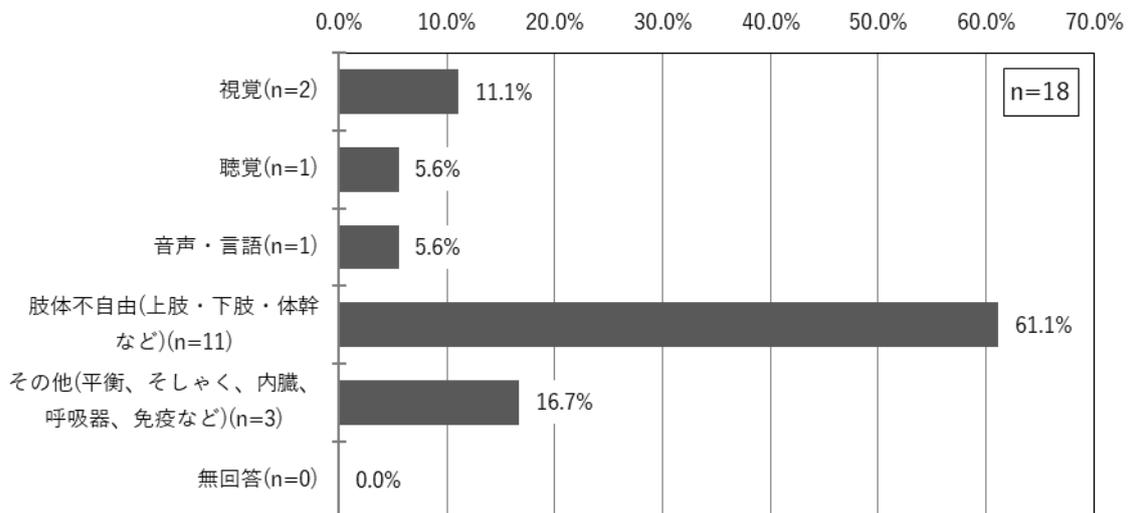
問3 お子さんをお持ちの手帳等について、当てはまるものすべてに○をしてください。

「療育手帳」が 82.1%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が 16.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が 9.8%となっている。

身体障害者手帳の種類で見ると、「肢体不自由(上肢・下肢・体幹など)」が 61.1%と最も高く、次いで「その他(平衡、そしゃく、内臓、呼吸器、免疫など)」が 16.7%、「視覚」が 11.1%となっている。



■身体障害者手帳の種類



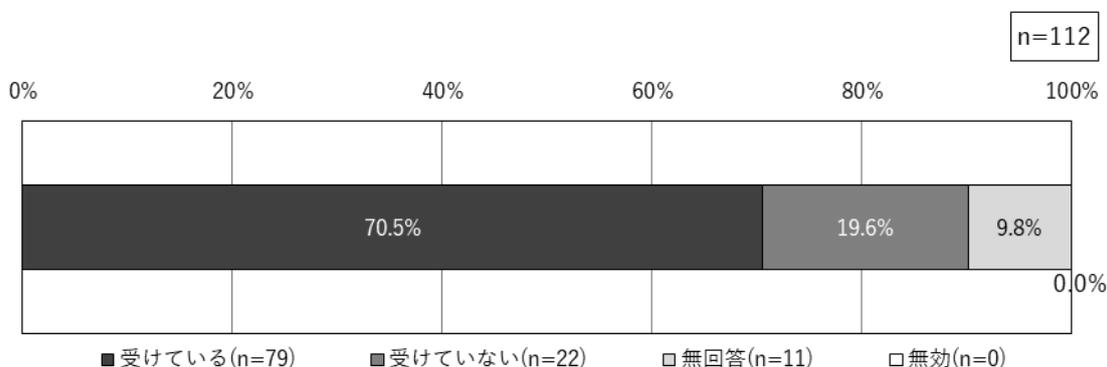
問4 お子さんは、家族や親族から介助（支援）を受けていますか。

全体では、「受けている」が70.5%、「受けていない」が19.6%となっている。

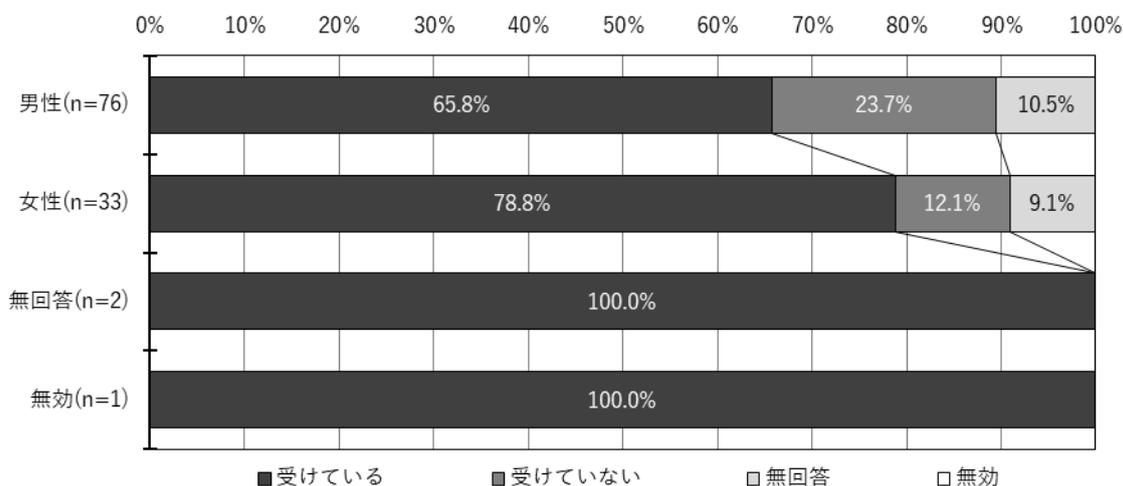
性別にみると、『男性』では「受けている」が65.8%、「受けていない」が23.7%、『女性』では「受けている」が78.8%、「受けていない」が12.1%となっている。

年齢別にみると、「受けている」は『2・3・4・5・13歳』が100.0%と最も高く、次いで『12歳』が88.9%、『8・10歳』が83.3%となっており、「受けていない」は『18歳』が100.0%と最も高く、次いで『11・14歳』が50.0%、『7歳』が28.6%となっている。

手帳別にみると、「受けている」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』が100.0%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が88.9%、『療育手帳』が68.5%となっており、「受けていない」は『精神障害者保健福祉手帳』が36.4%と最も高く、次いで『療育手帳』が19.6%、『身体障害者手帳』が5.6%となっている。

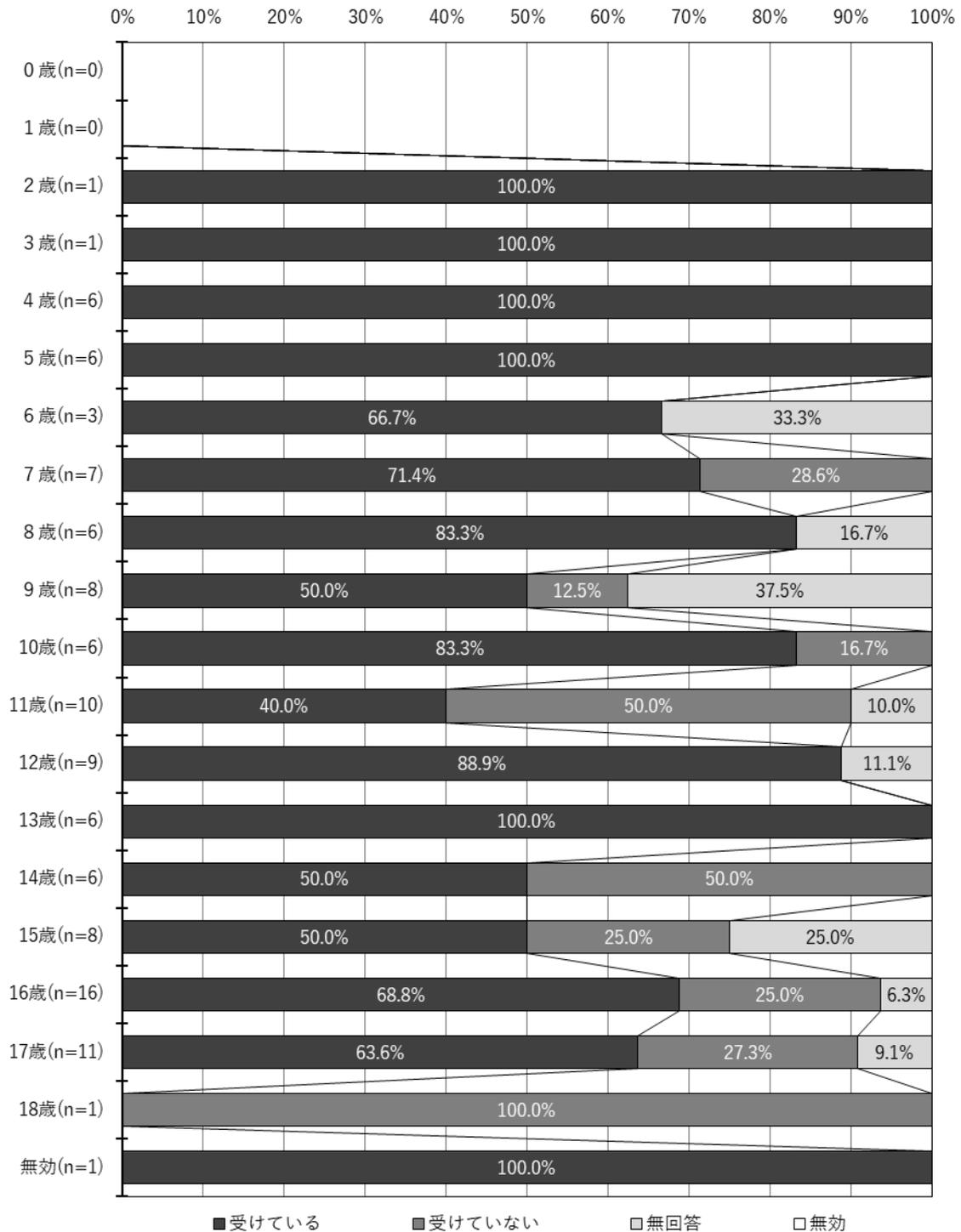


【クロス集計（性別）】



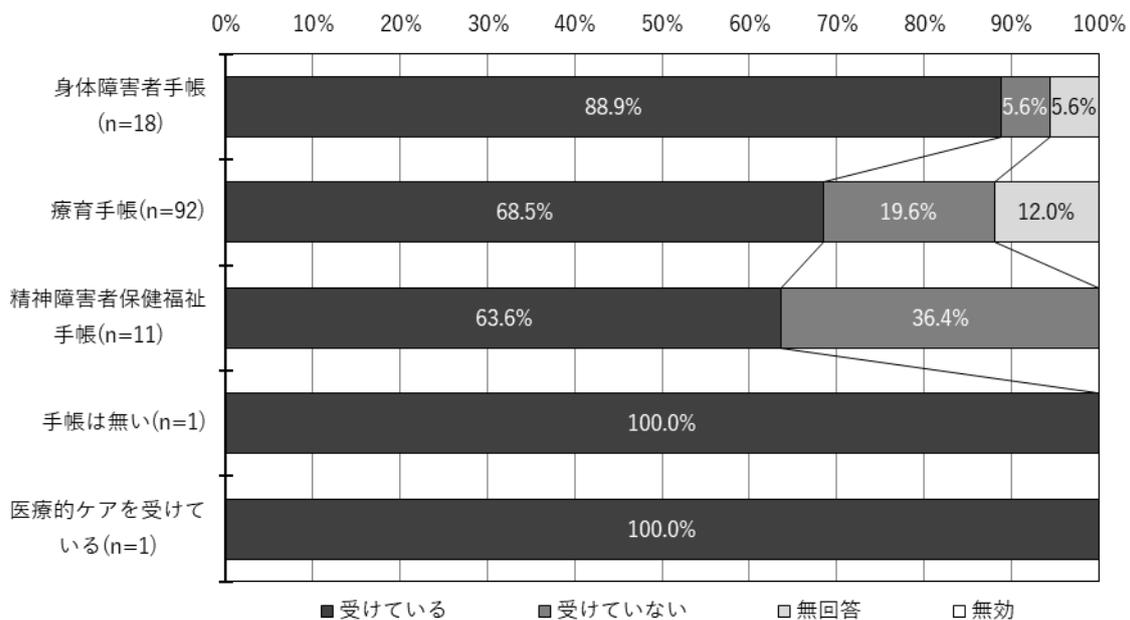
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



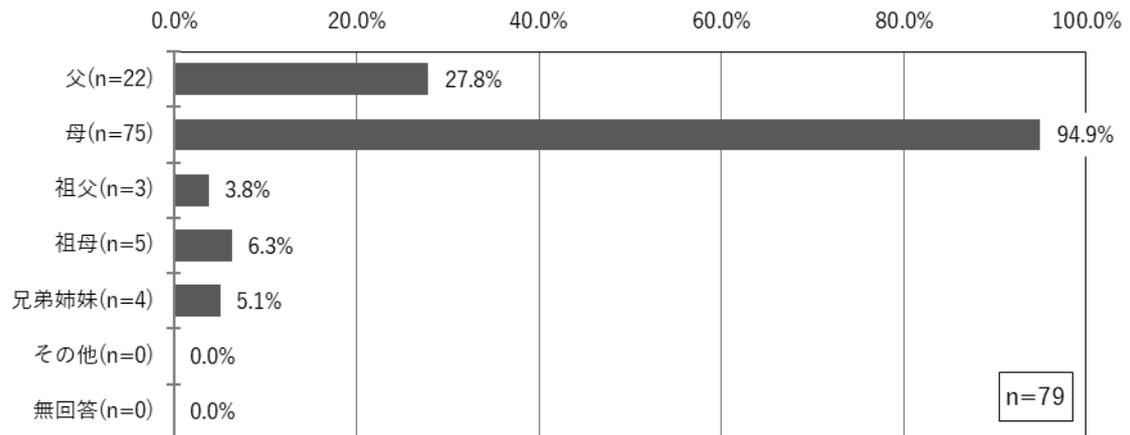
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問5 問4で「①受けている」と答えた方に伺います。

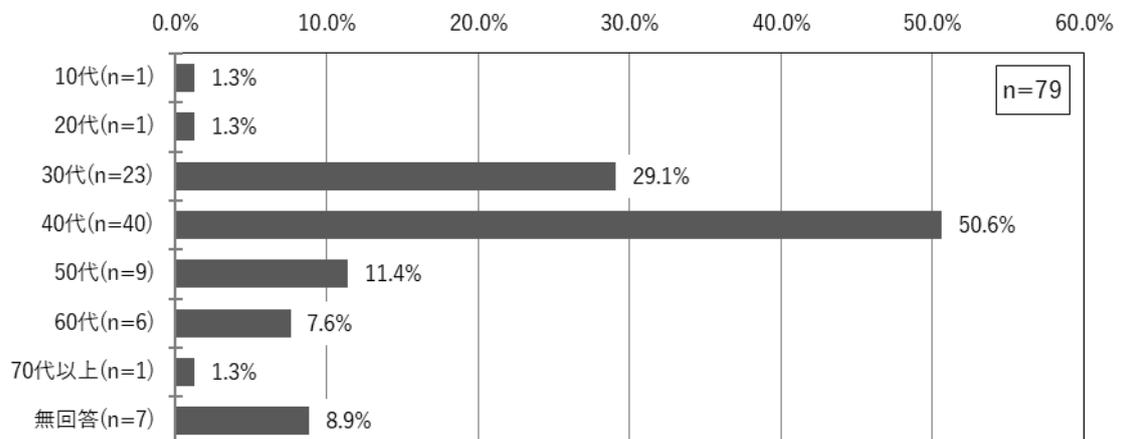
主な介助者（支援者）はどなたですか。また、その方は何歳ですか。

「母」が94.9%と最も高く、次いで「父」が27.8%、「祖母」が6.3%となっている。また、介助者の年齢については、「40代」が50.6%と最も高く、次いで「30代」が29.1%、「50代」が11.4%となっている。

■介助者別内訳

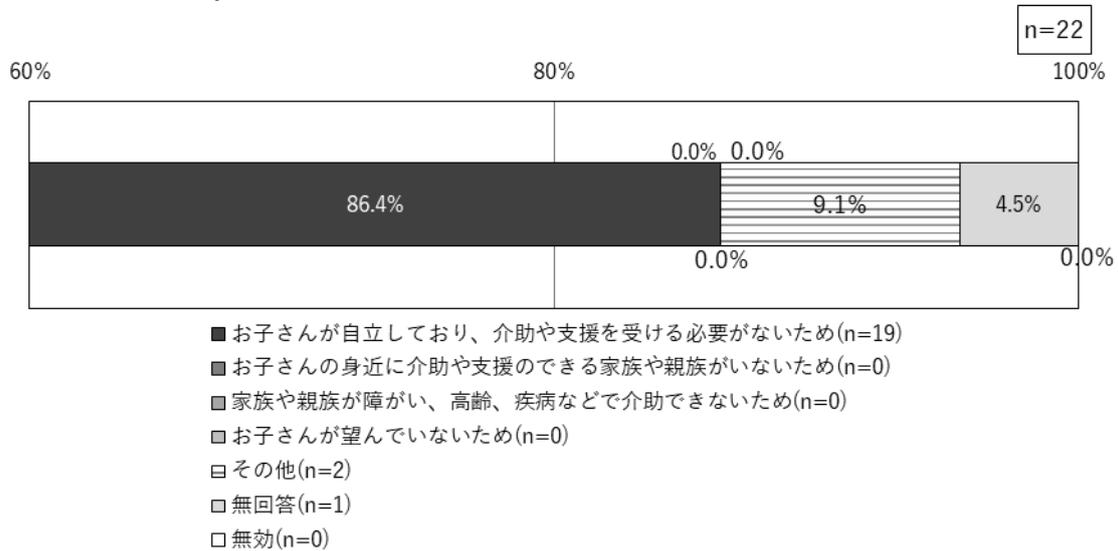


■介助者の年齢別内訳



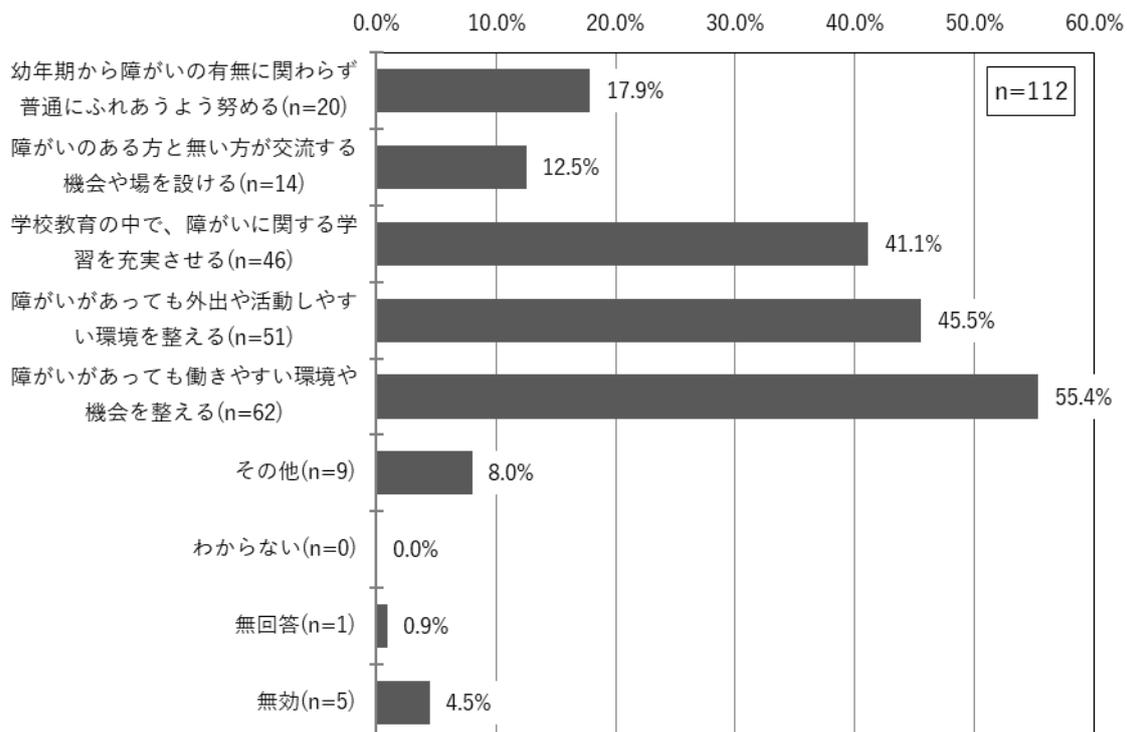
問6 問4で「②受けていない」と答えた方に伺います。
その理由について、当てはまるもの1つに○をしてください。

「お子さんが自立しており、介助や支援を受ける必要がないため」が86.4%、「その他」が9.1%となっている。



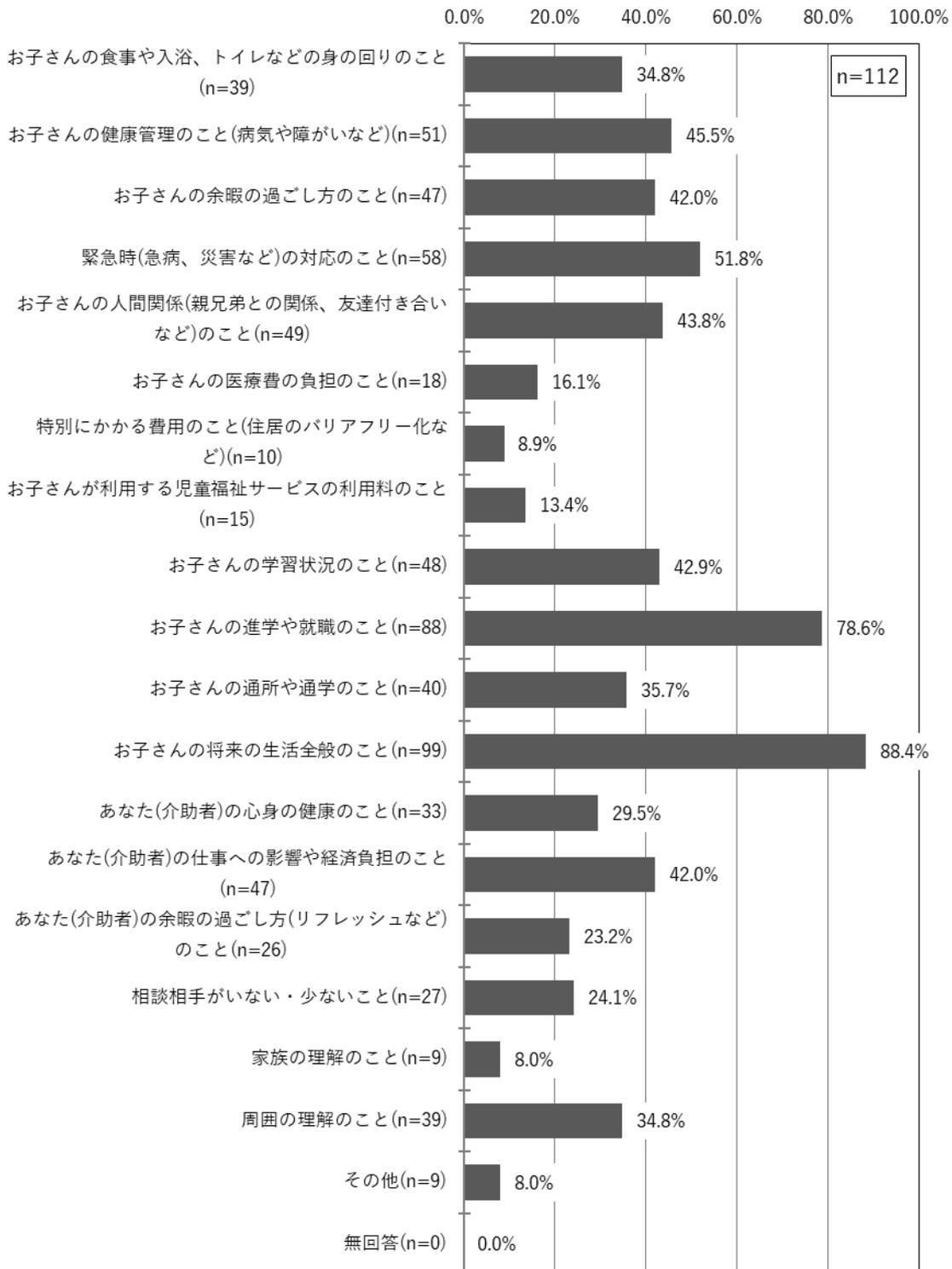
問7 障がいのある人にとって住みやすいまちをつくるためには、どのような取組に特に力を入れる必要があると思いますか。(○は2つまで)

「障がいがあっても働きやすい環境や機会を整える」が55.4%と最も高く、次いで「障がいがあっても外出や活動しやすい環境を整える」が45.5%、「学校教育の中で、障がいに関する学習を充実させる」が41.1%となっている。



問8 あなたやお子さんは、日常生活のなかで、どのような悩みや不安がありますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「お子さんの将来の生活全般のこと」が 88.4%と最も高く、次いで「お子さんの進学や就職のこと」が 78.6%、「緊急時(急病、災害など)の対応のこと」が 51.8%となっている。



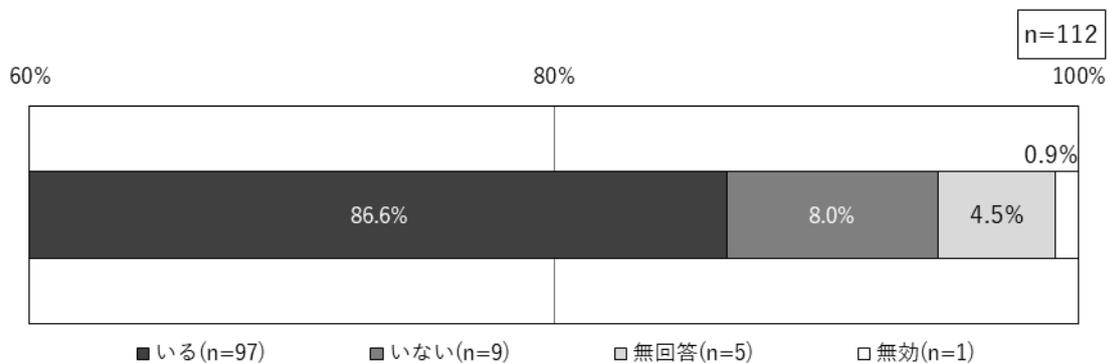
問9 あなたは、問8で回答したような悩みや不安なことについて相談する相手がありますか。

全体では、「いる」が86.6%、「いない」が8.0%となっている。

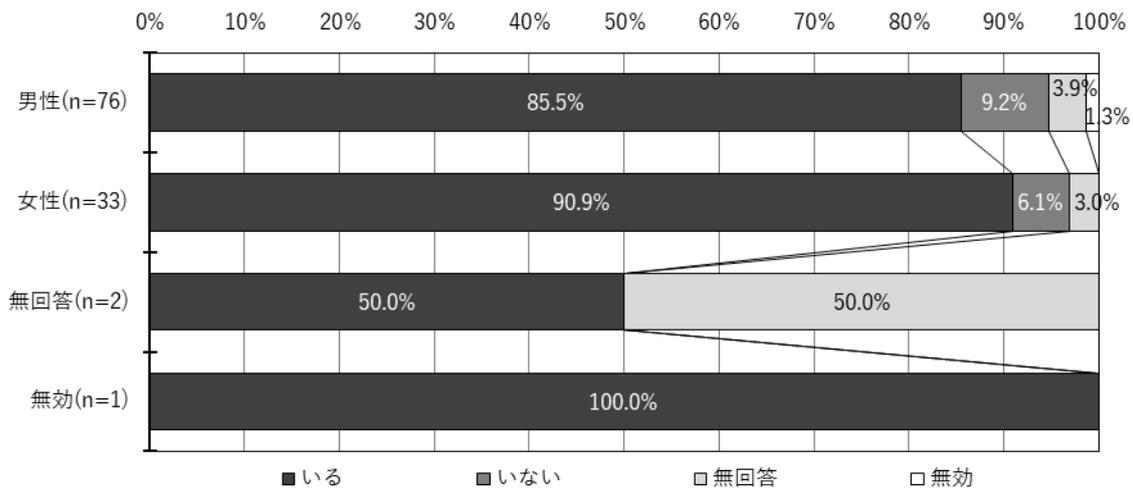
性別にみると、『男性』では「いる」が85.5%、「いない」が9.2%、『女性』では「いる」が90.9%、「いない」が6.1%となっている。

年齢別にみると、「いる」は『3・5・6・11・12・14・18歳』が100.0%と最も高く、次いで『17歳』が90.9%、『9・16歳』が87.5%となっており、「いない」は『10歳』が33.3%と最も高く、次いで『8・13歳』が16.7%、『7歳』が14.3%となっている。

手帳別にみると、「いる」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』が100.0%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が94.4%、『精神障害者保健福祉手帳』が90.9%となっており、「いない」は『精神障害者保健福祉手帳』が9.1%と最も高く、次いで『療育手帳』が8.7%、『身体障害者手帳』が5.6%となっている。

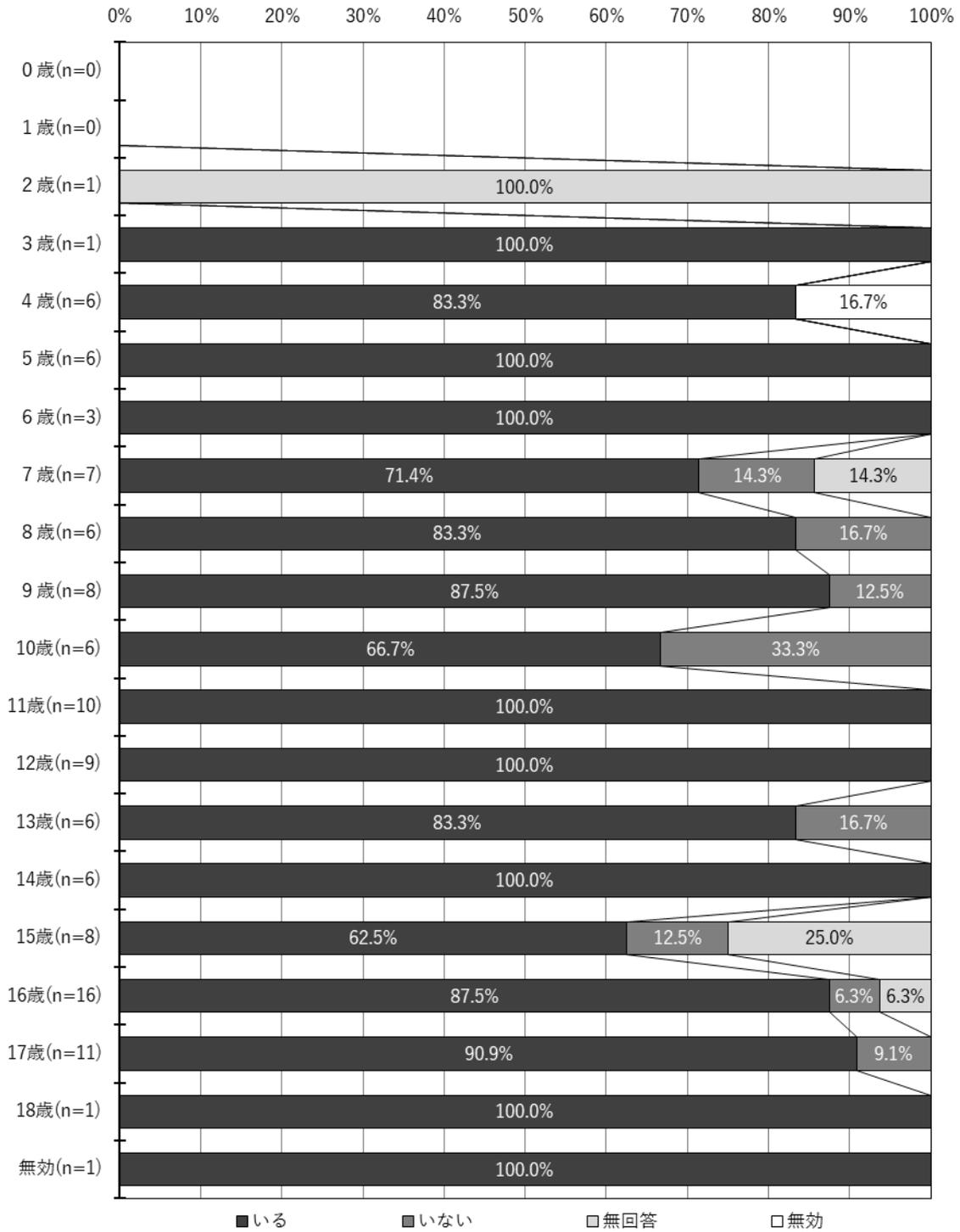


【クロス集計 (性別)】



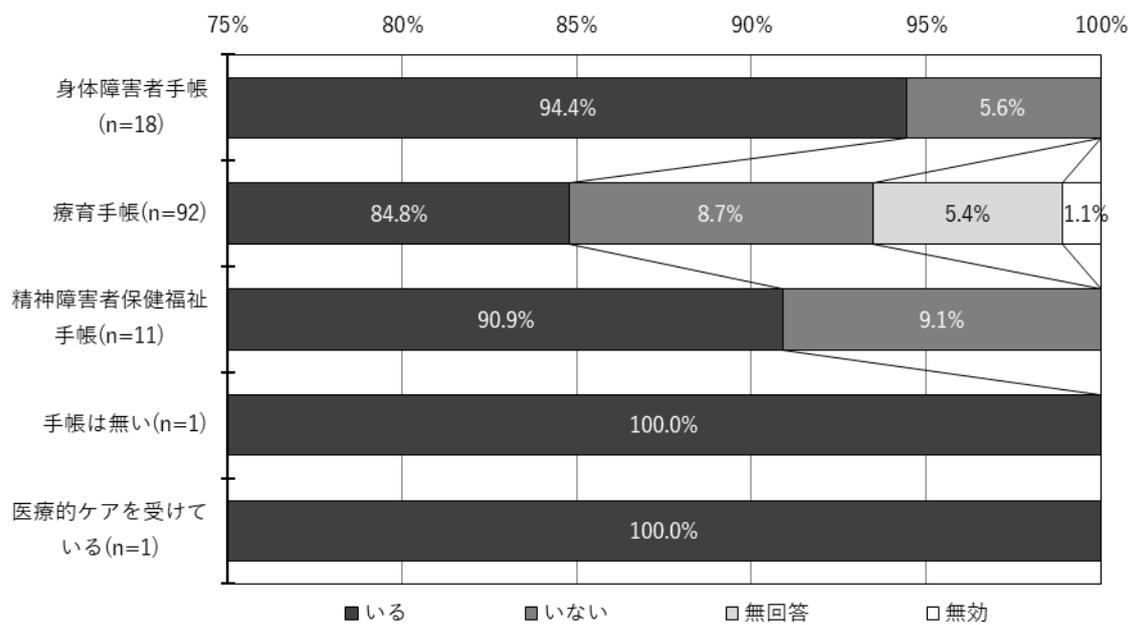
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

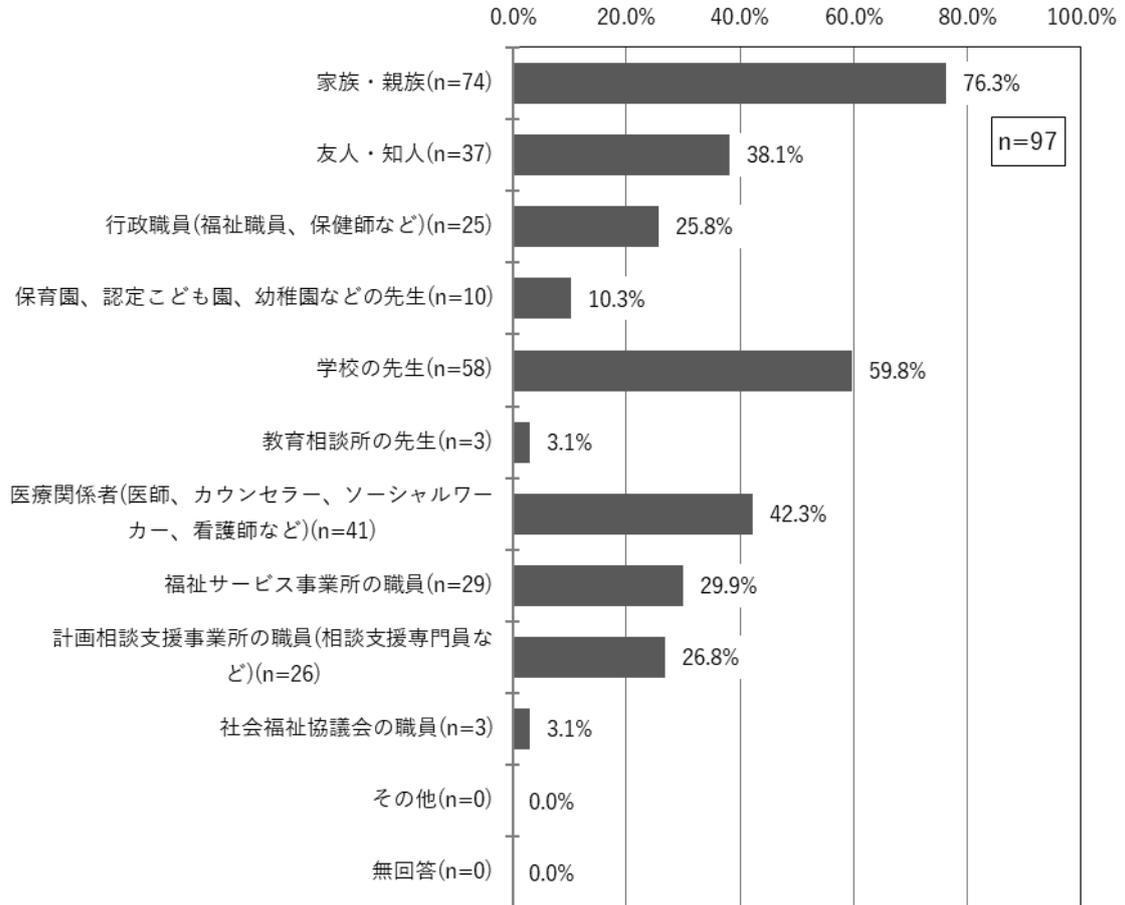
【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

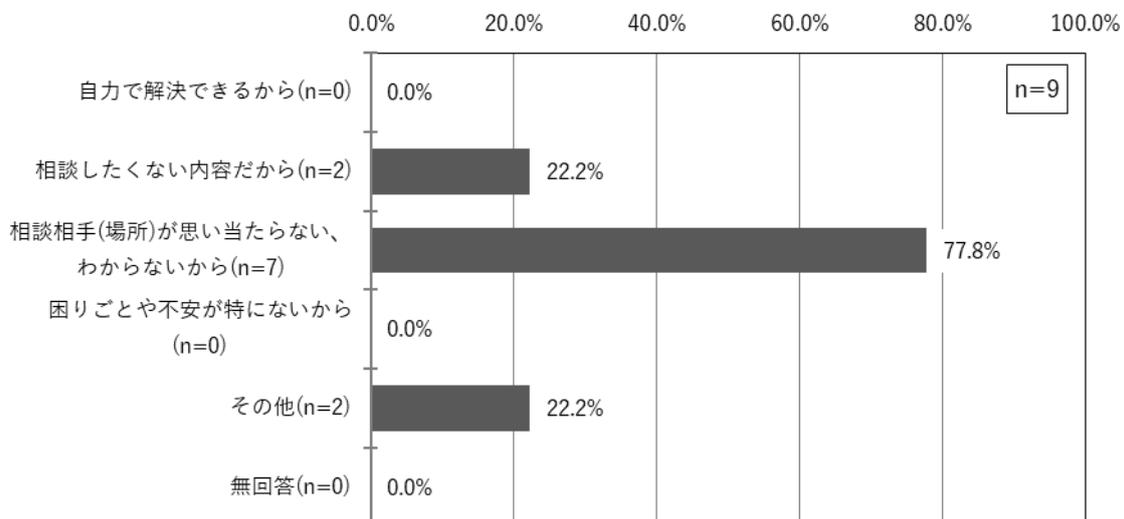
問10 問9で「①いる」と答えた方に伺います。
 相談相手はどなたですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「家族・親族」が76.3%と最も高く、次いで「学校の先生」が59.8%、「医療関係者(医師、カウンセラー、ソーシャルワーカー、看護師など)」が42.3%となっている。



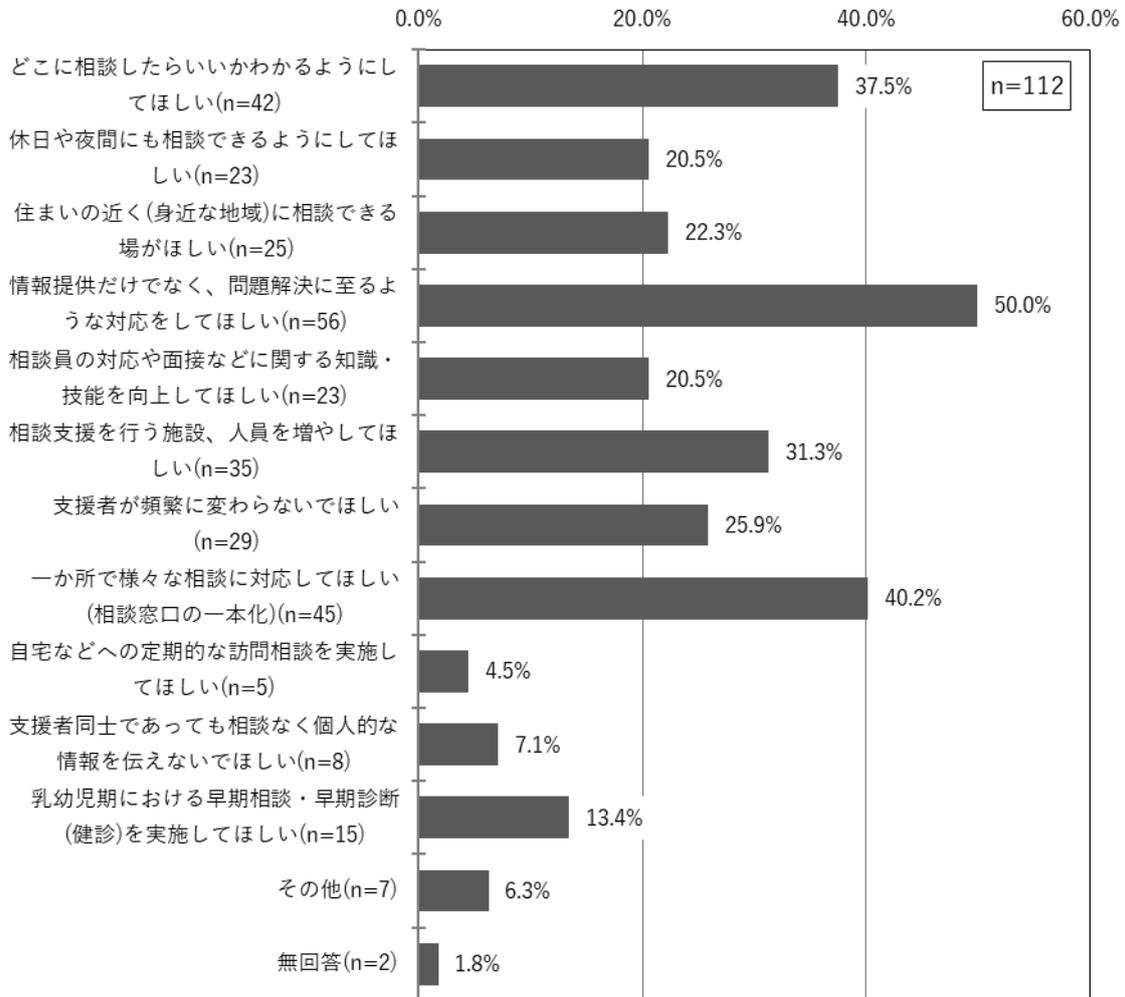
問 11 問 9 で「②いない」と答えた方に伺います。
 相談相手がない理由は、どのような理由が挙げられますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「相談相手(場所)が思い当たらない、わからないから」が 77.8%、「相談したくない内容だから」及び「その他」が 22.2%となっている。



問 12 あなたは、お子さんの生活に関する相談（相談支援体制）について、今後、どのようなことを望みますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「情報提供だけでなく、問題解決に至るような対応をしてほしい」が 50.0%と最も高く、次いで「一か所で様々な相談に対応してほしい(相談窓口の一本化)」が 40.2%、「どこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」が 37.5%となっている。



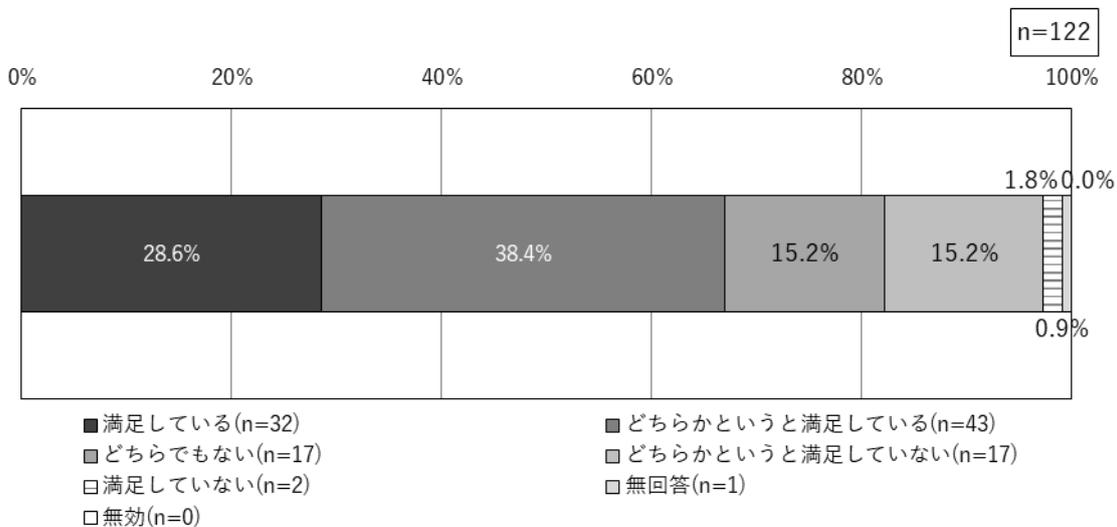
問 13 現在、お子さんが通園・通学している方に伺います。
 あなたは、学校等の教育や支援、配慮などについて、満足していますか。当てはまるものに○をしてください。

全体では、「どちらかという満足している」が 38.4%と最も高く、次いで「満足している」が 28.6%、「どちらかという満足していない」及び「満足していない」が 15.2%となっている。

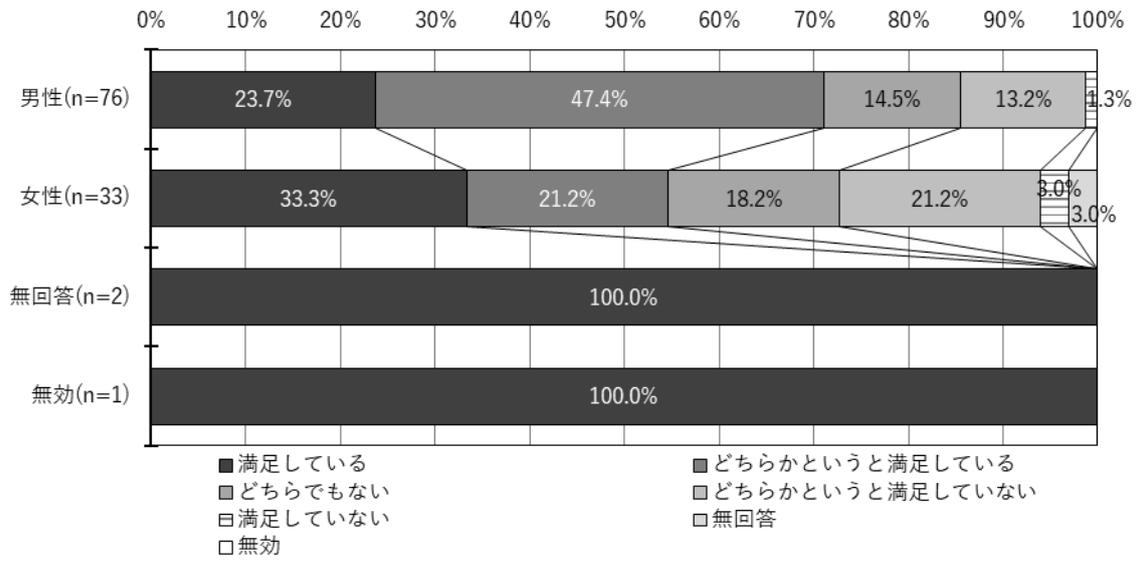
性別にみると、『男性』では「どちらかという満足している」が 47.4%と最も高く、「満足していない」が 1.3%と最も低い。『女性』では「満足している」が 33.3%と最も高く、「満足していない」が 3.0%と最も低くなっている。

年齢別にみると、「満足している」は『2歳』の 100.0%、「どちらかという満足している」は『3歳』の 100.0%、「どちらでもない」は『18歳』の 100.0%、「どちらかという満足していない」は『13歳』の 66.7%、「満足していない」は『7歳』の 14.3%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「満足している」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』の 100.0%、「どちらかという満足している」は『療育手帳』の 42.4%、「どちらでもない」は『精神障害者保健福祉手帳』の 27.3%、「どちらかという満足していない」は『身体障害者手帳』の 27.8%、「満足していない」は『精神障害者保健福祉手帳』の 9.1%が最も高くなっている。

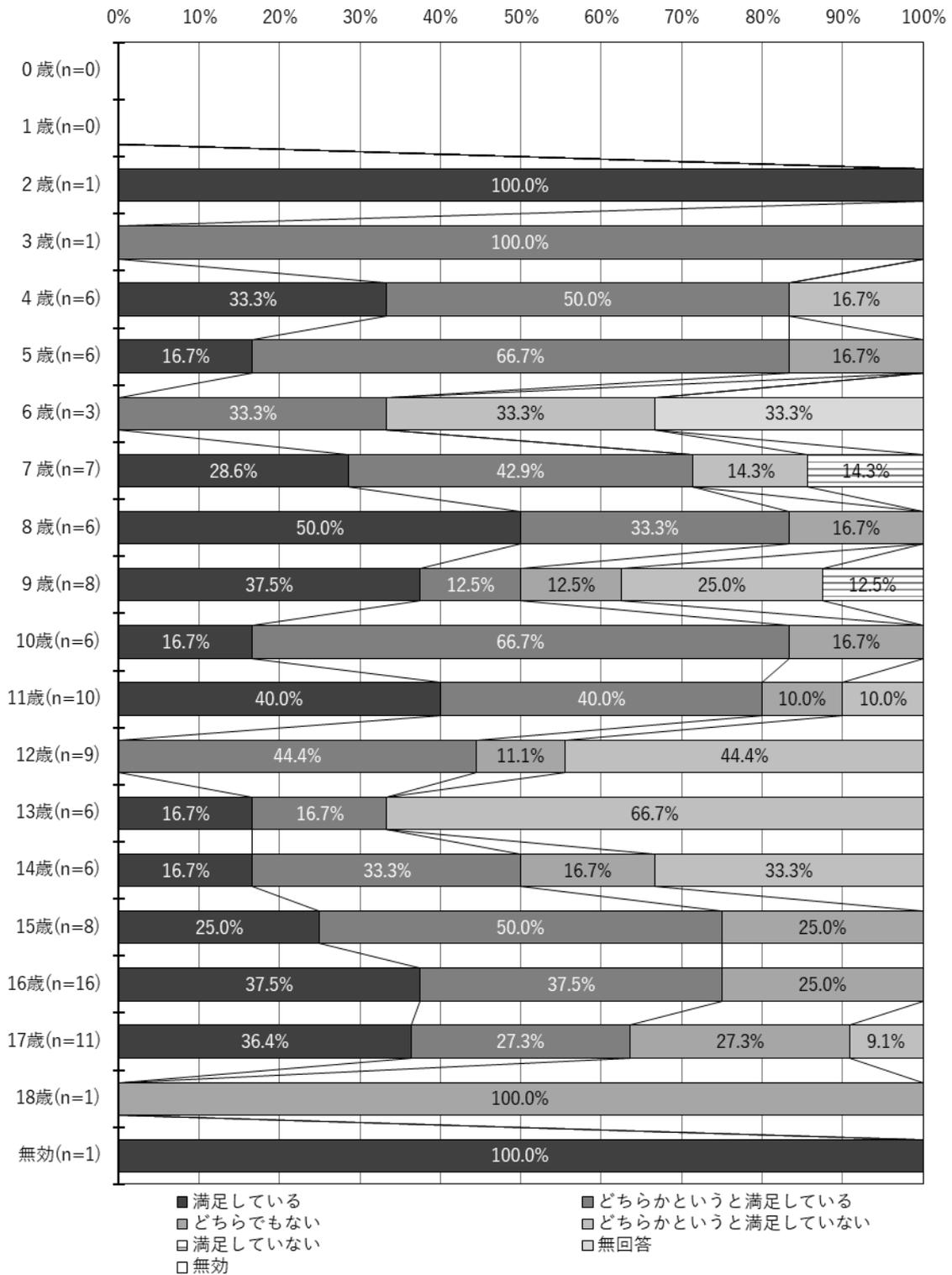


【クロス集計（性別）】



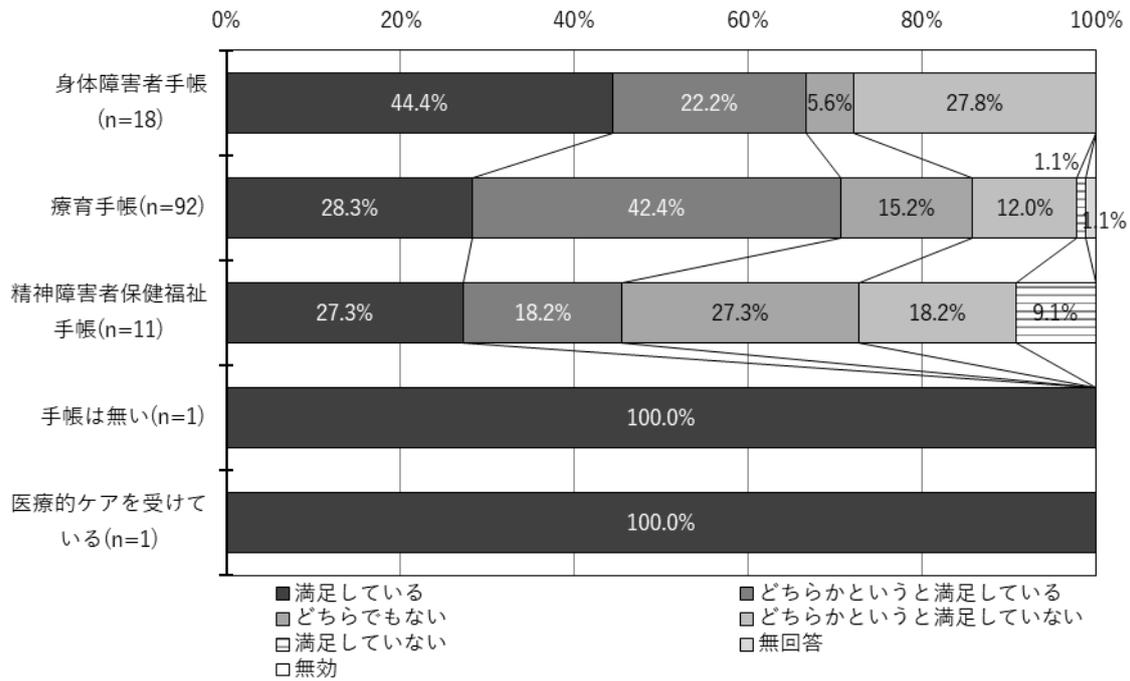
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

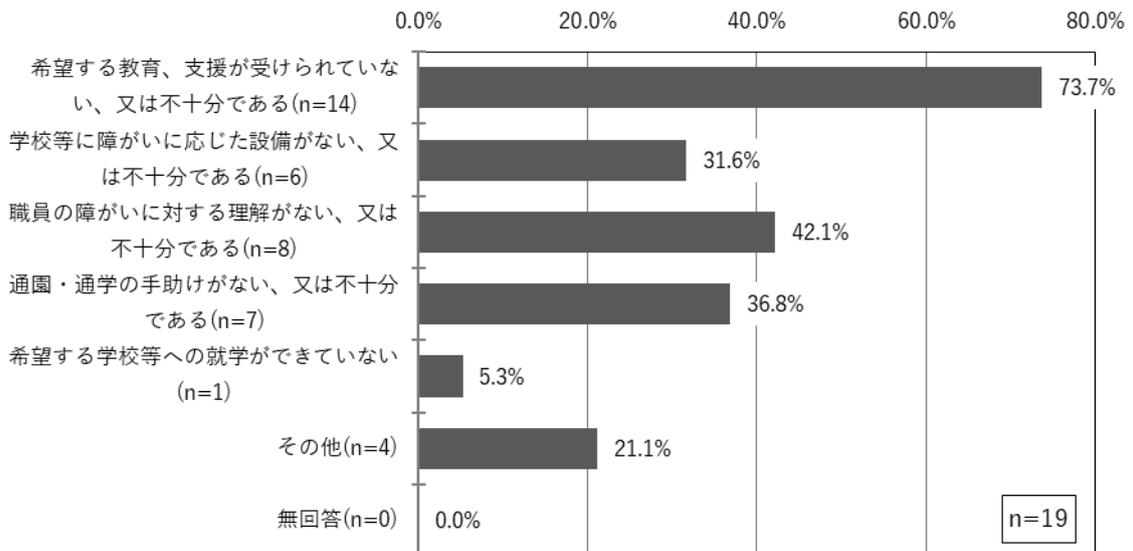
【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 14 問 13 で「④どちらかという満足していない」・「⑤満足していない」と答えた方に伺います。
 どのようなことに満足していませんか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「希望する教育、支援が受けられていない、又は不十分である」が 73.7%と最も高く、次いで「職員の障がいに対する理解がない、又は不十分である」が 42.1%、「通園・通学の手助けがない、又は不十分である」が 36.8%となっている。



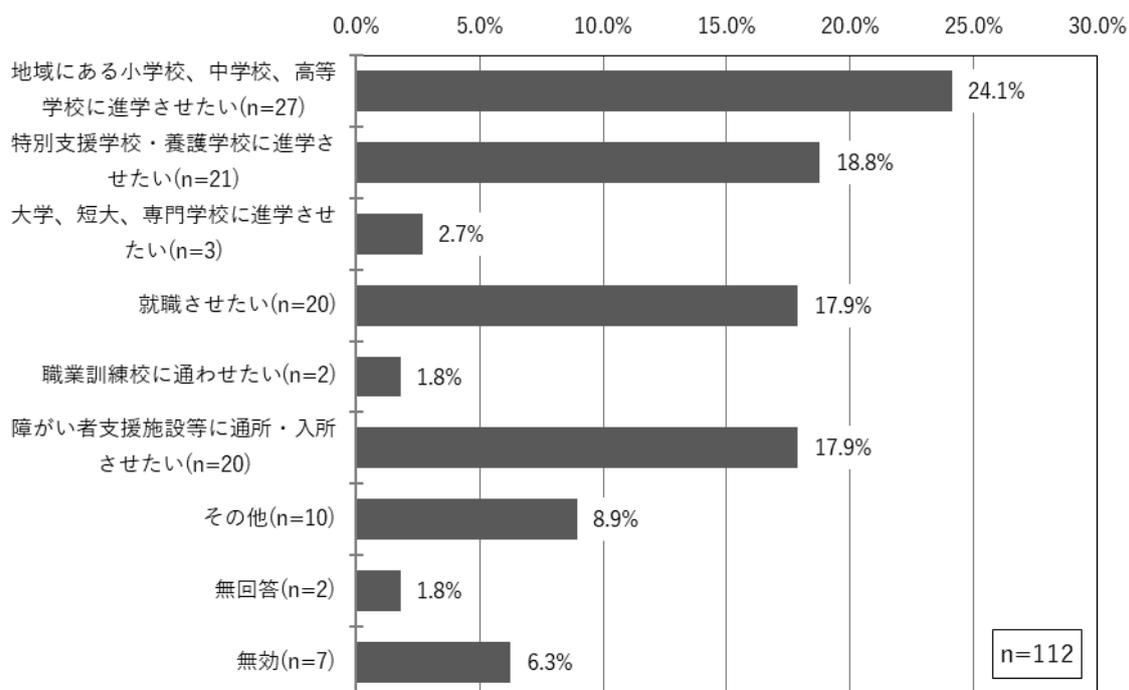
問 15 あなたは、卒園・卒業後のお子さんの進路についてどう考えていますか。当てはまるもの1つに○をしてください。

全体では、「地域にある小学校、中学校、高等学校に進学させたい」が 24.1%と最も高く、次いで「特別支援学校・養護学校に進学させたい」が 18.8%、「就職させたい」及び「障がい者支援施設等に通所・入所させたい」が 17.9%となっている。

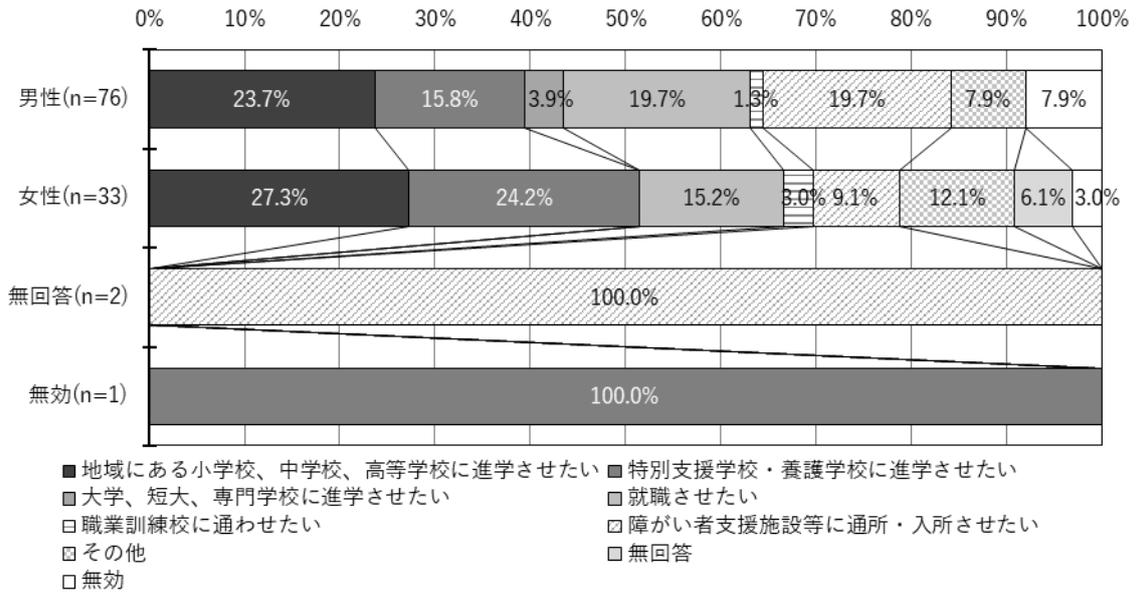
性別にみると、『男性』では「地域にある小学校、中学校、高等学校に進学させたい」が 23.7%と最も高く、「職業訓練校に通わせたい」が 1.3%と最も低い。『女性』では「地域にある小学校、中学校、高等学校に進学させたい」が 27.3%と最も高く、「大学、短大、専門学校に進学させたい」が 0.0%と最も低くなっている。

年齢別にみると、「地域にある小学校、中学校、高等学校に進学させたい」は『7 歳』の 71.4%、「特別支援学校・養護学校に進学させたい」は『4・9・13 歳』の 50.0%、「大学、短大、専門学校に進学させたい」は『18 歳』の 100.0%、「就職させたい」は『17 歳』の 54.5%、「職業訓練校に通わせたい」は『17 歳』の 9.1%、「障がい者支援施設等に通所・入所させたい」は『12・14 歳』の 33.3%、「その他」は『2・3 歳』の 100.0%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「地域にある小学校、中学校、高等学校に進学させたい」は『精神障害者保健福祉手帳』の 36.4%、「特別支援学校・養護学校に進学させたい」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』の 100.0%、「大学、短大、専門学校に進学させたい」は『身体障害者手帳』の 5.6%、「就職させたい」は『精神障害者保健福祉手帳』の 36.4%、「職業訓練校に通わせたい」は『精神障害者保健福祉手帳』の 9.1%、「障がい者支援施設等に通所・入所させたい」は『療育手帳』の 21.7%、「その他」は『精神障害者保健福祉手帳』の 18.2%が最も高くなっている。

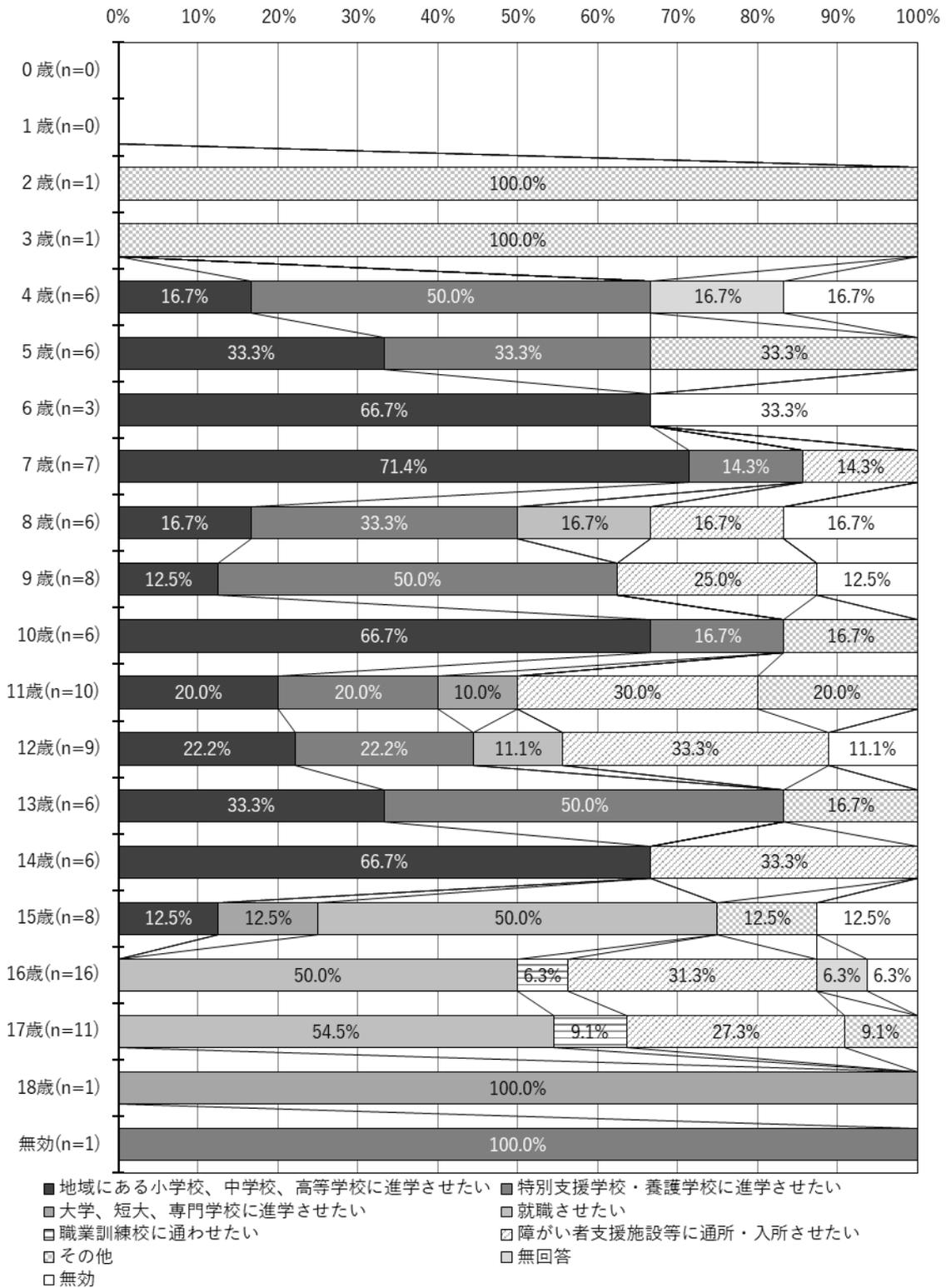


【クロス集計（性別）】



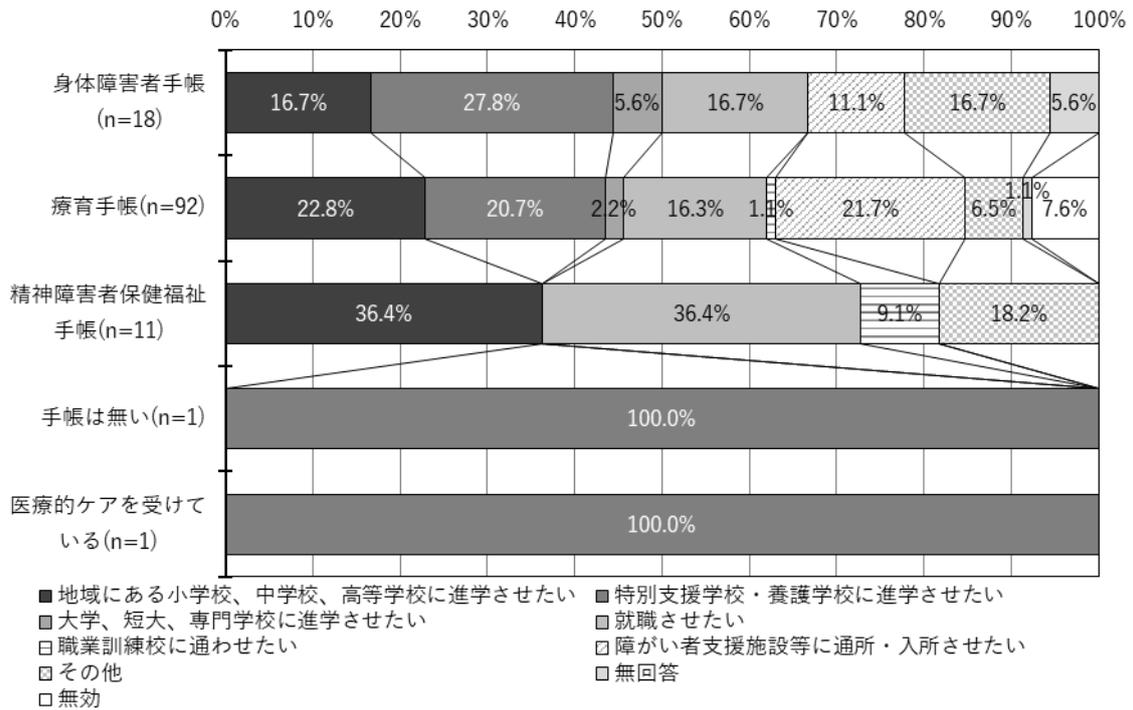
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

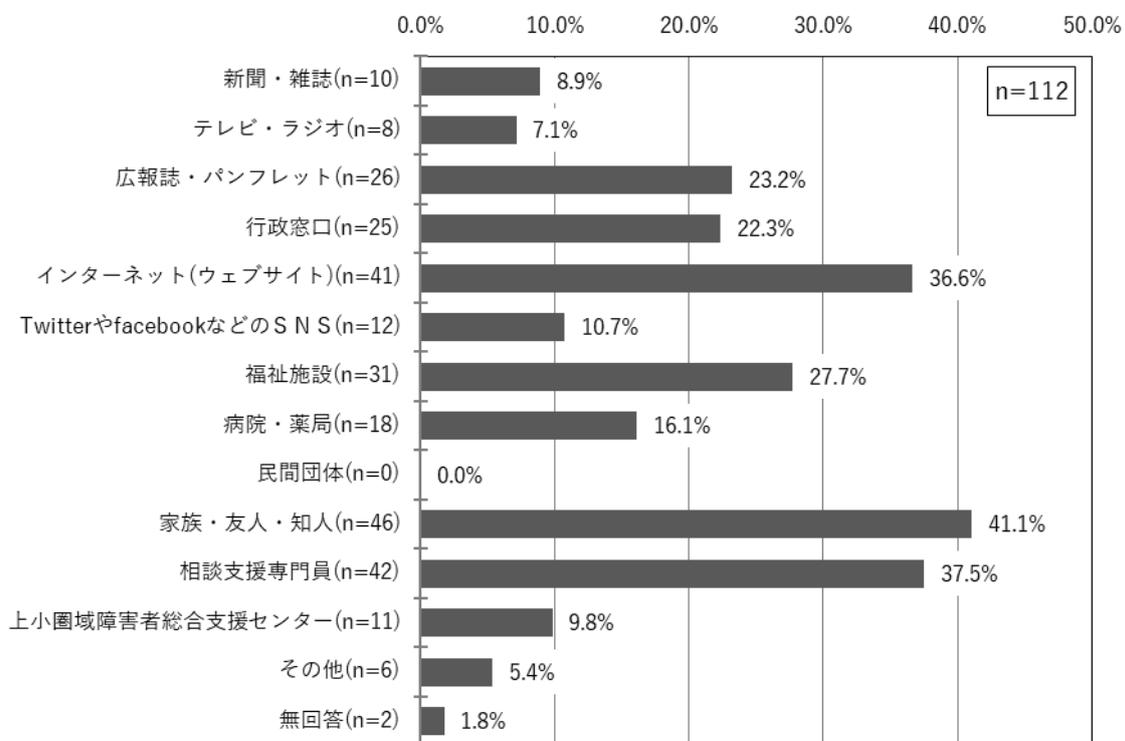
【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

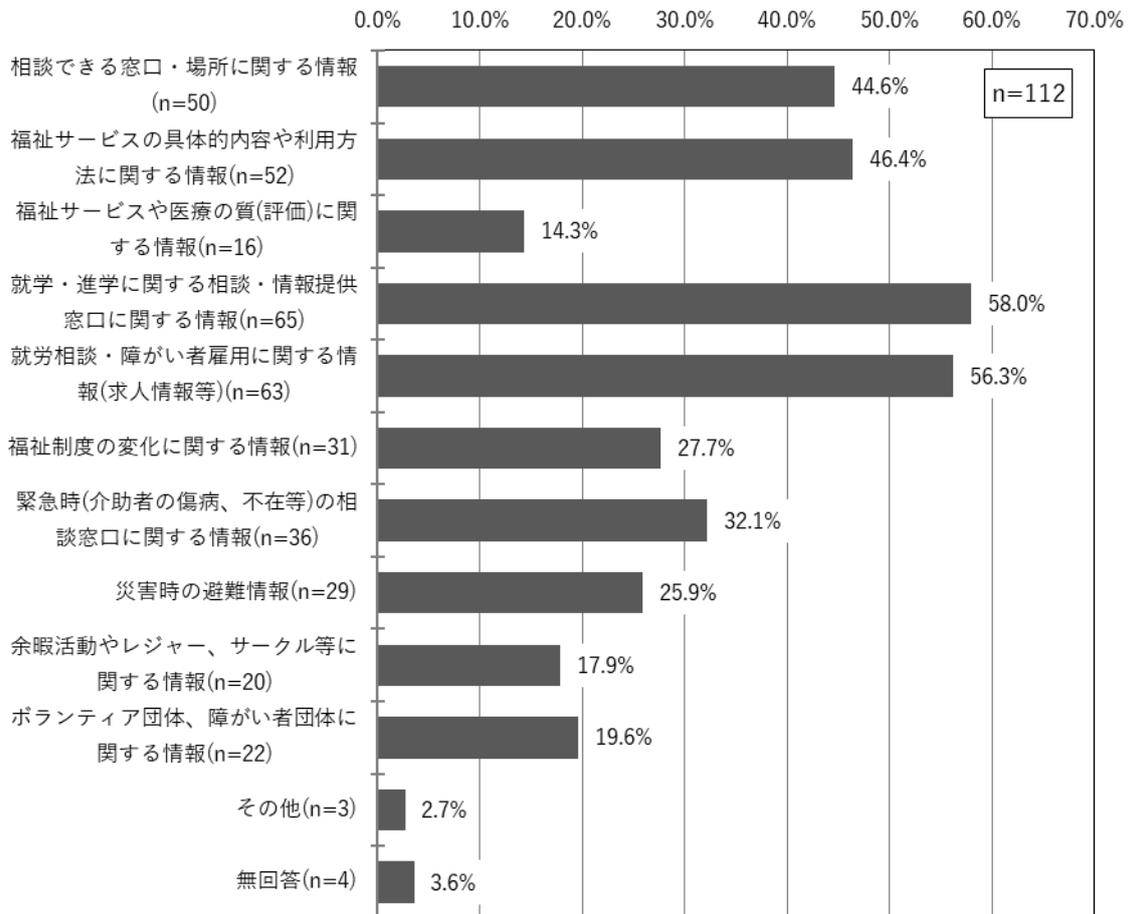
問 16 あなたは、福祉サービス等に関する情報をどこから入手していますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「家族・友人・知人」が 41.1%と最も高く、次いで「相談支援専門員」が 37.5%、「インターネット(ウェブサイト)」が 36.6%となっている。



問 17 あなたが今後、お子さんのことで充実してほしいと思う情報はどれですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「就学・進学に関する相談・情報提供窓口に関する情報」が 58.0%と最も高く、次いで「就労相談・障がい者雇用に関する情報(求人情報等)」が 56.3%、「福祉サービスの具体的内容や利用方法に関する情報」が 46.4%となっている。



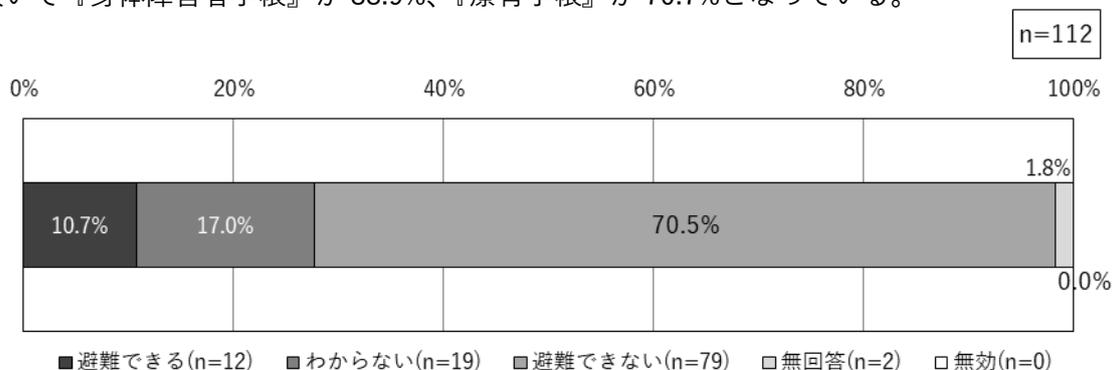
問 18 お子さんは、災害時にひとりで（自力で）避難できますか。

全体では、「避難できない」が 70.5%と最も高く、次いで「わからない」が 17.0%、「避難できる」が 10.7%となっている。

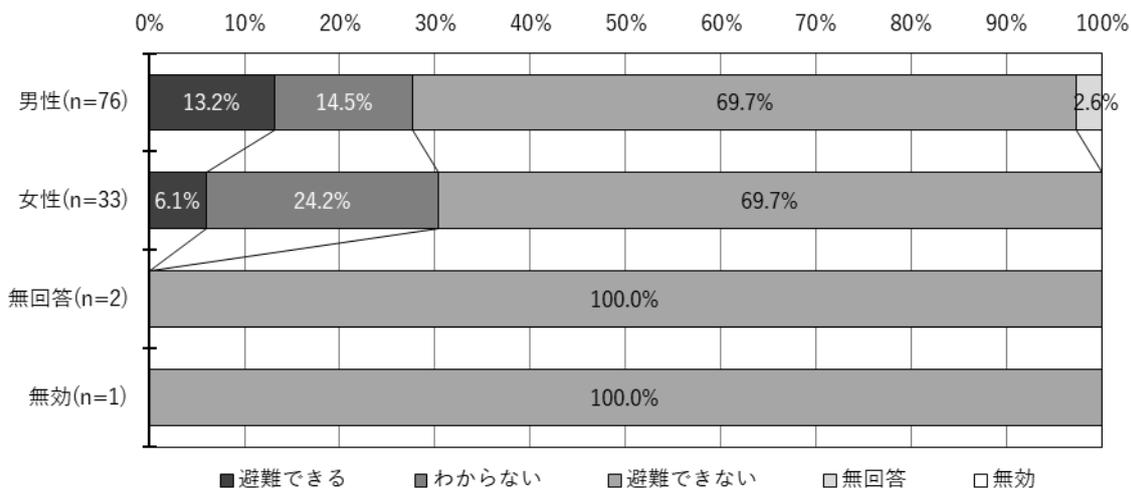
性別にみると、『男性』では「避難できない」が 69.7%と最も高く、次いで「わからない」が 14.5%、「避難できる」が 13.2%となっており、『女性』では「避難できない」が 69.7%と最も高く、次いで「わからない」が 24.2%、「避難できる」が 6.1%となっている。

年齢別にみると、「避難できる」は『18 歳』が 100.0%と最も高く、次いで『14 歳』が 33.3%、『15 歳』が 25.0%となっており、「避難できない」は『2・3・4・5・6・8 歳』が 100.0%と最も高く、次いで『7 歳』が 85.7%、『13 歳』が 83.3%となっている。

手帳別にみると、「避難できる」は『療育手帳』が 10.9%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が 9.1%、『身体障害者手帳』が 5.6%となっており、「避難できない」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』が 100.0%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が 88.9%、『療育手帳』が 70.7%となっている。

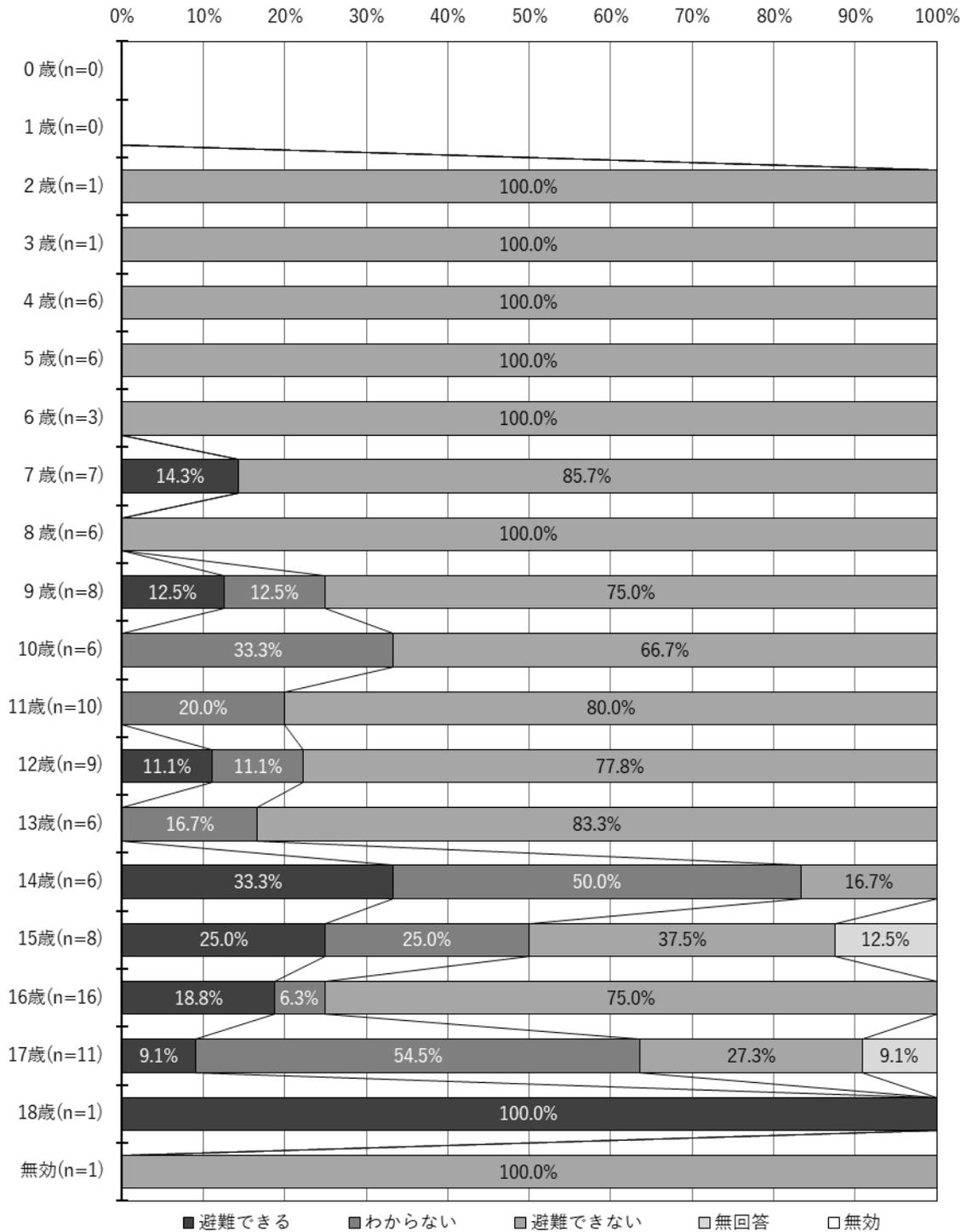


【クロス集計（性別）】



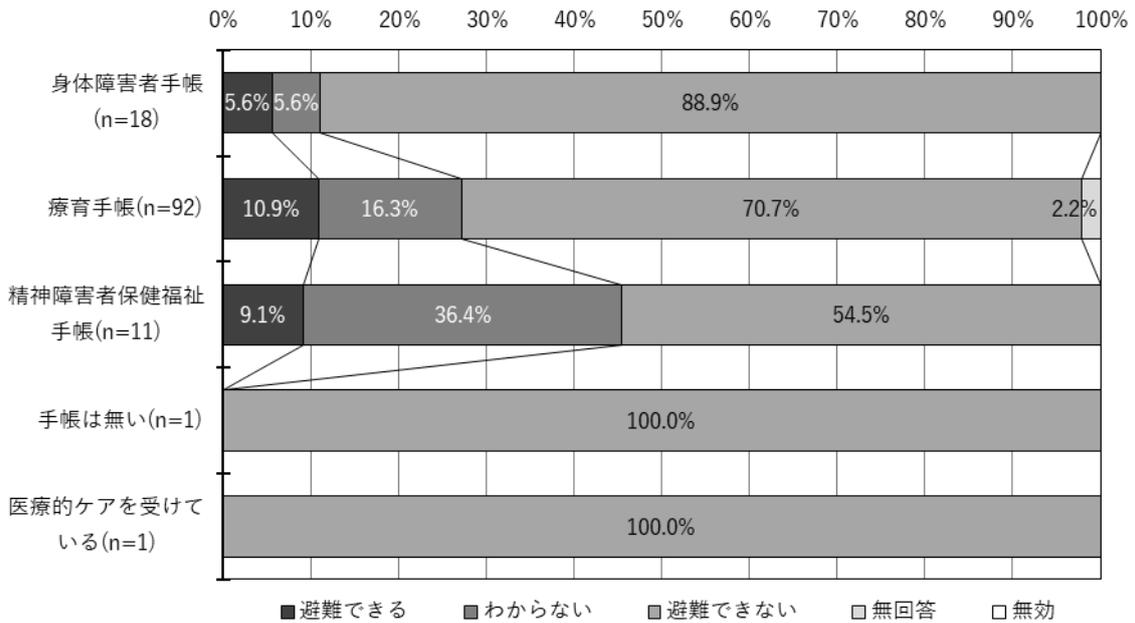
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

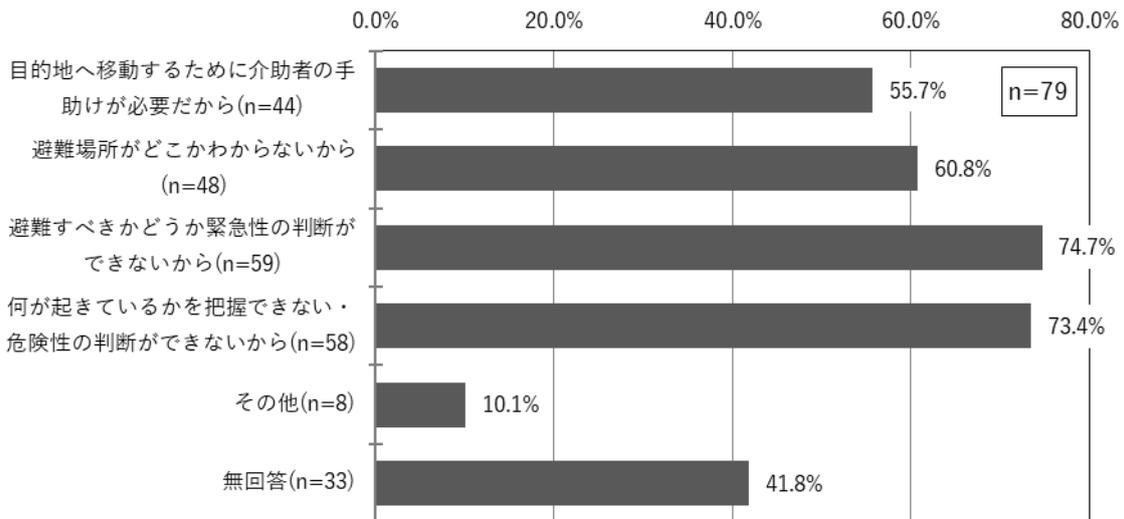
【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

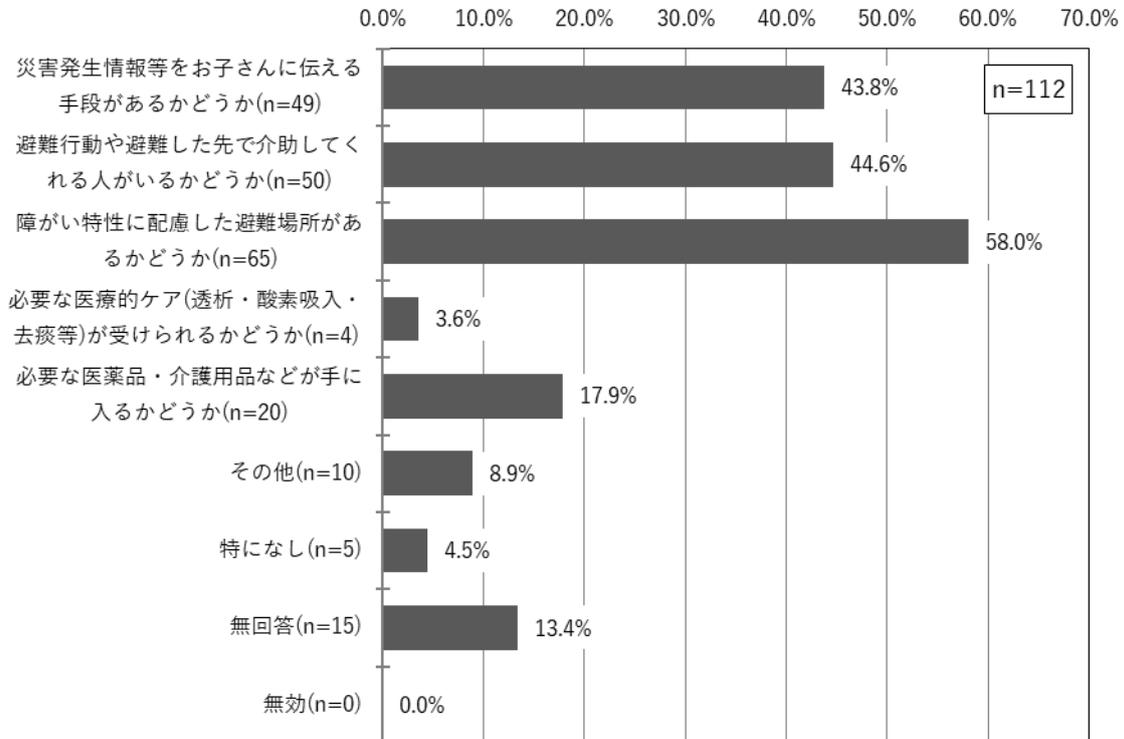
問 19 問 18 で「③避難できない」と答えた方に伺います。
 ひとりで避難できない理由はなんですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「避難すべきかどうか緊急性の判断ができないから」が 74.7%と最も高く、次いで「何が起きているかを把握できない・危険性の判断ができないから」が 73.4%、「避難場所がどこかわからないから」が 60.8%となっている。



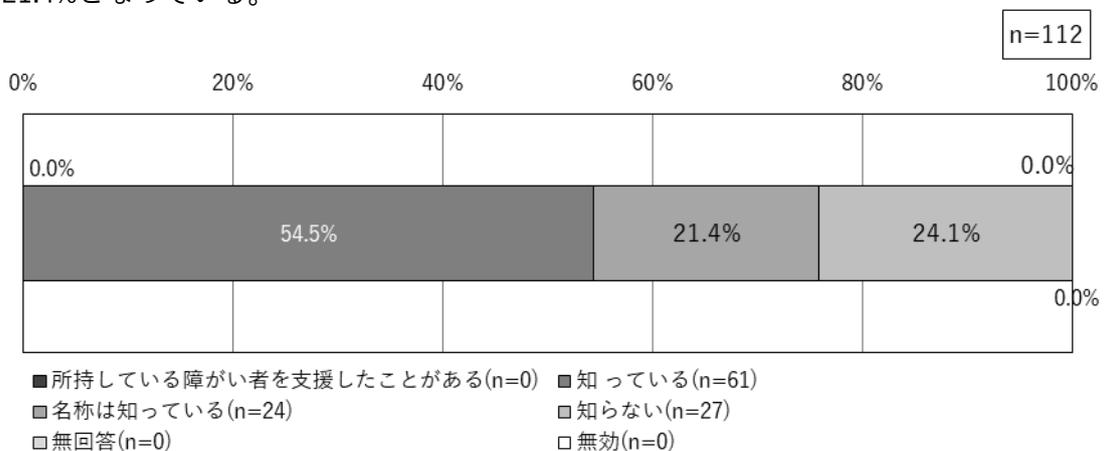
問 20 災害が発生したとき、あなたはどんなことが不安ですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「障がい特性に配慮した避難場所があるかどうか」が 58.0%と最も高く、次いで「避難行動や避難した先で介助してくれる人がいるかどうか」が 44.6%、「災害発生情報等をお子さんに伝える手段があるかどうか」が 43.8%となっている。



問 21 あなたは、「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」を知っていますか。

「知っている」が 54.5%と最も高く、次いで「知らない」が 24.1%、「名称は知っている」が 21.4%となっている。



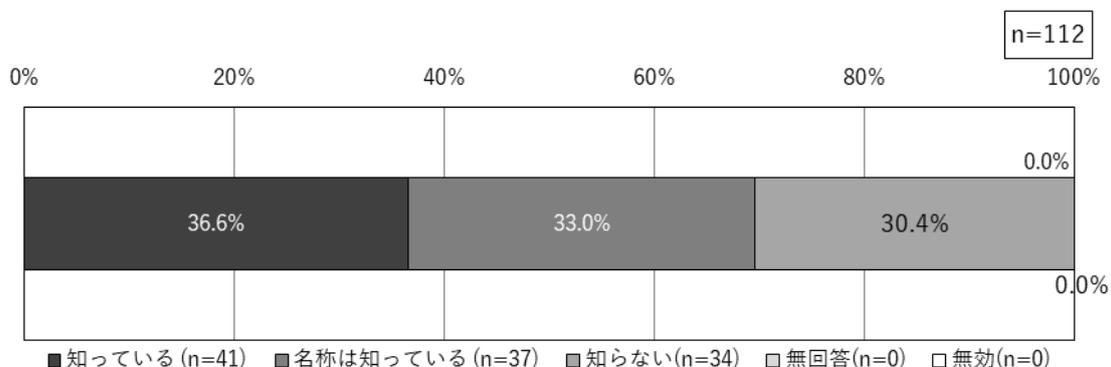
問 22 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。

全体では、「知っている」が 36.6%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 33.0%、「知らない」が 30.4%となっている。

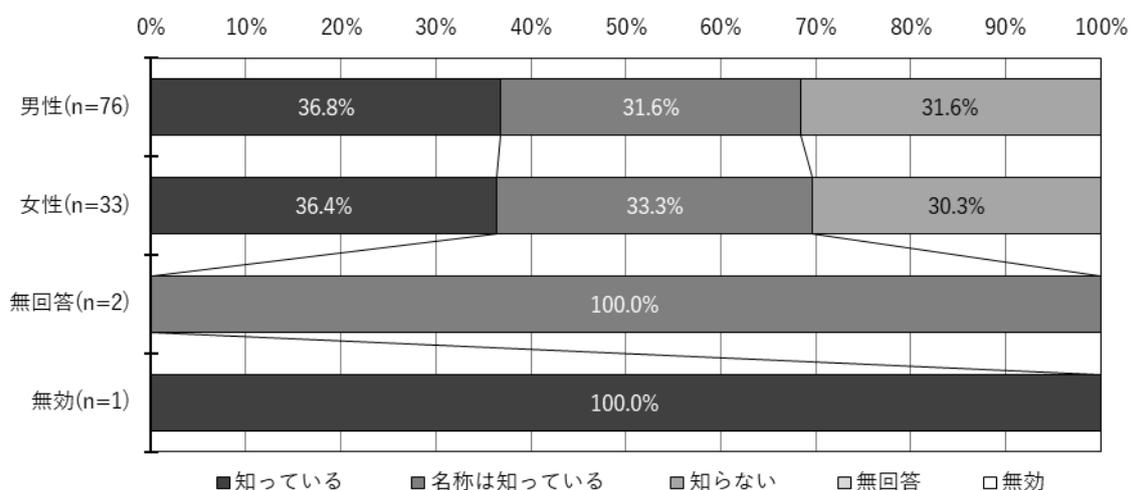
性別にみると、『男性』では「知っている」が 36.8%と最も高く、次いで「名称は知っている」及び「知らない」が 31.6%となっており、『女性』では「知っている」が 36.4%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 33.3%、「知らない」が 30.3%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『2 歳』の 100.0%、「名称は知っている」は『15 歳』の 62.5%、「知らない」は『3 歳』の 100.0%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「知っている」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』の 100.0%、「名称は知っている」は『精神障害者保健福祉手帳』の 63.6%、「知らない」は『療育手帳』の 33.7%が最も高くなっている。

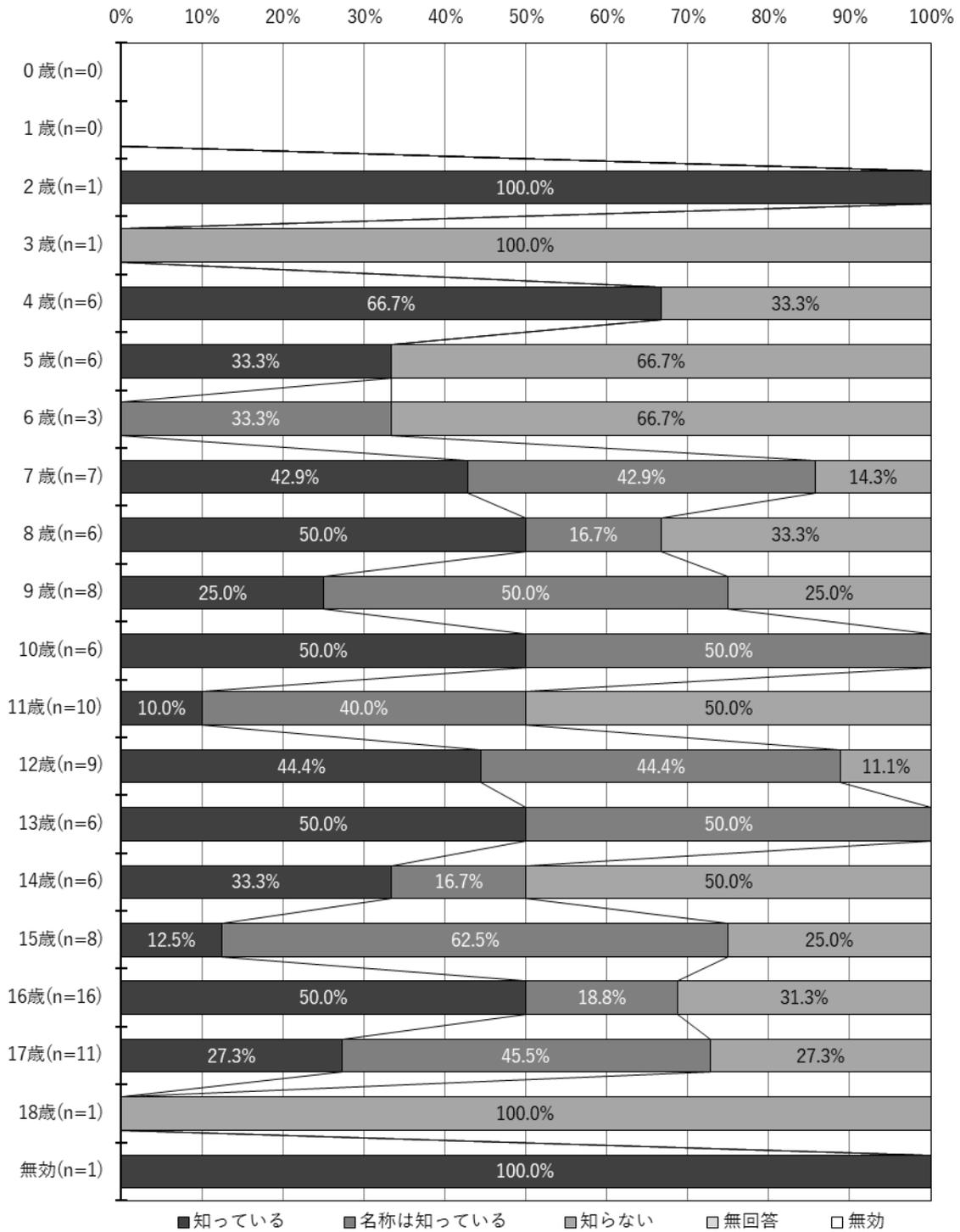


【クロス集計（性別）】



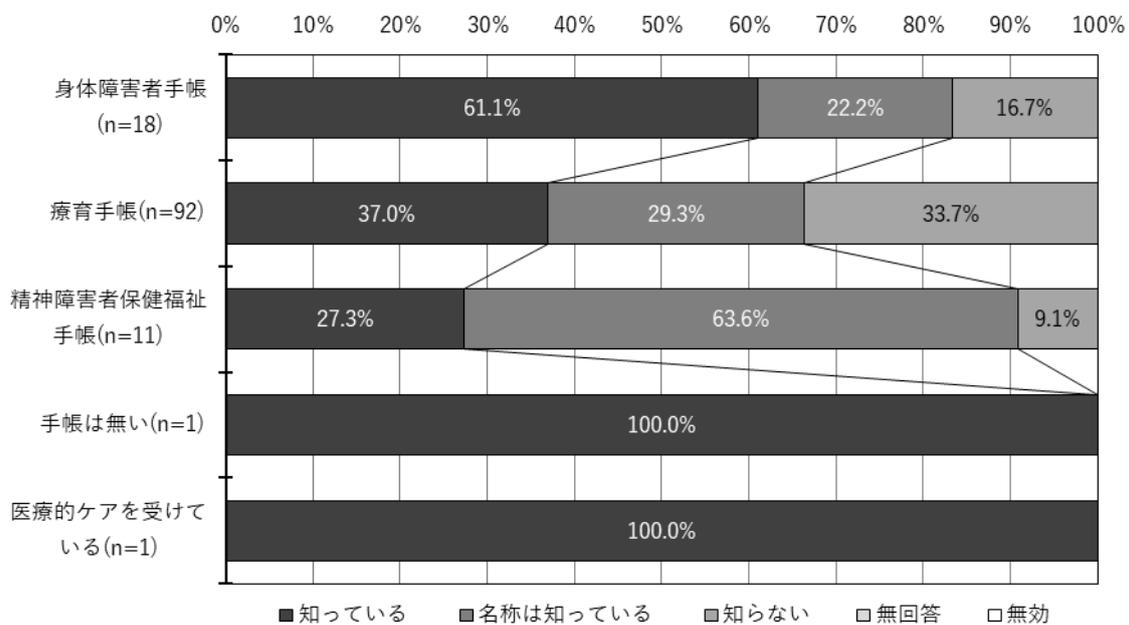
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

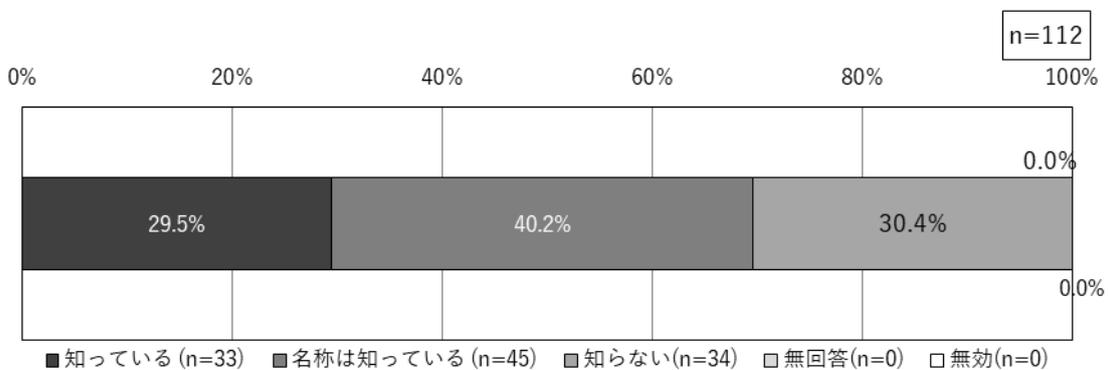
問 23 あなたは、「障害者虐待防止法」（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）を知っていますか。

全体では、「名称は知っている」が 40.2%と最も高く、次いで「知らない」が 30.4%、「知っている」が 29.5%となっている。

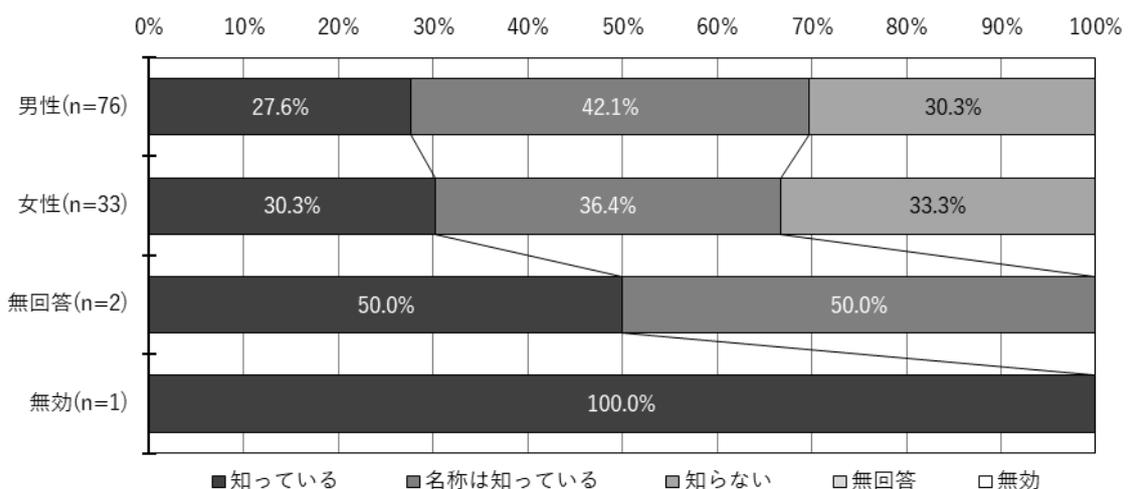
性別にみると、『男性』では「名称は知っている」が 42.1%と最も高く、次いで「知らない」が 30.3%、「知っている」が 27.6%となっており、『女性』では「名称は知っている」が 36.4%と最も高く、次いで「知らない」が 33.3%、「知っている」が 30.3%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『4歳』の 83.3%、「名称は知っている」は『3・6・18歳』の 100.0%、「知らない」は『3歳』の 100.0%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「知っている」は『精神障害者保健福祉手帳』の 45.5%、「名称は知っている」は『身体障害者手帳』の 50.0%、「知らない」は『療育手帳』の 33.7%が最も高くなっている。

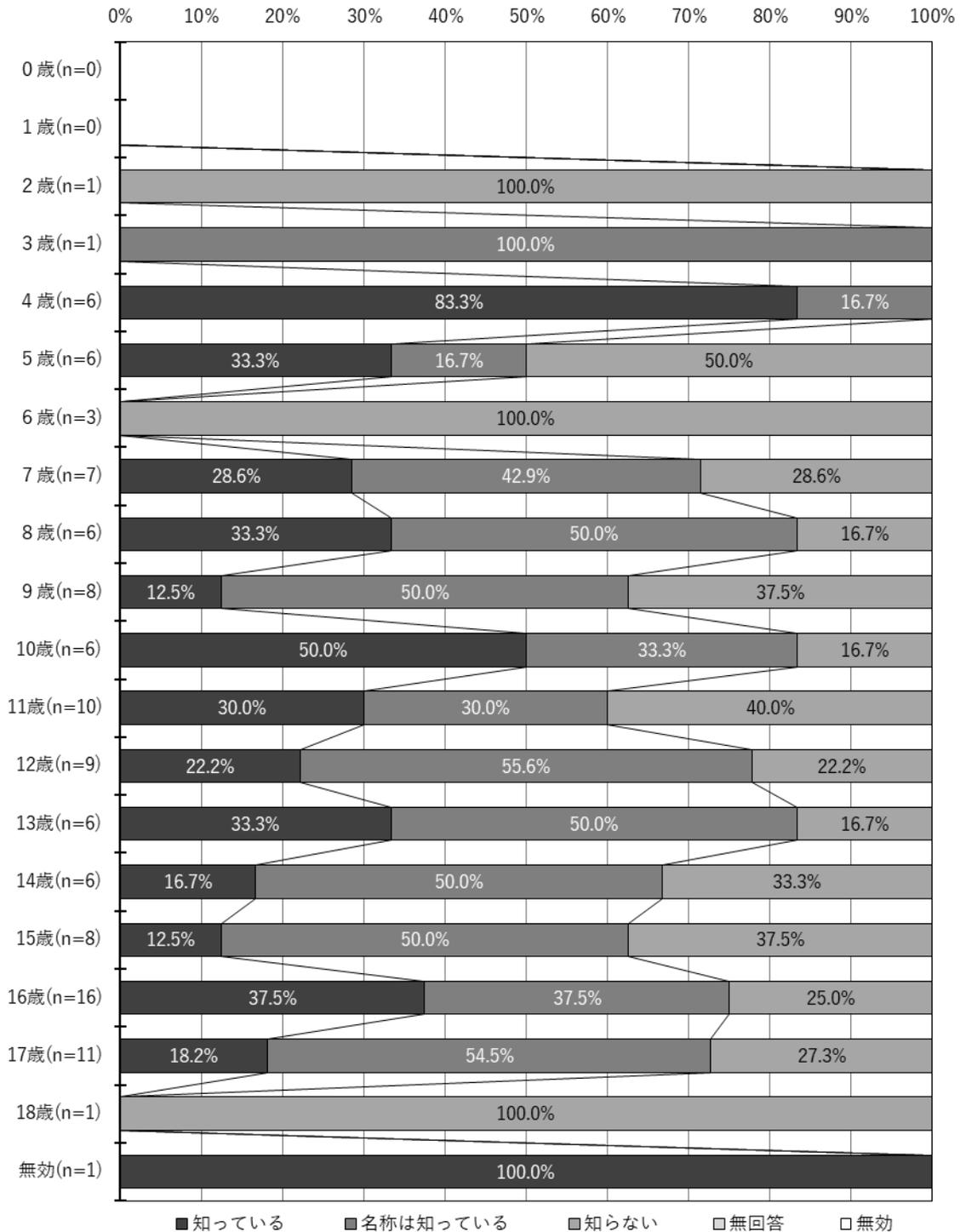


【クロス集計（性別）】



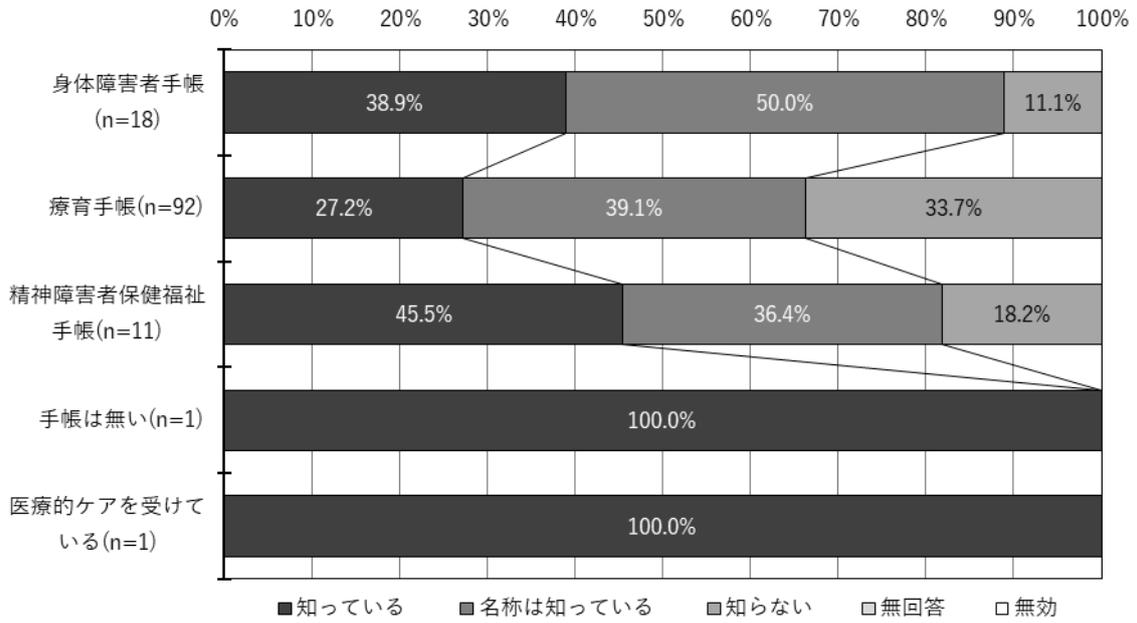
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

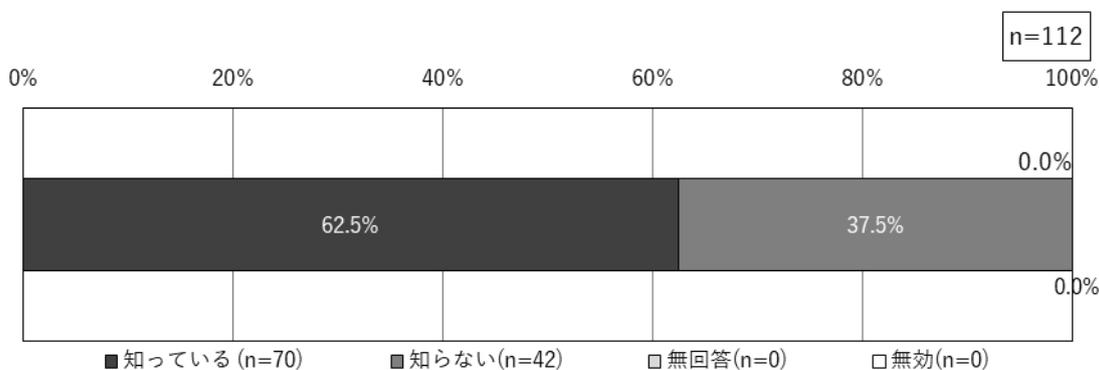
問 24 あなたは、障がいのある方への虐待を発見したときに通報義務があることを知っていますか。

全体では、「知っている」が 62.5%、「知らない」が 37.5%となっている。

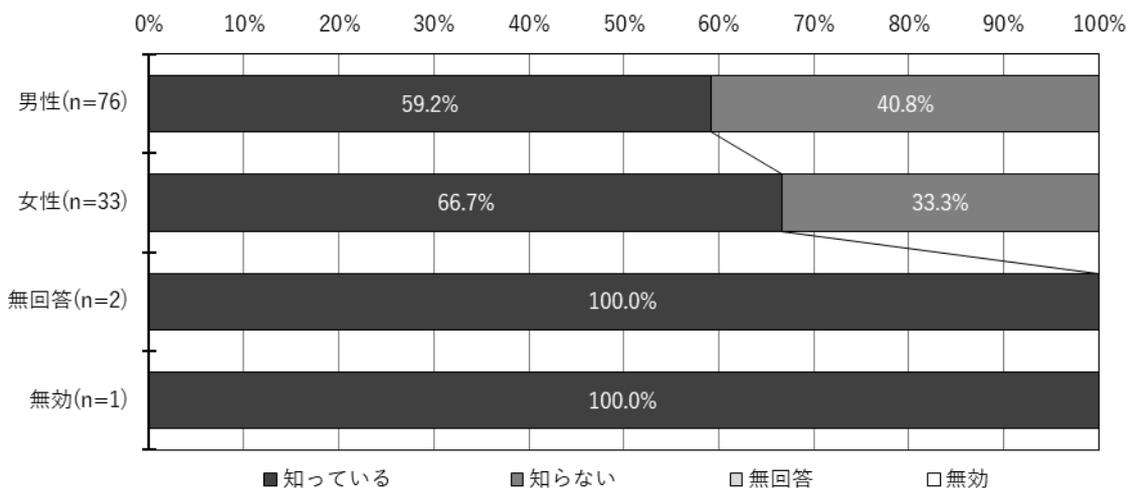
性別にみると、『男性』では「知っている」が 59.2%、「知らない」が 40.8%、『女性』では「知っている」が 66.7%、「知らない」が 33.3%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『3歳』が 100.0%と最も高く、次いで『16歳』が 81.3%、『11歳』が 80.0%となっており、「知らない」は『2・18歳』が 100.0%と最も高く、次いで『14歳』が 66.7%、『8・9・13歳』が 50.0%となっている。

手帳別にみると、「知っている」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』が 100.0%と最も高く、次いで『身体障害者手帳』が 72.2%、『精神障害者保健福祉手帳』が 63.6%となっており、「知らない」は『療育手帳』が 39.1%と最も高く、次いで『精神障害者保健福祉手帳』が 36.4%、『身体障害者手帳』が 27.8%となっている。

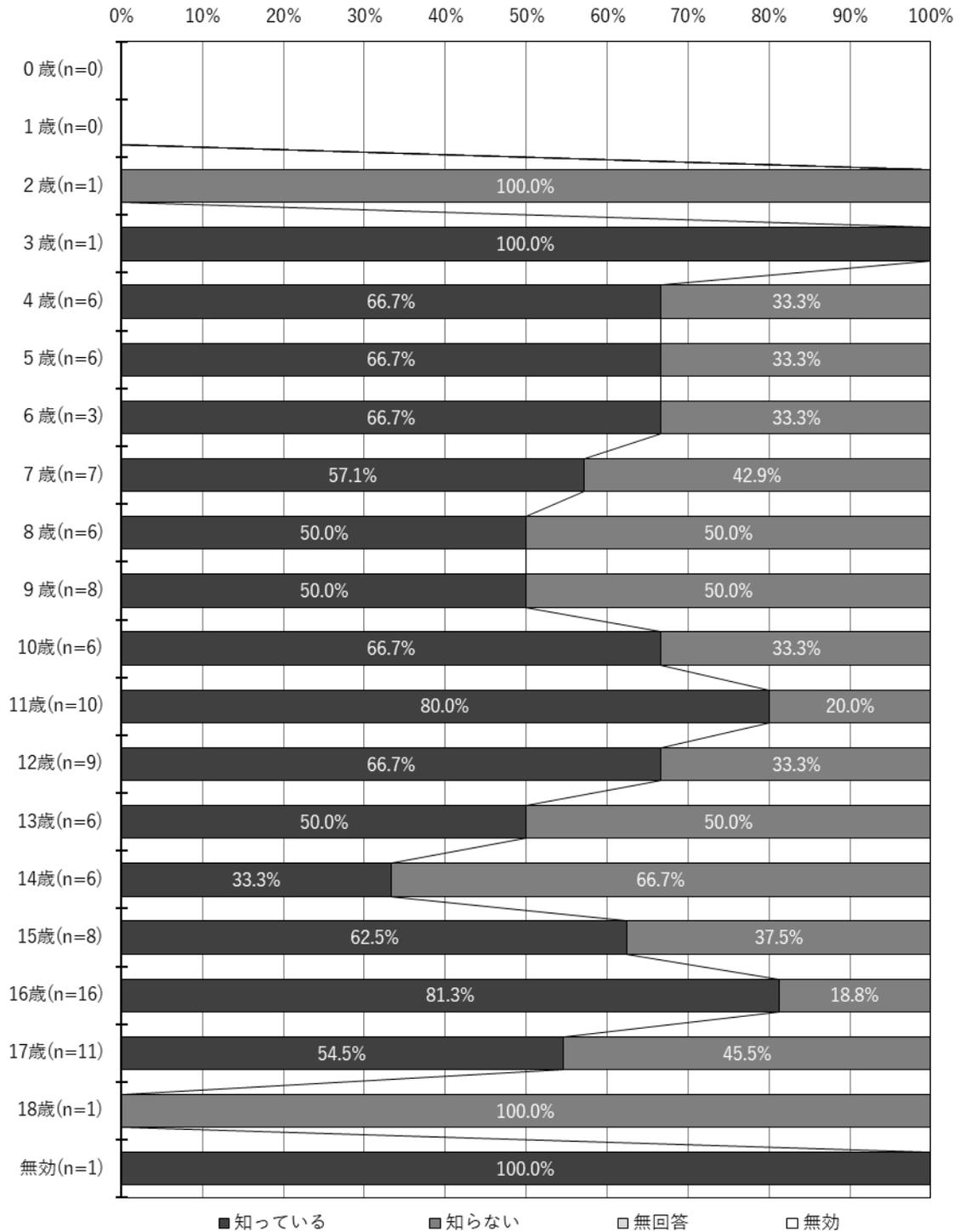


【クロス集計 (性別)】



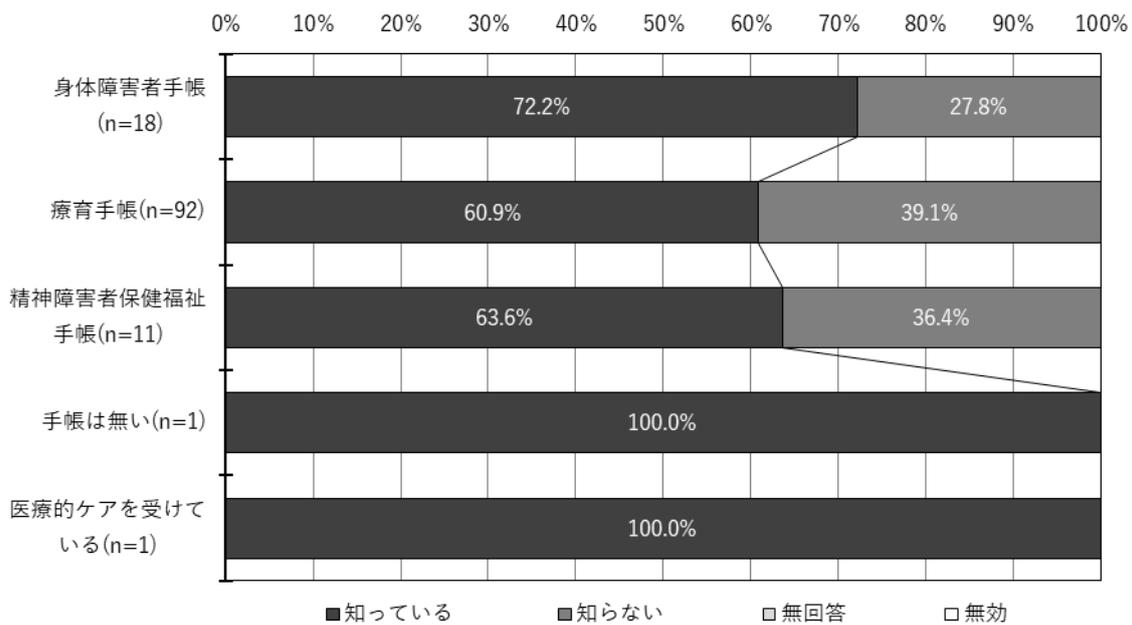
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

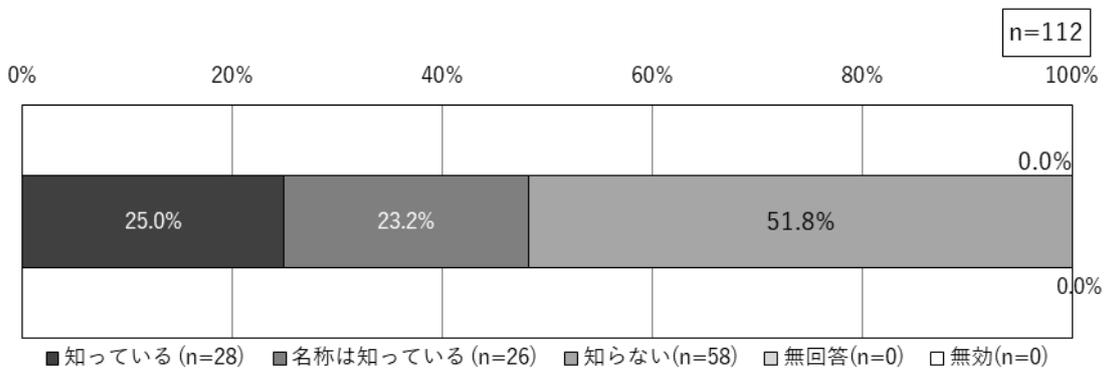
問 25 あなたは、「障害者差別解消法」（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）を知っていますか。

全体では、「知らない」が 51.8%と最も高く、次いで「知っている」が 25.0%、「名称は知っている」が 23.2%となっている。

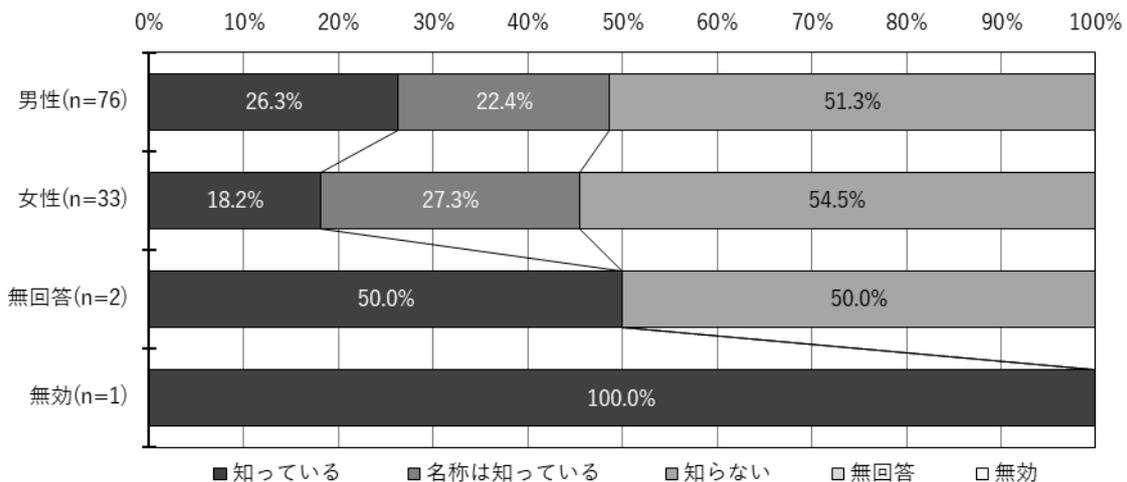
性別にみると、『男性』では「知らない」が 51.3%と最も高く、次いで「知っている」が 26.3%、「名称は知っている」が 22.4%となっており、『女性』では「知らない」が 54.5%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 27.3%、「知っている」が 18.2%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『7 歳』の 42.9%、「名称は知っている」は『12 歳』の 44.4%、「知らない」は『2・3・18 歳』の 100.0%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「知っている」は『手帳は無い』及び『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』の 100.0%、「名称は知っている」は『身体障害者手帳』の 27.8%、「知らない」は『療育手帳』の 54.3%が最も高くなっている。

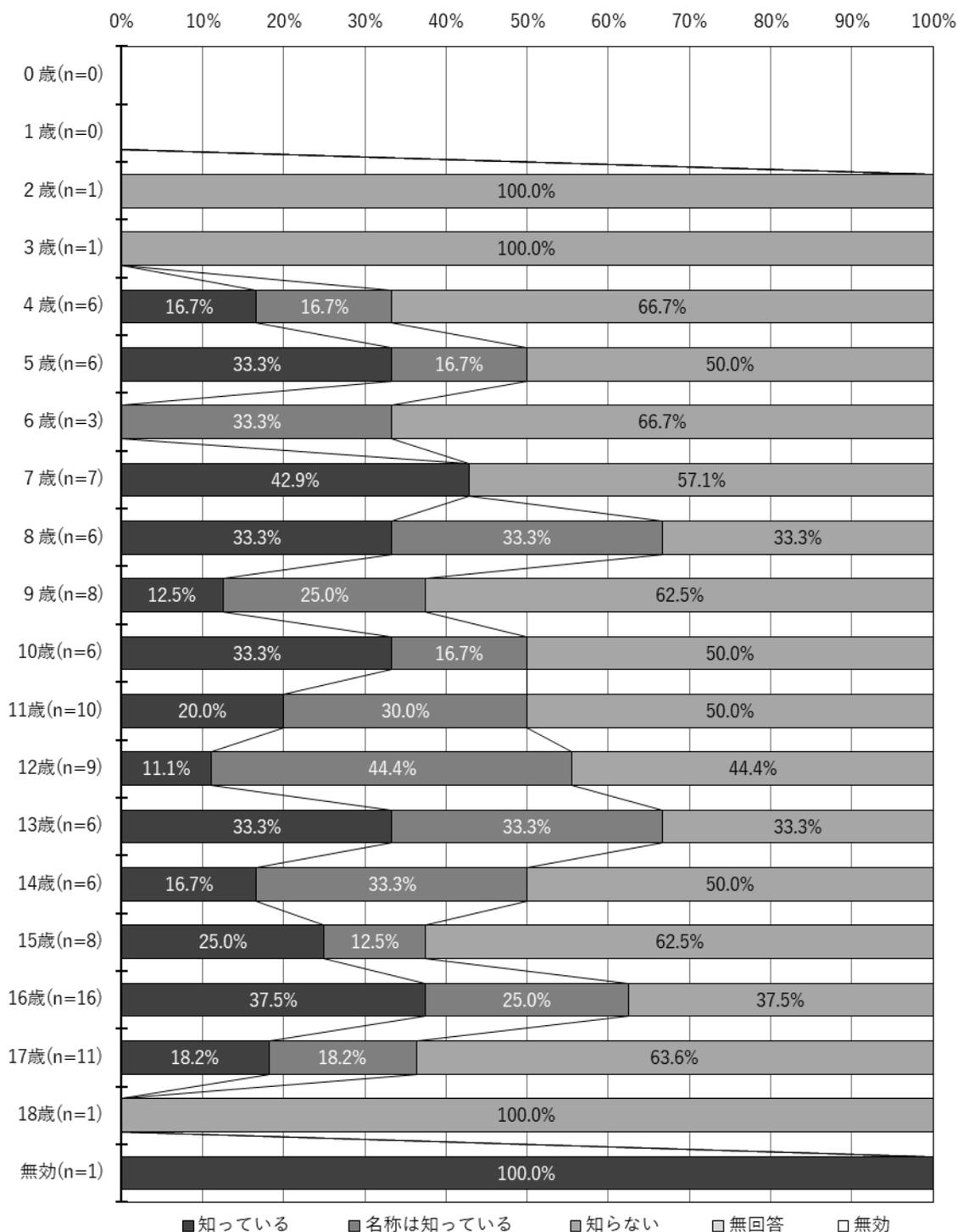


【クロス集計（性別）】



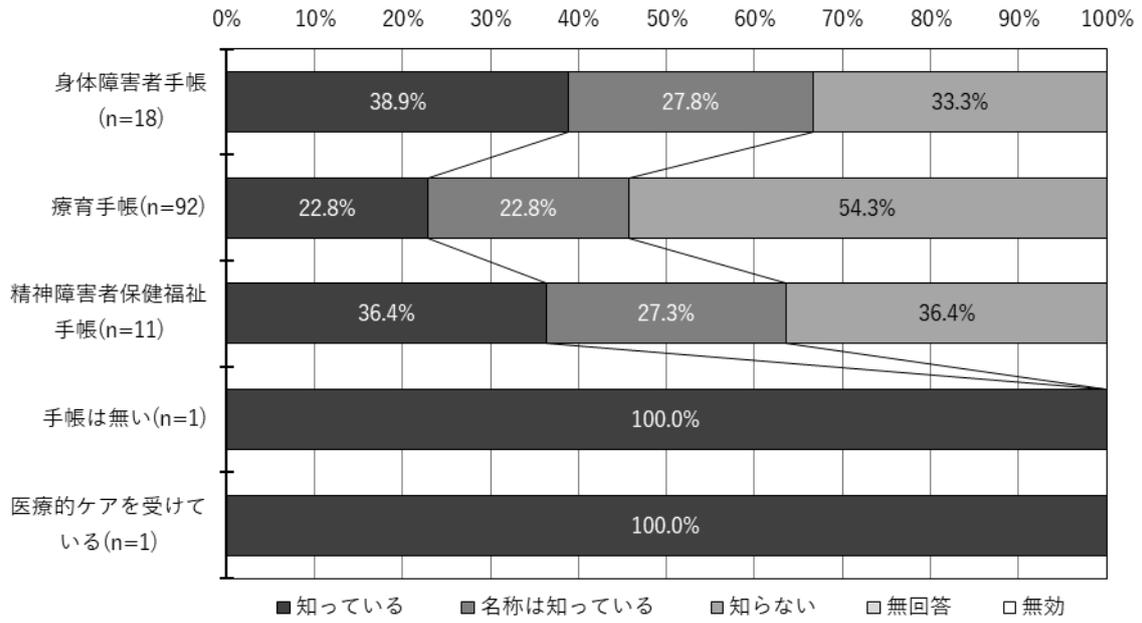
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

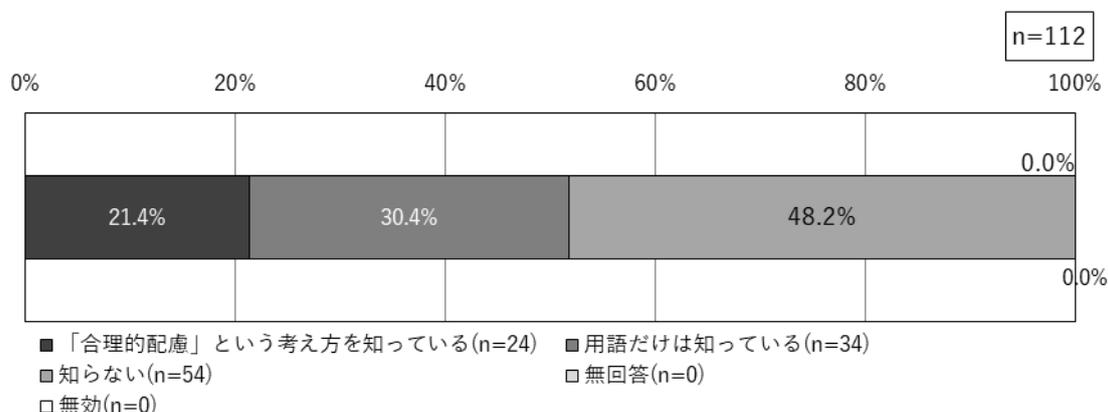
問 26 あなたは、「合理的配慮」について知っていますか。

全体では、「知らない」が 48.2%と最も高く、次いで「用語だけは知っている」が 30.4%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 21.4%となっている。

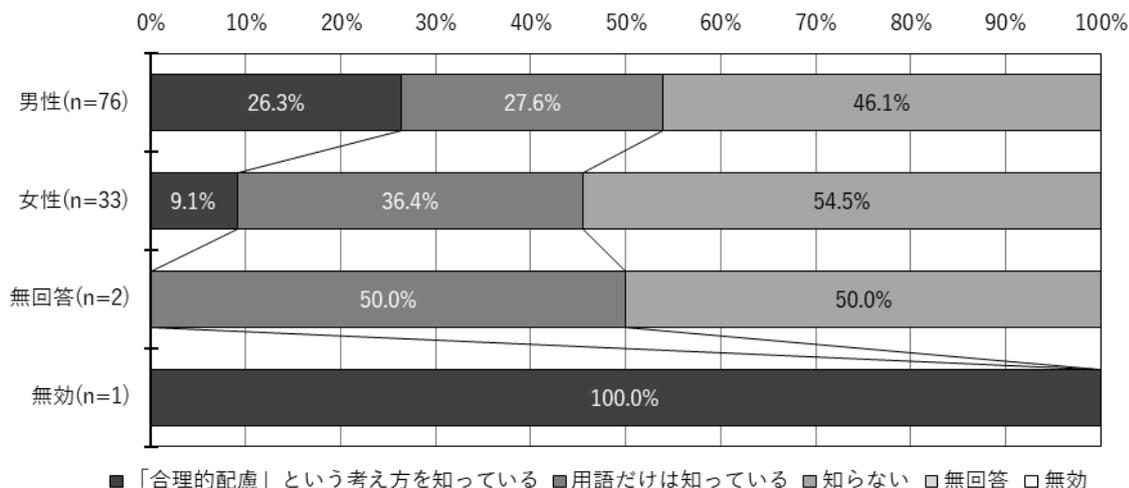
性別にみると、『男性』では「知らない」が 46.1%と最も高く、次いで「用語だけは知っている」が 27.6%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 26.3%となっており、『女性』では「知らない」が 54.5%と最も高く、次いで「用語だけは知っている」が 36.4%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 9.1%となっている。

年齢別にみると、「合理的配慮という考え方を知っている」は『3歳』の 100.0%、「用語だけは知っている」は『13歳』の 66.7%、「知らない」は『2・18歳』の 100.0%が最も高くなっている。

手帳別にみると、「合理的配慮という考え方を知っている」は『手帳は無い』の 100.0%、「用語だけは知っている」は『療育手帳』の 31.5%、「知らない」は『医療的ケアを受けている(人工呼吸器・経管栄養など)』の 100.0%が最も高くなっている。

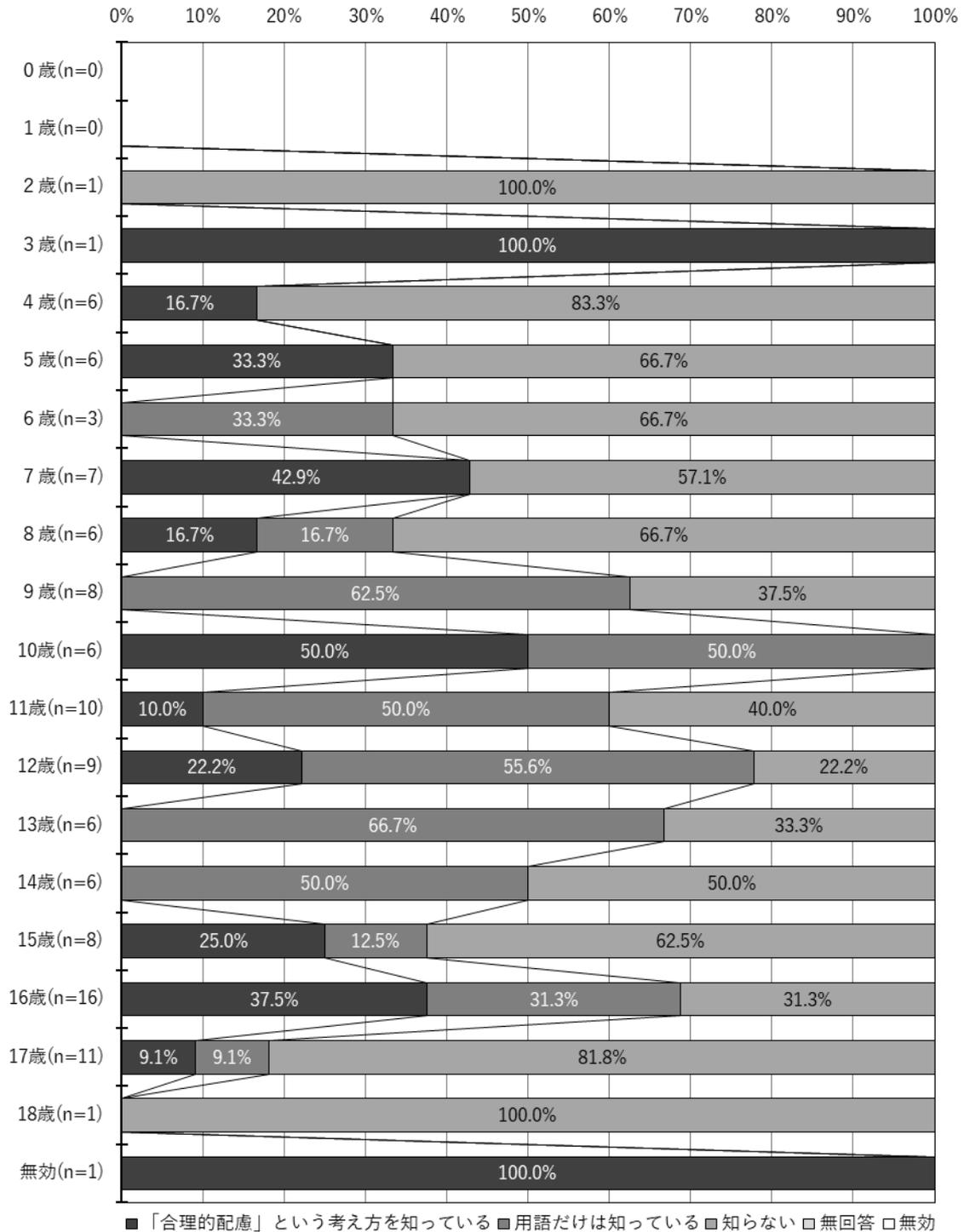


【クロス集計 (性別)】



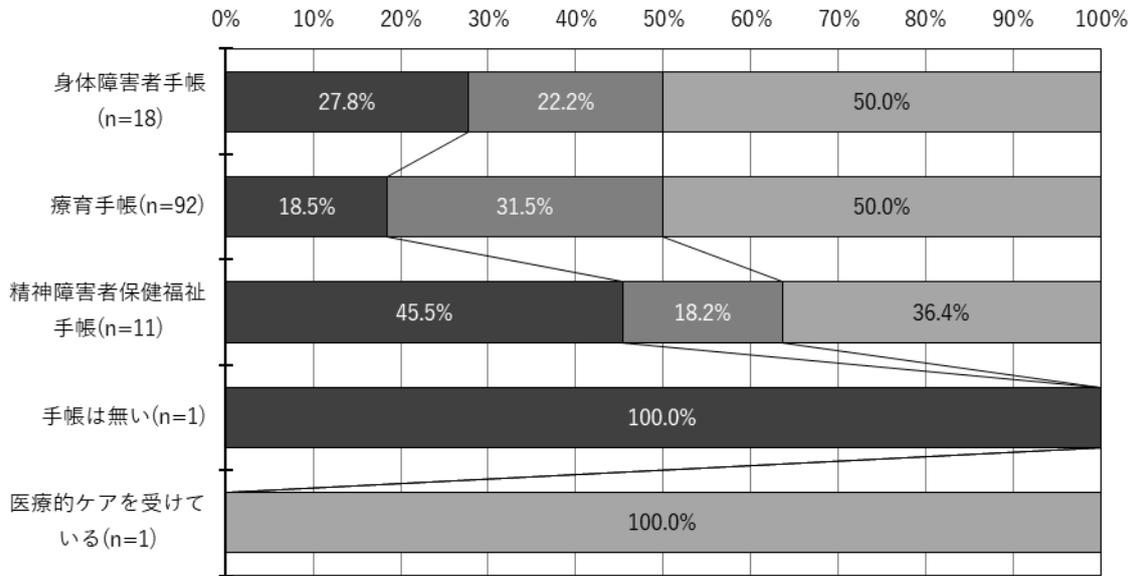
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（手帳別）】

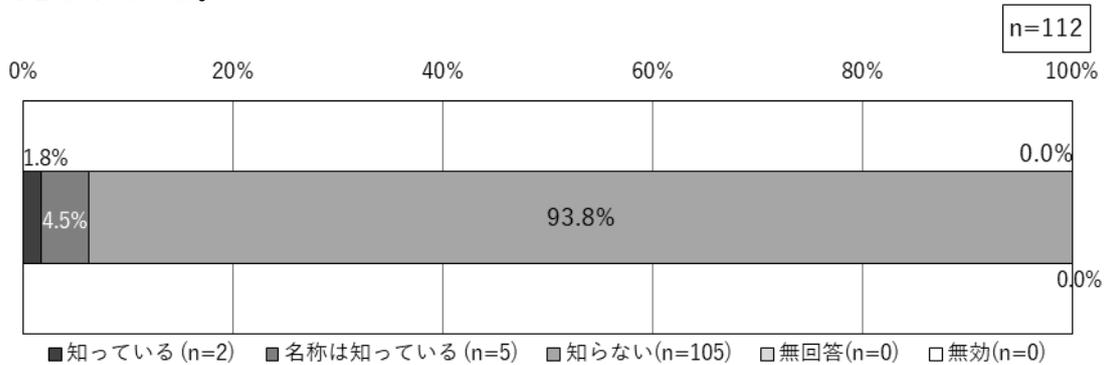


■「合理的配慮」という考え方を知っている ■用語だけは知っている ■知らない □無回答 □無効

※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

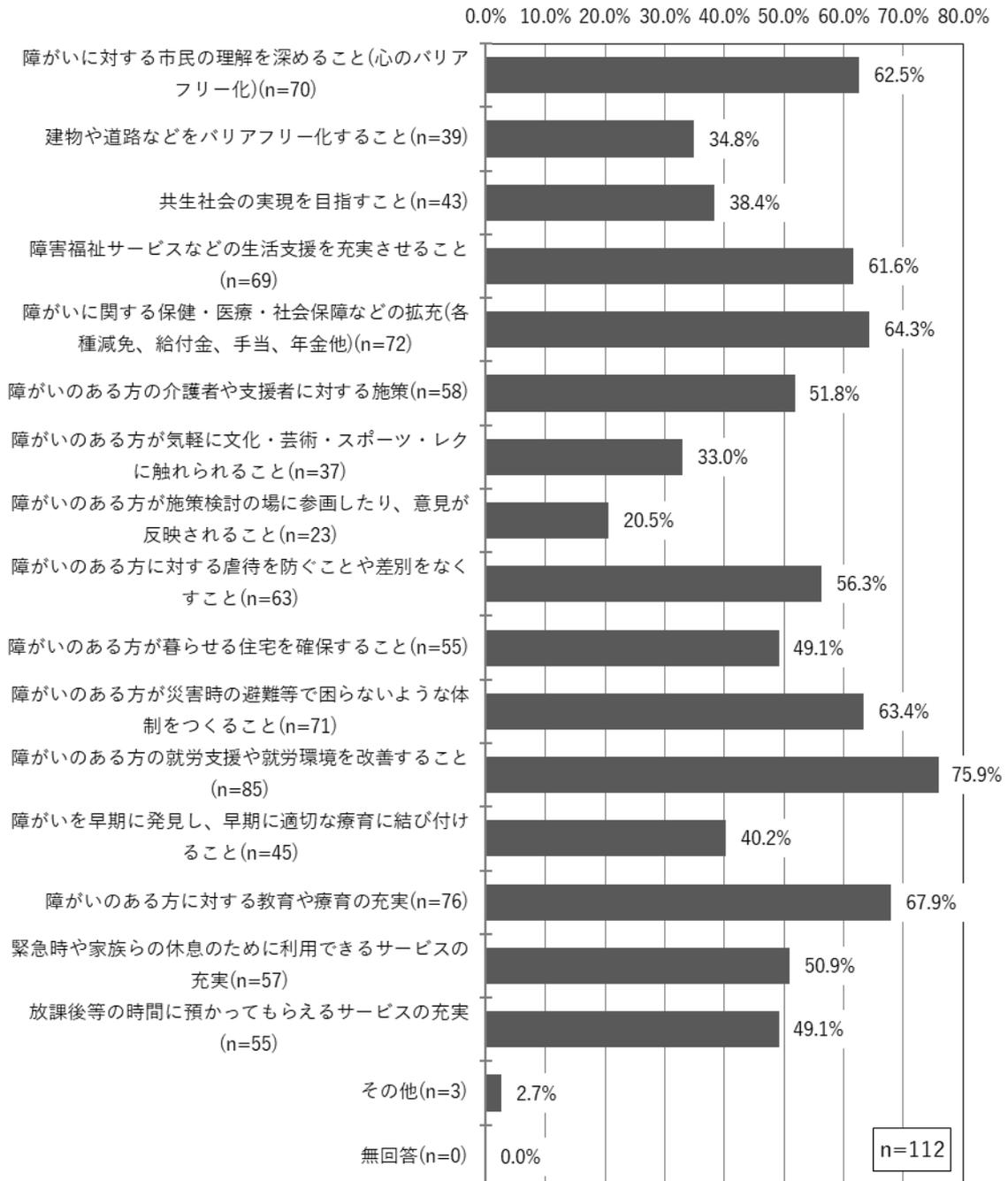
問 27 あなたは、「うえだ手話言語・情報コミュニケーション条例」（上田市手話言語の普及及び視聴覚障害者等の意思疎通手段等の利用促進に関する条例）を知っていますか。

「知らない」が 93.8%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 4.5%、「知っている」が 1.8%となっている。



問 28 あなたが特に重要だと思う「障がい福祉施策」はどれですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

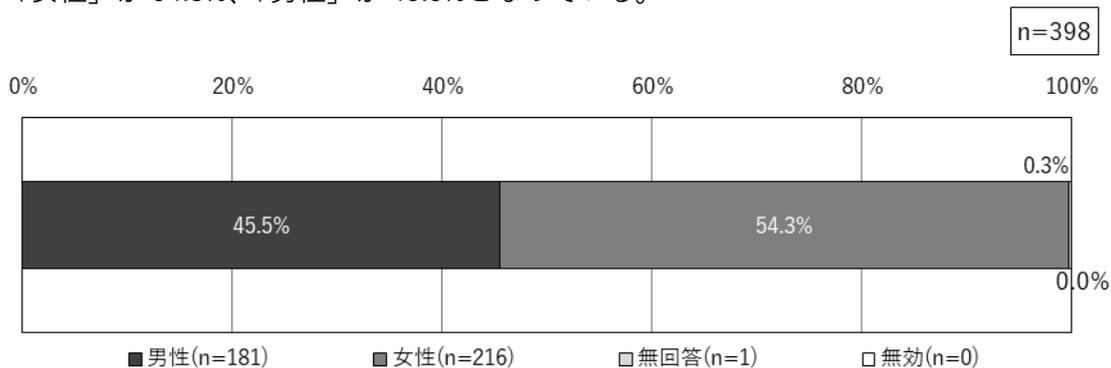
「障がいのある方の就労支援や就労環境を改善すること」が 75.9%と最も高く、次いで「障がいのある方に対する教育や療育の充実」が 67.9%、「障がいに関する保健・医療・社会保障などの拡充(各種減免、給付金、手当、年金他)」が 64.3%となっている。



調查結果 Ⅲ. 健常者

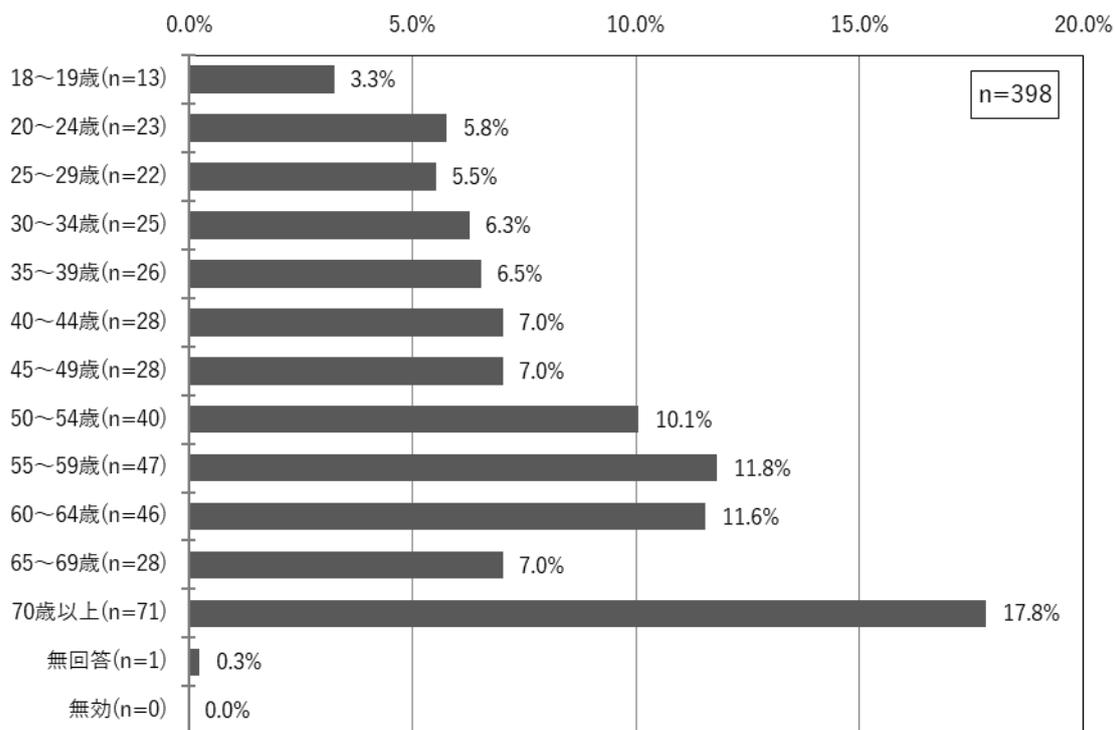
問1 あなたの性別はどちらですか。

「女性」が54.3%、「男性」が45.5%となっている。



問2 あなたの年齢はいくつですか。

「70歳以上」が17.8%と最も高く、次いで「55~59歳」が11.8%、「60~64歳」が11.6%となっている。

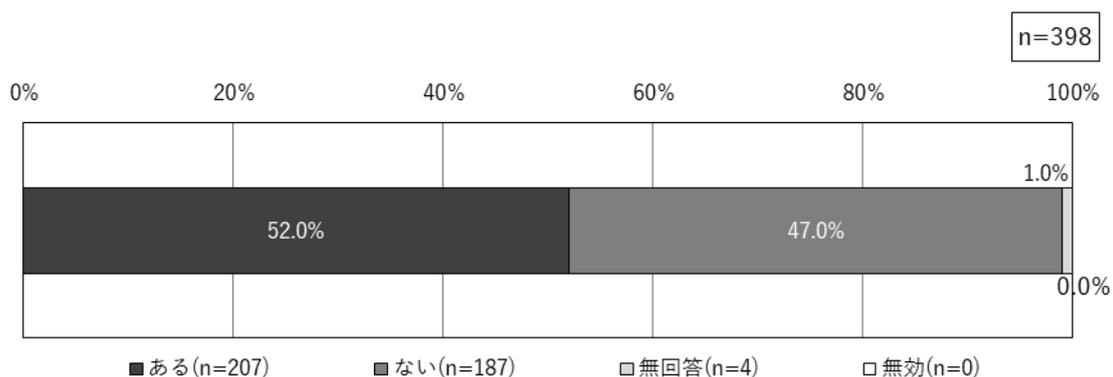


問3 あなたは、障がいのある方とのコミュニケーションで、困ること、困ったことがありますか。

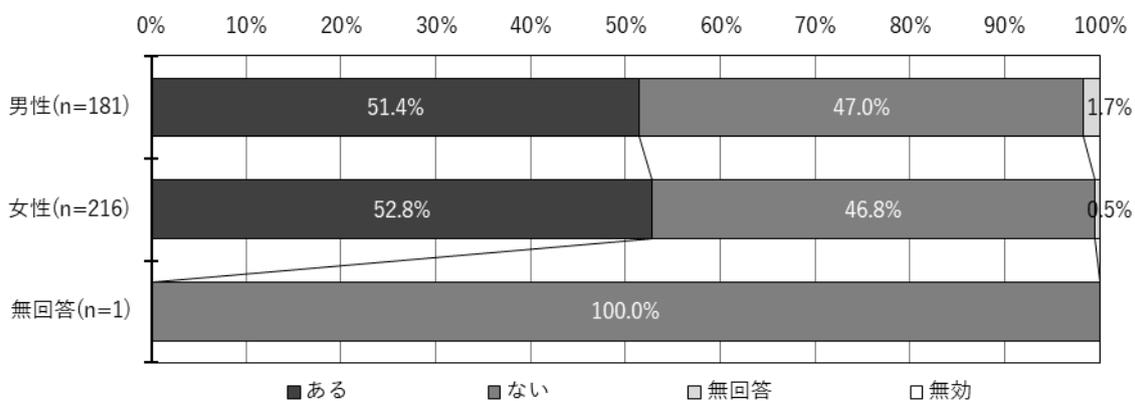
全体では、「ある」が52.0%、「ない」が47.0%となっている。

性別にみると、『男性』では「ある」が51.4%、「ない」が47.0%、『女性』では「ある」が52.8%、「ない」が46.8%となっている。

年齢別にみると、「ある」は『35~39歳』が76.9%と最も高く、次いで『25~29歳』が72.7%、『45~49歳』が67.9%となっており、「ない」は『70歳以上』が67.6%と最も高く、次いで『60~64歳』が58.7%、『20~24歳』が56.5%となっている。

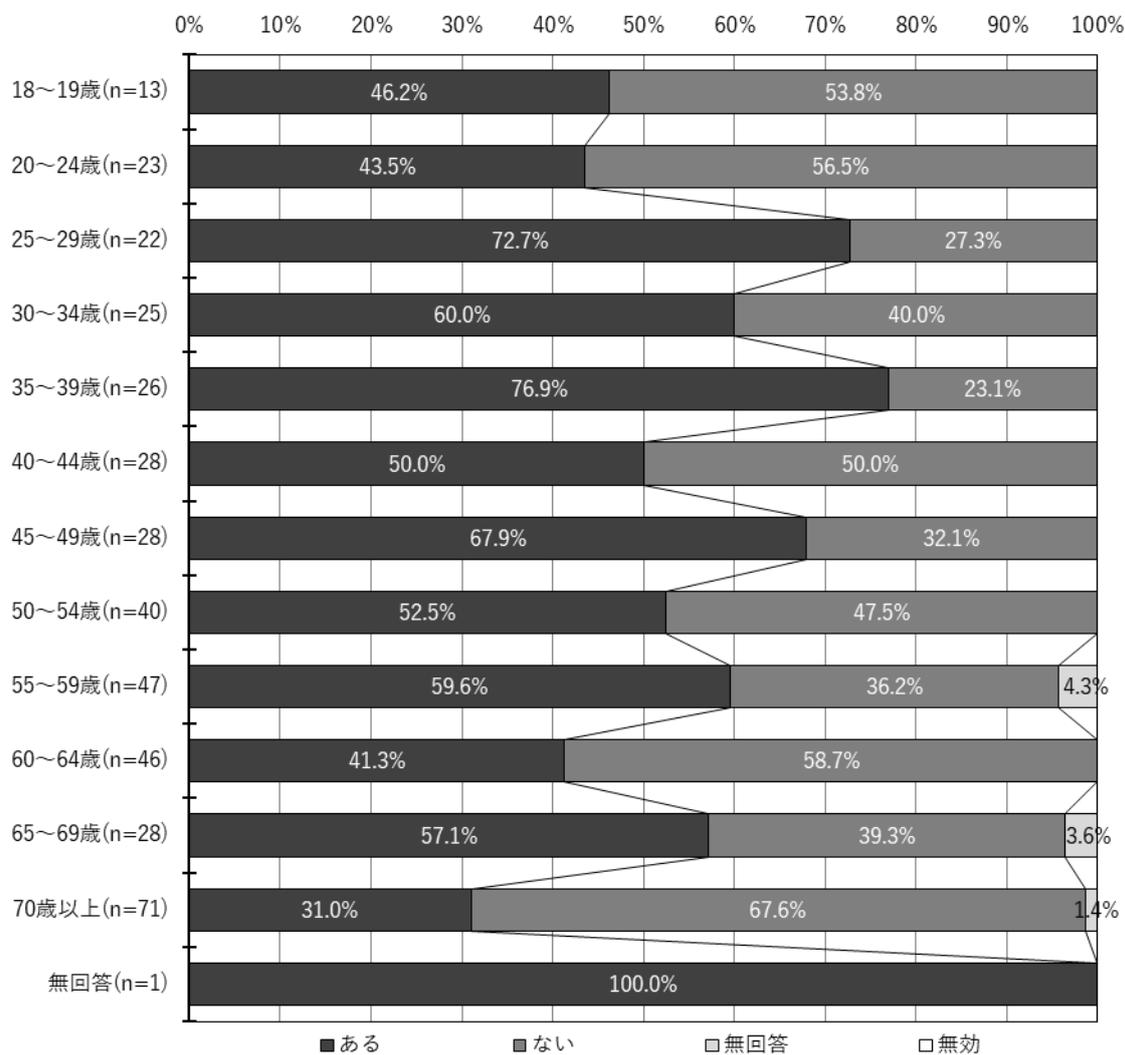


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】

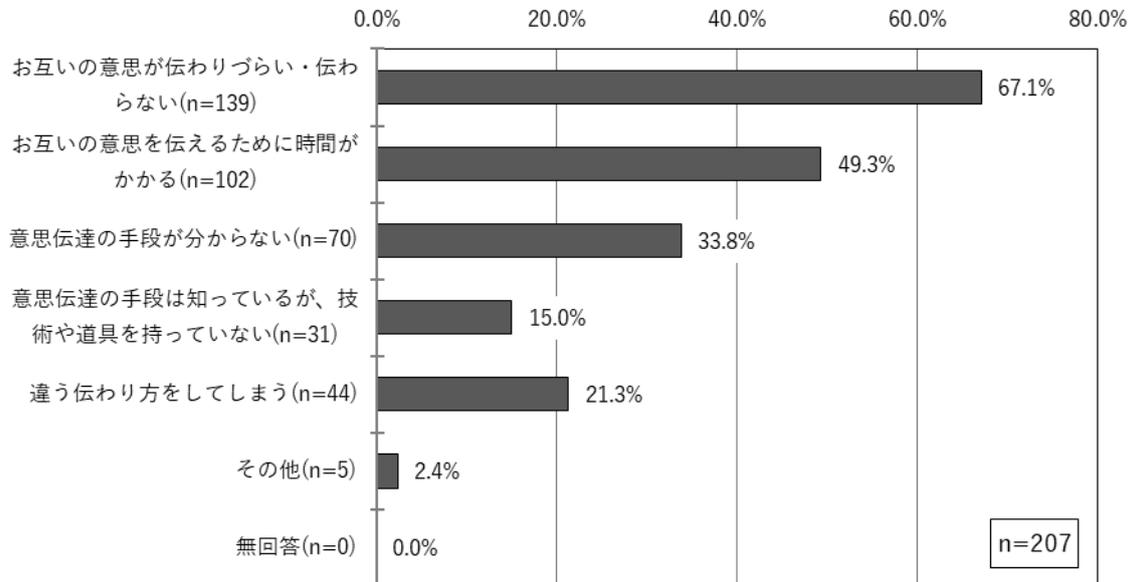


※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問4 問3で「①ある」と答えた方に伺います。

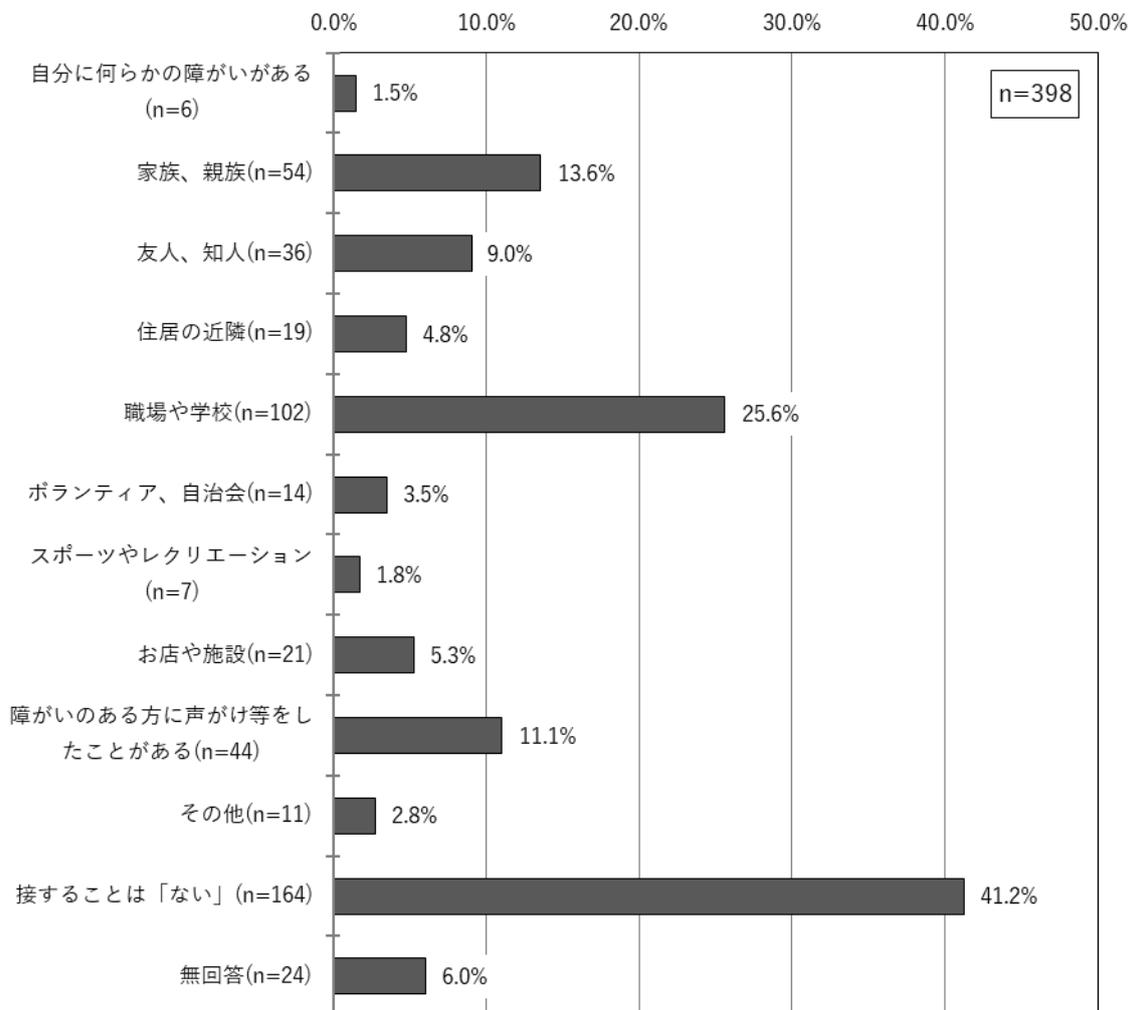
それは、どのようなことですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「お互いの意思が伝わりづらい・伝わらない」が 67.1%と最も高く、次いで「お互いの意思を伝えるために時間がかかる」が 49.3%、「意思伝達の手段がわからない」が 33.8%となっている。



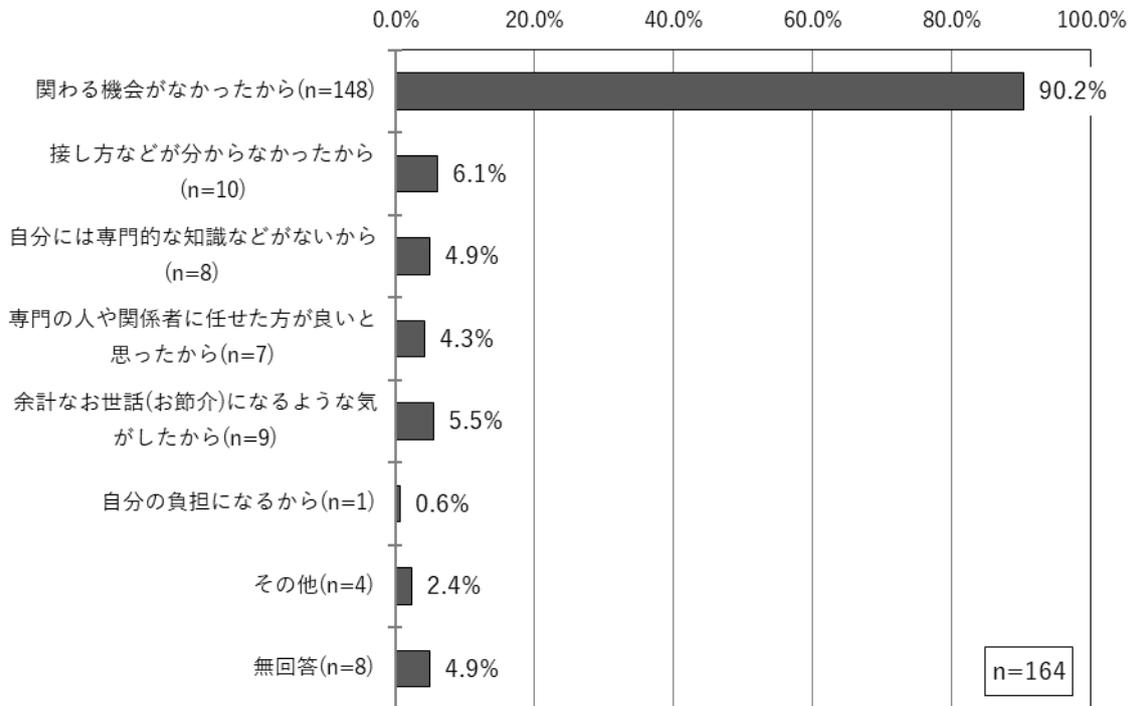
問5 あなたは、障がいのある方と日常のあいさつや仕事上の対応など、生活の中で接することはありますか。

「接することはない」が 41.2%と最も高く、次いで「職場や学校」が 25.6%、「家族、親族」が 13.6%となっている。



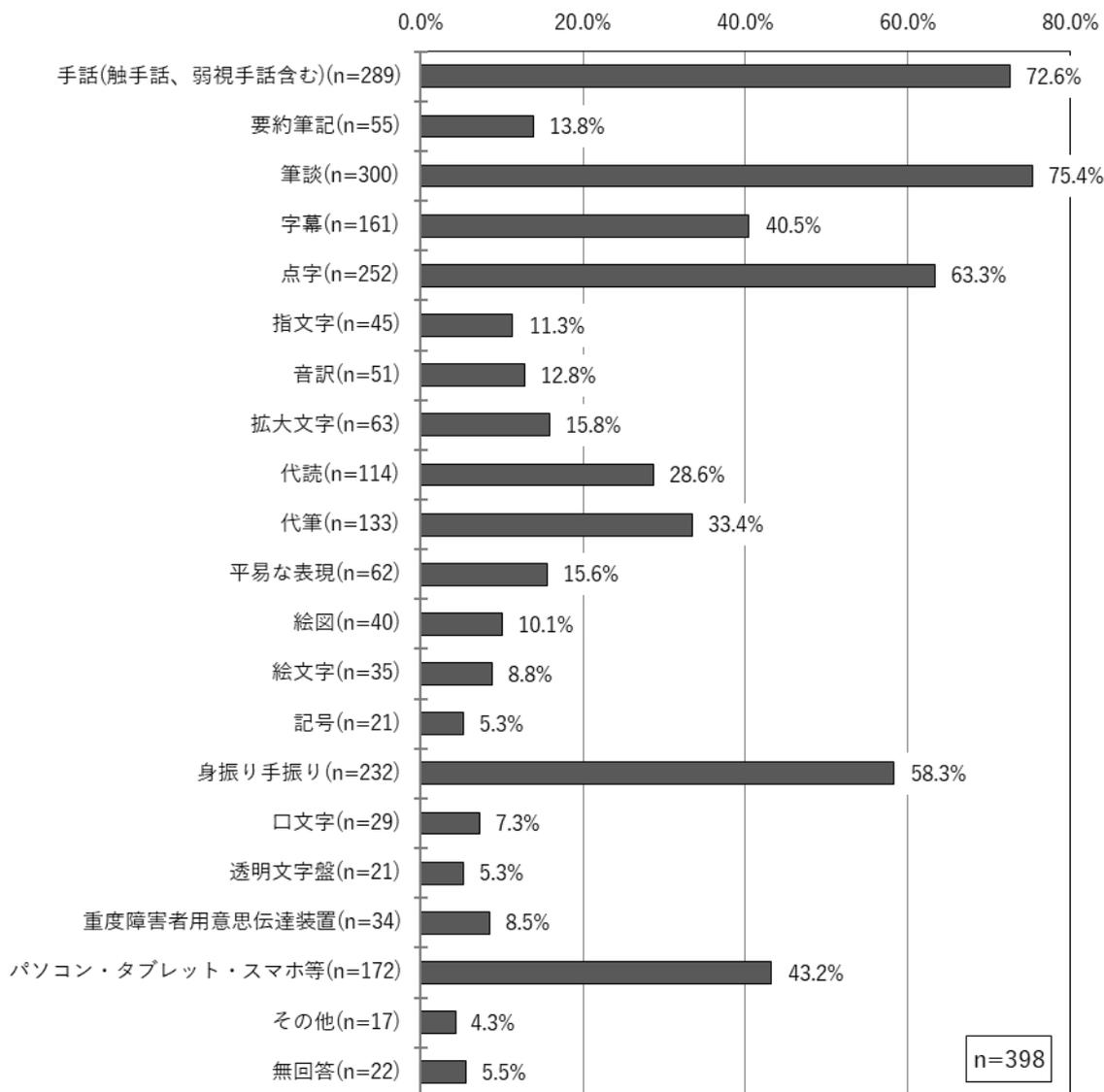
問6 問5で障がいのある方と生活の中で、「⑪接することはない」と答えた方に伺います。
関わったことがない理由として当てはまるものすべてに○をしてください。

「関わる機会がなかったから」が90.2%と最も高く、次いで「接し方などが分からなかったから」が6.1%、「余計なお世話(お節介)になるような気がしたから」が5.5%となっている。



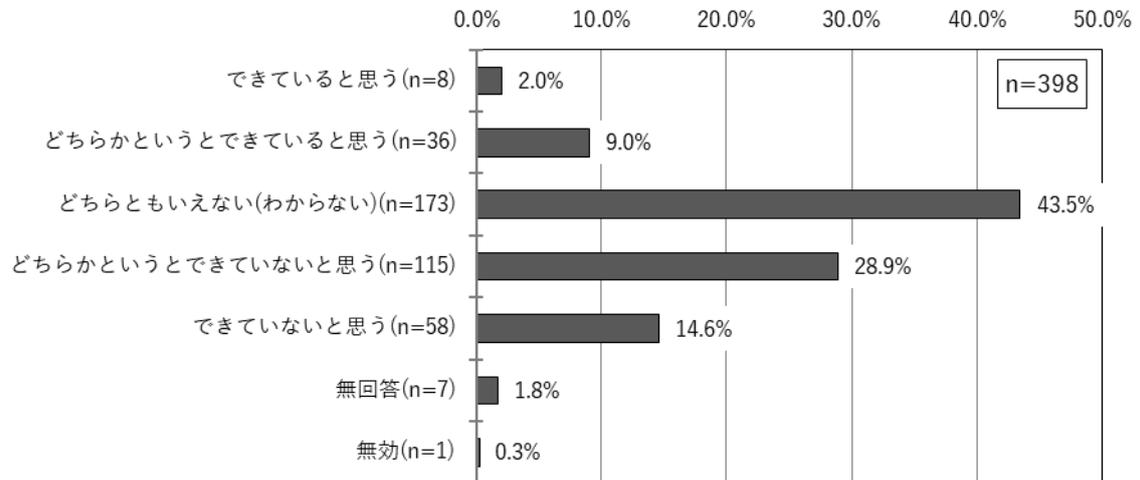
問7 あなたが障がいのある方のコミュニケーション手段として知っているものすべてに○をしてください。

「筆談」が75.4%と最も高く、次いで「手話(触手話、弱視手話含む)」が72.6%、「点字」が63.3%となっている。



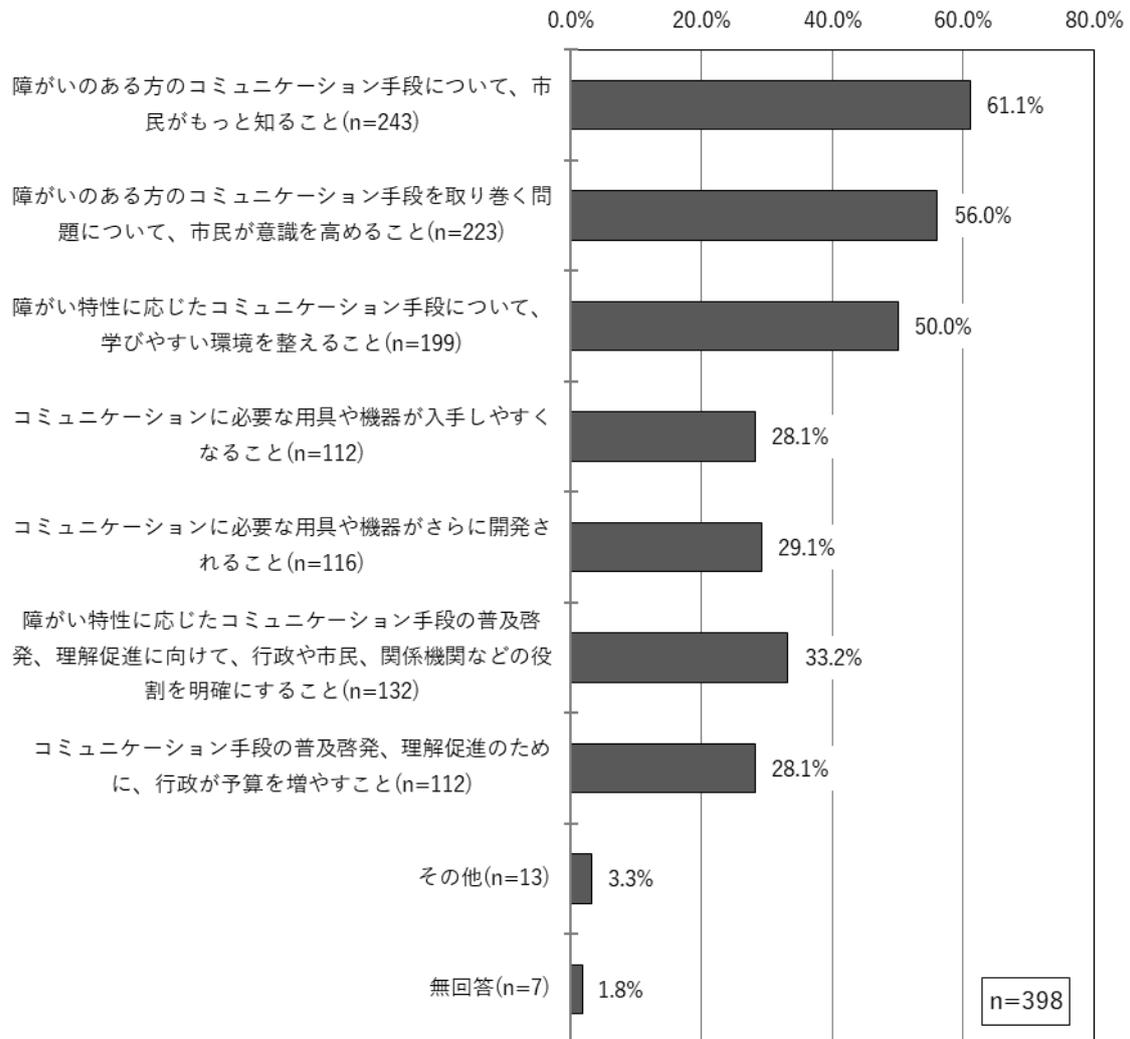
問8 あなたは、障がいのある方が十分に他者とコミュニケーションができていますか。当てはまるもの1つに○をしてください。

「どちらともいえない(分からない)」が43.5%と最も高く、次いで「どちらかというときできていないと思う」が28.9%、「できていないと思う」が14.6%となっている。



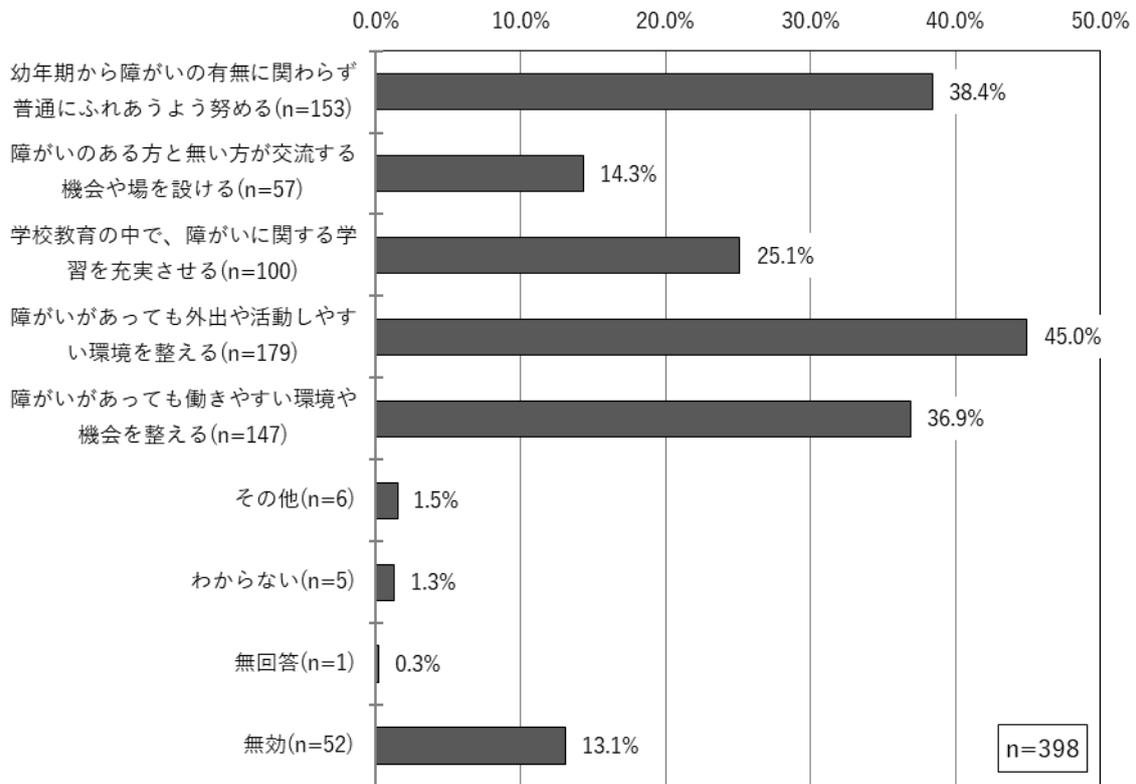
問9 あなたは、障がいのある方とのコミュニケーションや障がいのある方への情報提供について、より快適・的確・便利にするために、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「障がいのある方のコミュニケーション手段について、市民がもっと知ること」が61.1%と最も高く、次いで「障がいのある方のコミュニケーション手段を取り巻く問題について、市民が意識を高めること」が56.0%、「障がい特性に応じたコミュニケーション手段について、学びやすい環境を整えること」が50.0%となっている。



問 10 障がいのある人にとって住みやすいまちをつくるためには、どのような取組に特に力をいれる必要があると思いますか（○は2つまで）

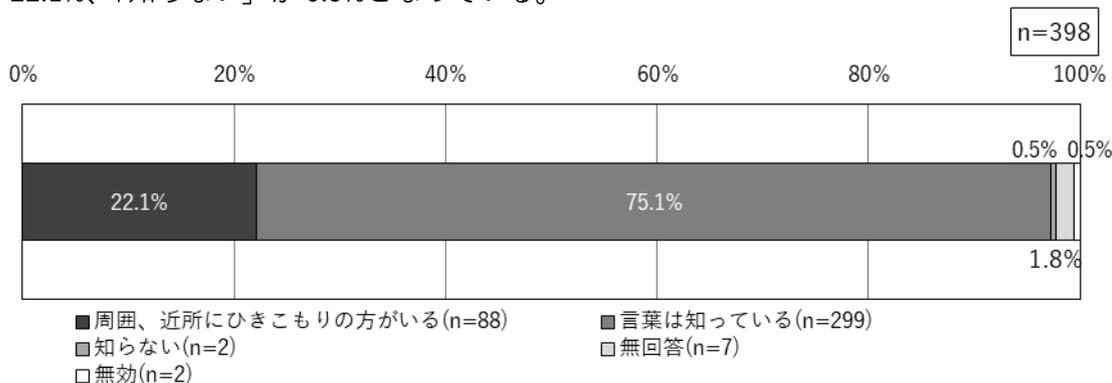
「障がいがあっても外出や活動しやすい環境を整える」が 45.0%と最も高く、次いで「幼少期から障がいの有無に関わらず普通にふれあうよう努める」が 38.4%、「障がいがあっても働きやすい環境や機会を整える」が 36.9%となっている。



問 11 仕事や学校にいかず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態が『ひきこもり』とされています。

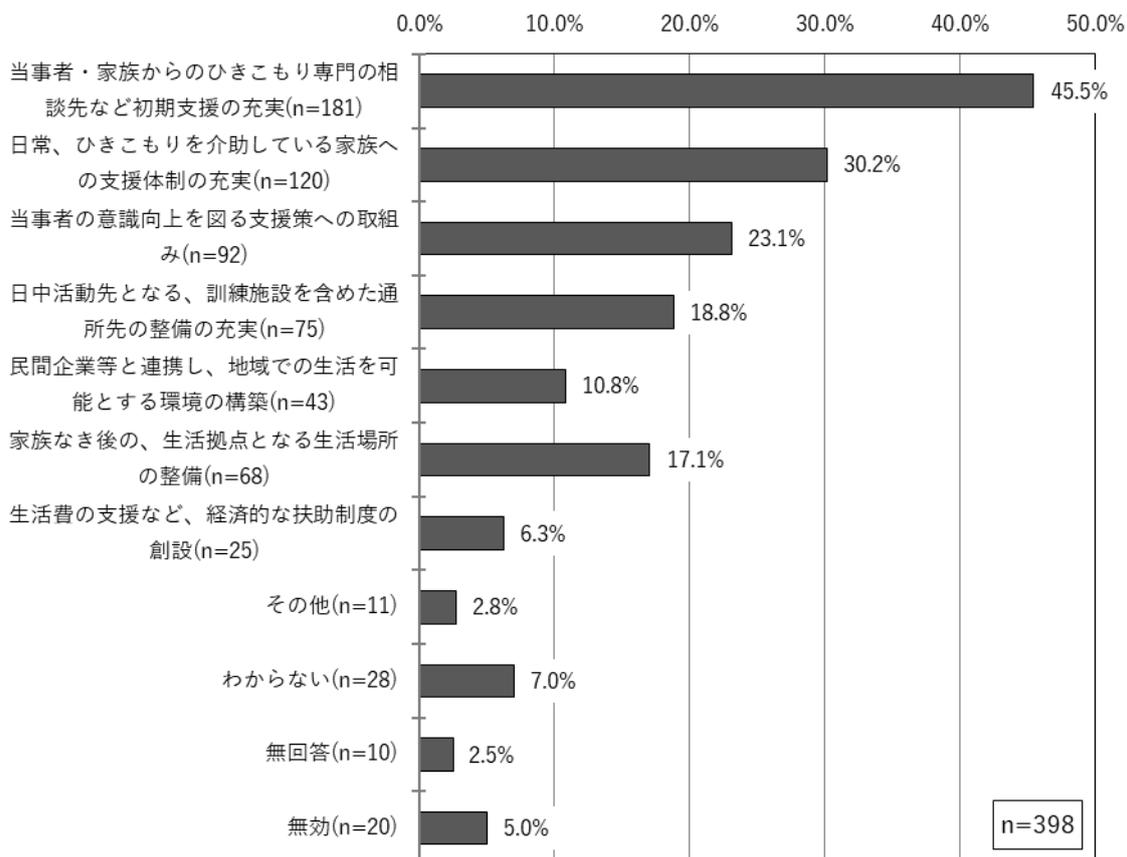
(1) 『ひきこもり』について知っていますか。

「言葉は知っている」が 75.1%と最も高く、次いで「周囲、近所にひきこもりの方がいる」が 22.1%、「知らない」が 0.5%となっている。



(2) 『ひきこもり』の対策として、特にどのような支援に力を入れる必要があると思いますか。(○は2つまで)

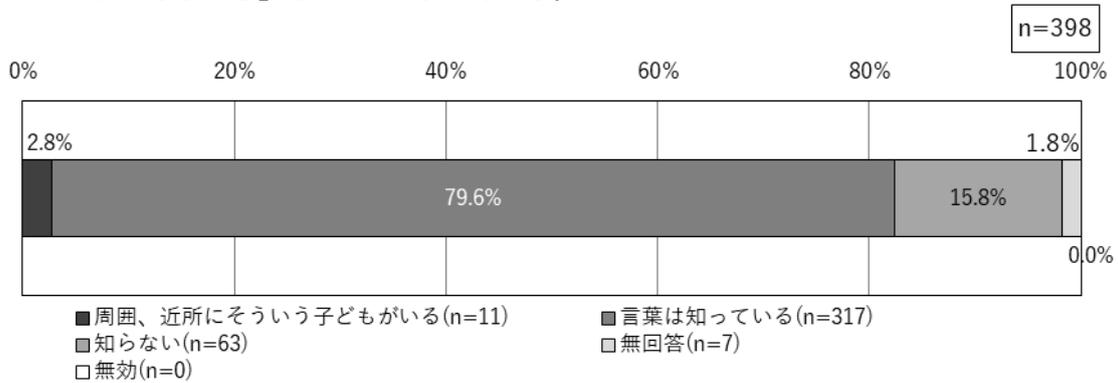
「当事者・家族からのひきこもり専門の相談先など初期支援の充実」が 45.5%と最も高く、次いで「日常、ひきこもりを介助している家族への支援体制の充実」が 30.2%、「当事者の意識向上を図る支援策への取組み」が 23.1%となっている。



問 12 家族が障がい者になった場合、ヤングケアラーと呼ばれる、未成年の子どもが家事や家族の世話をする中心になってしまう事例があります。

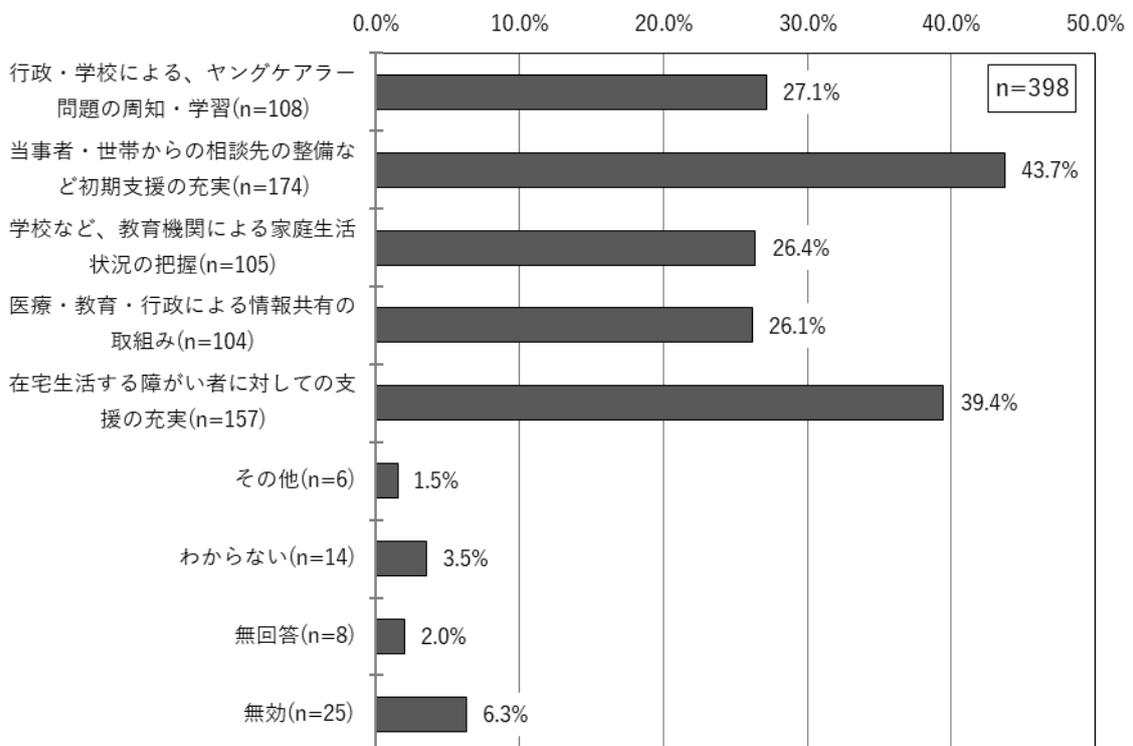
(1) ヤングケアラーについて知っていますか。

「言葉は知っている」が 79.6%と最も高く、次いで「知らない」が 15.8%、「周囲、近所にそういう子どもがいる」が 2.8%となっている。



(2) 子どもに過度な負担がかからないように、特にどのような取組に力を入れる必要があると思いますか。(○は2つまで)

「当事者・世帯からの相談先の整備など初期支援の充実」が 43.7%と最も高く、次いで「在宅生活する障がい者に対する支援の充実」が 39.4%、「行政・学校による、ヤングケアラー問題の周知・学習」が 27.1%となっている。

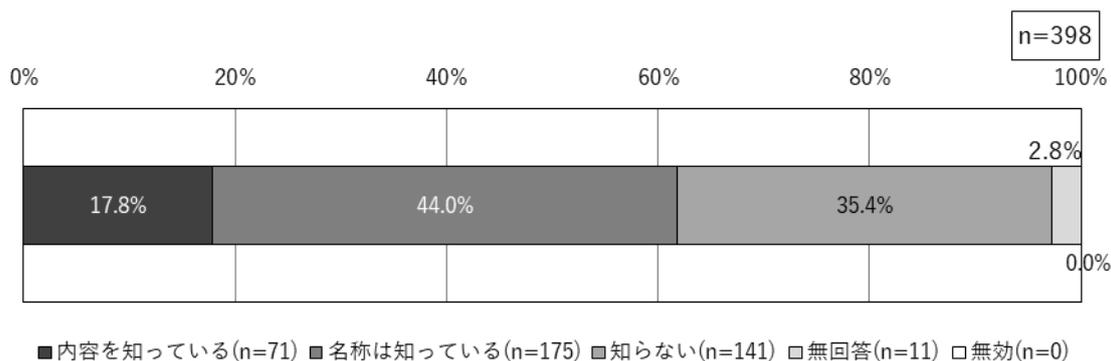


問 13 あなたは、「共生社会」という言葉を知っていますか。

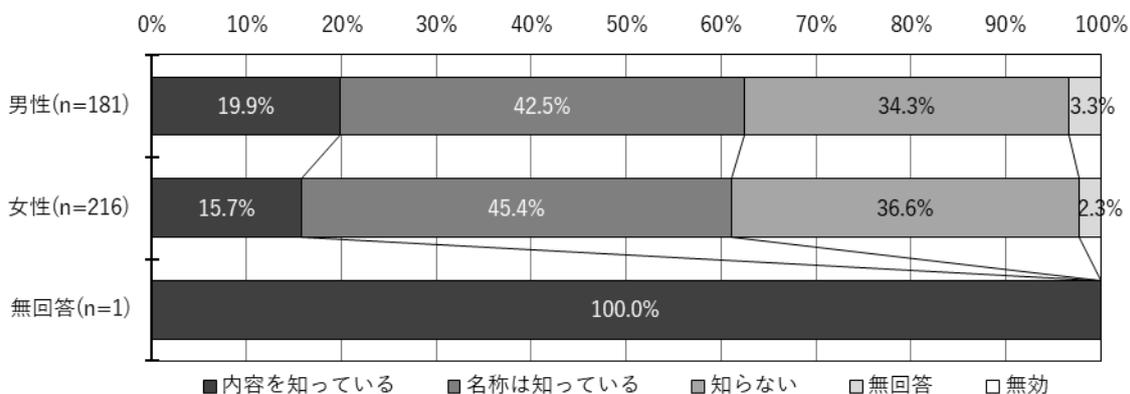
全体では、「名称は知っている」が 44.0%と最も高く、次いで「知らない」が 35.4%、「内容を知っている」が 17.8%となっている。

性別にみると、『男性』では「名称は知っている」が 42.5%と最も高く、次いで「知らない」が 34.3%、「内容を知っている」が 19.9%となっており、『女性』では「名称は知っている」が 45.4%と最も高く、次いで「知らない」が 36.6%、「内容を知っている」が 15.7%となっている。

年齢別にみると、「内容を知っている」は『18~19 歳』の 38.5%、「名称は知っている」は『65~69 歳』の 71.4%、「知らない」は『45~49 歳』の 60.7%が最も高くなっている。

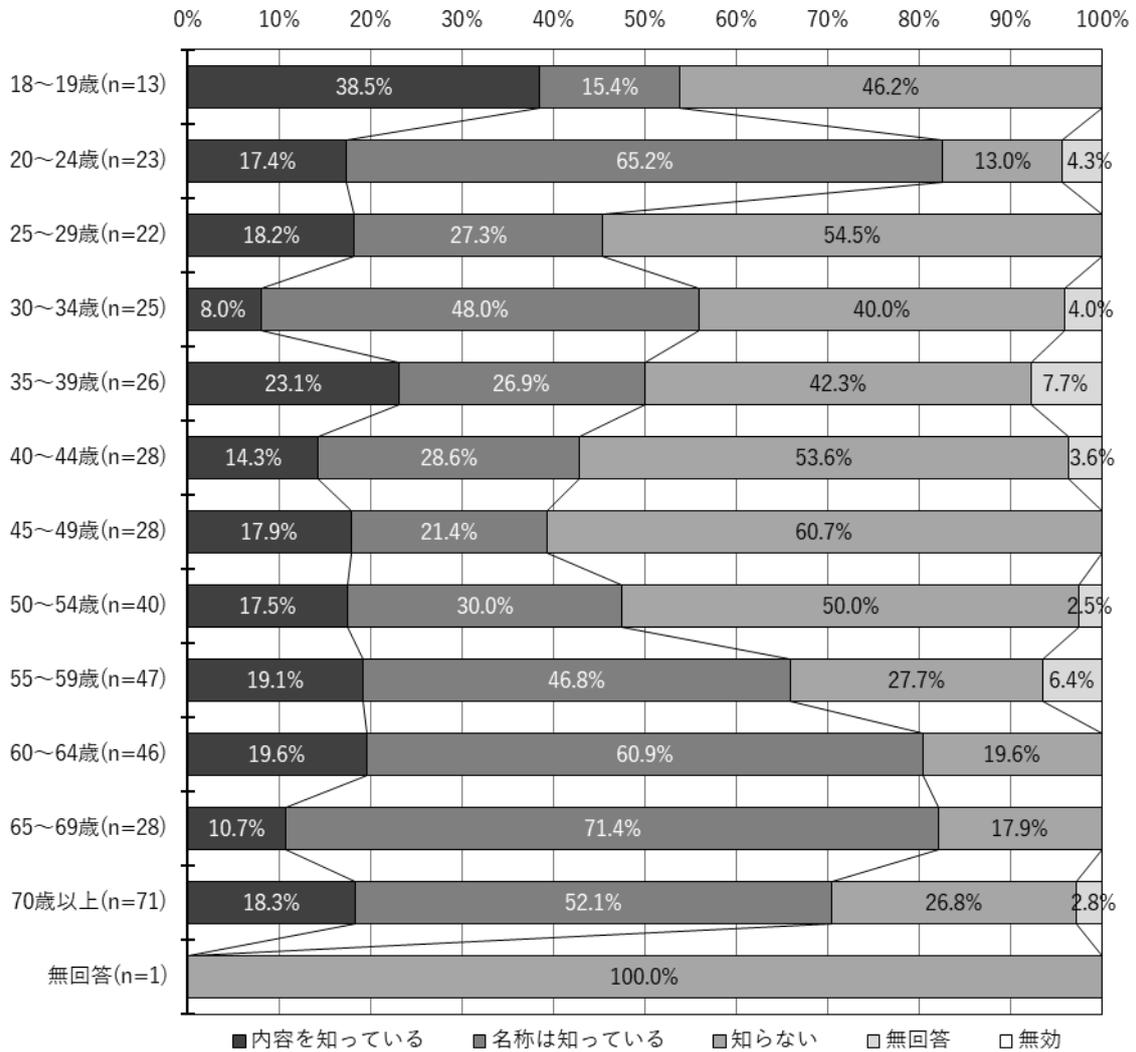


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



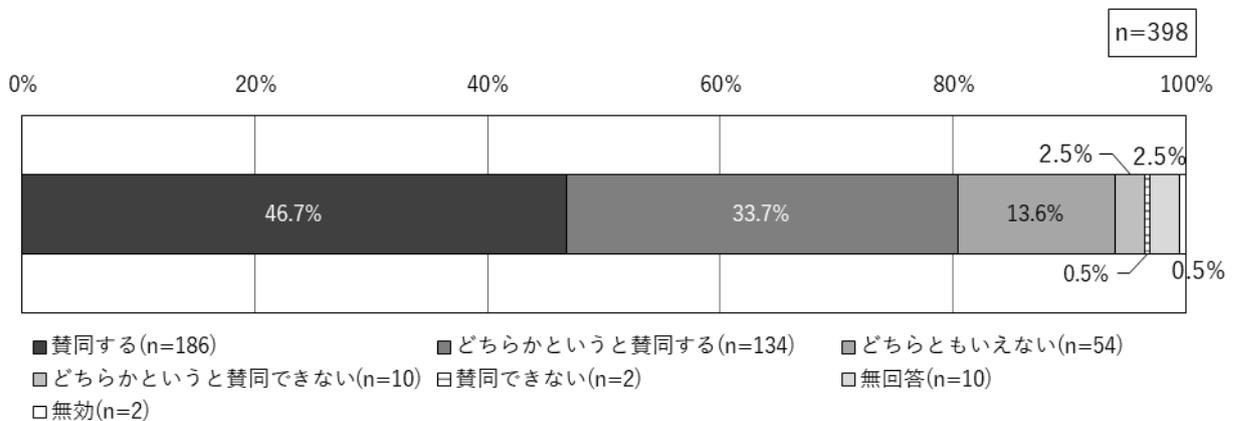
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 14 あなたは、「共生社会」「障がいのある方との共生」という考え方について、どう思いますか。あなたの考えに一番近い番号1つに○をしてください。

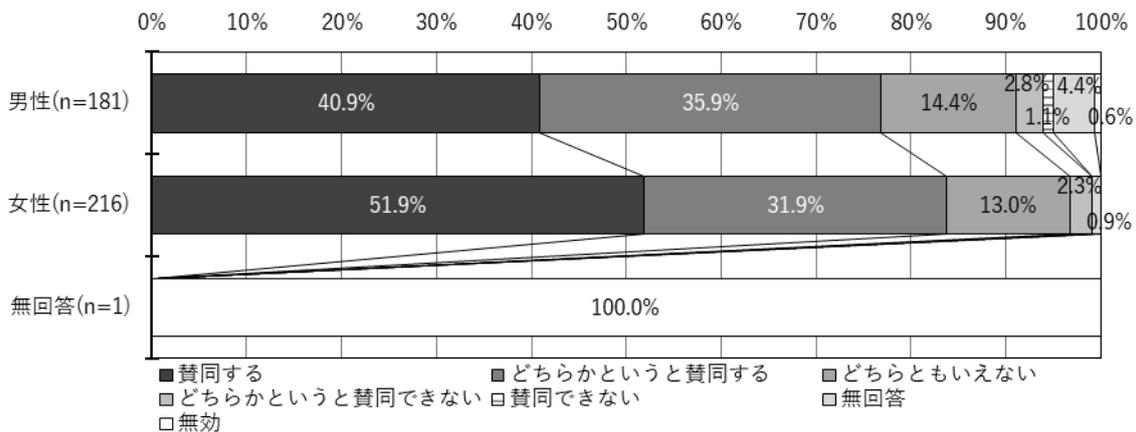
全体では、「賛同する」が46.7%と最も高く、次いで「どちらかと賛同する」が33.7%、「どちらともいえない」が13.6%となっている。

性別にみると、『男性』では「賛同する」が40.9%と最も高く、「賛同できない」が1.1%と最も低い。『女性』では「賛同する」が51.9%と最も高く、「賛同できない」が0.00%と最も低くなっている。

年齢別にみると、「賛同する」は『20~24歳』の69.6%、「どちらかというと賛同する」は『25~29歳』の45.5%、「どちらともいえない」は『45~49歳』の25.0%、「どちらかというと賛同できない」は『30~34歳』の12.0%、「賛同できない」は『40~44歳』の3.6%が最も高くなっている。

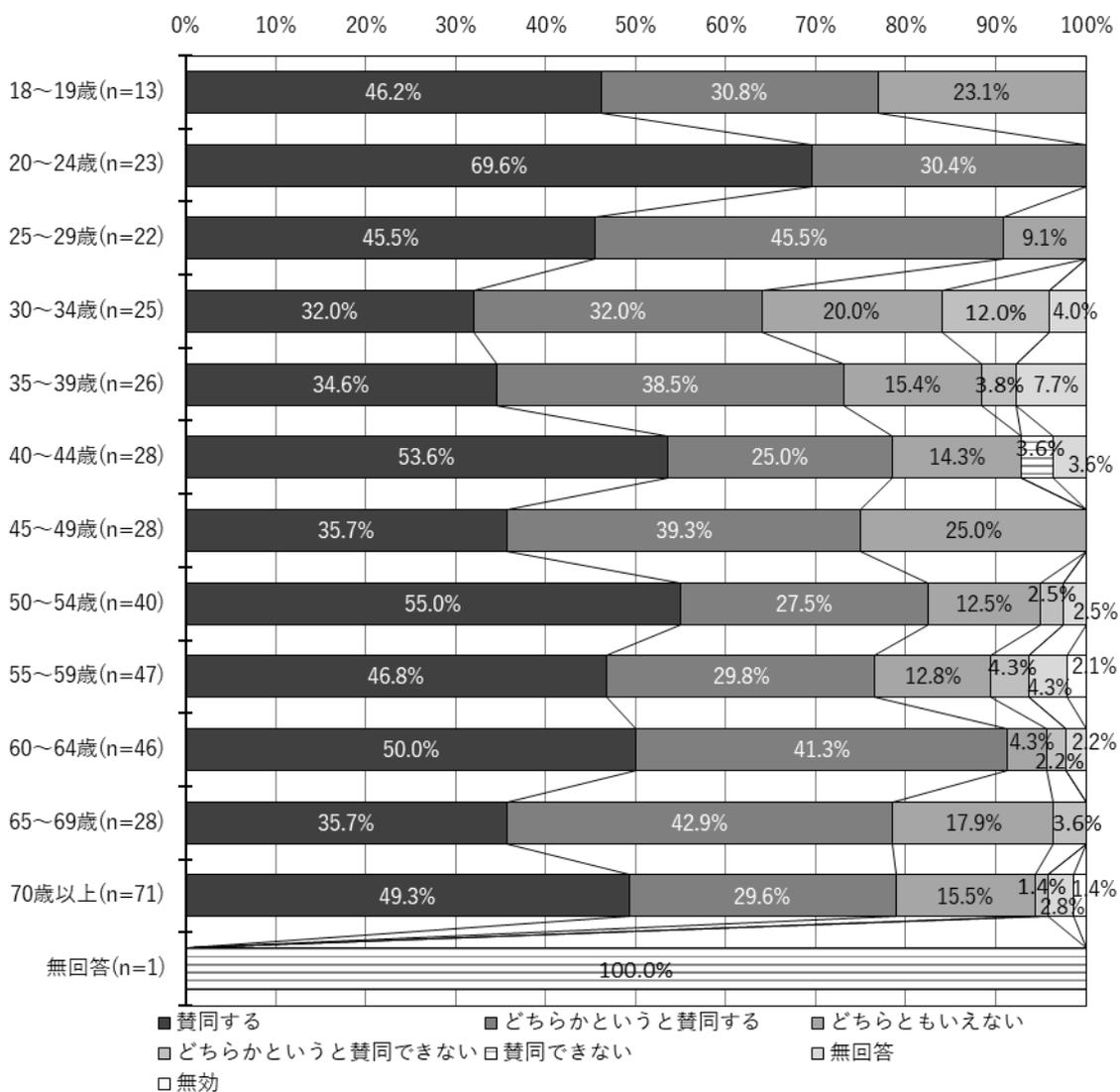


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

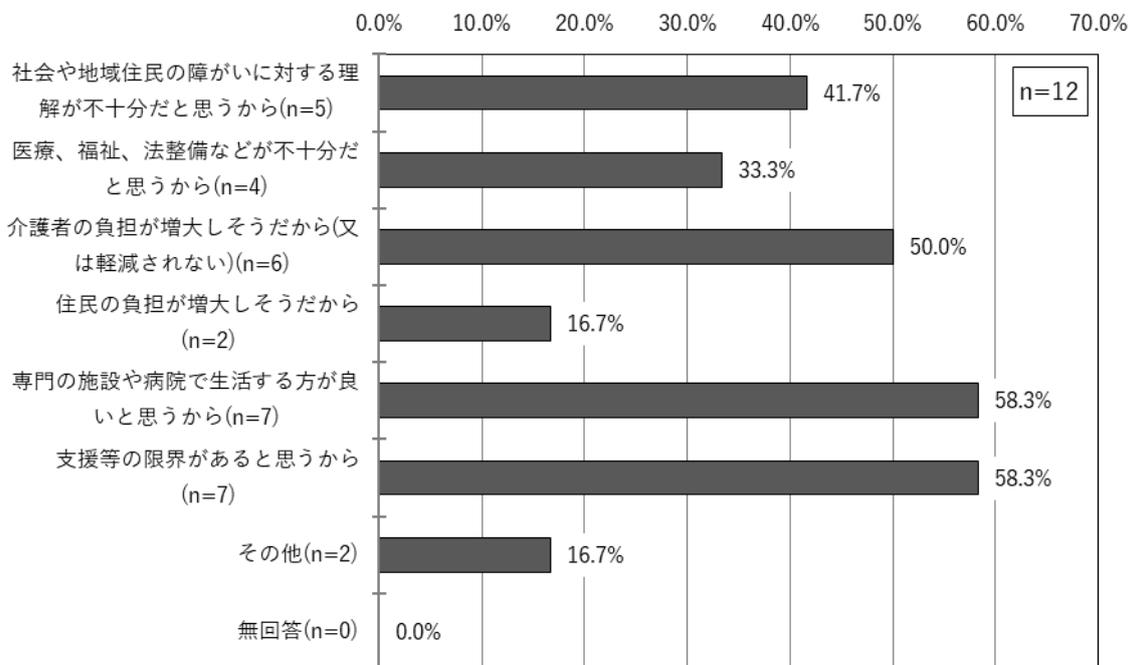
【クロス集計（年齢別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

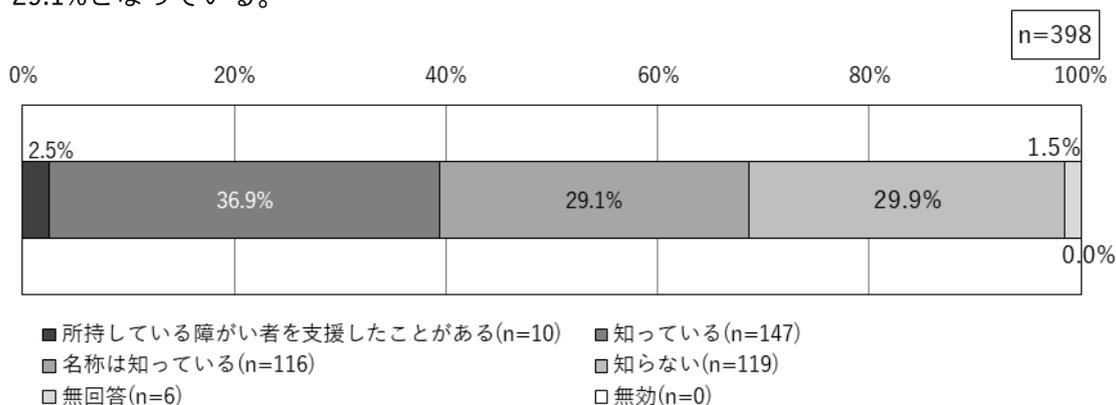
問 15 問 14 で「④どちらかいうと賛同できない」「⑤賛同できない」と答えた方に伺います。

「専門の施設や病院で生活する方が良いと思うから」及び「支援等の限界があると思うから」が 58.3%と最も高く、次いで「介護者の負担が増大しそうだから(又は軽減されない)」が 50.0%、「社会や地域住民の障がいに対する理解が不十分だと思うから」が 41.7%となっている。



問 16 あなたは、「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」を知っていますか。

「知っている」が 36.9%と最も高く、次いで「知らない」が 29.9%、「名称は知っている」が 29.1%となっている。

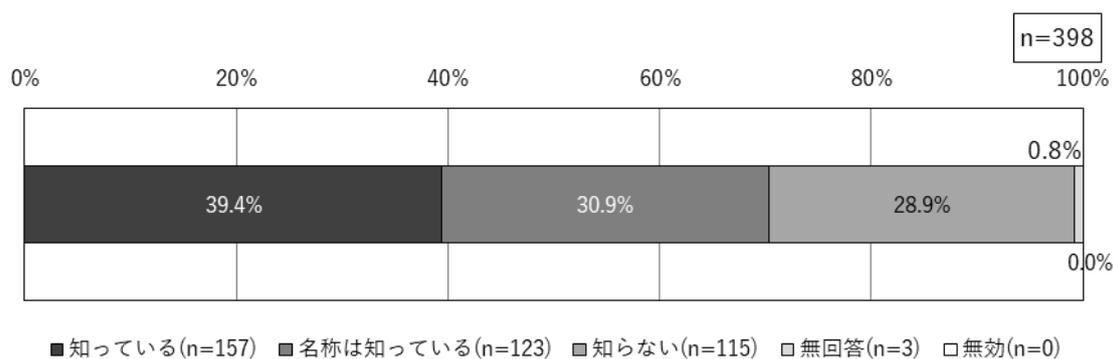


問 17 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。

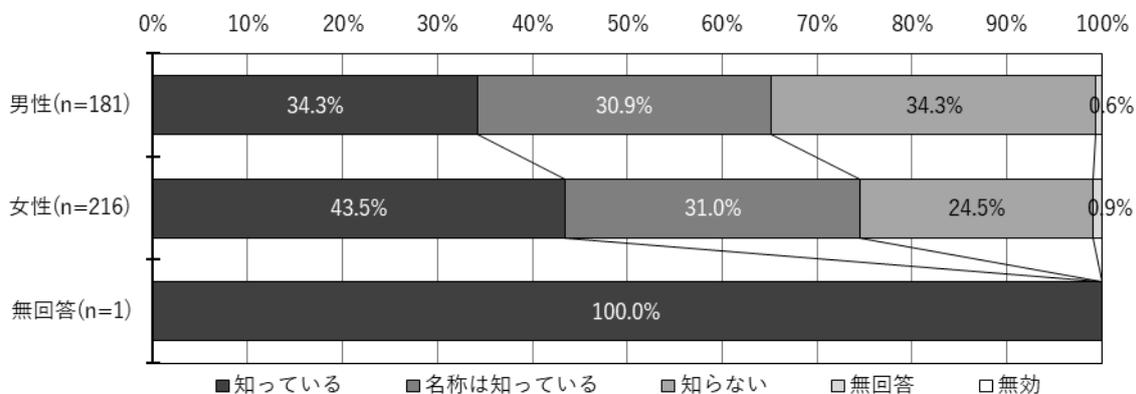
全体では、「知っている」が 39.4%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 30.9%、「知らない」が 28.9%となっている。

性別にみると、『男性』では「知っている」及び「知らない」が 34.3%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 30.9%となっており、『女性』では「知っている」が 43.5%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 31.0%、「知らない」が 24.5%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『65~69 歳』の 57.1%、「名称は知っている」は『40~44 歳』の 39.3%、「知らない」は『18~19 歳』の 61.5%が最も高くなっている。

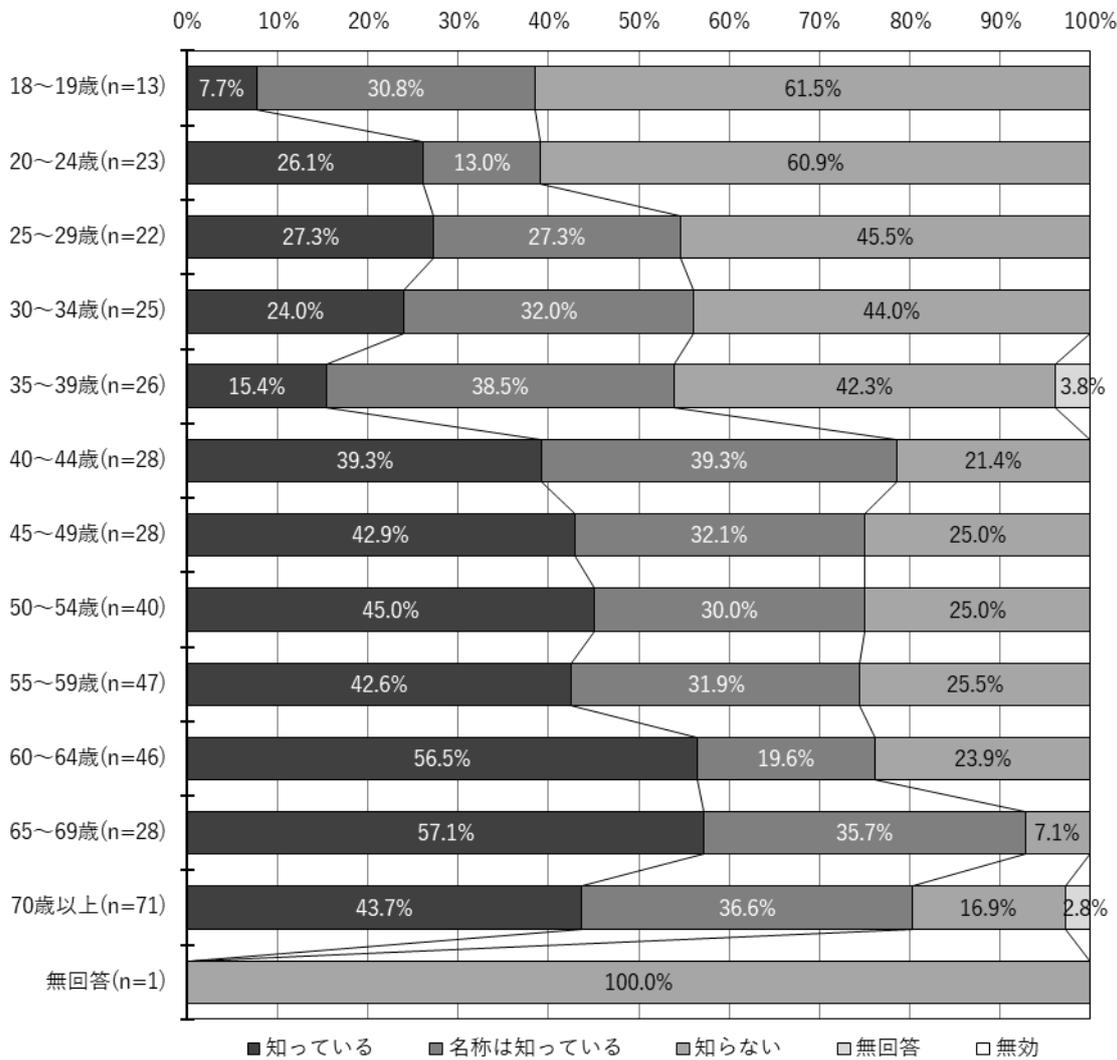


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



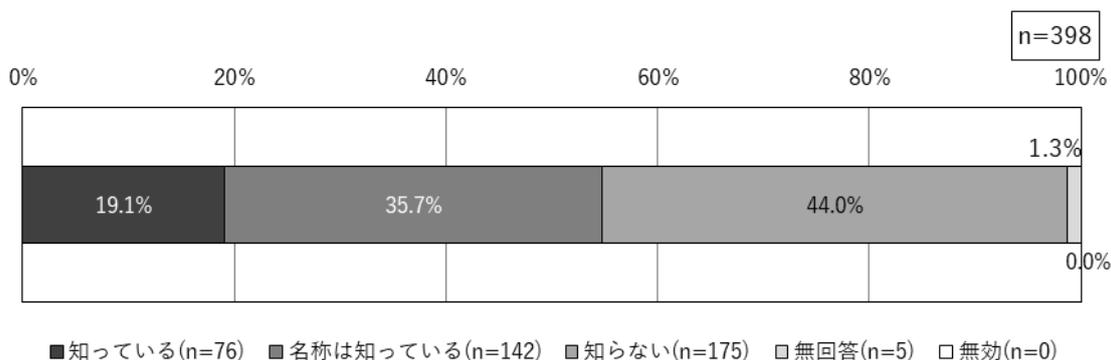
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 18 あなたは、「障害者虐待防止法」（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）を知っていますか。

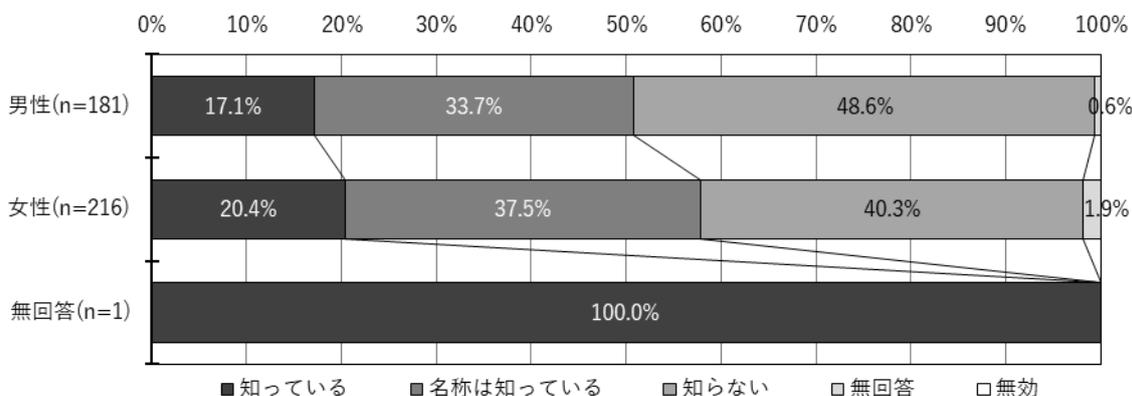
全体では、「知らない」が 44.0%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 35.7%、「知っている」が 19.1%となっている。

性別にみると、『男性』では「知らない」が 48.6%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 33.7%、「知っている」が 17.1%となっており、『女性』では「知らない」が 40.3%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 37.5%、「知っている」が 20.4%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『65~69 歳』の 28.6%、「名称は知っている」は『40~44 歳』の 46.4%、「知らない」は『18~19 歳』の 61.5%が最も高くなっている。

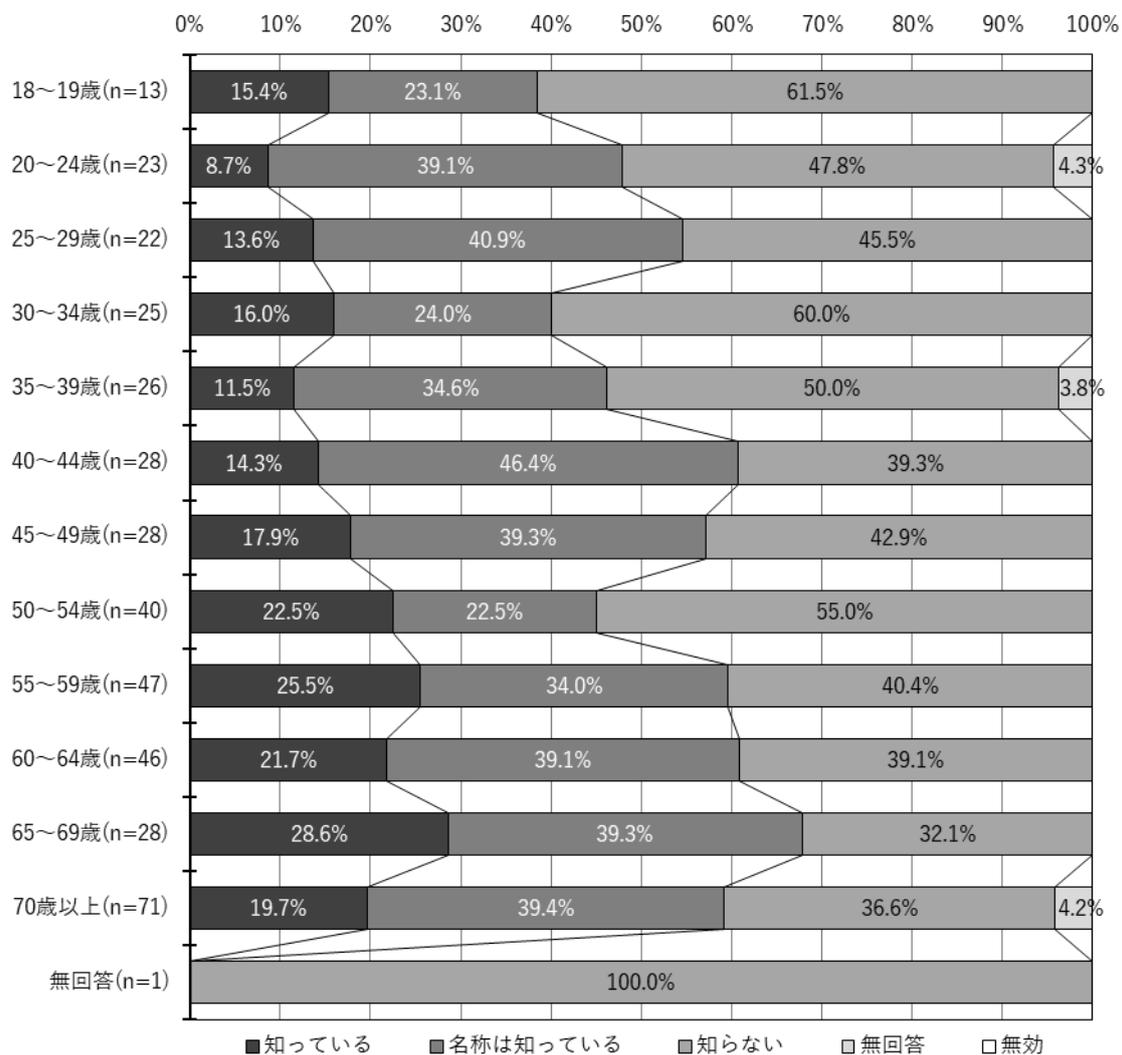


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



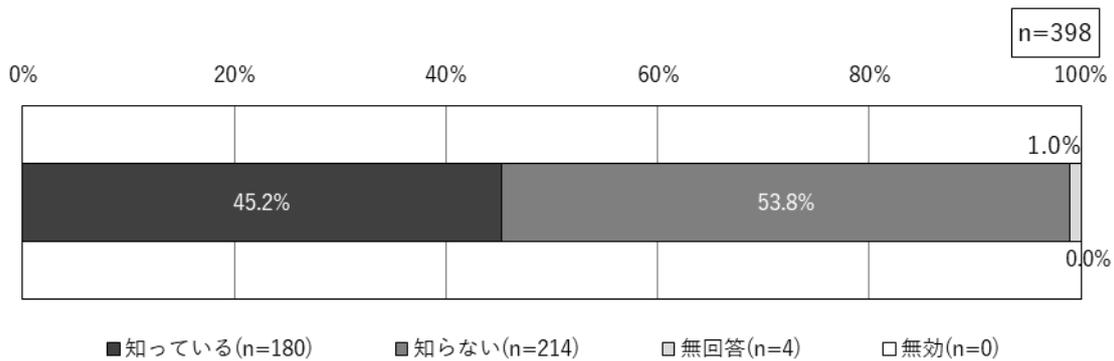
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 19 あなたは、障がいのある方への虐待を発見したときに通報義務があることを知っていますか。

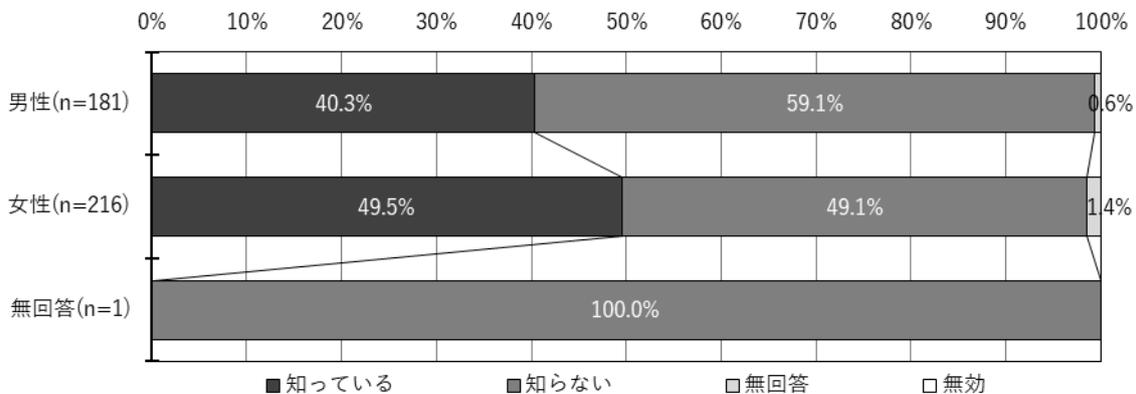
全体では、「知らない」が 53.8%、「知っている」が 45.2%となっている。

性別にみると、『男性』では「知らない」が 59.1%、「知っている」が 40.3%、『女性』では「知っている」が 49.5%、「知らない」が 49.1%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『65~69 歳』が 57.1%と最も高く、次いで『45~49 歳』が 53.6%、『55~59 歳』が 46.8%となっており、「知らない」は『30~34 歳』が 64.0%と最も高く、次いで『18~19 歳』が 61.5%、『20~24 歳』が 60.9%となっている。

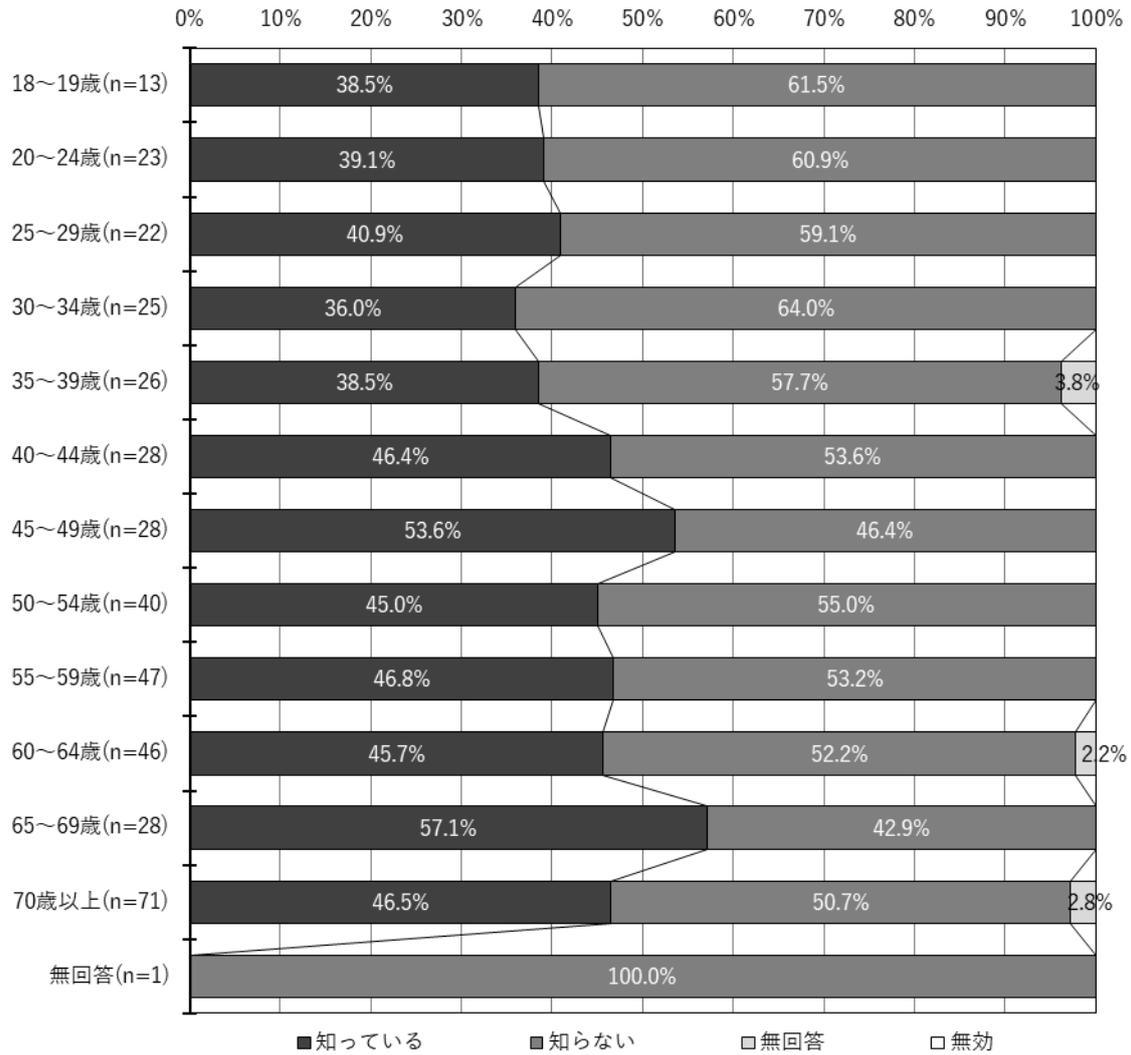


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



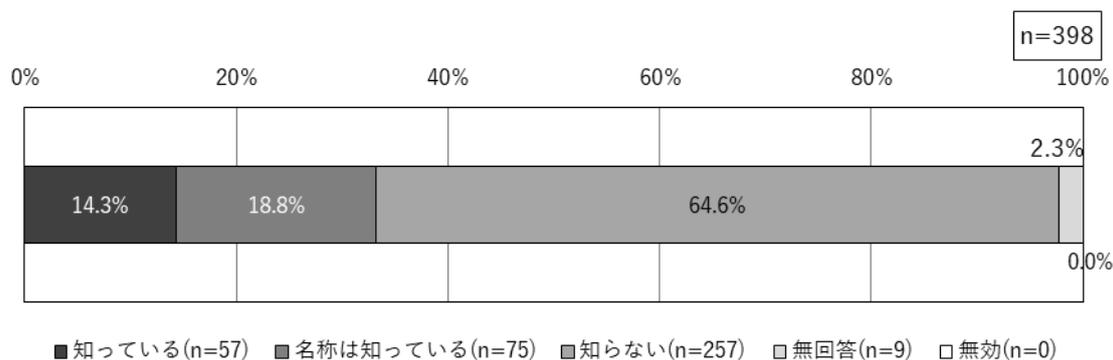
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 20 あなたは、「障害者差別解消法」（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）を知っていますか。

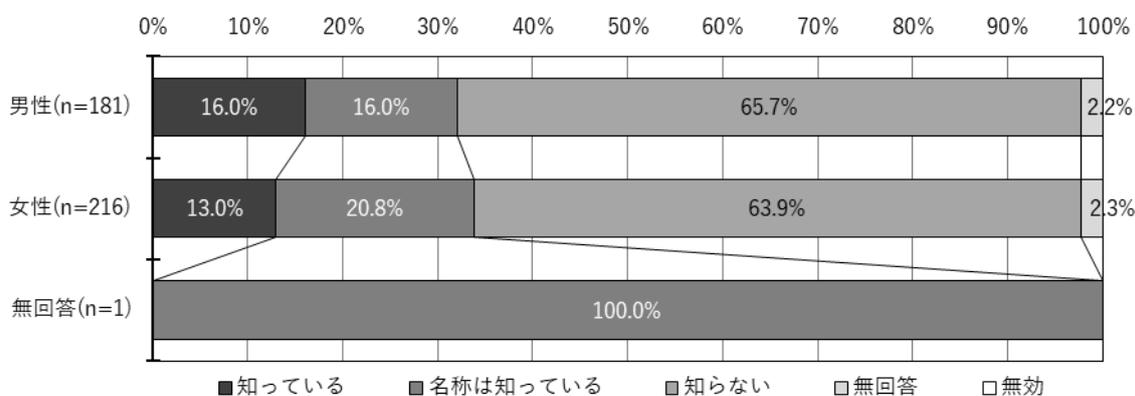
全体では、「知らない」が 64.6%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 18.8%、「知っている」が 14.3%となっている。

性別にみると、『男性』では「知らない」が 65.7%と最も高く、次いで「知っている」及び「名称は知っている」が 16.0%となっており、『女性』では「知らない」が 63.9%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 20.8%、「知っている」が 13.0%となっている。

年齢別にみると、「知っている」は『18~19歳』及び『35~39歳』の 23.1%、「名称は知っている」は『65~69歳』の 32.1%、「知らない」は『40~44歳』の 82.1%が最も高くなっている。

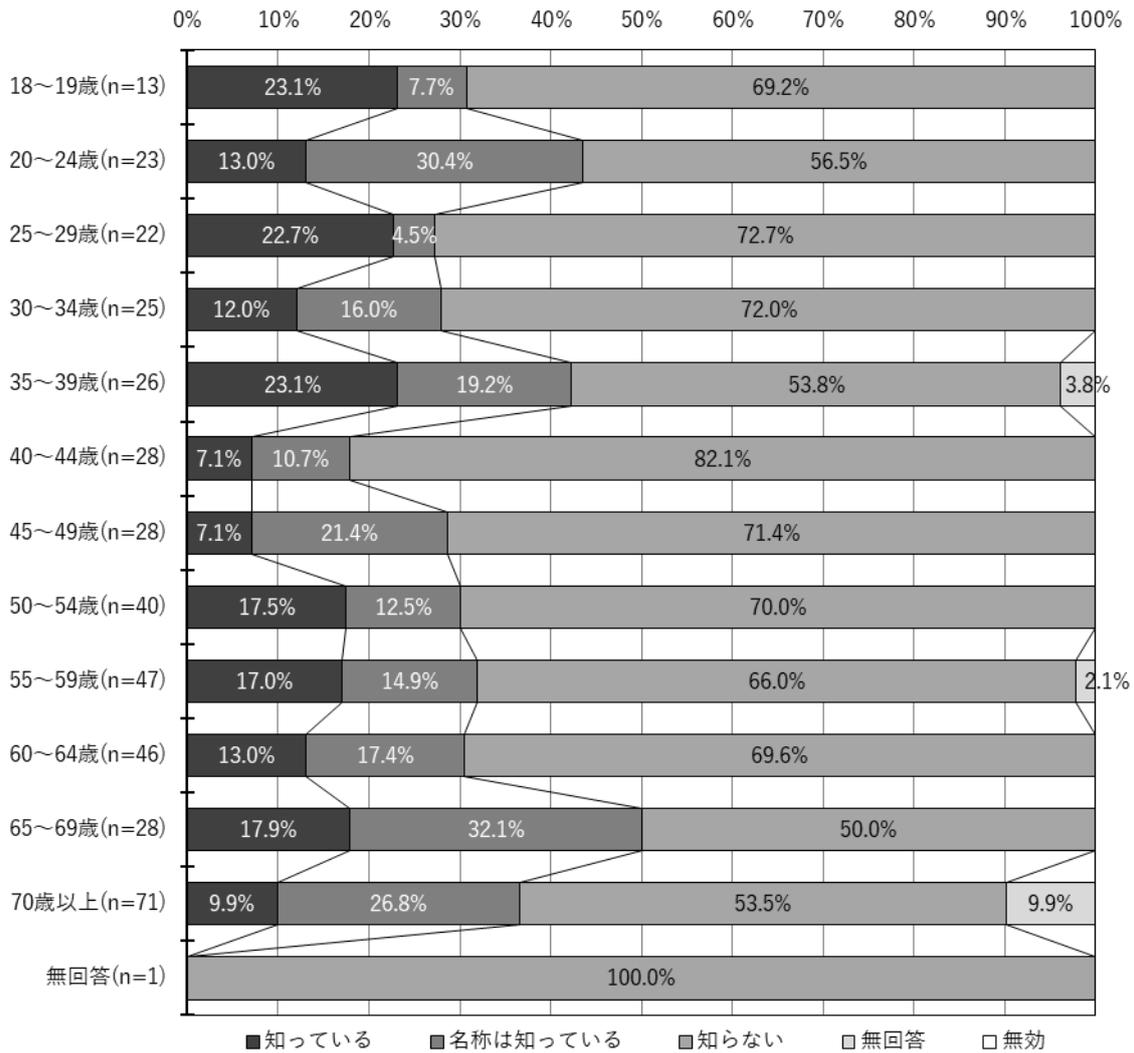


【クロス集計（性別）】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】



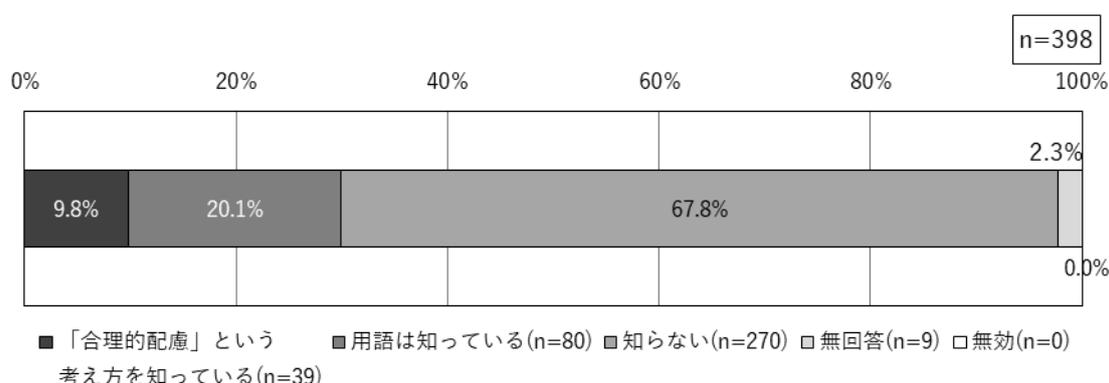
※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 21 あなたは、「合理的配慮」について知っていますか。

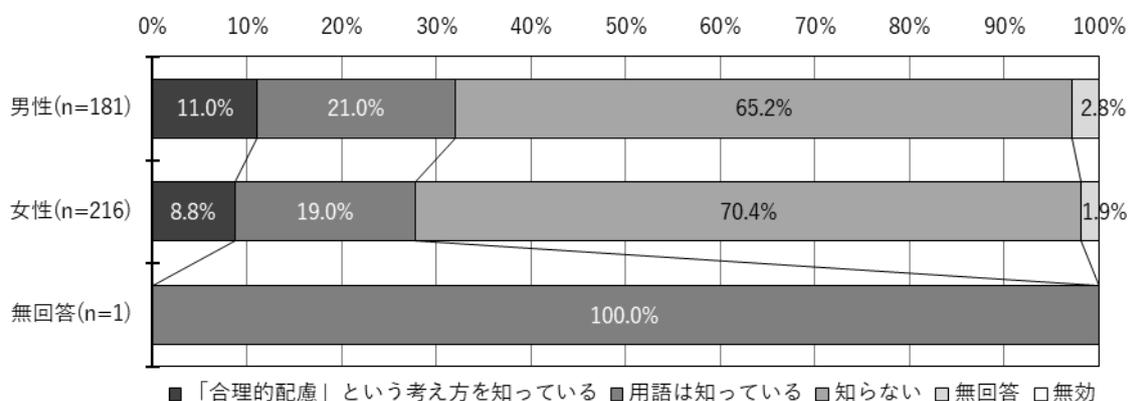
全体では、「知らない」が 67.8%と最も高く、次いで「用語は知っている」が 20.1%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 9.8%となっている。

性別にみると、『男性』では「知らない」が 65.2%と最も高く、次いで「用語は知っている」が 21.0%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 11.0%となっており、『女性』では「知らない」が 70.4%と最も高く、次いで「用語は知っている」が 19.0%、「合理的配慮という考え方を知っている」が 8.8%となっている。

年齢別にみると、「合理的配慮という考え方を知っている」は『35~39 歳』の 23.1%、「用語は知っている」は『20~24 歳』の 47.8%、「知らない」は『18~19 歳』の 76.9%が最も高くなっている。

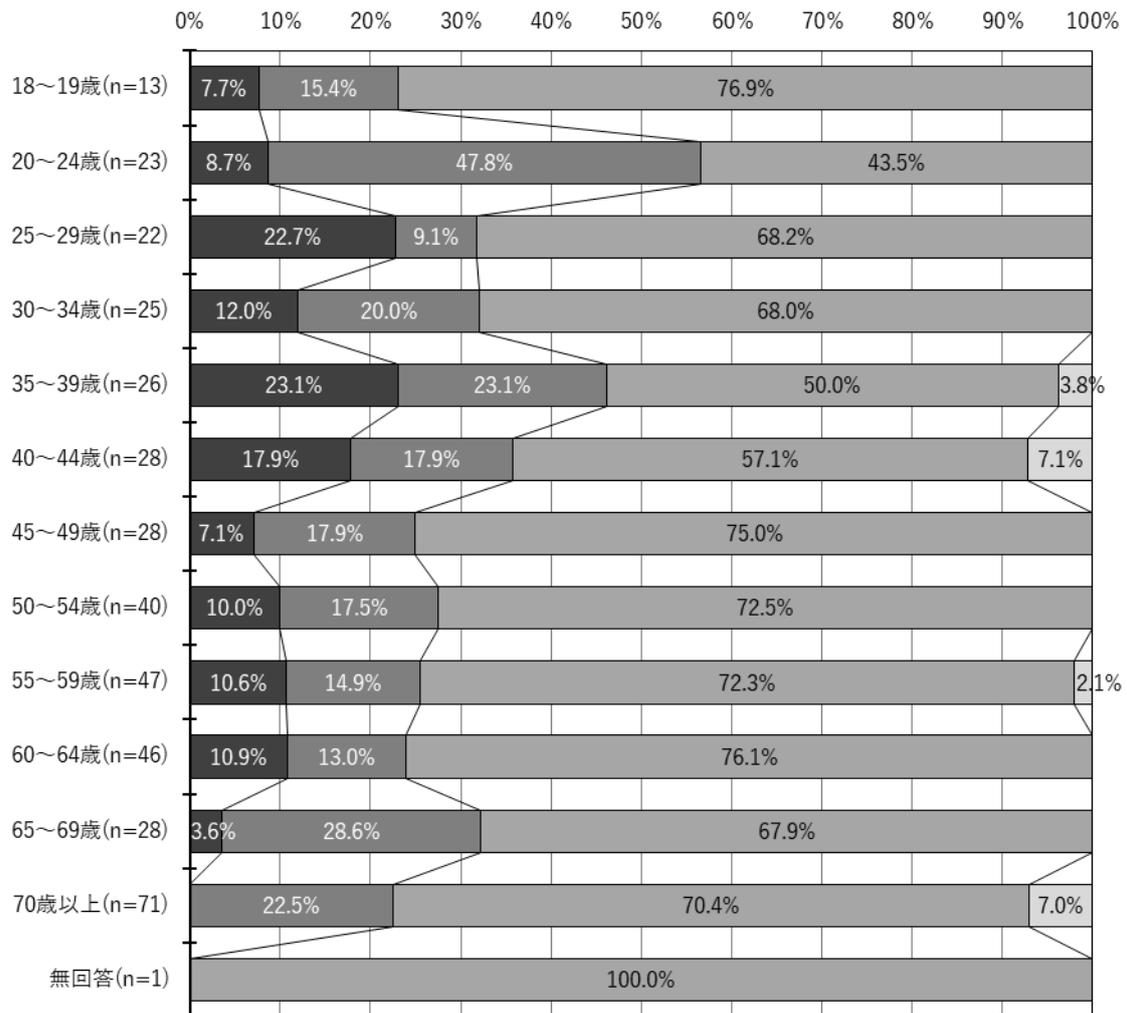


【クロス集計 (性別)】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】

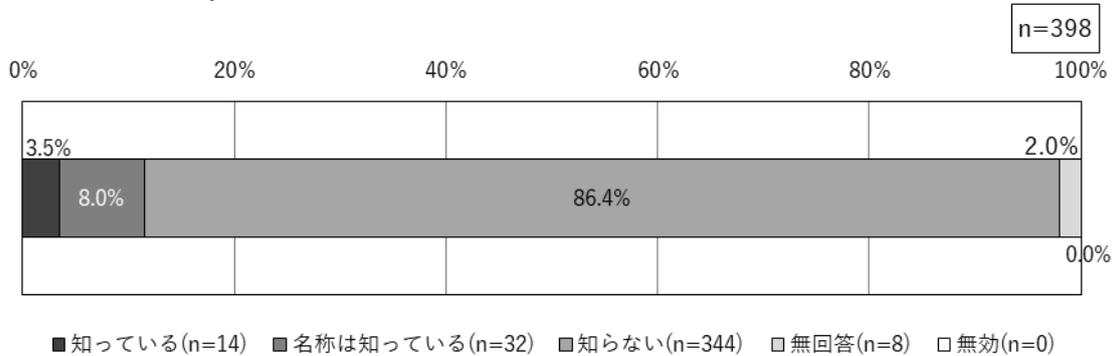


■「合理的配慮」という考え方を知っている ■用語は知っている ■知らない □無回答 □無効

※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

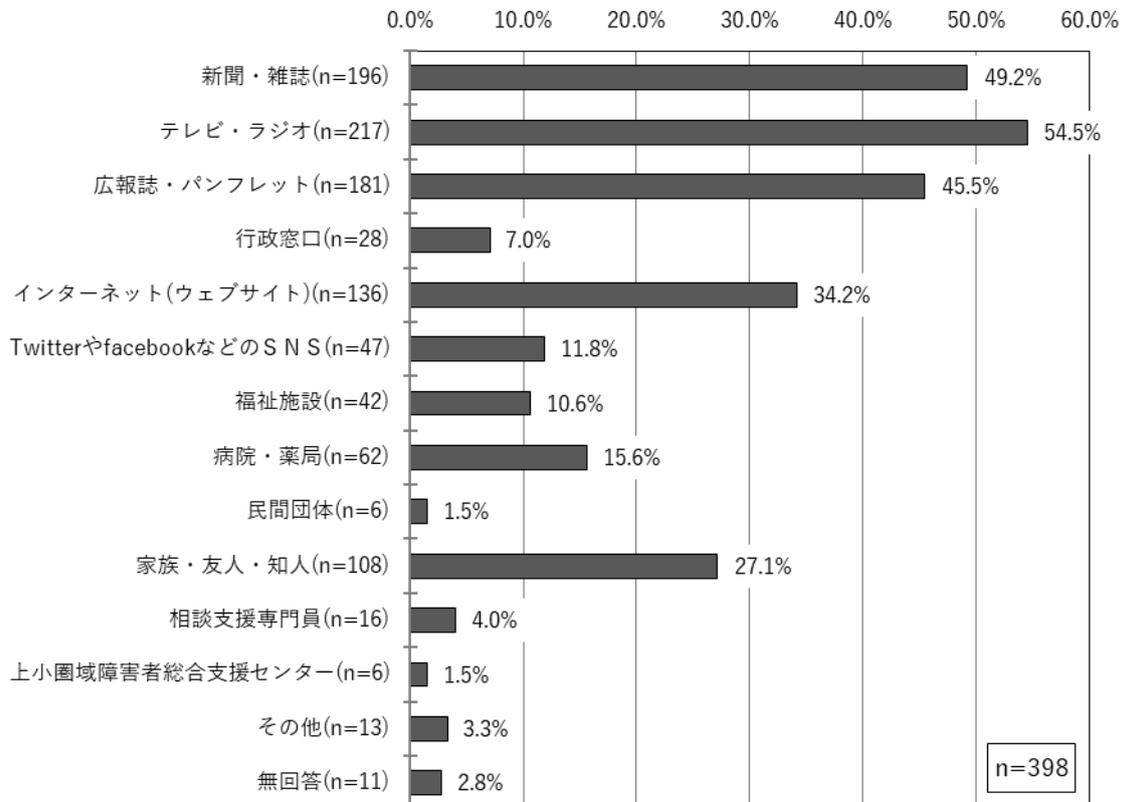
問 22 あなたは、「手話言語・情報コミュニケーション条例」（上田市手話言語の普及及び視
聴覚障害者等の意思疎通手段等の利用促進に関する条例）を知っていますか。

「知らない」が 86.4%と最も高く、次いで「名称は知っている」が 8.0%、「知っている」が 3.5%となっている。



問 23 あなたは、福祉等に関する情報をどこから入手していますか。当てはまるものすべて
に○をしてください。

「テレビ・ラジオ」が 54.5%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」が 49.2%、「広報誌・パン
フレット」が 45.5%となっている。

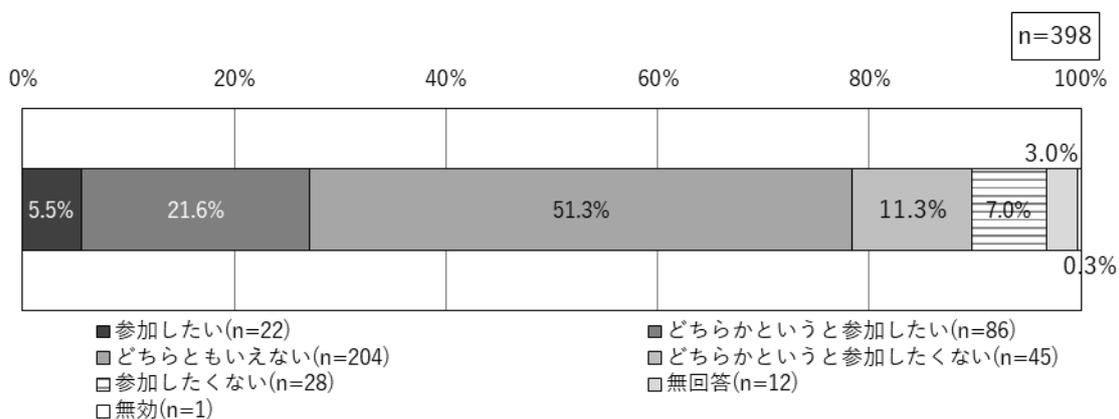


問 24 あなたは、障がいについての学習会があれば、参加したいですか。

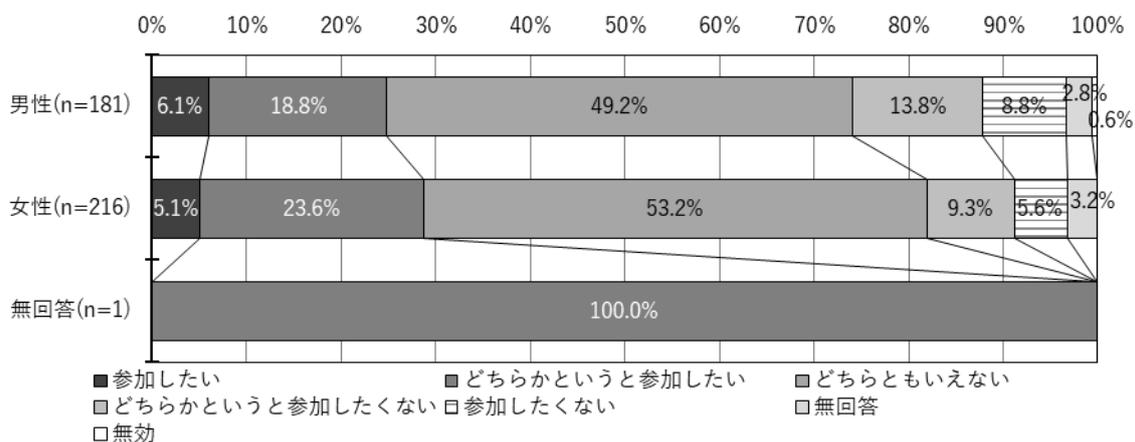
全体では、「どちらともいえない」が 51.3%と最も高く、次いで「どちらかというに参加したい」が 21.6%、「どちらかというに参加したくない」が 11.3%となっている。

性別にみると、『男性』では「どちらともいえない」が 49.2%と最も高く、「参加したい」が 6.1%と最も低い。『女性』では「どちらともいえない」が 53.2%と最も高く、「参加したい」が 5.1%と最も低くなっている。

年齢別にみると、「参加したい」は『45~49 歳』の 10.7%、「どちらかというに参加したい」は『65~69 歳』の 35.7%、「どちらともいえない」は『45~49 歳』の 60.7%、「どちらかというに参加したくない」は『18~19 歳』の 30.8%、「参加したくない」は『25~29 歳』の 13.6%が最も高くなっている。

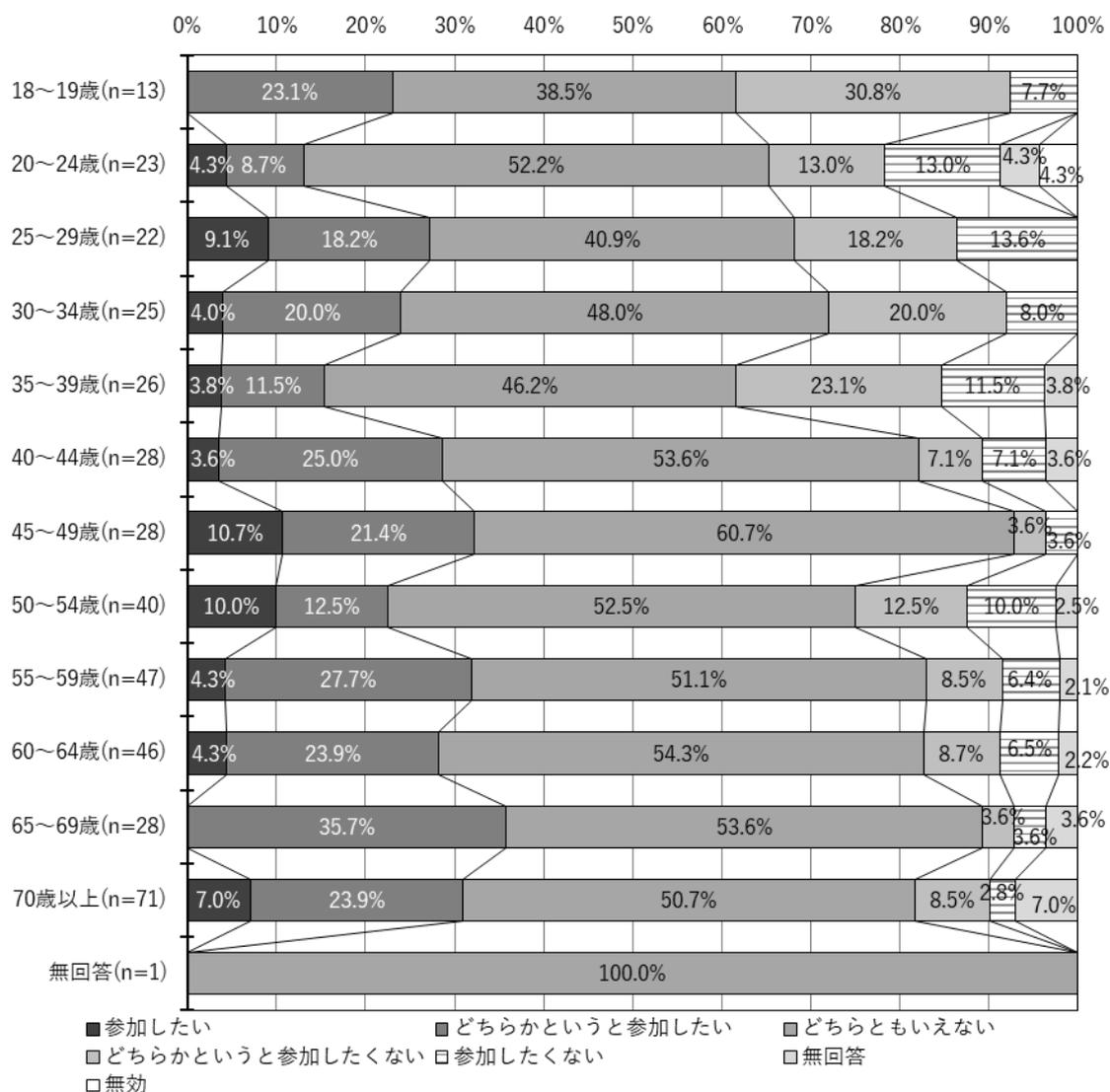


【クロス集計 (性別)】



※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

【クロス集計（年齢別）】

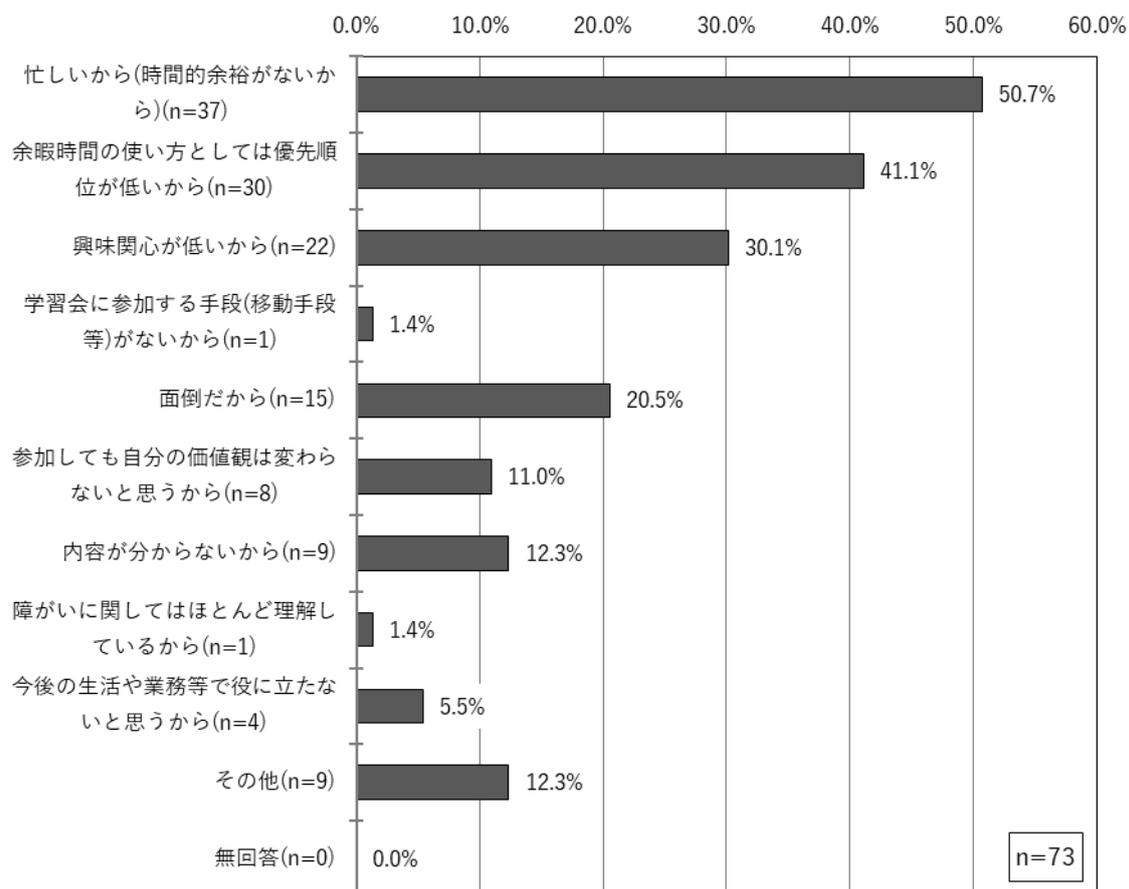


※積み上げ横棒グラフの各項目で0%は表記していません

問 25 問 24 で④、⑤のいずれかを選んだ方に伺います。

(1) なぜ参加したくないと思いますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「忙しいから(時間的余裕がないから)」が 50.7%と最も高く、次いで「余暇時間の使い方としては優先順位が低いから」が 41.1%、「興味関心が低いから」が 30.1%となっている。



(2) 条件によって参加が可能な場合、どのような条件なら参加できますか。(ア)～(エ)のそれぞれについて、都合がよいと考える選択肢に○をしてください。

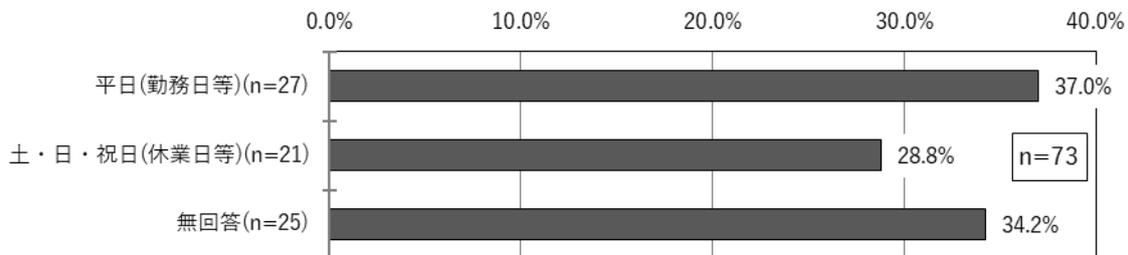
開催日は、「平日(勤務日等)」が 37.0%、「土・日・祝日(休業日等)」が 28.8%となっている。開催時間は、「就学・就労時間中(日中)」が 45.2%、「就学・就労時間外(夜間等)」が 19.2%となっている。

位置づけは、「学業・業務の一環として」が 46.6%、「自主的な自己啓発として」が 31.5%となっている。

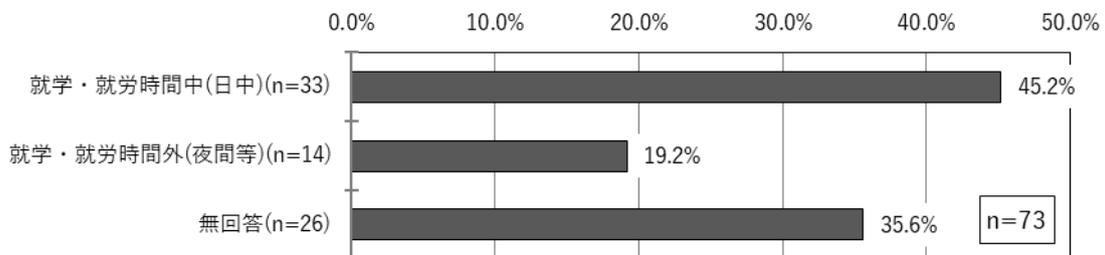
開催型式は、「一方的な講義形式」が 52.1%、「参加者同士の話し合いや発表あり」が 16.4%となっている。

その他の条件(自由記述)は「自由記述」が 9.6%となっている。

■開催日



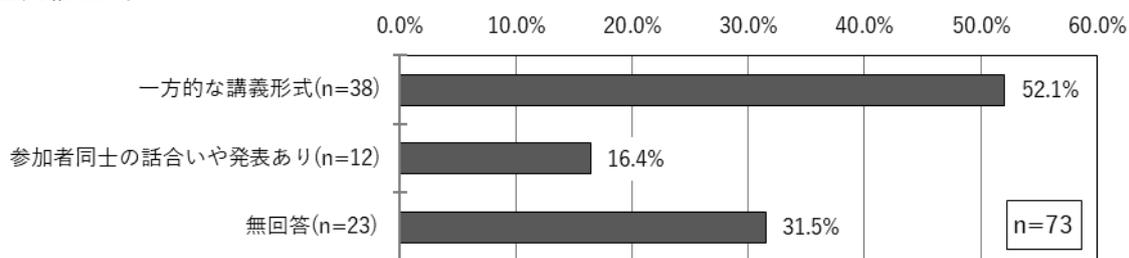
■開催時間



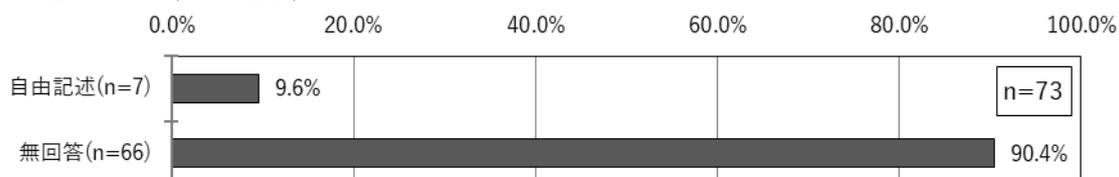
■位置づけ



■位開催型式

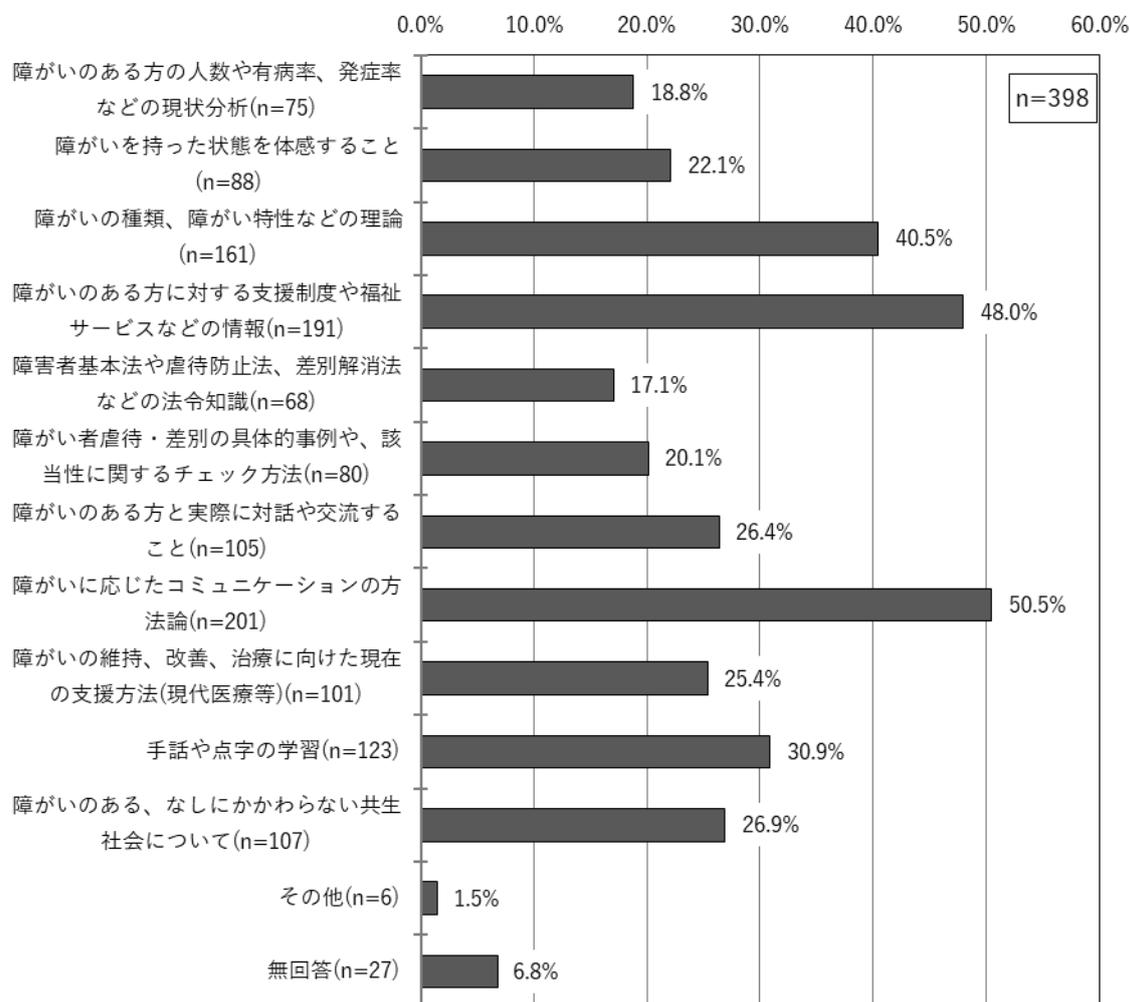


■その他の条件（自由記述）



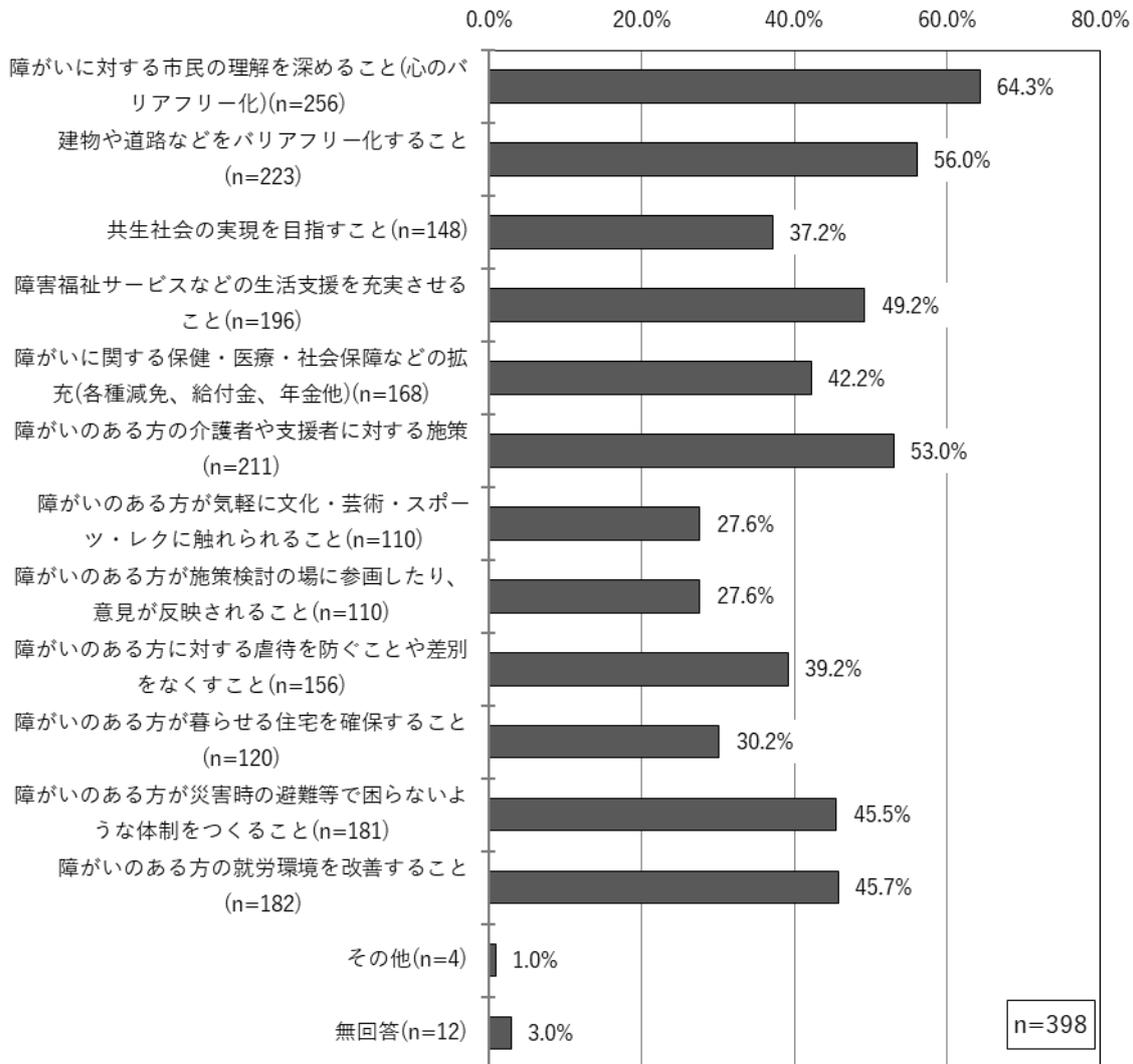
問 26 あなたは、学習会に参加するとしたらどのような内容を求めますか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「障がいに応じたコミュニケーションの方法論」が 50.5%と最も高く、次いで「障がいのある方に対する支援制度や福祉サービスなどの情報」が 48.0%、「障がいの種類、障がい特性などの理論」が 40.5%となっている。



問 27 あなたが重要だと思う「障がい福祉施策」はどれですか。当てはまるものすべてに○をしてください。

「障がいに対する市民の理解を深めること(心のバリアフリー化)」が 64.3%と最も高く、次いで「建物や道路などをバリアフリー化すること」が 56.0%、「障がいのある方の介護者や支援者に対する施策」が 53.0%となっている。



障がい福祉計画等策定ニーズ調査報告書

発 行 上田市福祉部障がい者支援課

上田市大手一丁目 11 番 16

TEL 0268-23-5158

FAX 0268-24-9423